志木市の文化財　第84集

城山遺跡 第 99 地点
中野遺跡 第114地点
中道遺跡 第 92 地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

２０２２

埼玉県志木市教育委員会

は じ め に

志木市教育委員会
教育長　柚木　博

ここに刊行する『城山遺跡第99地点　中野遺跡第114地点　中道遺跡第92地点　埋蔵文化財発掘調査報告書』は、教育委員会が令和2年度に受託事業として実施した、3地点分の発掘調査の成果をまとめたものです。

城山遺跡第99地点では、縄文時代の土坑、弥生時代後期～古墳時代前期・後期の住居跡、平安時代～中世以降の土坑・溝跡などが多く発見されました。特に中世以降の遺構については、主に「柏の城跡」に関連するものと考えられます。

中野遺跡第114地点では、古墳時代後期の住居跡、平安時代～中世以降の溝跡などが発見されました。

中道遺跡第92地点では、縄文時代の住居跡、中世以降の土坑・溝跡などが発見されました。中世以降の土坑のうち、1基からは人骨が発見され、土坑墓と考えられます。

今回の調査においても本市の歴史を知る上で欠くことのできない貴重な資料を得ることができました。この成果が郷土史研究をはじめ、多くの人々に幅広く活用されることを切に願っております。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、格別の御理解と御協力を頂いた事業主体者、そして深い御理解と御協力を賜りました地元の多くの方々並びに関係者の皆様に対し、心から感謝申し上げます。

例　言

1．本書は、令和２年度に発掘調査を実施した、埼玉県志木市に所在する遺跡である城山遺跡第99地点、中野遺跡第114地点、中道遺跡第92地点の発掘調査報告書である。

2．発掘作業及び整理作業は、志木市教育委員会の受託事業として、以下の土木工事主体者から委託を受け実施した。

城山遺跡第99地点：個人

中野遺跡第114地点：埼玉県川越市仙波町２－５－９　株式会社ライフコート 代表取締役　岩崎大介

中道遺跡第92地点：個人

3．本書の作成において、編集は尾形則敏が行い、執筆は下記のとおりである。なお、中世以降の遺物については、和光市教育委員会の野澤　均氏にご教示を頂いた。

尾形則敏　第１～３章／大久保聡　第４・５章

4．遺物の実測は、星野恵美子・松浦恵子・増田千春が行った。遺構・遺物のデジタルトレースは深井恵子・池野谷有紀が行った。写真撮影は尾形が行った。

5．本書に掲載した石器については、有限会社アルケーリサーチ（取締役社長　藤波啓容）に実測を委託した。

6．城山遺跡第99地点・中道遺跡第92地点の自然科学分析については、株式会社パレオ・ラボ（代表取締役　中村賢太郎）に委託した。

7．発掘作業における表土剥ぎ作業については、株式会社大塚屋商店（代表取締役　綱島正人）に委託した。

8．本報告に係る出土品及び記録図面・写真等は、志木市立埋蔵文化財保管センターで一括して保管している。

9．調査組織（令和２・３年度）

【志木市教育委員会組織】

調査主体者	志木市教育委員会
教育長	柚木　博
教育政策部長	北村竜一
教育政策部次長	大熊克之（～令和２年度）
生涯学習課長	山本　勲（～令和２年度）
	土崎健太（令和３年度～）
生涯学習課副課長	中原敦也（～令和２年度）
	吉成和重（令和3年度～）
生涯学習課主幹	浅見千穂
生涯学習課主査	武井香代子（～令和２年度）
〃	尾形則敏
〃	徳留彰紀（令和２年度～）
生涯学習課主任	松永真知子（～令和２年度）

	武井香代子（令和３年度～）
〃	大久保　聡
生涯学習課主事補	鈴木楓月（～令和２年度）
	遠藤彪雅（令和３年～）
	木村結香（令和３年～）
調査担当者	尾形則敏
〃	徳留彰紀
〃	大久保　聡
志木市文化財保護審議会	井上國夫（会長）
	深瀬　克（委員）
	上野守嘉（委員）
	新田泰男（委員）
	金子博一（委員）
	高橋　豊（委員）（～令和２年度）

10. 発掘作業及び整理作業参加者

〈城山遺跡第99地点〉

○発掘調査

調査担当者	大久保聡・徳留彰紀・尾形則敏
調査員	青木　修
調査補助員	星野恵美子
作業員	池野谷有紀・片山　望・小林詠美子・二階堂美知子・増田千春・松浦恵子・村田浩美
重機オペレータ	田中三二・小林貴司（株式会社大塚屋商店）

○整理作業

調査員	深井恵子・青木　修
調査補助員	星野恵美子
作業員	池野谷有紀・片山　望・小林詠美子・鈴木浩子・二階堂美知子・増田千春・松浦恵子・村田浩美・山口優子

〈中野遺跡第114地点〉

○発掘調査

調査担当者	徳留彰紀・大久保聡・尾形則敏
調査員	深井恵子
調査補助員	星野恵美子
作業員	池野谷有紀・片山　望・小林詠美子・二階堂美知子・松浦恵子・村田浩美
重機オペレータ	田中三二・小林貴司（株式会社大塚屋商店）

○整理作業

調査員	深井恵子・青木　修

作　　業　　員　池野谷有紀・片山　望・小林詠美子・増田千春・村田浩美・山口優子

〈中道遺跡第92地点〉

○発掘調査

調査担当者　大久保聡・徳留彰紀・尾形則敏

調　　査　　員　青木　修

調査補助員　星野恵美子

作　　業　　員　池野谷有紀・片山　望・小林詠美子・二階堂美知子・増田千春・松浦恵子・村田浩美

重機オペレータ　田中三二・小林貴司（株式会社大塚屋商店）

○整理作業

調　　査　　員　深井恵子・青木　修

調査補助員　星野恵美子

作　　業　　員　池野谷有紀・片山　望・小林詠美子・二階堂美知子・増田千春・村田浩美・山口優子

11. 各遺跡の発掘調査及び整理作業・報告書作成には、以下の諸機関・諸氏のご教示・ご援助を賜った。記して感謝する次第である（敬称略）。

埼玉県教育局市町村支援部文化資源課・（公財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団・朝霞市教育委員会・朝霞市博物館・新座市教育委員会・和光市教育委員会・富士見市教育委員会・富士見市立水子貝塚資料館

江原　順・隈本健介・斉藤　純・齋藤欣延・笹川紗希・佐藤一也・鈴木一郎・照林敏郎・中岡貴裕・野沢　均・早坂廣人・堀　善之・前田秀則・山本　龍・山田尚友・安田脩一・和田晋治

12. 本報告に係る文化財保護法に基づく各種届出等及び指示通知については、下記の通りである。

〈城山遺跡第99地点〉

○周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

令和2年8月24日付け　教文資第4－756号

○埋蔵物の文化財認定について（通知）

令和3年1月5日付け　教文資第7－136号

〈中野遺跡第114地点〉

○周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

令和2年9月28日付け　教文資第4－964号

○埋蔵物の文化財認定について（通知）

令和3年1月5日付け　教文資第7－135号

〈中道遺跡第92地点〉

○周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

令和2年11月8日付け　教文資第4－1326号

○埋蔵物の文化財認定について（通知）

令和3年3月1日付け　教文資第7－182号

凡　例

1．本報告書で使用した地図は以下のとおりである。
　第１図　　１：10,000「志木市全図」株式会社パスコ調製
　第２図　　１：2,500　ゼンリン電子住宅地図　デジタウン「埼玉県志木市」平成27年４月発行
　　株式会社ゼンリン
2．本書の国家座標、緯度、経度は、世界測地系に則している。
3．挿図版の縮尺は、それぞれに明記した。
4．遺構挿図版中の水糸レベルは、海抜標高を示す。
5．ピット・掘り込み内の数値は、床面もしくは確認面からの深さを示し、単位は㎝である。また、同一遺構内にあるピットでも、おそらく後世のピットと思われるものには、数値を省略した。
6．遺構挿図版中のドットは遺物出土位置を示すが、遺物が密集する場合は個体別にドットマークを換えて表示した。番号は遺物挿図版中の遺物番号と一致する。
7．挿図版中のスクリーントーンについては、各挿図版内に内容を示した。
8．土器一覧表「法量」項中にある表記については、以下のとおりである。また、現存値は［　］、推定値は（　）を付した。
　高：器高　　口：口径　　底：底径　　厚：器厚
9．遺構の略記号は、以下のとおりである。
　Ｊ＝縄文時代の住居跡　　Ｙ＝弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡
　Ｈ＝古墳時代～平安時代の住居跡　　Ｄ＝土坑　　Ｗ＝井戸跡　　Ｍ＝溝跡
　Ｐ＝ピット　　畝＝畝状遺構

目　　次

はじめに
例　　言／凡　　例／目　　次／挿図目次／表 目 次／図版目次
第１章　遺跡の立地と環境 …… 1
　第１節　市域の地形と遺跡 …… 1
第２章　城山遺跡第99地点の調査 …… 8
　第１節　遺跡の概要 …… 8
　第２節　調査の経緯 …… 10
　第３節　縄文時代の遺構・遺物 …… 16
　第４節　弥生時代後期～古墳時代前期の遺構・遺物 …… 21
　第５節　古墳時代後期・平安時代の遺構・遺物 …… 22
　第６節　中世以降の遺構・遺物 …… 40
　第７節　遺構外出土遺物 …… 75
第３章　中野遺跡第114地点の調査 …… 80
　第１節　遺跡の概要 …… 80
　第２節　調査の経緯 …… 80
　第３節　検出された遺構・遺物 …… 83
第４章　中道遺跡第92地点の調査 …… 100
　第１節　遺跡の概要 …… 100
　第２節　調査の経緯 …… 100
　第３節　縄文時代の遺構・遺物 …… 105
　第４節　中世以降の遺構・遺物 …… 107
　第５節　遺構外出土遺物 …… 127
第５章　調査のまとめ …… 129
　第１節　城山遺跡第99地点の調査成果 …… 129
　第２節　中野遺跡第114地点の調査成果 …… 132
　第３節　中道遺跡第92地点の調査成果 …… 133

［付編］自然科学分析
　Ⅰ．城山遺跡第99地点出土炭化材の樹種同定 …… 139
　Ⅱ．中道遺跡第92地点293号土坑出土の人骨 …… 140

図　　版
報告書抄録

挿図目次

第１図　市域の地形と遺跡分布（1／20,000）…… 2
第２図　城山遺跡の調査地点（1／3,000）…… 9
第３図　確認調査時の遺構分布図（1／250）…… 11
第４図　遺構分布図（1／200）…… 13
第５図　基本土層（1／300・1／60）…… 15
第６図　土坑（1／60）…… 18
第７図　土坑出土遺物（1／3）…… 19
第８図　172号ピット・出土遺物（1／60・1／3）…… 20
第９図　12号住居跡・出土遺物（1／60・1／3）…… 21
第10図　164号住居跡（1／60）…… 24・25
第11図　164号住居跡遺物出土状態（1／60）…… 26
第12図　164号住居跡カマド（1／30）…… 27
第13図　164号住居跡出土遺物１（1／4）…… 28
第14図　164号住居跡出土遺物２（1／4・1／2・1／3）…… 29
第15図　164号住居跡出土遺物３（1／4・1／3）…… 30
第16図　322号住居跡・遺物出土状態（1／60）…… 33
第17図　322号住居跡出土遺物（1／4）…… 34
第18図　323号住居跡（1／60）…… 36
第19図　323号住居跡遺物出土状態（1／60）…… 36
第20図　323号住居跡カマド（1／30）…… 37
第21図　323号住居跡出土遺物（1／4・1／3）…… 37
第22図　1159号土坑（1／60）…… 39
第23図　土坑A群（1／60）…… 42
第24図　土坑B群１（1／60）…… 46
第25図　土坑B群２（1／60）…… 47
第26図　土坑C群（1／60）…… 53
第27図　土坑出土遺物（1／4・1／3）…… 55
第28図　70・71号溝跡（1／100）…… 58
第29図　72号溝跡（1／60）…… 59
第30図　72号溝跡出土遺物（1／4・1／3）…… 59
第31図　73号溝跡（1／60）…… 61
第32図　74号溝跡（1／60）…… 62
第33図　ピット１（1／60）…… 63
第34図　ピット２（1／60）…… 64
第35図　ピット３（1／60）…… 65
第36図　ピット４（1／60）…… 66
第37図　ピット出土遺物（1／4・1／3）…… 73
第38図　遺構外出土遺物１（2／3・1／3）…… 76
第39図　遺構外出土遺物２（1／4・1／3）…… 79

第40図　中野遺跡の調査地点（1／3,000）…… 81
第41図　確認調査時の遺構分布図（1／200）…… 82
第42図　遺構分布図（1／200）…… 84
第43図　基本土層（1／250・1／60）…… 85
第44図　90号住居跡・遺物出土状態（1／60・1／120）…… 87・88
第45図　90号住居跡出土遺物（1／4）…… 89
第46図　561号土坑（1／60）…… 90
第47図　25・26号溝跡（1／60）…… 91
第48図　27号溝跡・出土遺物（1／60・1／3）…… 93
第49図　ピット（1／60）…… 94
第50図　２号ピット出土遺物（1／3）…… 94
第51図　遺構外出土遺物（2／3・1／3）…… 97
第52図　中道遺跡の調査地点（1／3,000）…… 101
第53図　確認調査時の遺構分布図（1／200）…… 103
第54図　遺構分布図（1／150）…… 104
第55図　13号住居跡・遺物出土状態（1／60）…… 106
第56図　13号住居跡出土遺物（1／3・2／3）…… 106
第57図　段切状遺構１（1／120）…… 109
第58図　段切状遺構２（1／120）…… 110・111
第59図　段切状遺構出土遺物（1／3・4／5）…… 112
第60図　土坑１（1／60・1／30）…… 115
第61図　土坑２（1／60）…… 116
第62図　３号井戸跡（1／60）…… 117
第63図　９号溝跡（1／60）…… 118
第64図　46～48号溝跡（1／60）…… 120
第65図　ピット１（1／60）…… 121
第66図　ピット２（1／60）…… 122
第67図　ピット出土遺物（4／5・1／4）…… 124
第68図　畝状遺構（1／100）…… 125
第69図　遺構外出土遺物（1／3）…… 128

表　目　次

第１表　志木市埋蔵文化財包蔵地一覧…… 1
第２表　城山遺跡第99地点の発掘調査工程表…… 12
第３表　縄文時代の土坑一覧…… 16
第４表　縄文時代のピット一覧…… 19
第５表　縄文時代の遺構出土土器一覧…… 20
第６表　12号住居跡出土土器一覧…… 22
第７表　164号住居跡出土土器一覧（1）…… 30

164号住居跡出土土器一覧（2） 31
164号住居跡出土土器一覧（3） 32
第８表　164号住居跡出土土製品・石器・鉄製品一覧 32
第９表　322号住居跡出土土器一覧 35
第10表　323号住居跡出土土器一覧 38
第11表　323号住居跡出土土製品・石器一覧 38
第12表　中世以降の土坑一覧（1） 54
中世以降の土坑一覧（2） 55
第13表　中世以降のピット一覧（1） 67
中世以降のピット一覧（2） 68
中世以降のピット一覧（3） 69
中世以降のピット一覧（4） 70
中世以降のピット一覧（5） 71
中世以降のピット一覧（6） 72
第14表　中世以降の遺構出土陶器・土器・木器一覧 73
第15表　中世以降の遺構出土土製品・石製品・金属製品・板碑一覧 74
第16表　遺構外出土石器一覧 77
第17表　遺構外出土土器一覧（1） 77
遺構外出土土器一覧（2） 78
第18表　遺構外出土陶磁器・土器一覧 79
第19表　遺構外出土石製品一覧 79
第20表　中野遺跡第114地点の発掘調査工程表 82
第21表　90号住居跡出土土器一覧 89
第22表　ピット一覧 95
第23表　遺構外出土石器一覧 98
第24表　遺構外出土縄文土器一覧（1） 98
遺構外出土縄文土器一覧（2） 99
第25表　遺構外出土土器・陶器一覧 99
第26表　中道遺跡第92地点の発掘調査工程表 103
第27表　13号住居跡出土土器一覧 107
第28表　13号住居跡出土石器一覧 107
第29表　中世以降の土坑一覧 116
第30表　中世以降のピット一覧（1） 123
中世以降のピット一覧（2） 124
第31表　中世以降の遺構出土陶磁器・土器一覧 126
第32表　中世以降の段切状遺構出土陶器製品・鉄製品一覧 127
第33表　銭貨一覧 127
第34表　遺構外出土縄文土器一覧 128
第35表　城山遺跡第99地点出土炭化材の樹種同定結果 139

図版目次

図版1　城山遺跡第99地点
1．調査区近景　2．表土剥ぎ風景　3．基本土層Ａ－Ａ'　4．基本土層Ｂ－Ｂ'
5．基本土層Ｃ－Ｃ'　6．1136号土坑　7．1150号土坑　8．1161号土坑
図版2　城山遺跡第99地点
1．1162号土坑　2．1165号土坑　3．172号ピット　4．12号住居跡　5．12号住居跡炉
6．164号住居跡（第57地点）　7・8．164号住居跡遺物出土状態
図版3　城山遺跡第99地点
1．164号住居跡　2．164号住居跡Ｐ2　3．164号住居跡Ｐ3遺物出土状態
4．164号住居跡Ｐ3　5．164号住居跡カマド遺物出土状態　6．164号住居跡カマド
7．164号住居跡カマド掘り方
図版4　城山遺跡第99地点
1．164号住居跡貯蔵穴　2．322号住居跡　3．322号住居跡貯蔵穴遺物出土状態
4．322号住居跡貯蔵穴　5．323号住居跡　6．323号住居跡貯蔵穴　7．323号住居跡Ｐ1
8．323号住居跡Ｐ2
図版5　城山遺跡第99地点
1．323号住居跡カマド遺物出土状態　2．323号住居跡カマド　3．1159号土坑
4．1134号土坑（Ａ群1類）　5．1147号土坑（Ａ群2類）　6．1151号土坑（Ａ群2類）
7．1155号土坑（Ａ群2類）　8．1132・1133号土坑（Ｂ群1類）
図版6　城山遺跡第99地点
1．1137号土坑（Ｂ群1類）　2．1140号土坑（Ｂ群2類）　3．1141号土坑（Ｂ群2類）
4．1148号土坑（Ｂ群2類）　5．1149号土坑（Ｂ群2類）
6．1142・1143号土坑（Ｂ群3類）　7．1146号土坑（Ｂ群3類）
8．1152号土坑（Ｂ群3類）
図版7　城山遺跡第99地点
1．1153号土坑（Ｂ群3類）　2．1160号土坑（Ｂ群3類）　3．1164号土坑（Ｂ群3類）
4．1167・1169号土坑（Ｂ群3類）　5．1144号土坑（Ｃ群）　6．1145号土坑（Ｃ群）
7．1154号土坑（Ｃ群）8．1157号土坑（Ｃ群）
図版8　城山遺跡第99地点
1．1158号土坑（Ｃ群）　2．1163号土坑（Ｃ群）　3．1166号土坑（Ｃ群）
4．1168号土坑（Ｃ群）　5．1170・1171号土坑（Ｃ群）　6．1135号土坑（Ｅ群）
7．70号溝跡（南から）　8．70号溝跡（北から）
図版9　城山遺跡第99地点
1．71号溝跡（南から）　2．72号溝跡南半部（南から）　3．72号溝跡北半部（東から）
4．72・73号溝跡北半部（南から）　5．73号溝跡南半部（北から）
6．73号溝跡北半部（東から）　7．73号溝跡北半部硬化面　8．74号溝跡（南から）

図版10　城山遺跡第99地点

1．9・10・27号ピット　2．33・35号ピット　3．68号ピット　4．78号ピット

5．76・77・80～83号ピット　6．100号ピット　7．103・104号ピット　8．110号ピット

図版11　城山遺跡第99地点

1．124号ピット　2．143号ピット　3．166号ピット　4．169号ピット　5．221号ピット

6・7．調査風景　8．埋戻し風景

図版12　城山遺跡第99地点

1．土坑出土遺物　2．172号ピット出土遺物　3．12号住居跡出土遺物

4．164号住居跡出土遺物1

図版13　城山遺跡第99地点

164号住居跡出土遺物2

図版14　城山遺跡第99地点

1．322号住居跡出土遺物　2．323号住居跡出土遺物

図版15　城山遺跡第99地点

1．土坑出土遺物　2．72号溝跡出土遺物　3．73号溝跡出土遺物　4．ピット出土遺物

図版16　城山遺跡第99地点

遺構外出土遺物

図版17　中野遺跡第114地点

1．調査区近景　2．表土剥ぎ風景　3・4．遺構確認状況　5．基本土層Ａ－Ａ'

6．基本土層Ｂ－Ｂ'　7．基本土層Ｃ－Ｃ'　8．基本土層Ｄ－Ｄ'

図版18　中野遺跡第114地点

1・2．90号住居跡　3．90号住居跡Ａ－Ａ'土層断面　4．90号住居跡Ｃ－Ｃ'土層断面

5．90号住居跡Ｐ1　6．90号住居跡Ｐ2　7．90号住居跡Ｐ3　8．90号住居跡掘り方

図版19　中野遺跡第114地点

1．561号土坑　2．25号溝跡（北東から）　3．25号溝跡（南西から）

4・5．26号溝跡（南西から）　6．27号溝跡Ａ－Ａ'土層断面

7．27号溝跡Ｂ－Ｂ'土層断面

図版20　中野遺跡第114地点

1．27号溝跡Ｃ－Ｃ'土層断面　2．27号溝跡（北西から）　3・4．27号溝跡（南西から）

5．27号溝跡（北から）6．1号ピット　7．2号ピット　8．4号ピット

図版21　中野遺跡第114地点

1．5号ピット　2．6号ピット　3．7号ピット　4．8号ピット　5．9号ピット

6・7．調査風景　8．埋め戻し風景

図版22　中野遺跡第114地点

1．90号住居跡出土遺物　2．27号溝跡出土遺物　3．2号ピット出土遺物

4．遺構外出土遺物

図版23　中道遺跡第92地点

1．調査区近景　2．表土剥ぎ風景　3．1区遺構確認状況　4．2区遺構確認状況

5～7．13号住居跡

図版24　中道遺跡第92地点

1．292号土坑　2．293号土坑　3．293号土坑人骨出土状況　4．294号土坑

5．295号土坑　6．296号土坑　7．297号土坑　8．298号土坑

図版25　中道遺跡第92地点

1．299号土坑　2．300号土坑　3．301号土坑　4．302号土坑　5・6．9号溝跡（西から）

7．9号溝跡（東から）　8．9号溝跡西端

図版26　中道遺跡第92地点

1・2．46号溝跡（北から）　3．47号溝跡（南から）　4．47号溝跡（北から）

5．48号溝跡（南から）　6．48号溝跡（西から）　7．3号井戸跡　8．2号ピット

図版27　中道遺跡第92地点

1．18号ピット　2．30号ピット　3．36号ピット　4．42号ピット　5．64号ピット

6．68・69号ピット　7．畝状遺構（東から）　8．段切状遺構掘り方（東から）

図版28　中道遺跡第92地点

1．13号住居跡出土遺物　2．段切状遺構出土遺物

図版29　中道遺跡第92地点

1．3号井戸跡出土遺物　2．9号溝跡出土遺物　3．ピット出土遺物　4．畝状遺構出土遺物

5．遺構外出土遺物

図版30　自然科学分析

1．城山遺跡第99地点　103号ピット出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

2．中道遺跡第92地点　293号土坑出土人骨

第１章　遺跡の立地と環境

第１節　市域の地形と遺跡

（１）地理的環境と遺跡分布

志木市は、埼玉県の南西部に位置し、市域はおおよそ南北4.71km、東西4.73kmの広がりをもち、面積は9.05㎢、人口約７万６千人の自然と文化の調和する都市である。

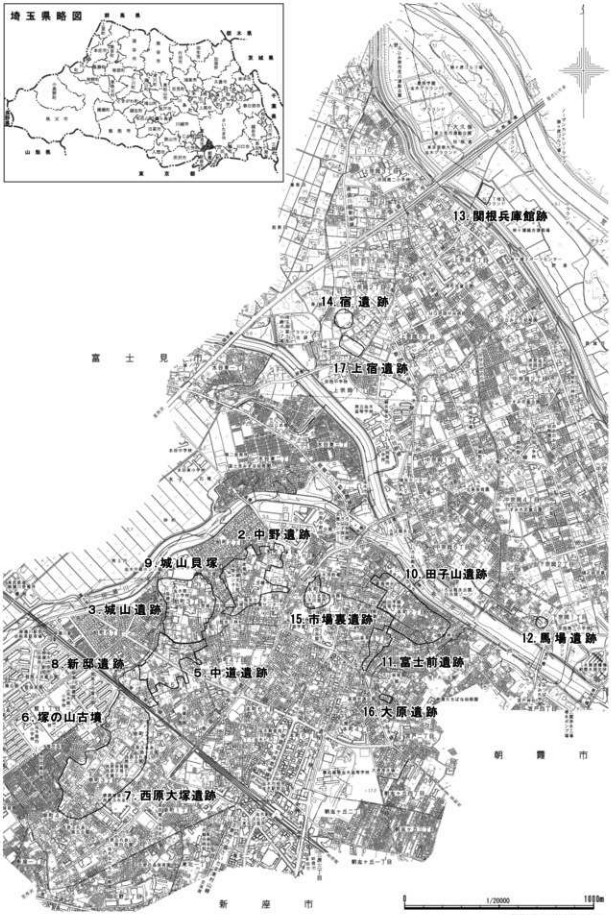
地理的景観を眺めて見ると、市域東部の宗岡地区は、荒川（旧入間川）の形成した沖積低地が拡がり、市域西部の本町・柏町・幸町地区は、古多摩川によって形成された武蔵野台地の上にある。また、市内には東部に荒川、中央に古くは舟運で利用された新河岸川、そして西部から中央に新河岸川と合流する柳瀬川の３本の川が流れている。

こうした自然環境の中で、市内遺跡の大部分は、柳瀬川・新河岸川右岸流域の台地縁辺部に帯状に分布している。遺跡は柳瀬川上流から順に、西原大塚遺跡（７）、新邸遺跡（８）、中道遺跡（５）、城山遺跡（３）、中野遺跡（２）、市場裏遺跡（15）、田子山遺跡（10）、富士前遺跡（11）、大原遺跡（16）

№1	遺跡名	遺跡の規模	地　目	遺跡の種類	遺跡の時代	主な遺構	主な遺物
2	中　　野	70,950㎡	畑・宅地	集落跡	旧石器、縄(早～晩)、弥(後)、古(前～後)、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、地下式坑、井戸跡、溝跡、段切状遺構等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器等
3	城　　山	82,100㎡	畑・宅地	城館跡・集落跡	旧石器、縄(草創～晩)、弥(中・後)、古(前～後)、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、土坑墓、地下室、井戸跡、溝跡、柏城跡関連、鋳造関連等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、土師質土器、古銭、鋳造関連遺物等
5	中　　道	54,420㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄(早～後)、弥(後)、古(前～後)、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、土坑墓、地下式坑、溝跡、道路状遺構等	石器、縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭、人骨等
6	塚の山古墳	800㎡	林	古　墳?	古　墳?	古　墳?	なし
7	西原大塚	164,960㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄(前～晩)、弥(後)、古(前・後)、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、地下式坑、井戸跡、溝跡、段切状遺構等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭等
8	新　　邸	20,080㎡	畑・宅地	貝塚・集落跡・墓跡	縄(早～中)、古(前・後)、中・近世、近代	貝塚、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡、段切状遺構、ピット群等	石器、貝、縄文・弥生土器、土師器、陶磁器、古銭等
9	城山貝塚	900㎡	林	貝　塚	縄(前)	斜面貝塚	石器、縄文土器、貝
10	田　子　山	74,030㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	縄(草創～晩)、弥(後)、古(後)、奈・平、中・近世、近代	住居跡、土坑、方形・円形周溝墓、ローム採掘遺構、溝跡等	縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、炭化種子等
11	富　士　前	14,830㎡	宅　地	集落跡	縄文、弥(後)～古(前)、平安、近世以降	住居跡、土坑?、溝跡?	弥生土器、土師器
12	馬　　場	2,800㎡	畑	集落跡	古(前)	住居跡?	土師器
13	関根兵庫館跡	4,900㎡	グランド	館　跡	中世	不明	なし
14	宿	7,700㎡	水　田	館　跡	中世	溝跡、井桁状構築物	木・石製品
15	市　場　裏	13,800㎡	宅　地	集落跡・墓跡	弥(後)～古(前)、中世以降	住居跡、方形周溝墓、土坑	弥生土器、土師器、土師質土器
16	大　　原	1,700㎡	宅　地	不　明	近世以降?	溝跡	なし
17	上　　宿	8,600㎡	水田・宅地	集落跡	平安、中・近世	住居跡、土坑、溝跡、井戸跡	土師器、須恵器、陶磁器、板碑等
合　　計		522,570㎡					

令和３年12月28日現在

第１表　志木市埋蔵文化財包蔵地一覧



令和3年12月28日現在

第１図　市域の地形と遺跡分布(1／20,000)

と名付けられている。また、荒川・新河岸川が形成した沖積低地でも、馬場遺跡（12）、宿遺跡（14）、関根兵庫館跡（13）が認められる。最新では、平成30年12月、新たに新河岸川左岸流域で上宿遺跡（17）が発見され、自然堤防上に位置する遺跡の存在も明らかにされつつある。なお、現在市内の遺跡総数は、前述した13遺跡に塚の山古墳（６）、城山貝塚（９）を加えた15遺跡である（第１図・第１表）。

（２）歴史的環境

次に市内の遺跡を時代順に概観してみることにする。

１．旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、柳瀬川右岸の中野・城山・中道・西原大塚遺跡で確認されている。

中道遺跡では、昭和62（1987）年の富士見・大原線（現ユリノキ通り）の工事に伴う発掘調査により、立川ローム層のⅣ層上部・Ⅵ層・Ⅶ層で、礫群や石器集中地点が検出されている。これにより、黒曜石製のスクレイパーやナイフ形石器、安山岩や凝灰岩の石核や剥片などが発見されている。

西原大塚遺跡では、西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査により、石器集中地点が検出されている。石器集中地点は、平成６（1994）年度には２ケ所、平成７（1995）年度には１ケ所が検出され、ナイフ形石器・剥片などが発見されている。最新では、令和元（2019）年に第224地点で立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部・第Ⅶ層から石器集中地点と礫群が検出されている。

平成11～14（1999～2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点では、立川ローム層の第Ⅳ層下部から、黒曜石・頁岩の石核・剥片が約60点出土している。平成27（2016）年に発掘調査された中野遺跡第91⑰地点からは、礫群１基が検出された。

また、城山遺跡では、平成13（2001）年に発掘調査が実施された第42地点から、立川ローム層の第Ⅳ層上部と第Ⅶ層の２ケ所で石器集中地点が検出されている。平成20・21年に発掘調査が実施された第62地点（道路・駐車場部分）でも１ケ所の石器集中地点が検出され、ナイフ形石器・剥片が出土している。平成23（2011）年に発掘調査が実施された第71地点では、立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部で石器集中地点２ケ所、礫群９基が検出された。令和元（2019）年には第96地点で立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部・第Ⅵ層・第Ⅶ層で石器集中地点や礫群が検出されている。

２．縄文時代

縄文時代では、西原大塚遺跡を中心に中期後葉の遺跡が集中し、城山貝塚の周辺の城山遺跡からは、前期末葉（諸磯式期）の住居跡や土器がやや多く検出される傾向にある。

ここでは、時代の推移に従って説明することにする。まず、草創期では、平成４（1992）年に発掘調査が実施された城山遺跡第16地点から爪形文系土器１点、平成６（1994）年に発掘調査が実施された城山第21地点から多縄文系土器３点、第22地点から爪形文系土器１点、平成10（1998）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第51地点から有茎尖頭器１点が出土している。

早期では、遺構の検出例はまだ少ないが、住居跡として、平成18（2006）年に発掘調査が実施された中道遺跡第65地点で検出された早期末葉（条痕文系）の10号住居跡１軒が最古のものと言える。土器としては、田子山遺跡で撚糸文・沈線文・条痕文系土器が出土しているが、御嶽神社を中心とする東側でやや多く出土する傾向がある。最新資料では、平成23（2011）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第121地点のローム上層の遺物包含層から撚糸文系土器・石器がまとまって出土している。また、

城山・中野・田子山遺跡からは、条痕文系土器が炉穴に伴い出土している。

前期では、西原大塚・新邸遺跡で前期中葉の黒浜式期の住居跡が検出され、新邸遺跡のものは貝層をもつ住居跡である。城山遺跡では、令和元（2019）年度に発掘調査が実施された第96地点から、前期後葉の諸磯期で、貝層を持つ住居跡が３軒検出された。住居内貝層からヤマトシジミ・マガキが検出されている。平成２年度に市指定文化財に認定された城山貝塚も縄文海進期にあたるこの頃の時代に形成された斜面貝塚と考えられる。

中期になると遺跡が最も増加する。特に、中期中葉から後葉の勝坂式～加曽利Ｅ式期にはその傾向が強くなり、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で住居跡を中心に土坑が検出されている。特に西原大塚遺跡では、現時点で約200軒の住居跡が環状に配置していることが判明しつつある。中期末葉からは遺跡が減少し、現在のところ西原大塚遺跡から敷石をもつ住居跡１軒が確認されているが、平成27（2016）年に発掘調査された中道遺跡第76地点からは、加曽利ＥⅣ式の両耳壺を出土する住居跡１軒が検出された。

後期では、西原大塚遺跡から堀之内式期の住居跡１軒と加曽利Ｂ式期の住居跡１軒、遺物集中地点１ヶ所、平成25（2013）年度に発掘調査が実施された中野遺跡第85地点からは、称名寺式期の市内初の柄鏡形住居（敷石住居）１軒が検出されている。また、その他の遺構としては、平成６（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点で、土坑１基が検出され、称名寺式期の土器が出土している。最新資料として、平成26（2015）年に発掘調査された西原大塚遺跡第204地点や平成27・28（2016・2017）年に発掘調査された中野遺跡第91地点から、包含層出土遺物として、縄文時代後期（称名寺式～堀之内式期）の遺物が比較的まとまって出土している。

晩期では、中野・田子山遺跡から安行ⅢＣ式・千網式の土器片が少量発見されるにとどまり、以降市内では弥生時代中期まで空白の時代となる。

３．弥生時代～古墳時代前期

弥生時代では、前期の遺跡は検出されていないが、中期については令和元（2019）年に発掘調査された城山遺跡第96地点で市内初となる宮ノ台式期の住居跡１軒、方形周溝墓１基が検出された。住居跡からは壺、甕、高坏、抉入柱状片刃石斧、扁平片刃石斧、石包丁が良好な状態で出土している。

弥生時代後期から古墳時代前期と考えられる遺跡は数多く検出されている。中でも、平成27（2016）年に発掘調査された中野遺跡第91地点からは、弥生時代後期前葉に比定される久ヶ原式土器を出土する住居跡が発見されている。平成６（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点の21号住居跡は後期中葉に比定される可能性があり、その住居跡からは、多数の土器をはじめ、大量の炭化種子（イネ・アワ・ダイズなど）、炭化材が出土し、当時の食糧事情を考える上で重要である。富士前遺跡では、『志木市史』にも掲載されているが、不時の発見に伴い、籠目痕をもつ壺形土器をはじめとした多くの土器が発見されている。

西原大塚遺跡では後期末葉から古墳時代前期にかけての住居跡が600軒以上確認されており、市内最大の集落跡であることが判明している。特に、122号住居跡からは全国的にも稀な「イヌ」を象ったと思われる動物形土製品が出土している。平成24（2012）年に発掘調査が実施された第179地点からは、遺存状態は良好ではないが、市内初の銅釧が出土している。

昭和62（1987）年以降、西原大塚・田子山・市場裏遺跡の３遺跡において、方形周溝墓が検出され

てきたが、平成15（2003）年に発掘調査が実施された新邸遺跡第８地点と平成18（2006）年に実施された中道遺跡第65地点でも、それぞれ１基が確認されている。これにより当時の墓域が、集落と単位的なまとまりをもって存在することが明らかになってきたと言えるであろう。

市内で最も多く方形周溝墓が検出されている西原大塚遺跡では、10号方形周溝墓の溝底から一括出土した中に畿内系の庄内式の長脚高坏が出土していることに注目される。また、平成11（1999）年に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第45地点では、一辺20ｍを超える市内最大規模の17号方形周溝墓が発見され、この方形周溝墓の溝からは、珍しい鳥形土製品をはじめ、畿内系の有段口縁壷、吉ヶ谷式系の壷、在地系の壷などと大きく畿内・比企地域・在地の３要素の特徴を示す壷が出土している。なお、鳥形土製品１と壷形土器４点の計５点は、考古資料として市指定文化財に指定されている。こうした地域に関わる被葬者の人物像が浮き彫りにされたことで、当地域の弥生時代後期から古墳時代前期の歴史を紐解く手がかりになったことは重要である。

４．古墳時代中・後期

古墳時代でも前期末葉から中期になると、遺跡が減少する傾向にある。その中で、西原大塚遺跡に隣接する新邸遺跡で検出されている第２地点の１号住居跡と平成15（2003）年に発掘調査が実施された第８地点の２～８号住居跡は、古墳時代前期でも比較的に新しい段階に比定される可能性がある。このことから、新邸遺跡で検出された住居跡は、隣接する西原大塚遺跡から継続して広がった集落跡ではないかと推測される。

中期の遺跡では、中道・城山・中野遺跡から住居跡が発見されている。その中でも、平成７（1995）年に発掘調査が実施された中道遺跡第37地点19号住居跡は、５世紀中葉に比定され、カマドをもつ住居跡としては市内最古のものである。

５世紀末葉になると、遺跡が増加傾向にあり、特に６世紀後葉から７世紀後葉にかけては、縄文中期を越えるほどの爆発的な増加をみる。こうした集落跡は現在、中道・城山・中野遺跡に比較的に古い５世紀代の住居跡が確認されていることから、柏町地区を中心に存在した集落が、６世紀後葉以降、周辺の地域に拡散するという動きを読み取ることができる。

なお、新邸遺跡では第８地点で初めて古墳時代後期（７世紀中葉）の住居跡が１軒検出されている。この住居跡は、３×3.5ｍの小型の長方形を呈するもので、焼失住居であり、床面上からは土器・炭化材の他ベンガラ塊が出土している。

現在、５世紀後葉から７世紀後葉にかけての時期に比定できる住居跡の軒数は、最も多い城山遺跡で265軒、次いで中野遺跡で58軒、中道遺跡で20軒、田子山遺跡で17軒、新邸遺跡で１軒を数える。

また住居跡以外では、平成５（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第24地点から、６世紀後葉以降のものと考えられる4.1×4.7ｍの不整円形で２ヶ所にブリッジをもつ小型の円形周溝墓が１基確認されている。さらに、平成14（2002）年に発掘調査された田子山遺跡第81地点を契機に御嶽神社を取り囲むように外周で推定約33ｍの巨大な溝跡の存在が明らかになり、現時点では古墳の周溝ではないかと考えられ、今後この一帯での古墳の発見に期待されている。

５．奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺跡は、古墳時代後期以降に拡散した集落内で確認される傾向にあり、現在のとこ

ろ、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で検出されている。中でも城山・田子山遺跡はこの時代を代表とする遺跡として挙げることができる。城山遺跡では、平成８（1996）年に発掘調査が実施された第35地点の128号住居跡から、印面に「冨」１文字が書かれた完形品の銅印が出土しているが、これは県内でも稀少な例として貴重な資料であろう。この住居跡からはその他、須恵器坏や猿投産の緑釉陶器の小破片１点、布目瓦の小破片２点などが出土している。平成20・21（2008・2009）年の城山遺跡第62地点の調査では、平安時代の241号住居跡から皇朝十二銭の一つである富壽神寶が２枚とその近くからは鉄鎌１点と土錘１点が出土しており、祭祀行為が行われたと考えられる貴重な例として、県内でも重要な発見につながっている。

田子山遺跡では、平成５（1993）年に発掘調査が実施された第24地点からは、住居跡の他、掘立柱建築遺構・溝跡そして100基を越える土坑群が検出されている。平成６（1994）年に発掘調査が実施された第31地点の44号住居跡からは、腰帯の一部である銅製の丸鞆が出土している。さらにカマド右横の床面上からは、東金子窯跡群と南比企窯跡群の製品という生産地の異なる須恵器坏が共伴して出土したことにより、土器編年の基本資料として貴重であると言える。

なお、以上のうち、城山遺跡128号住居跡出土の銅印ほか９点の遺物と城山遺跡第241号住居跡出土の冨壽神寶ほか２点の遺物は、考古資料として、平成25年３月１日付けで、市指定文化財に指定されている。

６．中・近世

中・近世の遺跡は、「柏の城」を有する城山遺跡と大塚千手堂関連である新邸・中道遺跡、そして関根兵庫館跡・宿遺跡が代表される遺跡と言える。城山遺跡では、数次にわたる発掘調査により、『館村旧記』（註１）にある「柏之城落城後の屋敷割の図」に相当する堀跡などが多数発見されている。近年では、『廻国雑記』（註２）に登場する「大石信濃守館」が「柏の城」に相当し、「大塚十玉坊」についても市内の「大塚」に由来があるという説が有力と言えるであろう（神山　1988・2002）。

また、平成７（1995）年に発掘調査が実施された第29地点の127号土坑からは、馬の骨が検出されている。この土坑からは、板碑と土師質土器の他、炭化種子（イネ・オオムギ・コムギなど）も出土しており、イネの塊状のものは「おにぎり」あるいは「ちまき」のようなものであるという分析結果が報告されている。

さらに、平成８（1996）年度に発掘調査が実施された第35地点から、鋳造関連の遺構が検出されている。130号土坑については鋳造遺構、134号土坑については溶解炉に該当し、遺物としては、大量の鉄滓（スラッグ）、鋳型、三叉状土製品、砥石などが出土している。最新資料では、平成27・28（2015・2016）年に発掘調査された第89地点の調査により、第35地点の鋳造関連の捨て場が明らかになった。この調査により、鍋本体の大型鋳型、鍋の耳部分の小型鋳型、三叉状・四叉状土製品・トリベ・砥石などの道具類や鉄滓（スラッグ）などの大量の遺物が斜面に流れ込むように出土した。

平成13（2001）年度の第42地点からは、多くの土坑・地下室・井戸跡が検出される中、234号土坑から、鉄鍋の完形品が出土したことは特筆すべきである。この鉄鍋は、土坑の坑底面に伏せてある状況で出土しており、「鍋被り葬」と呼ばれる風習が志木市でも実在していた可能性が高い。

戦国期の資料としては、平成６（1994）年度に発掘調査が実施された第21地点から、当市では初めて、鎧の札である鉄製品１点と鉄鏃１点が出土している。出土した遺構は、19世紀前半の86号土坑で

あるため混入品となるが、「柏の城」に関連する資料として大変重要な資料に加わったと言える。

平成11～14（1999～2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点からは、段切状遺構の坑底面から頭を北に向け横臥屈葬された人骨を出土した67号土坑、その他、ピット列・土坑・井戸跡・溝跡などが検出された。その後、平成27（2015）年度に第49地点の北側に隣接する第95地点の調査が実施され、段切状遺構の坑底面より、新たな土坑45基・井戸跡２基・溝跡１本・ピット231本などが検出された。特に、土坑のうち、市内で初めて「Ｔ字形」の火葬土坑５基が検出されたことは特筆すべきである。こうした墓域的な様相が僅かながら判明しつつある中、この一帯が『館村旧記』に記載がある「村中の墓場」関連に相当する遺構ではないかとの見方がある。

中道遺跡では、昭和62（1987）年の第２地点から人骨を伴う地下式坑、掘立柱建築遺構が検出され、平成７（1995）年の第37地点からは、人骨と古銭５枚を出土した土坑墓１基と13世紀に比定される青磁盤１点を出土した道路状遺構１条が検出されている。

新邸遺跡では、昭和60（1985）年の第１地点から段切状遺構の平場から多数の土坑・地下式坑が検出され、平成15（2003）年の第８地点からは、人骨と六文銭を伴う火葬墓２基が検出されている。おそらく、この新邸遺跡から中道遺跡一帯は、『館村旧記』に記載がある「大塚千手堂」であり、古くは天台宗の「七堂大伽藍」を誇る「松林山観音寺大受院松林山観音寺大受院」関連遺構と考えられる。その後、平成25（2013）年には、中道遺跡第74地点の発掘調査が実施され、段切状遺構の平場から多数のピットや溝跡などが検出され、上記を裏付ける追加資料となった。

７．近代以降

近代以降の遺跡では、平成５（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点から、敷島神社境内に存在する富士塚の築造（明治２～５年）に関連するローム採掘遺構が検出されている。この遺構の坑底面からは、鋤・鍬などの無数の工具痕が観察され、採掘作業がかなり組織的な単位で行われていたこともわかり、地域研究の重要な資料と言える。

平成15（2003）年の新邸遺跡第８地点からは、野火止用水跡が検出され、市内初の発掘調査例となった。用水路の基盤面からは水付きの銹着面が確認され、底面からは大量の陶磁器が出土した。

[註]

註１　『館村旧記』は、館村（現在の志木市柏町・幸町・館）の名主宮原仲右衛門仲恒が、享保12～14（1727～1729）年にかけて執筆したものである。

註２　『廻回雑記』は、左大臣近衛房嗣の子で、京都堀護院門跡をつとめた道興准后が、文明18年（1486）６月から10ヶ月間、北陸路から関東各地をめぐり、駿河甲斐にも足をのばし、奥州松島までの旅を紀行文にまとめたものである。

[引用文献]

神山健吉　1988「『廻回雑記』に現れる　大石信濃守の館と十玉坊の所在についての一考察」『郷土志木』第７号
2002「道興をめぐる二つの謬説を糾す」『郷土志木』第31号

第２章　城山遺跡第99地点の調査

第１節　遺跡の概要

城山遺跡は、志木市柏町３丁目を中心に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の北西約1.2㎞、柳瀬川駅の東約0.8㎞に位置している。本遺跡は、柳瀬川右岸の台地上に立地しており、標高は約12ｍ、低地との比高差は約５ｍである。

遺跡内には住宅や小学校、神社・墓地などが所在しており、閑静な住宅地と言える。近年では、個人住宅や分譲住宅などの小・中規模の土木工事が増加している中で、令和元年に市営墓地拡張工事といった大規模工事に伴う第96地点が実施されている。わずかに残る緑地や畑地にまで各種開発の波が押し寄せている状況であり、近年の調査により、畑地はほぼ見当たらない状態となったと言える。

本遺跡は、これまでに101地点の調査（令和３年12月28日現在）が実施され、旧石器時代、縄文時代草創～晩期、弥生時代後期、古墳時代前・中・後期、奈良・平安時代、中・近世に至る複合遺跡であることが判明している。下記に、これまで検出した遺物・遺構の概要を時代ごとに示す。

旧石器時代では、第42地点で石器集中地点１ケ所、第63地点で石器集中地点１ケ所、第71地点で石器集中地点２ケ所、礫群９ケ所を検出している。第96地点では、ＴＰ８より立川ローム第Ⅳ層下部～Ⅴ層上部、立川ローム第Ⅴ層～Ⅶ層上部、立川ローム第Ⅶ層下部～Ⅸ層で石器集中地点が検出されており、３枚の文化層が層位的に確認された貴重な事例である。

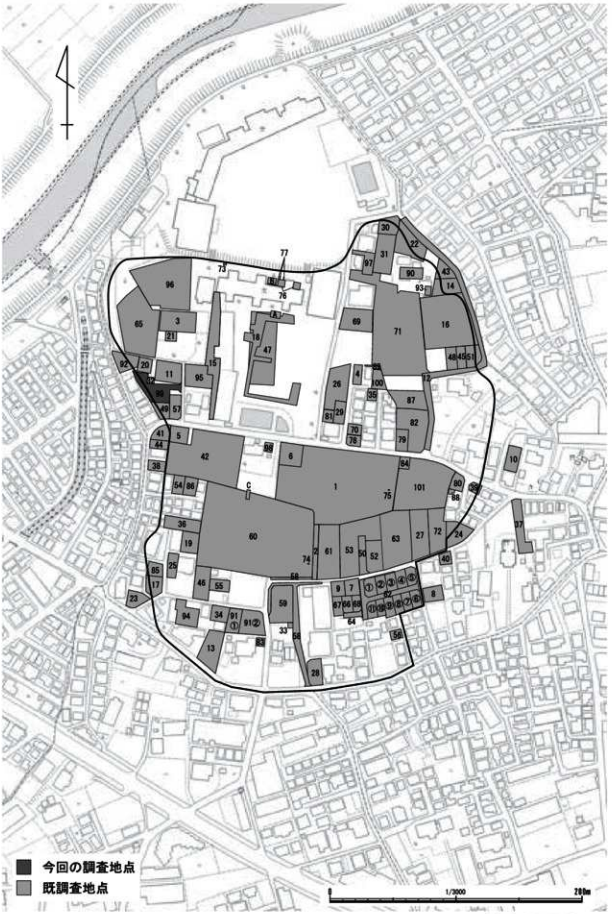
縄文時代では、草創期の遺物として第16・22地点から爪形文系土器２点、第21地点から多縄文系土器３点が出土している。前期では、市史編さん事業に伴い発掘調査を実施したＡ地点で諸磯式期の住居跡１軒、第46地点から前期末葉の住居跡１軒、第59地点から諸磯式期の住居跡１軒が検出されている。第96地点では、諸磯ａ式期の貝層を伴う住居跡が４軒検出されており、特に７号住居跡では多量の貝類がまとまって出土した。また、遺跡内には、当該期の斜面貝塚として知られる市指定文化財「城山貝塚」が所在する。中期では、第４地点から加曽利ＥⅡ式期の住居跡１軒を検出している。

弥生時代では、第96地点で、市内初となる弥生時代中期の宮ノ台式期の住居跡が検出された。また、１号方形周溝墓も発見されており、こちらも本遺跡で初出となった。第71地点では後期の住居跡２軒、第76地点で後期の住居跡２軒が検出されている。

古墳時代では、遺跡全体から中・後期の住居跡200軒以上が検出されており、大集落が形成されていたことが判明している。特に、第１地点では53軒、第42地点では16軒、第58・60地点では52軒と、当該期の住居跡が濃密に分布している状況が看取できる。

奈良時代では、第１・26・60・71地点で住居跡が検出されている。第42地点１号ピットから偏向唐草文の軒平瓦１点が出土している。

平安時代では、９世紀前半から10世紀にかけての住居跡約30件が検出されている。特に、第35地点128号住居跡出土の印面に「冨」と記された銅印と、第62地点241号住居跡出土の冨壽神寶２点・鉄鎌１点・土錘１点は、それぞれ市指定文化財となっている。



令和3年12月28日現在

第２図　城山遺跡の調査地点　（1／3,000）

中・近世では、「柏の城」関連の大堀を含めた溝跡・井戸跡・土坑が多数検出されている。特に、第１地点で検出された上幅 12.2 m・深さ 4.7 m を測る１号溝跡、第71地点の59号溝跡などは、市指定文化財「舘村旧記」に記された絵図と合わせ、城の縄張りを解明するための基盤となる遺構である。また、第35地点からは鋳造遺構や溶解炉、鉄滓（スラッグ）、鋳型など鋳物師に関連する資料が出土している。

第２節　調査の経緯

（１）調査に至る経過

令和元年10月、株式会社伊藤充光建築設計から志木市教育員会（以下、教育委員会）へ開発計画地内における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについての照会があった。計画は志木市柏町３丁目1137－１・２の各一部（面積416.12㎡）地内に分譲住宅建設を行うというものである。

これに対し、教育委員会は、当該開発予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である城山遺跡（コード11228－09－003）に該当するため、大旨下記のとおり回答した。

１．埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施して、その結果に基づき、当該開発予定地の埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて回答する。

２．上記１の調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合、埋蔵文化財の保存措置を講ずること。また、やむを得ず埋蔵文化財に影響を与える工事を実施する場合は、記録保存のための発掘調査を実施する必要があること。

令和２年１月27日、教育委員会は、土木工事主体者である個人より確認調査依頼書を受理し、城山遺跡第99地点として、２月12～14日に確認調査を実施した。確認調査は、第３図に示すように調査区に４本のトレンチ（１～４Ｔｒ）を設定し、バックホーで表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、縄文時代の土坑１基、弥生時代の住居跡１軒、古墳時代後期の住居跡１軒、中世の土坑19基・溝跡４本などを確認した。中世以降の溝跡４本のうち、最も西側に位置する溝跡は柏の城跡関連の堀跡と推測される。

教育委員会は、この結果をただちに土木工事主体者に報告し、保存措置について検討を依頼した。

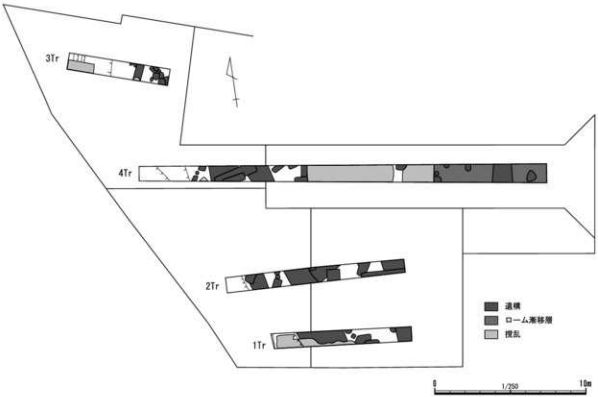
７月６日に土木工事主体者と埋蔵文化財の保存措置について協議を行った。その結果、今回の工事内容については、分譲住宅建設、道路新設および擁壁設置工事であり、盛土保存で対応できないことから、発掘調査を実施することに決定した。

７月16日、土木工事主体者より志木市埋蔵文化財保存事業委託申請書が提出されたため、志木市埋蔵文化財保存事業受託要綱第２条第２項に基づき、８月14日に発掘調査実施に向けた事前協議を実施した。８月24日、志木市と土木工事主体者の間で志木市埋蔵文化財保存事業に係る協議書が取り交わされ、同日に委託契約を締結した。

教育委員会は、埋蔵文化財発掘の届出及び発掘調査通知を埼玉県教育委員会に提出し、８月24日から発掘調査を実施した。

（２）発掘調査の経過

ここでは、発掘調査の大まかな経過を説明することにし、各遺構の精査経過については、第２表の発



第３図　確認調査時の遺構分布（１／250）

掘調査工程表に示した。

８月24日　発掘調査を開始する。第４図のように、調査区を3分割し、１区から重機（バックホー）による表土剥ぎ作業を開始する。同時に、人員を導入し、中世以降の溝跡（70M）の覆土の掘削を行った。残土置場は２・３区とした。

８月25日　１区の表土剥ぎ作業の続きを行う。本日中に表土剥ぎ作業を終了し、調査区整備、遺構検出作業および70Mの精査を行う。基準点測量を実施する。調査区北西隅に中世以降の土坑（1135 D）を検出し、掘削を行う。

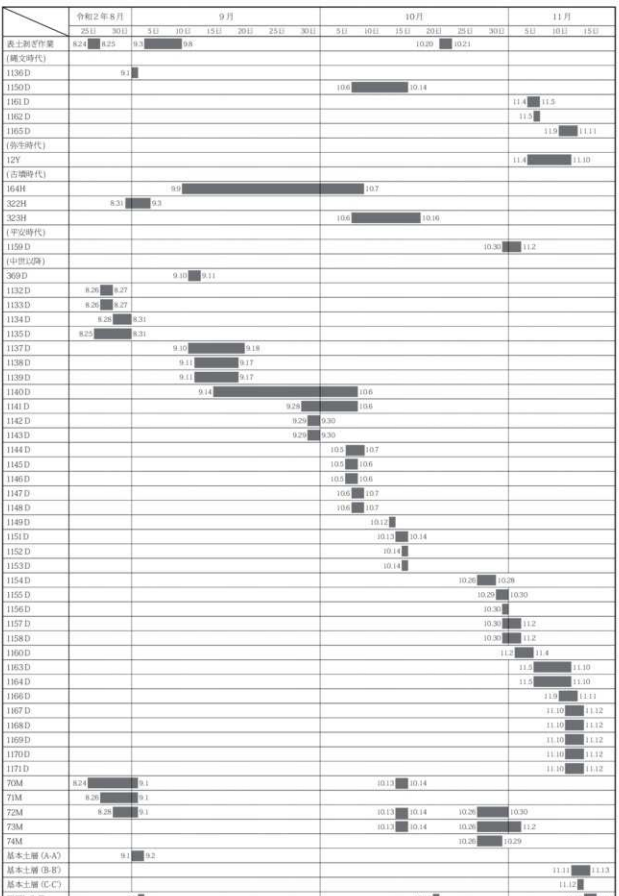
26～31日　古墳時代後期の住居跡（322H）、中世以降の土坑（1132～1134 D）・溝跡（71・72M）の精査を開始する。322Hについては、東側の一部のみの検出であり、大半は70Mに壊されている状況であった。1132～1135 Dの精査を終了する。

９月１～３日　322Hでは貯蔵穴から土器がまとまって出土した。基本土層Ａ－Ａ'の掘削を行い、土層断面図を作成する。70～72M、322Hの精査を終了し、１区の埋め戻し作業を実施する。続けて２区の表土剥ぎ作業を開始する。

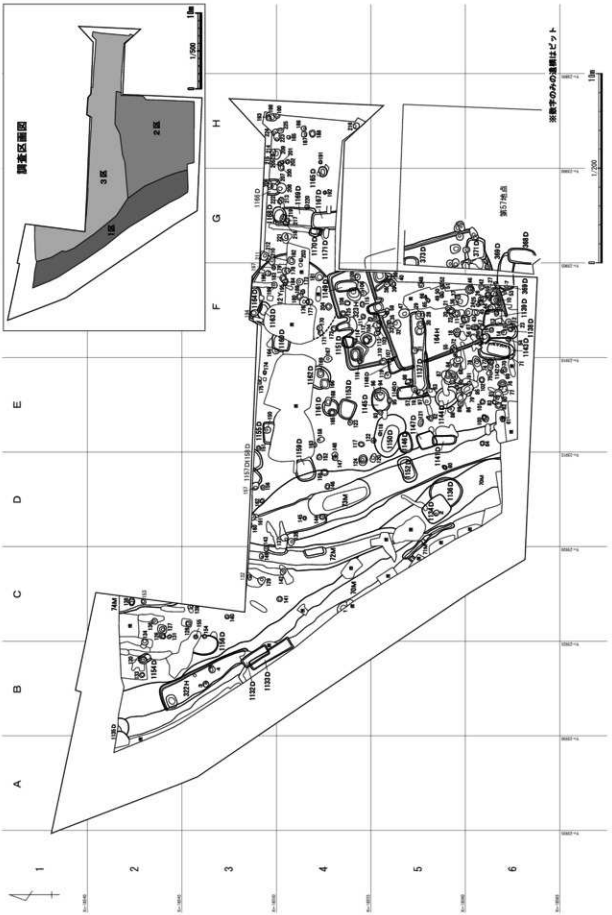
４～８日　２区の表土剥ぎ作業の続きを行う。８日に表土剥ぎ作業を終了し、調査区整備、遺構検出作業を行う。

９～13日　古墳時代後期の住居跡（164H）、中世以降の土坑（369・1137～1139 D）の精査を開始する。

14～17日　中世以降の土坑（1140 D）の精査を開始する。164Hでは完掘および遺物出土状況の写真撮影を行う。1138・1139 Dの精査を終了する。



第２表　城山遺跡第99地点の発掘調査工程表



第４図　遺構分布図（１／200）

18～30日　164Hのカマドの精査を開始し、カマドの精査と並行して掘り方の精査を行う。中世以降の土坑（1141～1143 D）の精査を開始する。1137・1142・1143 Dの精査を終了する。

10月１～12日　縄文時代の土坑（1150 D）、古墳時代後期の住居跡（323H）、中世以降の土坑（1144～1149 D）の精査を開始する。164 Hのカマドの精査を終了する。1144～1149 Dの精査を終了する。

13～19日　中世以降の土坑（1151～1153 D）の精査を開始する。また、中世以降の溝跡（70・72・73 M）の南側を精査開始する。323 Hでは、カマドの精査を行う。323 H、1138・1139・1150～1153 D、70Mおよび72・73 Mの南側の精査を終了する。19日には２区の埋め戻し作業を実施し、終了する。

20～30日　３区の表土剥ぎ作業を開始する。21日には表土剥ぎ作業を終了し、22日に３区の調査区整備および遺構確認作業を開始し、遺構検出状況の写真撮影を行う。26日から３区の遺構精査を行う。平安時代の土坑（1159 D）、中世以降の土坑（1154～1158 D）の精査、中世以降の溝跡（72・73 M）の北側の精査、および74Mの精査を開始する。73Mでは、底面付近に硬化面を検出し、平面範囲を記録した。1154～1156 D、72・74Mの精査を終了する。

11月１～12日　縄文時代の土坑（1161・1162・1165 D）、弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡（12Y）、中世以降の土坑（1160・1163・1164・1166～1171 D）の精査を開始する。12Yは遺存状況が悪く、特に住居跡南西側の立ち上がりは確認されなかった。基本土層Ｂ－Ｂ'・Ｃ－Ｃ'の掘削を行い、土層断面図を作成する。12Y、1157～1171 Dの精査を終了する。

13日　埋め戻し作業を開始する。14日に埋め戻しを完了する。

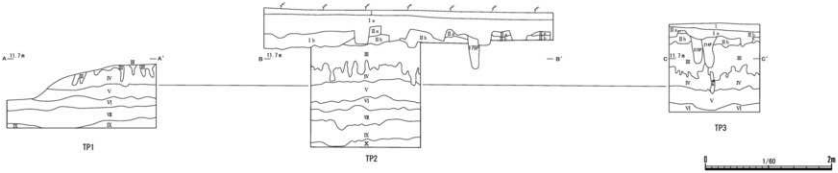
（３）基本層序

本地点の基本層序の確認および旧地形を考察するため、テストピット（以下ＴＰ）を３箇所に設定し、土層の記録を行った（第５図）。確認した層位はＴＰ１で立川ローム第Ⅸ層、ＴＰ２で立川ローム第Ⅹ層、ＴＰ３で立川ローム第Ⅵ層である。なお、立川ローム第Ⅷ層は確認されなかった。

Ⅰａ層は現代の表土及び攪乱である。Ⅰｂ層はＴＰ２土層断面の西半で確認されており、Ⅱａ・Ⅱｂ層を斜めに壊している。ＴＰ３の土層断面でも分かるように、Ⅰｂ層はＴＰ２土層断面の東半から調査区東側にかけては確認されていない。Ⅱ層は黒ボク土からローム層への漸移層であり、上下でⅡａ層、Ⅱｂ層に分けた。Ⅲ～Ⅹ層はローム層であり、層の色調や内容物の観察、層順から立川ローム第Ⅲ層～第Ⅹ層に相当する。本地点の基本層序は、武蔵野台地で確認される立川ロームの標準的な層序と言える。

本地点の地形面については、ＴＰ１～３で共通して確認できている第Ⅳ－Ⅴ層の境の標高をみると、ＴＰ１では標高11.25 m前後、ＴＰ２では標高11.30 m前後、ＴＰ３では標高11.26 m前後である。また、各ＴＰの第Ⅳ－Ⅴ層の境の分層線は、ほぼ平坦である。現地形面は、調査区西側はやや傾斜しつつ、調査区外の低地につながる崖となっているが、旧地形面は、層序の傾斜が観察されなかったことから、ＴＰ１より西側に台地がまだ続いていたと考えられる。よって、低地につながる崖は現在よりも西側であったと想定できる。このように旧地形を復元すると、古墳時代後期の住居跡（322 H）は、中世の溝

Ⅰ層　砂利層。
Ⅱa層　表土層。
Ⅱb層　黒褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含み、焼土粒子を僅かに含む。中世期の層上か。
Ⅲa層　暗褐色土　オレンジスコリア(Φ1mm以下)を僅かに、黒色スコリア(Φ1mm)・ローム粒子を含む。
Ⅲb層　灰褐色土　オレンジスコリア(Φ1mm以下)を含み、黒色スコリア(Φ1mm)を僅かに含む。
Ⅳ層　黄褐色土　オレンジスコリア(Φ1mm以下)・赤色スコリア(Φ2mm)・黒色スコリア(Φ1mm)を含む。下面にいくほど多くなる。
Ⅳ層　明黄褐色土　オレンジスコリア(Φ1mm)・黒色スコリア(Φ1mm)を多く、赤色スコリア(Φ2mm)を含み、白色粒子を僅かに含む。
Ⅴ層　明褐色土　オレンジスコリア(Φ1mm)・黒色スコリア(Φ2mm以下)を多く、赤色スコリア(Φ1mm)・白色粒子を含む。
Ⅵ層　黄褐色土　オレンジスコリア(Φ1mm)・白色粒子を含み、黒色スコリア(Φ1mm)を多く、赤色スコリア(Φ1mm)を僅かに含む。ＡＴ以降層。
Ⅶ層　灰褐色土　オレンジスコリア(Φ1mm)を含み、黒色スコリア(Φ1mm)を多く、白色粒子を僅かに含む。
Ⅸ層　褐色土　オレンジスコリア(Φ1mm)を含み、黒色スコリア(Φ2mm)を多く含む。
Ⅹ層　黄褐色土　オレンジスコリア(Φ2mm)を含み、黒色スコリア(Φ1mm)を僅かに含む。



第５図　基本土層（１／300・１／60）

跡（70Ｍ）に破壊されるが、台地の平坦面に位置していたと推測される。また、70Ｍによって大規模な地形改変があったと考えられる。地形改変の観点で言えば、ＴＰ２で確認されたⅡａ・Ⅱｂ層を斜めに壊しているⅠｂ層が挙げられる。Ⅰｂ層は、時期が定かではないが、調査区西側で確認され、調査区西側には大規模造成があった70Ｍが存在することから、70Ｍに関連する造成痕跡の可能性がある。

第３節　縄文時代の遺構・遺物

（1）概　要

縄文時代の遺構としては、土坑５基（1136・1150・1161・1162・1165Ｄ）、ピット２本（122・172P）が検出された。土坑からは良好な出土遺物は少ないが、早期後葉の条痕文系土器や前期前葉の関山式土器、前期中葉の黒浜式土器、前期後葉の諸磯ｂ式土器、中期初頭・中葉の五領ヶ台式・阿玉台式土器が僅かに出土した。また、ピットでは172Pから前期後葉の浮島・興津式土器２点が出土した。

（2）土　坑

1136号土坑

遺　構（第６図・第３表）

［位　置］（Ｄ－５）グリッド。

［検出状況］1134D・70Ｍに切られる。

［構　造］**平面形**：楕円形。**規模**：長軸1.74ｍ／短軸1.60ｍ／深さ26㎝。**壁**：70°～80°の角度で急斜に立ち上がる。**長軸方位**：Ｎ－48°－Ｗ。

［覆　土］７層に分層された。

［遺　物］中期初頭の五領ヶ台式土器１点が出土した。

［時　期］中期初頭（五領ヶ台式期）。

遺　物（第７図１、図版12－１－１、第５表）

１は中期初頭（五領ヶ台式期）の土器である。

遺構名	位置	平面形	規模（m）			長軸方位	覆土及び特徴等	主な遺物	時　期
			長軸	短軸	深さ				
1136D	(D-5)G	楕円形	1.74	1.60	0.26	N-48°-W	7層／1134D・70Mに切られる	土器1点（五領ヶ台式）	中期初頭（五領ヶ台式期）
1150D	(D・E-5)G	楕円形	2.28	1.52	0.50	N-23°-E	9層／1146D・118・122Pに切られる	土器７点（条痕文系３点、関山式２点、黒浜式２点）	前期前～中葉（関山～黒浜式期）
1161D	(E-4)G	円形	0.88	0.86	0.18	N-22°-E	8層／1153D・165・168Pに切られる	土器1点（諸磯b式）：小破片のため図示できなかった	前期後葉（諸磯ｂ式期）
1162D	(E-4)G	円形	1.20	不明	0.32	N-16°-E	4層／北側は撹乱／166・169Pに切られる	土器２点（条痕文系1点・諸磯ｂ式1点）	前期後葉か（諸磯ｂ式期か）
1165D	(G・H-4)G	楕円形	0.52	0.42	0.22	N-19°-E	3層／上層は畝により撹乱	土器1点（阿玉台式）	中期中葉（阿玉台式期）

第３表　縄文時代の土坑一覧

1150号土坑

遺　　構（第６図・第３表）

［位　　置］（D・E－５）グリッド。

［検出状況］1146D、118・122Pに切られる。

［構　　造］**平面形**：楕円形。**規模**：長軸2.28ｍ／短軸1.52ｍ／深さ50㎝。**壁**：40°～50°の角度で緩やかに立ち上がる。**長軸方位**：N－23°－E。

［覆　　土］９層（２～10層）に分層された。

［遺　　物］早期後葉の条痕文系土器３点、前期の関山式土器２点、黒浜式土器２点が出土した。

［時　　期］前期前～中葉（関山～黒浜式期）か。

遺　　物（第７図１～７、図版12－１－１～７、第５表）

１～３は早期後葉の条痕文系土器、４～７は前期の土器で、４・５は前期前葉の関山式土器、６・７は前期中葉の黒浜式土器である。

1161号土坑

遺　　構（第６図・第３表）

［位　　置］（E－４）グリッド。

［検出状況］1153 D・165・168Pに切られる。

［構　　造］**平面形**：円形。**規模**：長軸0.88ｍ／短軸 0.86ｍ／深さ18㎝。**壁**：60°～80°の角度で急斜に立ち上がる。**長軸方位**：N－22°－E。

［覆　　土］８層に分層された。

［遺　　物］前期後葉の諸磯ｂ式土器１点が出土したが、小破片のため図示できなかった。

［時　　期］前期後葉（諸磯ｂ式期）。

1162号土坑

遺　　構（第６図・第３表）

［位　　置］（E－４）グリッド。

［検出状況］166・169Pに切られる。北側は攪乱される。

［構　　造］**平面形**：円形。**規模**：長軸1.20ｍ／短軸 不明／深さ32㎝。**壁**：70°～80°の角度で急斜に立ち上がる。**長軸方位**：N－16°－E。

［覆　　土］４層（２～５層）に分層された。

［遺　　物］早期後葉の条痕文系土器と前期後葉の諸磯ｂ式土器が１点ずつ出土した。

［時　　期］前期後葉（諸磯ｂ式期）か。

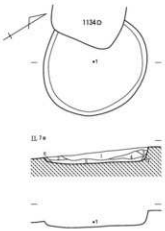
遺　　物（第７図１・２、図版12－１－１・２、第５表）

１は早期後葉の条痕文系土器、２は前期後葉の諸磯ｂ式土器である。

1165号土坑

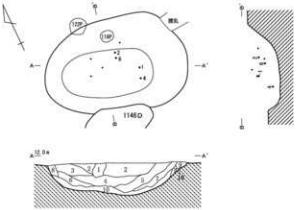
遺　　構（第６図・第３表）

［位　　置］（G・H－４）グリッド。



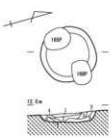
1層　暗褐色土　ローム粒子をやや多く、焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
2層　暗褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり強。
3層　にぶい黄褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり強。
4層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
5層　明黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。
6層　黄褐色土　ローム小ブロックを含む。しまり強。
7層　黄褐色土　ローム粒子を含む。しまり強。

1136号土坑



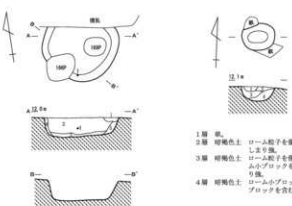
1層　撹乱。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
3層　暗褐色土　ローム粒子を僅かに、ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子をごく僅かに含む。しまり強。
4層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
5層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
6層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
7層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子をごく僅かに含む。しまり強。
8層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
9層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
10層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。

1150号土坑



1層　極暗褐色土　ローム粒子を僅かに、ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。
2層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
3層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックをやや多く、焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
4層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
5層　暗褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり強。
6層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。
7層　黄褐色土　ローム小ブロックを含み、ロームブロックを多く含む。しまり強。
8層　にぶい黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。

1161号土坑



1層　表。
2層　暗褐色土　ローム粒子を含む。しまり強。
3層　暗褐色土　ローム粒子を僅かに、ローム小ブロック・ローム小ブロックを含む。しまり強。
4層　明褐色土　ローム小ブロックを含み、ロームブロックを多く含む。しまり強。
5層　明褐色土　ローム粒子を僅かに、ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。

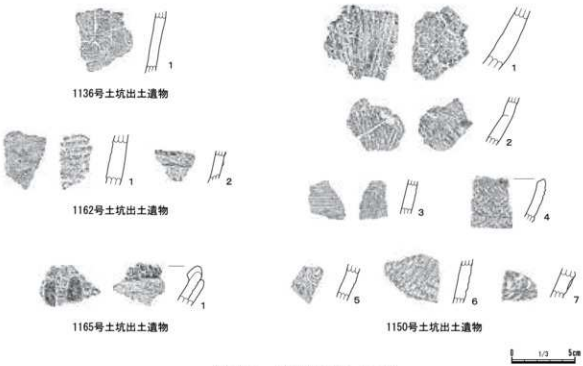
1162号土坑

1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまり強。
2層　暗褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり強。
3層　暗褐色土　ローム小ブロックを含む。しまり強。
4層　暗褐色土　ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。

1165号土坑

0　1/60　2m

第６図　土坑（１／60）



第７図　土坑出土遺物（1／3）

［検出状況］部分的に攪乱される。

［構　　造］**平面形**：楕円形。**規模**：長軸0.52ｍ／短軸0.42ｍ／深さ22㎝。**壁**：70°～80°の角度で急斜に立ち上がる。**長軸方位**：Ｎ－19°－Ｅ。

［覆　　土］３層（２～４層）に分層された。

［遺　　物］中期中葉の阿玉台式土器１点が出土した。

［時　　期］中期中葉（阿玉台式期）。

遺　　物（第７図１、図版12－１－１、第５表）

１は中期中葉の阿玉台式土器である。

（4）ピット（第８図１・２、図版12－２－１・２、第４・５表）

本地点で検出されたピットは合計225本で、縄文時代のピットは２本（122・172Ｐ）で、その他はすべて中世以降の所産である。ここでは、遺物の出土した172Pの遺物についてのみ記述し、ピットの基本内容は第４表に示した。

縄文時代の２本のピットのうち、遺物が出土したものは、172Ｐの１本のみであった。遺物としては、前期後葉の浮島・興津式土器２点が出土した。（第８図１・２、図版12－２－１・２、第５表）。

遺構名	位置	平面形	規模（cm）			覆土及び特徴等	主な遺物	時　期
			長軸	短軸	深さ			
122Ｐ	(E-5)G	円　形	26	26	27	単層：ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗茶褐色土／1150Dを切る	遺物なし	縄　文
172Ｐ	(F-4)G	隅丸方形	31	29	32	4層／323Hに切られる	土器２点（浮島・興津式）	前期後葉（浮島・興津式期）

第４表　縄文時代のピット一覧

第８図　172号ピット・出土遺物（１／60・1／3）

挿図番号 図版番号	出土遺構	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式
第７図１ 図版 12-1-1	1136D	深鉢	胴	厚 0.8	ほぼ垂直に立ち上がる	沈線文／沈線脇に連続爪形文	暗褐／砂粒中量、チャート中量	中期初頭 （五領ヶ台式）
第７図１ 図版 12-1-1	1150D	深鉢	胴	厚 1.3	外傾	内外面に縦位の条痕文	橙／砂粒中量、礫少量、繊維中量	早期後葉 （条痕文系）
第７図２ 図版 12-1-2	1150D	深鉢	胴	厚 0.9	外傾	内面に斜位の条痕文、外面に縦位の条痕文	橙／砂粒少量、繊維中量	早期後葉 （条痕文系）
第７図３ 図版 12-1-3	1150D	深鉢	胴	厚 0.8	僅かに外傾	外面に横位の条痕文	黒褐／砂粒中量	早期後葉 （条痕文系）
第７図４ 図版 12-1-4	1150D	深鉢	口縁	厚 0.7	僅かに外傾	口縁部上端から４段の羽状縄文／上から１段目：還付末端のＲＬ単節縄文、２段目：還付末端のＬＲ単節縄文、３段目：還付末端のＲＬ単節縄文、４段目：ＬＲ単節縄文とＲＬ単節縄文	にぶい黄橙／砂粒少量、角閃石極少量、繊維中量	前期前葉 （関山式）
第７図５ 図版 12-1-5	1150D	深鉢	胴	厚 0.9	僅かに外傾	地文はＬＲ単節縄文／コンパス文	黄橙／砂粒少量、繊維中量	前期前葉 （関山式）
第７図６ 図版 12-1-6	1150D	深鉢	胴	厚 0.8	僅かに外傾	２段の羽状縄文／上からＬＲ単節縄文、ＲＬ単節縄文	橙／砂粒少量、繊維中量	前期中葉 （黒浜式）
第７図７ 図版 12-1-7	1150D	深鉢	胴	厚 1.0	僅かに外傾	地文はＬＲ単節縄文／横位の押引文か	にぶい黄橙／砂粒少量、繊維多量	前期中葉 （黒浜式）
第７図１ 図版 12-1-1	1162D	深鉢	胴	厚 1.1	僅かに外傾	内面に横位の条痕文	にぶい黄橙／砂粒中量、繊維中量	早期後葉 （条痕文系）
第７図２ 図版 12-1-2	1162D	深鉢	胴	厚 0.7	僅かに外傾	横位の浮線文	にぶい褐／砂粒中量、角閃石少量	前期後葉 （諸磯ｂ式）
第７図１ 図版 12-1-1	1165D	深鉢	口縁	厚 0.7	外傾／口縁部が内面に肥厚	連続刺突文／刺突文上に断面三角形の隆帯を２本貼り付け／内面肥厚部に斜位の刻み目	にぶい褐／砂粒多量、礫多量、角閃石中量	中期中葉 （阿玉台式）
第８図１ 図版 12-2-1	172P	深鉢	胴	厚 0.9	外傾	波状貝殻文	黒褐／砂粒多量、角閃石多量	前期後葉 （浮島・興津式）
第８図２ 図版 12-2-2	172P	深鉢	胴	厚 1.1	外傾	貝殻腹縁文	にぶい赤褐／砂粒多量、角閃石多量	前期後葉 （浮島・興津式）

第５表　縄文時代の遺構出土土器一覧

第４節　弥生時代後期～古墳時代前期の遺構・遺物

（1）概　要

弥生時代後期～古墳時代前期の遺構は、住居跡１軒（12Y）が検出された。12Ｙの時期については、出土遺物が乏しかったため詳細な時期を設定できなかった。なお、本住居跡は中世以降の遺構とさらに西側部分の大きな攪乱により、大きく影響を受けているものと言える。

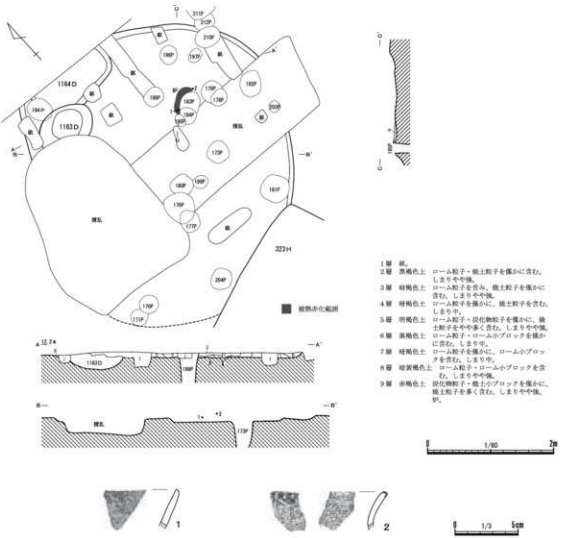
（2）住居跡

12号住居跡

遺　構（第９図）

［位　　置］（F・G－３・４）グリッド。

［検出状況］中世以降の土坑・ピットによる破壊が著しく、西側部分は大きく攪乱を受けている。1163・1164Ｄ、170・171・173・176～184・189・194～197・199・203・204・210・212・



第９図　12号住居跡・出土遺物（1／60・1／3）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部　位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎　土	出土位置
第９図１ 図版12-3-1	壷	口縁部小破片	厚 0.5	小型品／口縁部は内湾気味に外傾する／坩の可能性あり	内面:横方向にヘラ磨き調整／外面:縦方向にヘラ磨き調整	暗黄褐色を基調／砂粒をやや多く含む	炉付近の覆土中（床上12cm）
第９図２ 図版12-3-2	甕	口縁部小破片	厚 0.4	口縁部は僅かに外反する／口唇部にハケ状工具による刻み	内面:横方向にハケ目調整／外面:縦方向にハケ目調整	暗黄褐色を基調／砂粒を含む	炉付近の覆土中（床上22cm）

第６表　12号住居跡出土土器一覧

213Ｐに切られる。

［構　　造］平面形：隅丸長方形。規模：長軸 推定4.74ｍ／短軸4.12ｍ／遺構確認面からの深さ 10㎝前後。壁：緩やかに立ち上がる。主軸方位：Ｎ－43°－Ｅ。壁溝：検出されなかった。床面：全体に軟弱である。貼床は確認できなかった。炉：住居中央からやや北東寄りに位置する。南東側の大部分が中世以降の183・184・195Ｐに破壊されている。長さ42㎝（現存）／幅25㎝／深さ 5㎝前後。主軸方位はＮ－67°－Ｅ。炉床部は焼けて赤化していた。貯蔵穴：検出されなかった。柱穴：本住居跡に伴うものは検出されなかった。入口施設：検出されなかった。

［覆　　土］８層（２～９層）に分層された。

［遺　　物］壺形土器、甕形土器が１点ずつ出土した。

［時　　期］弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭。

遺　物（第９図１・２、図版12－３－１・２、第６表）

１は壺形土器、２は甕形土器で、それぞれ口縁部小破片である。

第５節　古墳時代後期・平安時代の遺構・遺物

（１）概　要

古墳時代後期の遺構は、住居跡３軒（164・322・323Ｈ）、平安時代の遺構は、土坑１基（1159D）が検出された。古墳時代後期の住居跡としては、164Ｈがすでに隣地の第57地点の調査の際に一部調査されており、今回はその北西側に相当し、北側で323Ｈを切って構築されていることが判明した。322Ｈは調査区北西隅からの検出で、西側の大部分は70Ｍに切られていた。

住居跡の時期は、出土土器、出土状況から判断して、323Ｈは７世紀前葉、164・322Ｈは７世紀中葉に比定される。なお、164・323Ｈには新旧関係があり、164Ｈが323Ｈを切っており、各住居跡の時期的な前後関係に齟齬はない。

平安時代の遺構として、1159Dからは須恵器小破片が数点出土している。図示はできなかったが、おおよそ９世紀代のものと考えられる。

（２）住居跡

164号住居跡

遺　構（第10～12図）

［位　　置］（Ｅ・Ｆ－４～６）グリッド。

［検出状況］住居北側で323Ｈを切り、南西部分はすでに第57地点の164Ｈとして調査している箇所である。今回は、遺構・遺物ともに第57地点の報告内容を統合して報告することとした。371・373・1137～1139Ｄ、５・６・８・９・10・11・13・16・17・18・20～22・24～27・29～52・55・56・58・59・65～67・72・99Ｐに切られる。住居中央はやや広い範囲で撹乱を受けている。

［構　　造］**平面形**：方形。規模：南北軸6.50ｍ／東西軸6.12ｍ／遺構確認面からの深さ25㎝。**壁**：80°程度の角度で立ち上がる。**主軸方位**：Ｎ－20°－Ｗ。**壁溝**：上幅15㎝前後／下幅７㎝前後／床面からの深さ５～18㎝。**床面**：硬化面はカマド前面と南壁付近で確認され、住居中央付近では顕著に確認できなかった。貼床は最深12㎝程の厚さで施されていた。**カマド**：北壁の中央やや東寄りに位置する。主軸方位はＮ－13°－Ｗ。長さ165㎝／幅1.32㎝／壁への掘り込み54㎝。燃焼部は明確に確認できなかった。袖部はロームを馬蹄形状に掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたと思われる。また、掘り方として、カマド部分の南側は高さ１～３㎝・幅25㎝程の高まりが凸堤状にまわっていた。**貯蔵穴**：カマド右横の住居北東コーナーに位置する。平面形は東側が調査区外にあり全体を精査できなかったが、隅丸長方形であろう。長軸不明／短軸70㎝／深さ64㎝。周囲には高さ２～５㎝・幅25㎝程の凸堤が確認できた。**柱穴**：Ｐ１～３が主柱穴である。深さはＰ１が49㎝、Ｐ２が71㎝、Ｐ３が86㎝である。**入口施設**：確認できなかったが、南壁付近の床面が硬化している状況から、入口部は南壁にあるものと推測できる。

［覆　　土］セクションＡ－Ａ'・Ｃ－Ｃ'の堆積状況から自然堆積と考えられる。

［遺　　物］土師器坏・甕・甑形土器、土製品（土玉・支脚）、鉄製品（刀子・不明品）、石器（台石）が出土した。遺物の出土傾向として、住居南半部より北半部から比較的に多く出土しており、特に北壁寄りのカマド及び貯蔵穴周辺から集中している状況である。その他として、穿孔貝巣穴痕跡軟質泥岩１点、炭化種実１点（モモ）が出土している。本住居跡の出土遺物は、第57地点の調査の際に２点（第13図１・２）が出土していたため、今回の調査では、それ以外の資料が追加資料となる。

［時　　期］古墳時代後期（７世紀中葉）。

遺　　物（第13～15図、図版12－４、図版13、第７・８表）

［土　　器］（第13・14図１～24、図版12－４－１～13、図版13－14～24、第７表）

１～10は土師器坏形土器、11～21は土師器甕形土器、22～24は土師器甑形土器である。

［土 製 品］（第14図25～27、図版13－25～27、第８表）

25は土玉、26は紡錘車、27は支脚である。

［石　　器］（第15図28、図版13－28、第８表）

28は台石である。完形品で、両面に磨面が観察できる。石材は砂岩である。

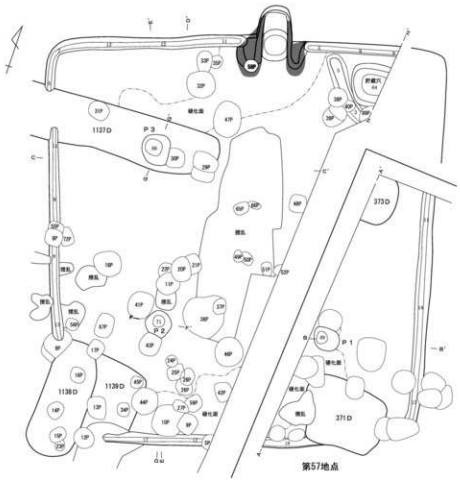
［鉄 製 品］（第15図29・30、図版13－29・30、第８表）

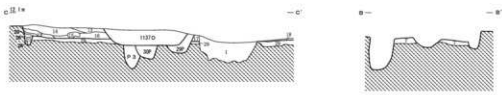
29は刀子、30は釘と思われる。

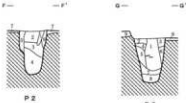
［そ の 他］（第15図31、図版13－31・32）

31は穿孔貝巣穴痕跡軟質泥岩である。長さ3.7㎝・幅2.2㎝・重さ11.7ｇ。穿孔は２か所確認でき、大きさは５×６㎜、楕円形で深さは最深７㎜。色調は白色～淡いピンク色である。覆土中の出土である。

32は炭化種実（モモ）で、一部欠損している。長さ2.0㎝（現存）・幅1.7㎝・厚さ1.5㎝・重さ1.6ｇ。カマド前面の床面上からの出土である。





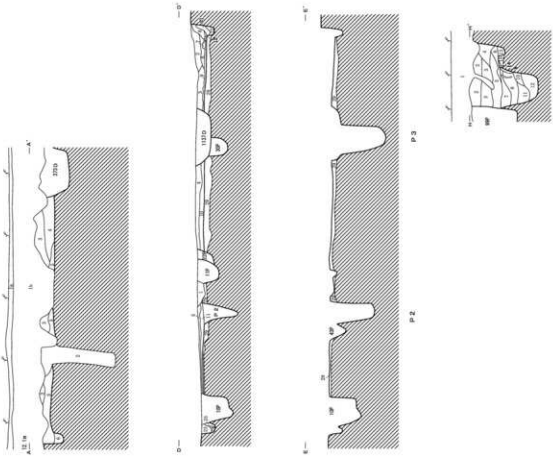


F－F′　P２
1 層　撹乱
2 層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
3 層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
4 層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
5 層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり強。
6 層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり強。
7 層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。貼床。

G－G′　P３
1 層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
2 層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く、炭化物粒子・焼土粒子・焼土小ブロックを僅かに含む。しまり強。
3 層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。
4 層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
5 層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。
6 層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。
7 層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり強。
8 層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。
9 層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。貼床。

0　1/60　2m

第10図　164号住居跡（１／60）



A－A'　B－B

1a層　砂石。
1b層　表土。
2層　後世のピット。
3層　黒褐色土　ローム粒子・焼土粒子を僅かに含む。
4層　暗茶褐色土　ローム粒子を含み、焼土粒子・炭化物粒子を僅かに含む。
5層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、焼土粒子・炭化物粒子を僅かに含む。
6層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。
7層　貼床。

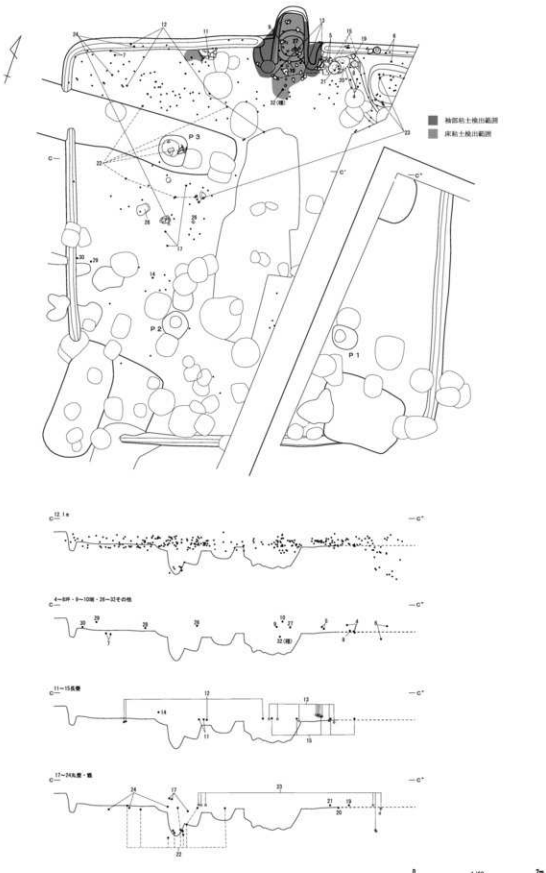
H－H'　貯蔵穴

1層　表土及び撹乱。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりや。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりや。
4層　黒色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりや。
5層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりや。
6層　黒褐色土　ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりや。
7層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまりや。
8層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりや。
9層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまりや。
10層　黒色土　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまりや。
11層　黒褐色土　ローム粒子含み、ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまりや。
12層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや強。
13層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまりも強。
14層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりやや強。粘床。
15層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりも強。粘床。

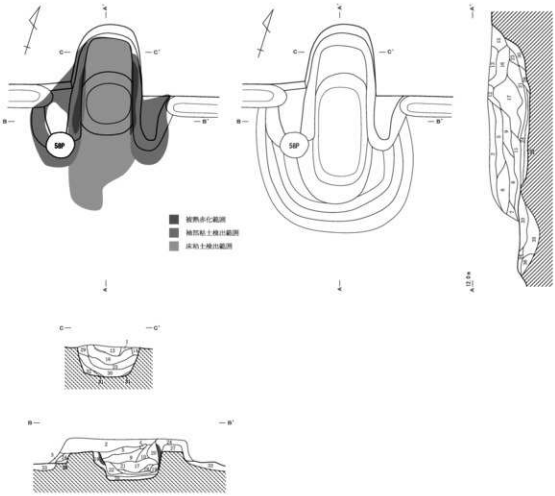
C－C'　D－D'　E－E'

1層　撹乱。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまりや。
3層　暗褐色土　ローム粒子を含み、焼土粒子をやや多く含む。しまりやや強。
4層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
5層　暗褐色土　ローム粒子をやや多く、ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
6層　暗褐色土　ローム粒子・焼土粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
7層　灰白色粘土　焼土粒子を僅かに含む。
8層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
9層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・粘土粒子を含み、粘土粒子を僅かに含む。しまりも強。
10層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに、ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
11層　暗褐色土　ローム粒子を僅かに、ローム小ブロックを含む。しまりも強。
12層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりも。
13層　黒褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまりや。
14層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
15層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりも強。粘床。
16層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまりやや強。
17層　暗褐色土　ローム粒子をやや多く含む。しまりやや強。
18層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりも。
19層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
20層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりや。
21層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
22層　にぶい黄褐色土　ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
23層　暗黄褐色土　ローム粒子をやや多く、ローム小ブロックを含む。しまりや。
24層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
25層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまりやや強。
26層　黄褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまりや。
27層　暗茶褐色土　ローム粒子を僅かに、ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
28層　黄褐色土　ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
29層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。粘床。

0　1/60　2m



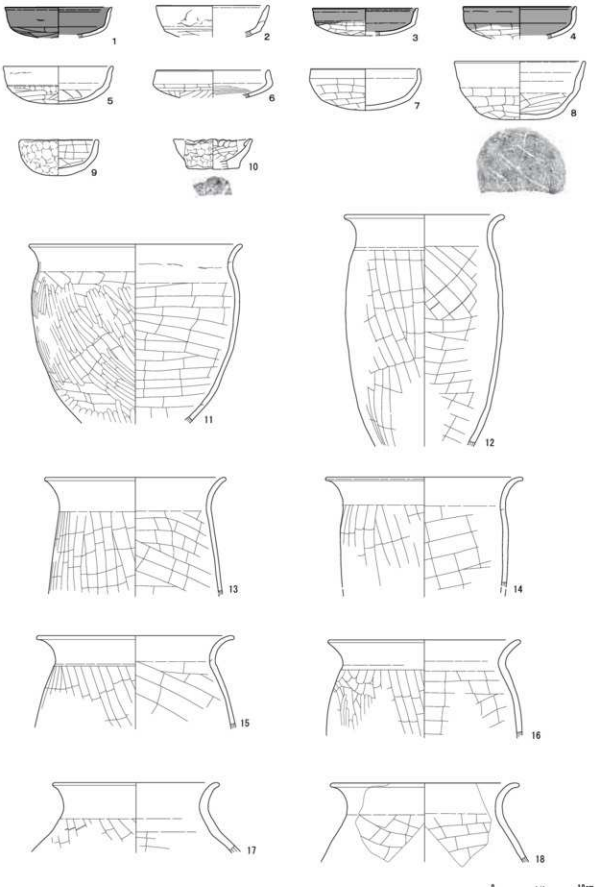
第11図　164号住居跡遺物出土状態（１／60）



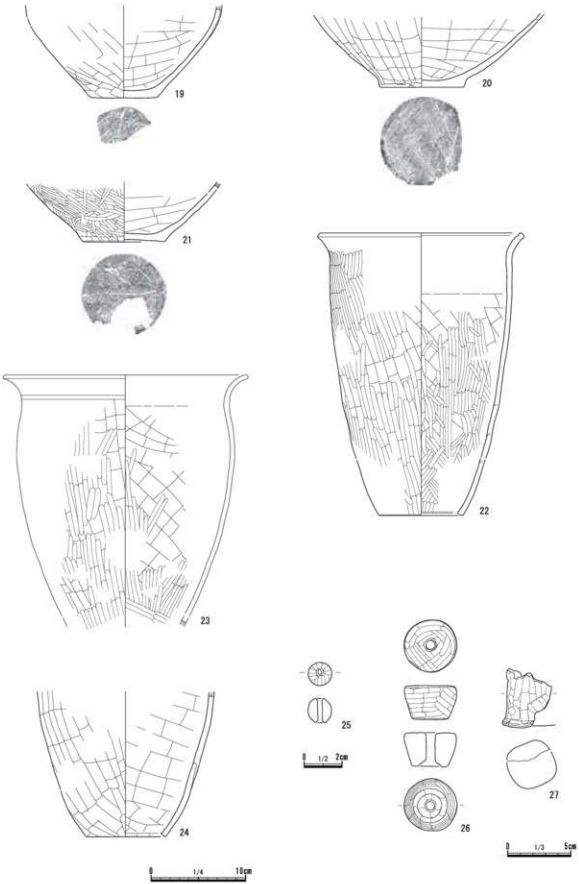
1層　撹乱。
2層　暗褐色土　固化物粒子・焼土粒子・粘土粒子を微かに含む。しまり強。
3層　茶褐色土　焼土粒子を微かに、粘土粒子を含む。しまり強。
4層　暗茶褐色土　焼土粒子・焼土小ブロックを微かに、粘土粒子を含む。しまり強。
5層　暗褐色土　焼土粒子・粘土粒子を微かに含む。しまりやや強。
6層　暗褐色土　焼土粒子・粘土粒子を含み、焼土小ブロックを微かに含む。しまり強。
7層　暗褐色土　焼土粒子を微かに、粘土粒子を含む。しまり非常に強。
8層　暗褐色土　焼土粒子をやや多く、焼土小ブロック・粘土粒子を微かに含む。しまりややに強。
9層　赤褐色土　焼土粒子をやや多く、粘土粒子を含み、粘土小ブロックを微かに含む。しまりやや強。
10層　赤褐色土　焼土粒子を多く、焼土小ブロック・粘土粒子を含み、粘土小ブロックを微かに含む。しまり強。
11層　暗茶褐色土　焼土粒子をやや多く、粘土粒子を含み、粘土小ブロックを微かに含む。しまりやや強。
12層　暗茶褐色土　焼土粒子をやや多く、粘土小ブロックを含む。しまり強。
13層　茶褐色土　焼土粒子・焼土小ブロックをやや多く、粘土粒子・粘土小ブロックを含む。しまり中。
14層　黄褐色土　ロームブロックを含む。しまり強。
15層　暗茶褐色土　焼土粒子を多く、粘土粒子を微かに含む。しまり強。
16層　赤褐色土　焼土粒子を微かに、焼土小ブロックを含む。しまりやや強。
17層　赤茶褐色土　焼土粒子を含み、粘土粒子を微かに含む。しまり強。
18層　赤褐色土　焼土粒子をやや多く、粘土粒子を微かに含む。しまり強。
19層　暗褐色土　焼土粒子・焼土小ブロックを微かに含む。しまり強。
20層　赤褐色土　焼土粒子・焼土小ブロックを多く含む。しまり強。
21層　黒褐色土　焼土粒子を含む。しまり中。
22層　茶褐色土　焼土粒子を微かに、粘土粒子を含む。しまり中。
23層　赤茶褐色土　焼土粒子をやや多く、焼土小ブロック・粘土粒子を微かに含む。しまりやや強。
24層　灰白色土　粘土小ブロック・炭を多く含む。しまり強。
25層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを微かに含む。しまり非常に強。
26層　黄褐色土　ロームブロック・ロームブロックを含む。しまり強。
27層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微かに含む。しまり強。32311層上。
28層　に近い黄褐色土　ローム小ブロックを含み、粘土粒子を微かに含む。しまりやや強。
29層　暗茶褐色土　焼土粒子を微かに、粘土小ブロックを含む。しまり強。
30層　灰白色土　焼土粒子を微かに、粘土粒子を多く含む。しまり非常に強。
31層　黒褐色土　ローム粒子を微かに含む。しまり強。
32層　黄褐色土　ローム小ブロック・粘土粒子・粘土小ブロックを含む。しまり強。
33層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまり強。カマド結構。
34層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを微かに含む。しまり強。カマド結構。
35層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまり強。カマド結構。
36層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。カマド結構。

0　1/30　1m

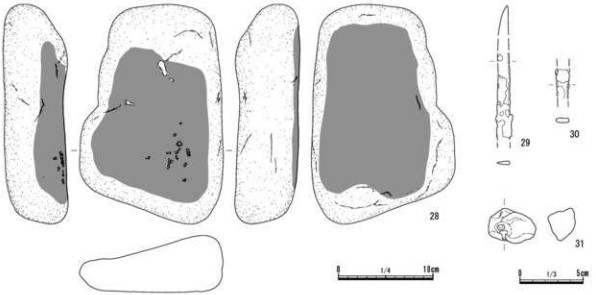
第12図　164号住居跡カマド（１／30）



第13図　164号住居跡出土遺物１（1／4）



第14図　164号住居跡出土遺物２（1／4・1／2・1／3）



第15図　164号住居跡出土遺物３（1／4・1／3）

挿図番号 図版番号	種別 器種	部　位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎　土	出土位置
第13図1 図版12-4-1	土師器 坏	30%	高 [3.4] 口 (11.4)	いわゆる比企型坏／口唇部内面に沈線がまわる／口縁部と底部との境に稜をもつ／内面及び外面口縁部は赤彩／入間系土師器	内面:口縁部は横ナデ、底部はヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ、以下はヘラ削り	暗赤褐色／砂粒を多く、茶褐色粒子を僅かに含む	覆土中
第13図2 図版12-4-2	土師器 坏	口縁部～底部の破片	高 [3.3] 口 (12.0)	口縁部は外傾する／口縁部と底部との境に段をもつ／口縁部内面直下にやや窪み／口縁部途中に輪積み痕あり／在地系土師器	内面:口縁部は横ナデ／外面：口縁部は横ナデ、以下はヘラ削り	暗黄褐色を基調／砂金雲母・砂粒を含む	覆土中
第13図3 図版12-4-3	土師器 坏	30%	高 [2.9] 口 (11.2)	いわゆる比企型坏／口縁部は外傾する／口唇部内面に沈線がまわる／口縁部と底部との境に弱い段をもつ／内面及び外面口縁部は赤彩／入間系土師器	内面:横ナデ／外面：口縁部は横ナデ、以下はヘラ削り／外面口縁部直下に指頭押捺による成形痕が残る	暗赤褐色／砂粒をやや多く、茶褐色粒子・小石を含む	覆土中
第13図4 図版12-4-4	土師器 坏	口縁部～体部下半30％	高 [3.5] 口 (12.0)	いわゆる比企型坏／口縁部はやや内湾気味／口縁部内面に沈線がまわる／口縁部と底部との境はＳみをもつ／丸底／内面及び外面口縁部は赤彩／入間系土師器	内面:口縁部は横ナデ、底部は横ナデ／外面：口縁部は横ナデ、以下はヘラ削り	暗赤褐色を基調／砂粒をやや多く、茶褐色粒子を含む	貯蔵穴凸帯直上及び覆土中（床上15cm程）
第13図5 図版12-4-5	土師器 坏	50%	高 4.0 口 (11.6)	有段坏／口縁部は外傾する／口縁部と底部との境に弱い段をもつ／外面口縁部直下に輪積み痕が残る／丸底／在地系土師器	内面：口縁部は横ナデ、底部はヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り	暗黄褐色を基調／砂粒をやや多く含む	カマド右袖のすぐ東側床面上
第13図6 図版12-4-6	土師器 坏	口縁部～底部付近30％	高 [2.9] 口 (11.8)	須恵器坏身模倣タイプ／口縁部は内傾する／底部に黒斑あり／在地系土師器	内面：口縁部は横ナデ、底部は粗いヘラ磨き調整／外面：口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り後粗ヘラ磨き調整	暗黄褐色を基調／砂粒をやや多く、角閃石を含む	貯蔵穴北側の北壁壁溝内及び覆土中（床上15cm程）
第13図7 図版12-4-7	土師器 坏	50%	高 4.4 口 (11.4)	有稜坏／口縁部は僅かに内傾気味／口縁部と底部との境に稜をもつ／丸底／在地系土師器	内面：口縁部は横ナデ、底部はヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ、以下はヘラ削り	明黄褐色を基調／砂粒を多く含む	住居北西コーナーの床面上

第７表　164号住居跡出土土器一覧（１）

挿図番号 図版番号	種別 器種	部　位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎　土	出土位置
第13図8 図版12-4-8	土師器 坏	60%	高6.2 口(13.9) 底8.4	深身タイプ／口縁部は途中に稜をもち外傾する／平底／底部に木葉痕あり／在地系土師器	内面：口縁部は横ナデ、以下はヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ、以下はヘラ削り／外面口縁部直下に指頭押捺による成形痕が残る	明黄褐色を基調／砂粒をやや多く、黄褐色粒子・金雲母を含む	貯蔵穴凸帯直上
第13図9 図版12-4-9	土師器 坏	80%	高3.8 口8.4	小型埦／器形全体が内湾する／丸底／粗雑品／在地系土師器	内面：ヘラナデ／外面：全面指頭による成形痕が残る	淡茶褐色を基調／砂粒をやや多く含む	カマド内
第13図10 図版12-4-10	土師器 坏	20%	高3.2 口(8.4) 底(5.6)	小型埦／口縁部内面に折り返し部あり／平底／底部に木葉痕あり／輪積み痕が顕著に残る／粗雑品／在地系土師器	内面：口縁部内面は指頭による折り返し部を形成、体部はヘラナデ／外面：全面指頭による成形痕が残る	暗黄褐色を基調／砂粒を含む	カマド内
第13図11 図版12-4-11	土師器 甕	口縁部～胴部下半40%	高[18.9] 口(22.4)	甕としたが鉢か／口縁部は大きく外反する／長胴にならず丸い胴部／在地系土師器	内面：口縁部は横ナデ、以下はヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ、以下はヘラ削り後粗いヘラ磨き調整	暗黄褐色を基調／砂粒をやや多く、金雲母・小石を含んだ傾向に含む	カマド左側の床面上
第13図12 図版12-4-12	土師器 甕	口縁部～胴部下半20%以下	高[24.6] 口(17.0)	長甕／口縁部は大きく外反する／口縁部と胴部との境は稜をもつ／最大径は口縁部と胴部上半のほぼ同位置／在地系土師器	内面：口縁部は横ナデ、以下はヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ、以下はヘラナデ（スリップか）	暗黄褐色を基調／砂粒を多く、雲母・角閃石を含む	住居北西コーナー付近の床面上～覆土中（床上13cm）から散在的
第13図13 図版12-4-13	土師器 甕	口縁部～胴部中位40%	高[12.6] 口19.2	長甕／口縁部は大きく外反する／口縁部と胴部との境は弱い稜をもつ／最大径は口縁部と胴部中位ほぼ同位置／在地系土師器	内面：口縁部は横ナデ、以下はヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ、以下はヘラナデ（スリップか）	暗黄褐色を基調／砂粒をやや多く、茶褐色粒子・角閃石を僅かに含む	カマド周辺のほぼ床面上から散在的
第13図14 図版13-14	土師器 甕	口縁部～胴部中位40%	高[12.5] 口(21.0)	長甕／口縁部は大きく外反する／口縁部と胴部との境はスムーズ／最大径は口縁部／在地系土師器	内面：口縁部は横ナデ、以下はヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ、以下はヘラナデ（スリップか）	暗黄褐色を基調／砂粒・金雲母をやや多く含む	P2北側の覆土中（床上9cm）
第13図15 図版13-15	土師器 甕	口縁部～胴部中位40%	高[10.0] 口(20.8)	長甕／口縁部は大きく外反する／口縁部と胴部との境はやや段をもつ／最大径は口縁部と胴部中位ほぼ同位置／在地系土師器	内面：口縁部は横ナデ、以下はヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ、以下はヘラナデ（スリップか）	暗黄褐色～暗橙色／砂粒をやや多く、角閃石を僅かに含む	カマド右袖のすぐ東側ほぼ床面上
第13図16 図版13-16	土師器 甕	口縁部～胴部中位20%	高[10.3] 口(20.4)	長甕／口縁部は大きく外反する／口縁部と胴部との境は稜をもつ／最大径は口縁部と胴部上半のほぼ同位置／在地系土師器	内面：口縁部は横ナデ、以下はヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ、以下はヘラ削り後粗いヘラ磨き調整	暗黄褐色を基調／砂粒を多く、雲母・角閃石を僅かに含む	覆土中
第13図17 図版13-17	土師器 甕	口縁部～胴部上半20%以下	高[7.3] 口(17.6)	丸甕／大型品／口縁部は大きく外反する／在地系土師器	内面：口縁部は横ナデ、以下はヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ、以下はヘラ削り	暗黄褐色を基調／金雲母を多く、砂粒やや多く含む	P3南側の床面上～覆土中（床上14cm）から散在的
第13図18 図版13-18	土師器 甕	口縁部～胴部上半20%	高[8.3] 口(20.0)	丸甕／口縁部は大きく外反する／口縁部と胴部との境はやや稜をもつ／在地系土師器	内面：口縁部は横ナデ、以下はヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ、以下はヘラ削り	暗黄褐色を基調／砂粒をやや多く、茶褐色粒子・金雲母・角閃石を僅かに含む	覆土中
第14図19 図版13-19	土師器 甕	胴部下半～底部20%以下	高[9.8] 底(7.2)	丸甕／平底／在地系土師器	内面：ヘラナデ／外面：ヘラ削り、外面は被熱により剥離が著しく遺存状態が悪い	明橙色／砂粒をやや多く、茶褐色粒子・金雲母を含む	カマド右袖のすぐ東側ほぼ床面上
第14図20 図版13-20	土師器 甕	胴部下半～底部80%	高[7.4] 底9.0	丸甕／平底／底部に木葉痕あり／在地系土師器	内面：ヘラナデ／外面：ヘラナデ（スリップか）	淡茶褐色を基調／砂粒をやや多く、金雲母・角閃石を僅かに含む	カマド右袖のすぐ東側の床面上
第14図21 図版13-21	土師器 甕	胴部下半～底部90%	高[6.3] 口(8.6)	丸甕／平底／底部に木葉痕あり／在地系土師器	内面：ヘラナデ／外面：ヘラ削り後ヘラ磨き調整	暗黄褐色を基調／砂粒をやや多く、金雲母・角閃石を僅かに含む	カマド右袖のすぐ東側ほぼ床面上

第７表　164号住居跡出土土器一覧（２）

挿図番号 図版番号	種別 器種	部　位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎　土	出土位置
第14図22 図版13-22	土師器 甕	40%	高 29.9 口 [21.8] 底 9.0	隆抜け式／大型品／口縁部は大きく外反する／最大径は口縁部／在地系土師器	内面：口縁部は横ナデ、以下はヘラナデ後粗いヘラ磨き調整／外面：口縁部は横ナデ、以下はヘラ削り後ヘラナデ	暗黄褐色を基調／金雲母を多く、砂粒やや多く、金雲母を僅かに含む	P3 周辺の床面上～覆土中（床上 58㎝）から散在的
第14図23 図版13-23	土師器 甕	口縁部～胴部下半 20％以下	高 [26.7] 口 (26.0)	大型品／口縁部は大きく外反する／最大径は口縁部／在地系土師器	内面：口縁部は横ナデ、以下はヘラナデ後粗いヘラ磨き調整／外面：口縁部は横ナデ、以下はヘラナデ後粗いヘラ磨き調整	明橙色を基調／砂粒をやや多く、金雲母を僅かに含む	貯蔵穴から P3 付近のほぼ床面上から散在的
第14図24 図版13-24	土師器 甕	胴部中位～底部 20％以下	高 [15.4] 底 (8.4)	隆抜け式／大型品／在地系土師器	内面：ヘラナデ／外面：ヘラ削り後ヘラナデ（スリップか）	暗黄褐色を基調／砂粒をやや多く、茶褐色粒子を僅かに含む	住居北西コーナー～P3 内及び周辺の床面上から散在的

第7表　164号住居跡出土土器一覧（３）

挿図番号 図版番号	出土遺構	種　別	種　類	長さ	幅	厚さ	重さ	特　徴	出土位置
第15図25 図版13-25	164H	土製品	土　玉	1.3	1.3	1.3	2.0	穿孔径0.2㎝／球状／色調は淡茶褐色／表面はていねいにヘラ磨き調整／完形品	カマド内
第15図26 図版13-26	164H	土製品	紡錘車	4.2	4.2	2.7	52.3	逆台形／上底径4.2㎝／下底径2.8㎝／穿孔径0.7㎝／色調は暗黄褐色／胎土には砂粒を含む／表面は全体にヘラ磨き調整／完形品	P3 南側の覆土中（床上9㎝）
第15図27 図版13-27	164H	土製品	支　脚	4.5	3.5	1.3	19.3	円柱形／断面は隅丸方形か／基部は僅かに広がっている／表面は指頭によるナデ及び押捺痕が残る／断面は円形／色調は暗黄褐色／胎土には砂粒を僅かに含む／基部小破片	カマド内
第15図28 図版13-28	164H	石　器	台　石	233.4	153.3	67.4	3,582.1	定形／砂岩製／素材は大型の亜角礫／両面に研磨面	P3 南側の覆土中（床上7㎝）
第15図29 図版13-29	164H	鉄製品	刀　子	7.1	1.0	0.3	8.0	断面は三角形／先端部と基部は欠損	西壁近くの覆土中（床上15㎝）
第15図30 図版13-30	164H	鉄製品	釘	2.6	1.1	0.4	2.4	断面は長方形／両端部を欠損	西壁近くのほぼ床面上

（単位：cm，g）

第８表　164号住居跡出土土製品・石器・鉄製品一覧

322号住居跡

遺　　構（第16図）

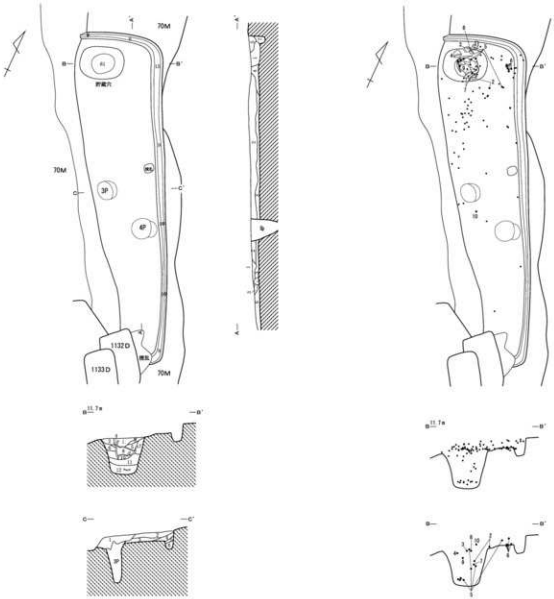
［位　　置］（B－２・３）グリッド。

［検出状況］70Ｍの斜面部分からの検出であり、西側半分以上は検出できなかった。1132・1133Ｄ、70Ｍ、３・４Ｐに切られる。

［構　　造］**平面形**：方形か。**規模**：南北軸5.25ｍ／東西軸不明／遺構確認面からの深さ20㎝程度。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。**主軸方位**：Ｎ－25°－Ｗ。**壁溝**：上幅10～15㎝／下幅５～12㎝／床面からの深さ６～15㎝。**床面**：顕著な硬化面はなかったが、壁際を除き幾分硬化していた。貼床は確認できなかった。**カマド**：検出できなかった。**貯蔵穴**：南東コーナーに位置する。70×52㎝の隅丸方形で、床面からの深さは61㎝。周辺及び内部からは、２～５・７～９の土器がまとまって出土している。**柱穴**：主柱穴は検出できなかった。**入口施設**：検出されなかった。

［覆　　土］セクションＡ－Ａ′～Ｈ－Ｈ′の堆積状況から自然堆積と考えられる。

［遺　　物］土師器坏・甕・甑形土器、須恵器坏蓋形土器が出土した。遺物の出土傾向として、住居北



A－A'

1層　現表。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまりや。
3層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
4層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
5層　暗褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまりや。
6層　暗褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまりやや強。
7層　暗褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまりや。

C－C'

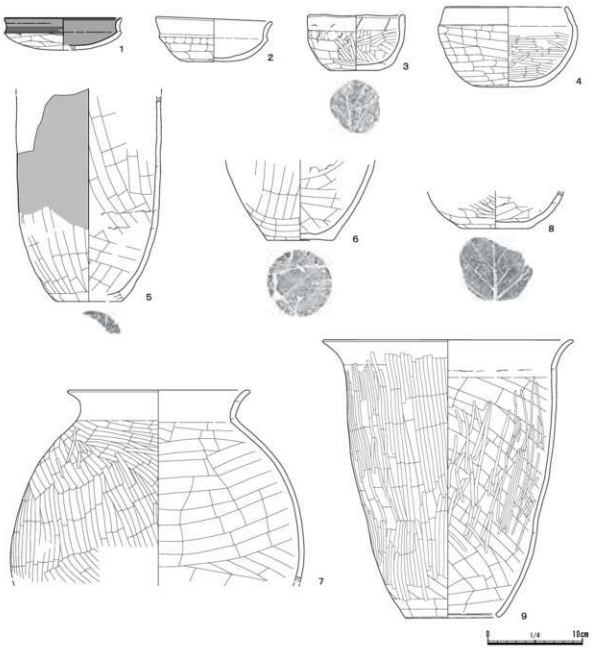
1層　現表。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまりや。
　　A－A' 2層。
3層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。**A－A'** 3層。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり強。
5層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。
6層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。

B－B'

1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりや。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりや。
3層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまりや。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまりや。
5層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまりや。
6層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまりや。
7層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりや。
8層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまりや。
9層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまりや。
10層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり弱。
11層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり弱。
12層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを僅かに含む。しまりや。

0　1/60　2m

第16図　322号住居跡・遺物出土状態（1／60）



第17図　322号住居跡出土遺物（1／4）

東コーナーの貯蔵穴内及びその周辺から多く出土している。

［時　　期］古墳時代後期（7世紀中葉）。

遺　　物（第17図、図版14－1、第9表）

1～4は土師器坏形土器、5～8は土師器甕形土器、9は土師器甑形土器である。

10・11は須恵器坏蓋形土器で、湖西製品である。時期は湖西第Ⅲ期第1小期（後藤他　1989）と考えられる。

挿図番号 図版番号	種別 器種	部　位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎　土	出土位置
第17図1 図版14-1-1	土師器 坏	30%	高 3.4 口 (12.4)	いわゆる比企型坏／口縁部は直立気味に外反する／口縁部内面に沈線がまわる／丸底／外面及び内面口縁部に赤彩／赤彩は焼成後に塗彩／底部に黒斑／人間系土師器	内面：口縁部は横ナデ、底部はヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り	暗赤褐色を基調／砂粒・小石を含む	覆土中
第17図2 図版14-1-2	土師器 坏	70%	高 4.8 口 (12.4)	有段坏／口縁部は外反する／口縁部と底部との境は有段／底部は平底気味／底部に木葉痕が僅かに残る／在地系土師器	内面：口縁部は横ナデ、以下はヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ、口縁部直下は指頭によるナデ成形底部はヘラ削り	暗黄褐色～暗赤褐色／砂粒を多く、茶褐色粒子を含む	貯蔵穴内及びすぐ東側のほぼ床面上
第17図3 図版14-1-3	土師器 坏	90%	高 5.9 口 10.5 底 5.2	深身タイプ／口縁部は直立する／口縁部と底部との境は有稜／平底／底部に木葉痕あり／底部を中心に広く黒斑／在地系土師器	内面：口縁部は横ナデ、以下はヘラナデ後粗いヘラ磨き調整／外面：口縁部は横ナデ、口縁部直下は指頭によるナデ成形、体部下半から底部はヘラ削り後粗いヘラ磨き調整	明茶褐色を基調／砂粒を中や多く、金雲母を含む	貯蔵穴北縁
第17図4 図版14-1-4	土師器 坏	ほぼ完形品	高 8.5 口 12.7 底 7.2	深身タイプ／口縁部は内傾する／口縁部と体部との境は段をもつ／平底／在地系土師器	内面：口縁部は横ナデ、以下はヘラナデ後横方向に粗いヘラ磨き調整／外面：口縁部は横ナデ、下半部はヘラ削り後ヘラナデ	明橙色／砂粒をやや多く、茶褐色粒子・角閃石を含む	貯蔵穴上層
第17図5 図版14-1-5	土師器 甕	胴部中位～底部30%	高 [22.5] 底 (7.0)	長甕／平底／底部に木葉痕あり／在地系土師器	内面:ヘラナデ／外面：胴部下半以下はヘラ削り／胴部中位以上は粘土付着により調整は不明瞭	暗黄褐色を基調／砂粒をやや多く、雲母・角閃石を僅かに含む	貯蔵穴内及びその周辺の床面上～覆土中（床上10cm前後）から散在的
第17図6 図版14-1-6	土師器 甕	胴部下半～底部50%	高 [8.5] 底 7.2	長甕／平底／底部に木葉痕あり／在地系土師器	内面：ヘラナデ／外面：ヘラ削り	暗黄褐色を基調／砂粒をやや多く含む	住居北東コーナーの床面上
第17図7 図版14-1-7	土師器 甕	口縁部～胴部下半60%	高 [20.7] 口 19.3	丸甕／大型品／口縁部は大きく外反する／最大径は胴部中位にもつ／在地系土師器	内面:口縁部は横ナデ、以下はヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ、以下は粗いヘラ磨き調整（ヘラナデか）	暗黄褐色を基調／砂粒を多く、金雲母を僅かに含む	貯蔵穴中層
第17図8 図版14-1-8	土師器 甕	胴部下半～底部40%	高 [4.0] 底 7.6	丸甕／小型品／平底／底部に木葉痕あり／在地系土師器	内面:ヘラナデ／外面：ヘラ削り後粗いヘラ磨き調整	暗黄褐色／砂粒をややや多く、金雲母・角閃石を含む	貯蔵穴上層
第17図9 図版14-1-9	土師器 甑	90%以上	高 29.5 口 26.6 底 9.8	筒抜け式／口縁部は大きく外反する／口縁部と胴部との境はスムーズ／在地系土師器	内面:口縁部は横ナデ、以下はヘラナデ後粗いヘラ磨き調整／外面：口縁部は横ナデ、以下はヘラナデ後粗いヘラ磨き調整	暗黄褐色を基調／砂粒をやや多く含む	貯蔵穴上層
図版14-1-10	須恵器 坏蓋	口縁部小破片	高 [2.5]	口縁部は内湾する／口唇部は丸い／湖西製品（Ⅲ期第1小期）	ロクロ成形	灰色／黒色粒子・白色砂粒を含む	P3南東の覆土中（床上5cm）
図版14-1-11	須恵器 坏蓋	口縁部小破片	高 [1.5]	口縁部内面の直上に沈線がまわる／口唇部は丸い／湖西製品（Ⅲ期第1小期か）	ロクロ成形	灰色／白色砂粒を含む	覆土中

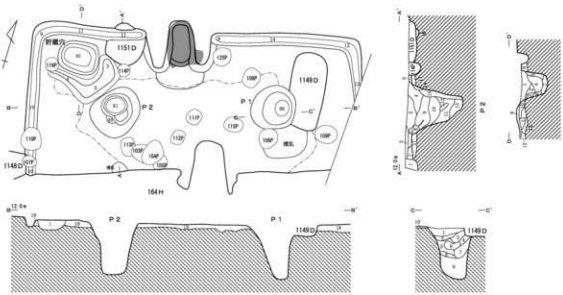
第９表　322号住居跡出土土器一覧

323号住居跡

遺　構（第18～20図）

［位　　置］（E・F－4・5）グリッド。

［検出状況］住居南半部は164Hに切られ、東壁の一部は調査区外である。後世の遺構によりかなりの部分を破壊されている状況であった。12Yを切り、164H、1148・1149・1151D、103～116・125Pに切られる。



A－A' B－B'

1層　撹乱。
2層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
3層　暗褐色土　ローム粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりや。
4層　暗褐色土　ローム粒子・焼土粒子・粘土小ブロックを僅かに、粘土粒子を含む。しまりや。
5層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
6層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ローム小ブロックをやや多く含む。しまりやや強。
7層　黄褐色土　ロームブロックを多く含む。しまり強。
8層　黄褐色土　ロームブロックを含む。しまりや。
9層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・粘土粒子・粘土小ブロックを僅かに含む。しまりや。
10層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまりや。
11層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・粘土粒子を含む。しまりや。
12層　灰白色土　粘土ブロック。しまり強。
13層　にぶい黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりや。
14層　暗褐色土　ローム粒子を含む。しまりや。
15層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。
16層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックやや多くを含む。しまりや。撹乱。
17層　黄褐色土　ローム小ブロックを含み、ロームブロックを多く含む。しまり非常に強。貼床。
18層　黄褐色土　ローム小ブロックを含み、ロームブロックを多く含む。しまり非常に強。貼床。
19層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを多く含む。しまり非常に強。貼床。

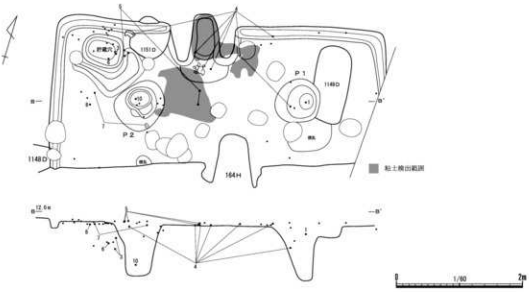
C－C' P 1

1層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりや。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまりや。
3層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・粘土粒子を僅かに含む。しまりや。
4層　暗茶褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりや。
5層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・粘土粒子を僅かに含む。しまりや。
6層　灰白色土　粘土ブロック。しまり強。
7層　にぶい黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまりや。
8層　黄褐色土　ロームブロックを含む。しまりやや強。
9層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
10層　黄褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり非常に強。貼床。

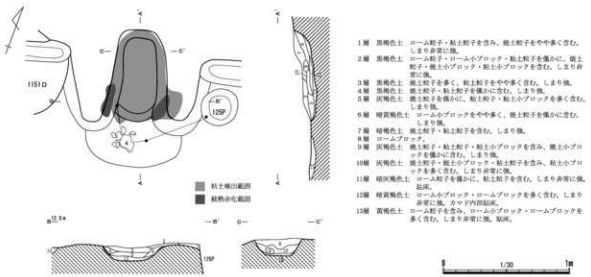
D－D'

1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまりや。
2層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりや。
3層　黄褐色土　ローム粒子をやや多く含む。しまりやや強。
4層　暗褐色土　ローム粒子を僅かに、ローム小ブロックを含む。しまりや。
5層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりや。
6層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。
7層　黄褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックをやや多く含む。しまりや。
8層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまり強。貼床。
9層　黄褐色土　ロームブロックを多く含む。しまり非常に強。貼床。
10層　明黄褐色土　ロームブロックを多く含む。しまり非常に強。貼床。
11層　にぶい黄褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり非常に強。貼床。
12層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを多く含む。しまり非常に強。貼床。
13層　黄褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。貼床。

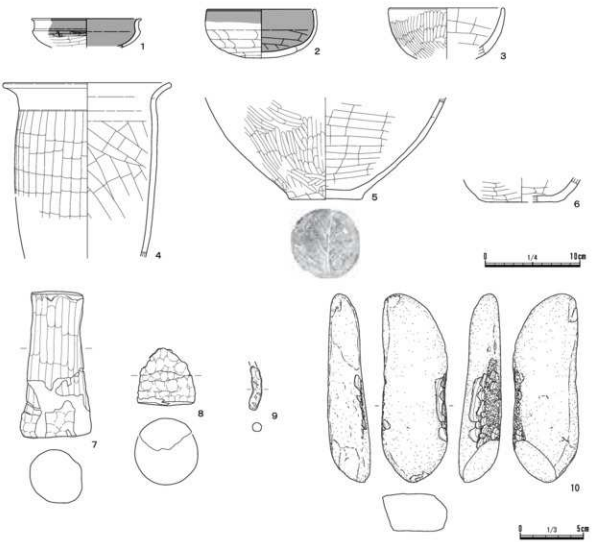
第18図　323号住居跡（1／60）



第19図　323号住居跡出土状態（1／60）



第20図　323号住居跡カマド（1／30）



第21図　323号住居跡出土遺物（1／4・1／3）

挿図番号 図版番号	種別 器種	部　位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎　土	出土位置
第21図1 図版14-2-1	土師器 坏	口縁部～ 体部下半 破片	高 [3.1] 口 (11.6)	いわゆる比企型坏／口縁部は短く外反する／口唇部内面に沈線なし／口縁部と底部との境に段をもつ／内面及び外面口縁部は赤彩／入間系土師器	内面：横ナデ／外面：口縁部は横ナデ、以下はヘラ磨き調整	色調は暗黄褐色を基調／砂粒・小石をやや多く、茶褐色粒子を僅かに含む	P1上層
第21図2 図版14-2-2	土師器 坏	70%	高 5.2 口 (11.4)	椀タイプ／器形全体は内湾する／内面及び外面口縁部は赤彩	内面：口縁部は横ナデ、以下はヘラ削り後ヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ、以下はヘラナデ	色調は暗黄褐色を基調／砂粒をやや多く、金雲母・角閃石・小石を含む	覆土中
第21図3 図版14-2-3	土師器 坏	口縁部～ 体部下半 20％	高 [5.4] 口 (12.2)	椀タイプ／器形は全体は内湾／やや器厚が厚め／在地系土師器	内面：ヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ、その後全体に縦方向のヘラ磨き調整	暗黄褐色を基調／砂粒をやや多く、角閃石を僅かに含む	貯蔵穴内
第21図4 図版14-2-4	土師器 甕	口縁部～ 胴部下半 60％	高 [17.6] 口 18.4	長甕／口縁部は大きく外反する／口唇部はやや平坦に面取り気味／口縁部と胴部との境は僅かに段をもつ／最大径は口縁部／在地系土師器	内面：口縁部は横ナデ、以下はヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ、以下はヘラナデ（スリップか）	暗黄褐色を基調／砂粒をやや多く、金雲母を僅かに含む	カマド内及びその周辺から散在的
第21図5 図版14-2-5	土師器 甕	胴部下半 ～底部 60％	高 [10.6] 底 7.4	丸甕／平底／底部に木葉痕あり／在地系土師器	内面：ヘラナデ／外面：ヘラ削り後粗いヘラ磨き調整	暗黄褐色を基調／砂粒をやや多く、茶褐色粒子・金雲母を含む	貯蔵穴及びカマド周辺から散在的
第21図6 図版14-2-6	土師器 甕	胴部下半 ～底部 30％	高 [2.6] 底 (7.6)	小型丸甕／平底／在地系土師器	内面：ヘラナデ／ヘラ削り	暗黄褐色を基調／砂粒をやや多く、金雲母を含む	貯蔵穴内

第10表　323号住居跡出土土器一覧

挿図番号 図版番号	出土遺構	種　別	種　類	長さ	幅	厚さ	重さ	特　徴	出土位置
第21図7 図版14-2-7	323H	土製品	支　脚	11.5	4.6	4.2	273.5	円柱形／断面は楕円形／基部はやや広がっている／胎土：色調は暗黄褐色、砂粒をややを多く、金雲母を含む／表面にはナデによる細長い調整と基部には指頭による成形痕が残る／遺存度：90％	P２付近
第21図8 図版14-2-8	323H	土製品	支　脚	4.5	5.4	2.4	44.9	円柱形／断面は円形か／基部はやや広がっている／胎土：色調は暗黄褐色、金雲母・砂粒を僅かに含む／表面には指頭による成形痕が残る／基部破片	貯蔵穴南側の床面上
第21図9 図版14-2-9	323H	土製品	粘土紐か	3.5	0.7	0.7	2.1	断面は楕円形／先端に行くほど扁平／胎土：色調は暗黄褐色、砂粒を僅かに含む／表面に指頭による成形痕と剥突痕が観察できる／覆土中からの出土／左先端は欠損／用途不明	覆土中
第21図10 図版14-2-10	323H	石　器	敲　石	153.4	53.6	32.0	390.4	完形／砂岩製／左右側縁に敲打痕および剥離面	P２の覆土中（底面上16cm）

（単位：cm、g）

第11表　323号住居跡出土土製品・石器一覧

［構　　造］**平面形**：方形か。規模：南北軸不明／東西軸5.26ｍ／遺構確認面からの深さ５～10㎝。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**主軸方位**：Ｎ－11°－Ｗ。**壁溝**：上幅15㎝前後／下幅７㎝前後／床面からの深さ９～14㎝。**床面**：カマド前面から住居中央付近に硬化面が確認できた。貼床は最深13㎝程の厚さで施されていた。**カマド**：北壁の中央やや西側寄りに位置する。主軸方位はＮ－17°－Ｗ。長さ108㎝／幅120㎝／壁への掘り込み15㎝。燃焼部は明確に確認できなかった。袖部はロームを馬蹄形状に掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたと思われる。**貯蔵穴**：カマド左横の住居北西コーナーに位置する。平面形は隅丸長方形。長軸64㎝／短軸50㎝／深さ45㎝。南縁には高さ３～５㎝・

幅16～40㎝の凸堤がやや「く」字状に確認できた。**柱穴**：主柱穴としては、北側のＰ１・Ｐ２が相当する。南側の２本については、精査の際にも注意したが確認できなかった。深さはＰ１が86㎝、Ｐ２が81である。**入口施設**：確認できなかった。

［覆　　土］セクションＡ－Ａ′の６・７層が住居覆土である。ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多めに含む暗黄褐色土を基調とする。

［遺　　物］土師器坏・甕形土器、土製品（支脚）、石器（敲石）が出土した。

［時　　期］古墳時代後期（７世紀前葉）。

遺　物（第21図、図版14－２、第10・11表）

［土　　器］（第21図１～６、図版14－２－１～６、第10表）

１～３は土師器坏形土器、４～６は土師器甕形土器である。

［土 製 品］（第21図７～９、図版14－２－７～９、第11表）

７・８は支脚である。

９は粘土紐か。表面に指頭による成形痕と刺突痕が観察できる。用途不明である。

［石　　器］（第21図10、図版14－２－10、第11表）

10は砂岩製の敲石である。

（３）土　坑

1159号土坑

遺　構（第22図）

［位　　置］（Ｄ－４）グリッド。

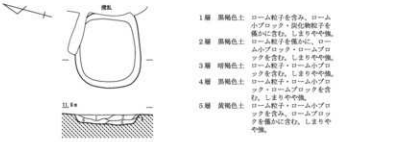
［検出状況］北壁・東壁の一部は攪乱される。

［構　　造］**平面形**：隅丸長方形。**規模**：長軸 不明／短軸1.02m／深さ16㎝。**壁**：約60°の角度で立ち上がる。**長軸方位**：Ｎ－70°－Ｅ。

［覆　　土］５層に分層された。

［遺　　物］須恵器坏形土器２点・埦形土器１点が出土したが、小破片のため図示できなかった。

［時　　期］平安時代（９世紀代）。



第22図　1159号土坑（１／60）

第６節　中世以降の遺構・遺物

（1）概　要

中世以降の遺構は、土坑35基（369・1132～1135・1137～1149・1151～1158・1160・1163・1164・1166～1171 D）・溝跡５本（70～74M）・ピット223本（１～121・123～171・173～225 P）が検出された。遺構の分布をみると、調査区全体に濃密に広がっており、古い時代の遺構は当該期の遺構に大きく影響を受けているものと言える。特に、調査区西端は、地形的には台地縁辺部に相当し、北西－南東方向に崖線が形成されているが、これらの崖線は、今回の調査により70Mにより人工的に掘削されていることが判明した。おそらく、70Mは「柏の城跡」関連遺構の「三ノ大堀跡」に相当するものと考えられる。

なお、各遺構の時代設定は、遺物が出土した場合に陶磁器・土器などの年代を中心に詳細年代を明示したが、それ以外は中世以降と表記した。

（2）土　坑

ここでは、平面形及び細部の形態的な特徴を本報告第２章第４節と同様に城山遺跡第42地点で報告された分類基準に当てはめて説明することにする（尾形・深井・青木　2005）。さらにＦ群については、中野遺跡第95地点（徳留・尾形・青木　2017）の分類を使用し、Ｇ群は、その他の分類不明群とした。検出された土坑の総数は35基で、基本構造については、第12表を参照。

Ａ群　方形の土坑　５基
　１類　袋状の構造を呈する　１基（1134 D）
　２類　袋状の構造ではなく、単純構造を呈する　４基（1139・1147・1151・1155 D）
Ｂ群　長方形の土坑　18基
　１類　溝状土坑　３基（1132・1133・1137 D）
　２類　幅狭の長方形土坑　４基（1140・1141・1148・1149 D）
　３類　幅広の長方形土坑　11基（369・1138・1142・1143・1146・1152・1153・1160・1164・1167・1169 D）
　４類　火床部を有する土坑　０基
Ｃ群　円形・楕円形の土坑　11基（1144・1145・1154・1156～1158・1163・1166・1168・1170・1171 D）
Ｄ群　不整形の土坑　０基
Ｅ群　地下室・地下坑　１基
　１類　１竪坑１主体部タイプ　１基（1135D）
　２類　特殊タイプ
Ｆ群　Ｔ字形の土坑　０基
Ｇ群　その他　０基

Ａ群　方形の土坑（第23図、第12表）

今回の調査では、１類は１基（1134Ｄ）、２類は４基（1139・1147・1151・1155Ｄ）が該当する。

１類　袋状の構造を呈する（第23図、第12表）

1134Ｄの１基が該当する。

1134号土坑

遺　構（第23図、第12表）

［位　置］（Ｄ－５）グリッド。

［検出状況］２Ｐに切られ、1136Dを切る。70Ｍと重複する。

［構　造］**平面形**：方形。**規模**：長軸1.52ｍ／短軸1.30m／深さ53㎝。**壁**：南壁はほぼ垂直に立ち上がるが、全体に開口部より坑底部が奥に入っており、袋状を呈している。**長軸方位**：Ｎ－29°－Ｗ。

［覆　土］８層に分層された。

［遺　物］出土しなかった。

［時　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

２類　袋状の構造ではなく、単純構造を呈する（第23図、第12表）

1139・1147・1151・1155Ｄの４基が該当する。

1139号土坑

遺　構（第23図、第12表）

［位　置］（Ｆ－６）グリッド。

［検出状況］1138D・17・34Pに切られ、164H・13Pを切り、12・44・45Pと重複する。

［構　造］**平面形**：方形か。**規模**：長軸 不明／短軸 不明／深さ６㎝。**壁**：約50°の角度で立ち上がる。**長軸方位**：Ｎ－３°－Ｗ。

［覆　土］単層。

［遺　物］陶器１点が出土した。

［時　期］近世（17世紀前半）。

遺　物（第27図１、図版15－１－１、第14表）

［陶　器］（第27図１、図版15－１－１、第14表）

１は陶器で、瀬戸・美濃系の天目茶碗である。時期は17世紀前半である。

1147号土坑

遺　構（第23図、第12表）

［位　置］（Ｅ－５）グリッド。

［検出状況］1141Dに切られ、73Ｍと重複する。

［構　造］**平面形**：方形。**規模**：長軸0.98ｍ／短軸0.82m／深さ51㎝。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位**：Ｎ－11°－Ｗ。

［覆　土］３層（２～４層）に分層された。

［遺　物］銅製品１点（不明品）が出土した。

［時　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

遺　　物（第27図１、図版15－１－１、第15表）

［銅 製 品］（第27図１、図版15－１－１、第15表）

１は銅製品で不明品である。途中「く」字状に屈曲している。スプーン状の杓子であろうか。

1151号土坑

遺　　構（第23図、第12表）

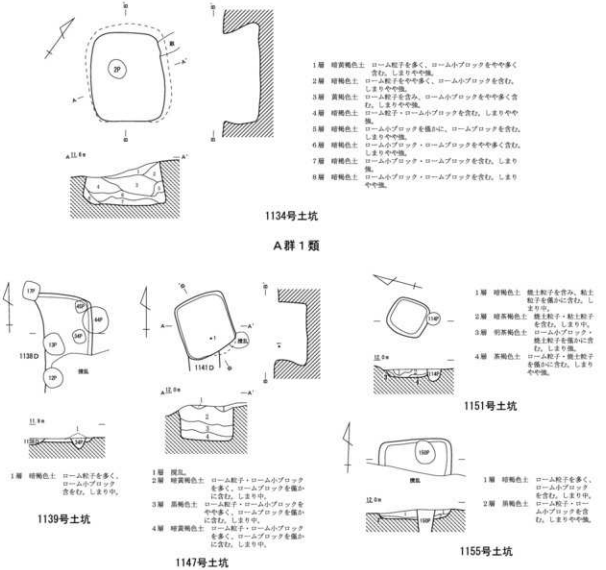
［位　　置］（F－４）グリッド。

［検出状況］114Pに切られ、323Hを切る。

［構　　造］**平面形：**方形。長軸0.62m／短軸0.58m／深さ２㎝。**壁：**約60°の角度で立ち上がる。**長軸方位：**N－18°－E。

［覆　　土］４層に分層された。

［遺　　物］出土しなかった。



第23図　土坑Ａ群（１／60）

［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

1155号土坑

遺　　構（第23図、第12表）

［位　　置］（Ｅ－３）グリッド。

［検出状況］南側は攪乱される。150Pと重複する。

［構　　造］**平面形**：方形か。**規模**：長軸1.15ｍ／短軸 不明ｍ／深さ18㎝。**壁**：60°～70°の角度で立ち上がる。**長軸方位**：Ｎ－８°－Ｗ。

［覆　　土］２層に分層された。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

Ｂ群　長方形の土坑（第24・25図、第12表）

18基が該当する。今回の調査では、４類は検出されなかった。

１類　溝状土坑（第24図、第12表）

1132・1133・1137Ｄの３基が該当する。

1132号土坑

遺　　構（第24図、第12表）

［位　　置］（Ｂ－３）グリッド。

［検出状況］322H・1133Ｄ・70Mを切る。

［構　　造］**平面形**：溝状の長方形。**規模**：長軸1.48m／短軸0.53m／深さ57㎝。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位**：Ｎ－29°－Ｗ。

［覆　　土］単層。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

1133号土坑

遺　　構（第24図、第12表）

［位　　置］（Ｂ・Ｃ－３・４）グリッド。

［検出状況］1133Ｄに切られ、70Mを切る。

［構　　造］**平面形**：溝状の長方形。**規模**：長軸2.46m／短軸0.56m／深さ28㎝。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位**：Ｎ－27°－Ｗ。

［覆　　土］単層。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

1137号土坑

遺　　構（第24図、第12表）

［位　　置］（Ｅ・Ｆ－５）グリッド。

［検出状況］164H・1140D・19P・28～31・57・63Pを切り、98Pと重複する。

［構　　造］**平面形：**溝状の長方形。**規模：**長軸4.48m／短軸0.78m／深さ31㎝。**壁：**70°～80°の角度をもち急斜に立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－７°－Ｅ。

［覆　　土］８層に分層された。

［遺　　物］陶器１点（徳利）、金属製品として、鉄製品１点（釘）・銅製品１点（煙管）が出土した。

［時　　期］近世（18世紀後半）。

遺　　物（第27図２・３、図版15－１－１～３、第14・15表）

［陶　　器］（図版15－１－１、第14表）

１は陶器で、瀬戸・美濃系の徳利である。時期は18世紀後半である。

［金属製品］（第27図２・３、図版15－１－２・３、第15表）

２は鉄製品で、釘である。

３は銅製品で、煙管の雁首である。

２類　幅狭の長方形土坑（第24図、第12表）

1140・1141・1148・1149Ｄの４基が該当する。

1140号土坑

遺　　構（第24図、第12表）

［位　　置］（Ｅ－５）グリッド。

［検出状況］1137Dに切られ、19Pを切り、57・63・97Pと重複する。

［構　　造］**平面形：**長方形。**規模：**長軸 不明／短軸0.66m／深さ22㎝。**壁：**約70°の角度で立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－Ｓ。

［覆　　土］単層。

［遺　　物］土器１点（皿）が出土した。

［時　　期］中世（16世紀代）。

遺　　物（図版15－１－１、第14表）

［土　　器］（図版15－１－１、第14表）

１は土器皿で、時期は16世紀代である。

1141号土坑

遺　　構（第24図、第12表）

［位　　置］（Ｅ－５）グリッド。

［検出状況］1147Dを切り、73Mと重複する。

［構　　造］**平面形：**長方形。**規模：**長軸1.24m／短軸0.46m／深さ８㎝。**壁：**ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－３°－Ｅ。

［覆　　土］単層。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

1148号土坑

遺　　構（第24図、第12表）

［位　　置］（E－５）グリッド。

［検出状況］164・323Hを切り、107Pと重複する。

［構　　造］**平面形**：長方形。**規模**：長軸 不明／短軸0.76m／深さ10㎝。**壁**：約70°の角度で立ち上がる。**長軸方位**：N－４°－W。

［覆　　土］４層に分層された。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

1149号土坑

遺　　構（第24図、第12表）

［位　　置］（F－４）グリッド。

［検出状況］323Hを切り、106・109Pと重複する。

［構　　造］**平面形**：長方形。**規模**：長軸1.22m／短軸0.55m／深さ13㎝。**壁**：約80°の角度をもち急斜に立ち上がる。**長軸方位**：N－２°－E。

［覆　　土］単層。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

３類　幅広の長方形土坑（第24・25図、第12表）

369・1138・1142・1143・1146・1152・1153・1160・1164・1167・1169Dの11基が該当する。

369号土坑

遺　　構（第24図、第12表）

［位　　置］（F－６）グリッド。

［検出状況］東側は調査区外であるが、隣接する第57地点で調査された369Dと同一遺構であると考えられるため、今回はその資料を統合し報告することにした。5・7Pに切られる。第57地点では368Dに切られる。

［構　　造］**平面形**：長方形か。**規模**：長軸 1.98m／短軸 0.78m／深さ30㎝。**壁**：約60°の角度で立ち上がる。**長軸方位**：N－88°－W。

［覆　　土］４層（２～５層）に分層された。

［遺　　物］出土しなかった。

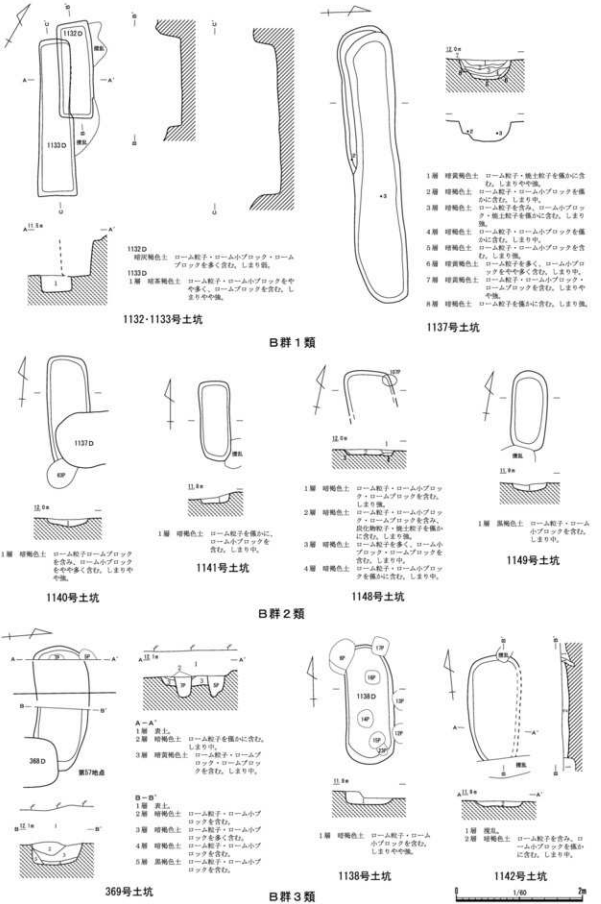
［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

1138号土坑

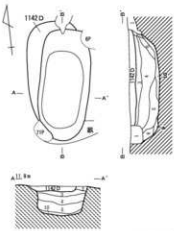
遺　　構（第24図、第12表）

［位　　置］（F－６）グリッド。

［検出状況］6・15～17・23Pに切られ、164H・1139D・13Pを切り、12・14Pと重複する。

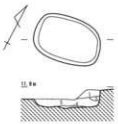


第24図　土坑Ｂ群１（1／60）



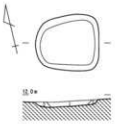
1層　砦。
2層　暗褐色土　ローム粒子を多く含む。ロームブロックを含む。しまりやや強。
3層　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含む。しまりやや強。
4層　暗褐色土　ローム粒子をやや多く、ロームブロックを含む。しまりやや。
5層　暗黄褐色土　ローム粒子・ロームブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや。
6層　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含む。しまり強。
7層　暗黄褐色土　ロームブロック・ロームブロックを含む。しまりやや。
8層　暗褐色土　ローム粒子をやや多く含む。しまりやや。
9層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ロームブロックを微かに含む。しまり弱。
10層　黒褐色土　ローム粒子・ロームブロックを微かに含む。しまり弱。

1143号土坑



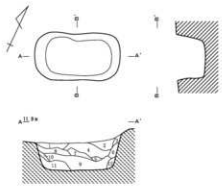
1層　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロックをやや多く含む。しまりやや。
2層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ロームブロックを微かに含む。しまりやや。
3層　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含む。しまりやや。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ロームブロックをやや多く含む。しまりやや。

1146号土坑



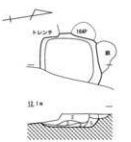
1層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ロームブロックを微かに含む。しまりやや強。
2層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ロームブロックを含む。しまりやや。
3層　黄褐色土　ローム粒子・ロームブロック・ロームブロックを含む。しまりやや。

1153号土坑



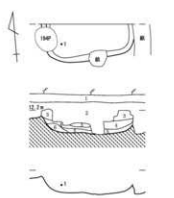
1層　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含む。しまりやや。
2層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ロームブロックをやや多く含む。しまりやや。
3層　にぶい黄褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含む。しまりやや。
4層　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまりやや。
5層　黒褐色土　ローム粒子を微かに含む。しまり弱。
6層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ロームブロックをやや多く含む。しまりやや。
7層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ロームブロックをやや多く含む。しまりやや。
8層　暗褐色土　ローム粒子をやや多く、ロームブロックを含む。しまりやや。
9層　黄褐色土　ローム粒子・ロームブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
10層　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含む。しまりやや。
11層　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロック・ロームブロックを含む。しまりやや。
12層　黄褐色土　ローム粒子・ロームブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや。

1152号土坑



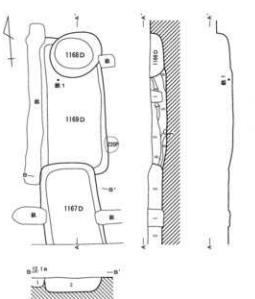
1層　砦。
2層　黒褐色土　ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子を微かに含む。しまりやや強。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ロームブロックを微かに、焼土粒子を含む。しまり強。
4層　黒褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含む。しまりや。
5層　黒褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含む。しまりやや強。

1160号土坑



1層　砦。
2層　表土及び腐植。
3層　暗褐色土　ローム粒子・炭化物粒子を微かに含む。しまりやや強。
4層　黒褐色土　ローム粒子・ロームブロック・炭化物粒子・炭化材・焼土粒子・炭を含む。しまりや。
5層　暗褐色土　ローム粒子・炭化物粒子を含む。ロームブロックを微かに含む。しまりや。
6層　暗褐色土　ローム粒子を含み、炭化物粒子を微かにを含む。しまり強。

1164号土坑



1167・1169号土坑

B群３類

1層　砦。
1167D
2層　黒褐色土　ローム粒子・ロームブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまりやや強。
1169D
3層　暗褐色土　ローム粒子をやや多く、ロームブロックを多く、ロームブロックを含む。しまりやや強。
4層　暗褐色土　ローム粒子を含む。しまり非常に強。
5層　黒褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含む。しまり強。
6層　黒褐色土　ローム粒子を含む。しまりやや強。
7層　ロームブロック。
8層　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含む。しまり強。
9層　暗褐色土　ローム粒子をやや多く、ロームブロックを含む。しまり強。

第25図　土坑Ｂ群２（１／60）

［構　　造］平面形：長方形。規模：長軸 1.88 m／短軸 0.66m／深さ 22 ㎝。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N－７°－W。

［覆　　土］単層。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

1142 号土坑

遺　　構（第 24 図、第 12 表）

［位　　置］（E・F－６）グリッド。

［検出状況］1143D・73P を切る。

［構　　造］平面形：長方形。規模：長軸 1.72 m／短軸 0.86m／深さ 13 ㎝。壁：約 50°の角度で立ち上がる。長軸方位：N－10°－W。

［覆　　土］単層（２層）。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

1143 号土坑

遺　　構（第 25 図、第 12 表）

［位　　置］（E・F－６）グリッド。

［検出状況］1142D・6P に切られ、71P と重複する。

［構　　造］平面形：長方形。規模：長軸 1.75m／短軸 0.79m／深さ 45 ㎝。壁：約 80°の角度で急斜に立ち上がる。長軸方位：N－15°－E。

［覆　　土］９層（２～10 層）に分層された。

［遺　　物］土器１点（皿）が出土した。

［時　　期］中世（16 世紀代）。

遺　　物（第 27 図１、図版 15－１－１、第 14 表）

［土　　器］（第 27 図１、図版 15－１－１、第 14 表）

１は土器皿で、時期は 16 世紀代である。

1146 号土坑

遺　　構（第 25 図、第 12 表）

［位　　置］（D・E－５）グリッド。

［検出状況］1150D を切り、73M と重複する。

［構　　造］平面形：長方形。規模：長軸 1.06 m／短軸 0.70m／深さ９㎝。壁：約 70°～85°の角度で急斜に立ち上がる。長軸方位：N－20°－W。

［覆　　土］４層に分層された。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

1152号土坑

遺　　構（第25図、第12表）

［位　　置］（D－５）グリッド。

［検出状況］73Mと重複する。

［構　　造］**平面形**：長方形。**規模**：長軸1.34ｍ／短軸0.72ｍ／深さ46㎝。**壁**：約70°～85°の角度で急斜に立ち上がる。**長軸方位**：N－16°－W。

［覆　　土］12層に分層された。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

1153号土坑

遺　　構（第25図、第12表）

［位　　置］（E－４）グリッド。

［検出状況］1161Ｄを切る。

［構　　造］**平面形**：長方形。**規模**：長軸1.00ｍ／短軸0.86ｍ／深さ11㎝。**壁**：約60°の角度で立ち上がる。**長軸方位**：N－22°－E。

［覆　　土］３層に分層された。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

1160号土坑

遺　　構（第25図、第12表）

［位　　置］（F －３・４）グリッド。

［検出状況］東側は攪乱される。164Pに切られる。

［構　　造］**平面形**：長方形。**規模**：長軸 不明／短軸 不明／深さ21㎝。**壁**：約60°の角度で立ち上がる。**長軸方位**：不明。

［覆　　土］４層（２～５層）に分層された。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

1164号土坑

遺　　構（第25図、第12表）

［位　　置］（E・F－５）グリッド。

［検出状況］北側は調査区外である。12Ｙ・1163Dを切り、194Pと重複する。

［構　　造］**平面形**：長方形。**規模**：長軸 1.44ｍ／短軸 不明／深さ12㎝。**壁**：約60°の角度で立ち上がる。**長軸方位**：N－18°－E。

［覆　　土］４層（３～６層）に分層された。

［遺　　物］鉄製品１点（釘）が出土した。

［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

遺　　物（第27図１、図版15－１－１、第15表）

［鉄 製 品］（第27図１、図版15－１－１、第15表）

１は鉄製品で、釘である。

1167号土坑

遺　　構（第25図、第12表）

［位　　置］（G－４）グリッド。

［検出状況］南側は調査区外である。1169～1171Dを切る。

［構　　造］**平面形**：長方形。**規模**：長軸 不明／短軸0.93m／深さ23㎝。**壁**：70°～80°の角度で急斜に立ち上がる。**長軸方位**：N－21°－E。

［覆　　土］単層（２層）。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

1169号土坑

遺　　構（第25図、第12表）

［位　　置］（G－３・４）グリッド。

［検出状況］1167・1168Dに切られ、217～220Pを切り、1170Ｄと重複する。

［構　　造］**平面形**：長方形。**規模**：長軸 不明／短軸1.00m／深さ25㎝。**壁**：約75°の角度で立ち上がる。**長軸方位**：N－23°－E。

［覆　　土］７層（３～９層）に分層された。

［遺　　物］鉄製品１点（釘）が出土した。

［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

遺　　物（第27図１、図版15－１－１、第15表）

［鉄 製 品］（第27図１、図版15－１－１、第15表）

１は鉄製品で、釘である。

Ｃ群　円形・楕円形の土坑（第26図、第12表）

1144・1145・1154・1156～1158・1163・1166・1168・1170・1171Ｄの11基が該当する。

1144号土坑

遺　　構（第26図、第12表）

［位　　置］（E－５）グリッド。

［検出状況］86・92Ｐに切られ、63Pと重複する。

［構　　造］**平面形**：楕円形。**規模**：長軸 不明／短軸1.28m／深さ15㎝。壁：約50°の角度で立ち上がる。**長軸方位**：N－20°－W。

［覆　　土］３層（２～４層）に分層された。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

1145号土坑

遺　　構（第26図、第12表）

［位　　置］（Ｅ－５）グリッド。

［検出状況］93～96Pに切られる。

［構　　造］**平面形：**楕円形。**規模：**長軸 不明／短軸0.96m／深さ17㎝。**壁：**約60°の角度で立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－10°－Ｅ。

［覆　　土］２層に分層された。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

1154号土坑

遺　　構（第26図、第12表）

［位　　置］（Ｂ－２）グリッド。

［検出状況］南側は撹乱される。130Pに切られる。

［構　　造］**平面形：**楕円形か。**規模：**長軸 不明／短軸 不明／深さ28㎝。**壁：**約60°の角度で立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－18°－Ｗ。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

1156号土坑

遺　　構（第26図、第12表）

［位　　置］（Ｂ・Ｃ－３）グリッド。

［検出状況］北側は撹乱される。154Pに切られる。

［構　　造］**平面形：**楕円形。**規模：**長軸 不明／短軸1.02m／深さ９㎝。**壁：**緩やかに立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－10°－Ｅ。

［覆　　土］３層に分層された。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

1157号土坑

遺　　構（第26図、第12表）

［位　　置］（Ｄ－３）グリッド。

［検出状況］北側は調査区外である。157 Ｐに切られ、1158Dを切る。

［構　　造］**平面形：**楕円形。**規模：**長軸 不明／短軸 不明／深さ11㎝。**壁：**60°～70°の角度で立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－29°－Ｗ。

［覆　　土］６層（５～10層）に分層された。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

1158号土坑

遺　　構（第26図、第12表）

［位　　置］（D・E－3）グリッド。

［検出状況］北側は調査区外である。1157Dに切られる。

［構　　造］**平面形：**楕円形。**規模：**長軸 不明／短軸 不明／深さ36㎝。**壁：**70°～80°の角度をもち急斜に立ち上がる。**長軸方位：**N－17°－W。

［覆　　土］８層（５～12層）に分層された。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

1163号土坑

遺　　構（第26図、第12表）

［位　　置］（F－3）グリッド。

［検出状況］南側は攪乱される。1164Dに切られ、12Yを切り、194Pと重複する。

［構　　造］**平面形：**楕円形。**規模：**長軸0.84ｍ／短軸 不明／深さ40㎝。**壁：**約60°の角度で立ち上がる。**長軸方位：**N－17°－E。

［覆　　土］４層（２～５層）に分層された。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

1166号土坑

遺　　構（第26図、第12表）

［位　　置］（G－3・4）グリッド。

［検出状況］北側は調査区外である。206～208Pに切られる。

［構　　造］**平面形：**楕円形か。**規模：**長軸 不明／短軸0.85m／深さ16㎝。**壁：**約70°の角度で立ち上がる。**長軸方位：**N－20°－E。

［覆　　土］４層（３～６層）に分層された。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

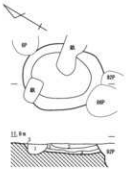
1168号土坑

遺　　構（第26図、第12表）

［位　　置］（G－3・4）グリッド。

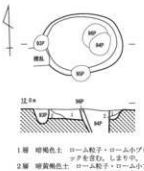
［検出状況］1169D・217～219Pを切る。

［構　　造］**平面形：**楕円形。**規模：**長軸0.84m／短軸0.68m／深さ17㎝。**壁：**約80°の角度で急斜



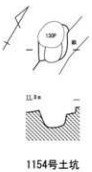
1層　礫。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを微かに含む。しまりや。
3層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を微かに含む。しまりや。
4層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。

1144号土坑

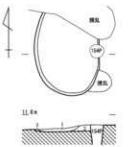


1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまりや。

1145号土坑

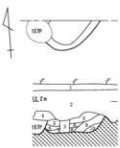


1154号土坑



1層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微かに含む。しまりやや強。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりやや強。
3層　暗褐色土　ローム粒子をやや多く、ローム小ブロックを含む。しまりやや強。

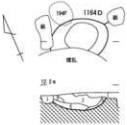
1156号土坑



1層　砂石層。
2層　表土。
3層　礫。
4層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを微かに含む。しまり強。基本土層の1に相当。

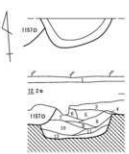
1157D
5層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微かに含む。しまりや。
6層　黒褐色土　ローム粒子をややを多く、ローム小ブロックを含み、焼土粒子を微かに含む。しまりや。
7層　黄褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックをやや多く含む。しまりやや強。
8層　暗褐色土　ローム粒子を含む。しまりや。
9層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微かに含む。しまりや。
10層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。

1157号土坑



1層　礫。
2層　黒褐色土　ローム粒子・炭化物粒子を含む。しまりやや強。
3層　暗褐色土　ローム粒子をやや多く含む。しまりやや強。
4層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、焼土粒子を微かに含む。しまり強。
5層　明褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを多く、焼土粒子を微かに含む。しまり強。

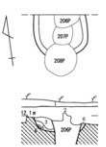
1163号土坑



1層　砂石層。
2層　表土。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを微かに含む。しまり強。基本土層の1に相当。
4層　黄褐色土　ローム小ブロックを含み、ームブロックを多く含む。しまり強。

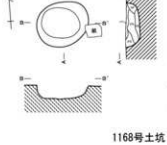
1158D
5層　暗褐色土　ローム粒子をやや多く、ローム小ブロック・焼土粒子を含む。しまりや。
6層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微かに含む。しまりやや強。
7層　黒褐色土　ローム粒子を含み、焼土粒子を微かに含む。しまりや。
8層　極暗褐色土　ローム粒子を含む。しまりや。
9層　黒褐色土　ローム粒子を含む。しまりやや強。
10層　極暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、焼土粒子を微かに含む。しまり強。
11層　黒褐色土　ローム粒子を多く含む。しまり強。
12層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを微かに含む。しまりや。

1158号土坑



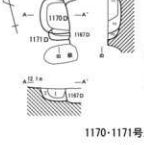
1層　砂石層。
2層　表土。
3層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微かに含む。しまりやや強。
4層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
5層　ローム小ブロック。
6層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。

1166号土坑



1層　暗褐色土　ローム粒子をやや多く、ローム小ブロックを含む。しまり強。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり強。
3層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微かに含む。しまりやや強。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりや。
5層　黒褐色土　ローム粒子を含む。しまり強。

1168号土坑



1層　礫。
1170D
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを微かに含む。しまりや。

1171D
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。

1170・1171号土坑

0　1/60　2m

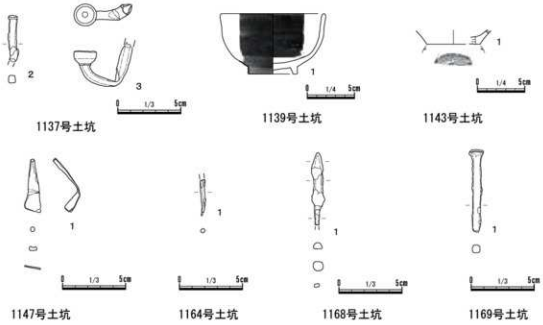
第26図　土坑Ｃ群（１／60）

遺構名	位置	分類	平面形	規模（m）			長軸方位	覆土及び特徴等	主な遺物	時　期
				長軸	短軸	深さ				
369D	(F-6)G	B群３類	長方形	1.98	0.78	0.30	不明	４層（２～５層）／第 57 地点で検出された 369 D と同一遺構／368 D・5・7 P に切られる／今回は統合して報告	遺物なし	中世以降
1132D	(B-3)G	B群１類	溝状	1.48	0.53	0.57	N-29°-W	単層／322H・1133D・70M を切る	遺物なし	中世以降
1133D	(B・C-3・4)G	B群１類	溝状	2.46	0.56	0.28	N-27°-W	単層／1132D に切られ、70M を切る	遺物なし	中世以降
1134D	(D-5)G	A群１類	方形	1.52	1.30	0.53	N-29°-W	８層／2P に切られ、1136D を切り、70M と重複／壁上端はハングし袋状を呈する	遺物なし	中世以降
1135D	(B-2)G	E群１類か	地下式坑ないし地下室か	不明	不明	不明	不明	ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む暗黄褐色土を基調／北側の大部分は調査区外／70M と重複／地下式坑ないし地下室の可能性があるが詳細不明	遺物なし	中世以降
1137D	(E・F-5)G	B群１類	溝状	4.48	0.78	0.31	N-7°-E	８層／164H・1140D・19P・28～31・57・63P を切り、98P と重複	陶器１点（徳利）・銅製品1点（煙管）・鉄製品1点（釘）	近　世（18c後半）
1138D	(F-6)G	B群３類	長方形	1.88	0.66	0.22	N-7°-W	単層／6・15～17・23P に切られ、164H・1139D・13P を切り、12・14P と重複	遺物なし	中世以降
1139D	(F-6)G	A群２類	方形か	不明	不明	0.06	N-3°-W	単層／1138D・17・34P に切られ、164H・13P を切り、12・44・45P と重複	陶器1点（天目茶碗）	近　世（17c前半）
1140D	(E-5)G	B群２類	長方形	不明	0.66	0.22	N-S	単層／1137D に切られ、19P を切り、57・63・97P と重複	土器１点（皿）	中　世（16c代）
1141D	(E-5)G	B群２類	長方形	1.24	0.46	0.08	N-3°-E	単層／1147D を切り、73M と重複	遺物なし	中世以降
1142D	(E・F-6)G	B群３類	長方形	1.72	0.86	0.13	N-10°-E	単層（２層）／1143D・73P を切る	遺物なし	中世以降
1143D	(E・F-6)G	B群３類	長方形	1.75	0.79	0.45	N-15°-E	９層（２～10 層）／1142D・6P に切られ、71P と重複	土器１点（皿）	中　世（16c代）
1144D	(E-5)G	C群	楕円形	不明	1.28	0.15	N-20°-W	３層（２～４層）／86・92D に切られ、63P と重複	遺物なし	中世以降
1145D	(E-5)G	C群	楕円形	不明	0.96	0.17	N-10°-E	２層／93～96P に切られる	遺物なし	中世以降
1146D	(D・E-5)G	B群３類	長方形	1.06	0.70	0.09	N-20°-W	４層／1150D を切り、73M と重複	遺物なし	中世以降
1147D	(E-5)G	A群２類	方形	0.98	0.82	0.51	N-11°-W	３層（２～４層）／1141D に切られ、73M と重複	銅製品1点（不明品）	中世以降
1148D	(E-5)G	B群２類	長方形	不明	0.76	0.10	N-4°-W	４層／164・323H を切り、107P と重複	遺物なし	中世以降
1149D	(F-4)G	B群２類	長方形	1.22	0.55	0.13	N-2°-E	単層／323H を切り、106・109P と重複	遺物なし	中世以降
1151D	(F-4)G	A群２類	方形	0.62	0.58	0.02	N-18°-E	４層／114P に切られ、323H を切る	遺物なし	中世以降
1152D	(D-5)G	B群３類	長方形	1.34	0.72	0.46	N-16°-W	12層／73M と重複	遺物なし	中世以降
1153D	(E-4)G	B群３類	長方形	1.00	0.86	0.11	N-22°-E	３層／1161D を切る	遺物なし	中世以降
1154D	(B-2)G	C群	楕円形か	不明	不明	0.28	N-18°-W	土層チェックもれ／南側は攪乱／130P に切られる	遺物なし	中世以降
1155D	(E-3)G	A群２類	方形か	1.15	不明	0.18	N-8°-W	２層／南側は攪乱／150P に切られる	遺物なし	中世以降

第12表　中世以降の土坑一覧（１）

遺構名	位置	分類	平面形	規模（m）			長軸方位	層土及び特徴等	主な遺物	時　期
				長軸	短軸	深さ				
1156D	(B・C-3)G	C群	楕円形	不明	1.02	0.09	N-10°-E	3層／北側は撹乱／154Pに切られる	遺物なし	中世以降
1157D	(D-3)G	C群	楕円形	不明	不明	0.11	N-29°-W	6層（5～10層）／北側は調査区外／157Pに切られ、115Bを切る	遺物なし	中世以降
1158D	(D・E-3)G	C群	楕円形	不明	不明	0.36	N-17°-W	8層（5～12層）／北側は調査区外／1157Dに切られる	遺物なし	中世以降
1160D	(F-3・4)G	B群3類	長方形	不明	不明	0.21	不明	4層／東側は撹乱／164Pに切られる	遺物なし	中世以降
1163D	(F-3)G	C群	楕円形	0.84	不明	0.40	N-17°-E	4層（2～5層）／南側は撹乱／1164Dに切られ、12Yを切り、194Pと重複	遺物なし	中世以降
1164D	(F-3)G	B群3類	長方形	1.44	不明	0.12	N-18°-E	4層（3～6層）／北側は調査区外／12Y・1163Dを切り、194Pと重複	鉄製品1点（釘）	中世以降
1166D	(G-3・4)G	C群	楕円形か	不明	0.85	0.16	N-20°-E	4層（3～6層）／北側は調査区外／206～208Pに切られる	遺物なし	中世以降
1167D	(G-4)G	B群3類	長方形	不明	0.93	0.23	N-21°-E	単層（2層）／南側は調査区外／1169～1171Dを切る	遺物なし	中世以降
1168D	(G-3・4)G	C群	楕円形	0.84	0.68	0.17	N-22°-E	5層／1169D・217～219Pを切る	鉄製品1点（鋲か）	中世以降
1169D	(G-3・4)G	B群3類	長方形	不明	1.00	0.25	N-23°-E	7層（3～9層）／1167・1168Dに切られ、217～220Pを切り、1170Dと重複	鉄製品1点（釘）	中世以降
1170D	(G-4)G	C群	楕円形	0.54	0.44	0.22	N-24°-E	単層（2層）／1167Dに切られ、1171Dを切り、1169Dと重複	遺物なし	中世以降
1171D	(G-4)G	C群	楕円形	不明	不明	0.20	N-25°-E	単層（3層）／1167・1170Dに切られる	遺物なし	中世以降

第12表　中世以降の土坑一覧（２）



第27図　土坑出土遺物（1／4・1／3）

に立ち上がる。**長軸方位**：N－22°－E。

［覆　　土］５層に分層された。

［遺　　物］鉄製品１点（鉈か）が出土した。

［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

遺　　物（第27図１、図版15－１－１、第15表）

［鉄 製 品］（第27図１、図版15－１－１、第15表）

１は鉄製品で、鉈であろうか。頭部先端は三角形状に尖っており、茎部先端は欠損している。

1170号土坑

遺　　構（第26図、第12表）

［位　　置］（G－４）グリッド。

［検出状況］1167Dに切られ、1171Dを切り、1169Dと重複する。

［構　　造］**平面形**：楕円形。規模：長軸0.54ｍ／短軸0.44m／深さ22㎝。**壁**：80°の角度をもち急斜に立ち上がる。**長軸方位**：N－24°－E。

［覆　　土］単層（２層）。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

1171号土坑

遺　　構（第26図、第12表）

［位　　置］（G－４）グリッド。

［検出状況］1167・1170Dに切られる。

［構　　造］**平面形**：楕円形。**規模**：長軸 不明／短軸 不明／深さ20㎝。**壁**：約75°の角度で立ち上がる。**長軸方位**：N－25°－E。

［覆　　土］単層（３層）。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

D群　不整形の土坑

今回の調査では、該当するものはなかった。

E群　地下室・地下坑（第４図、第12表）

1135 Dの１基については、調査区内では全体を把握できなかったが、可能性として該当させた。

1135号土坑

遺　　構（第４図、第12表）

［位　　置］（B－２）グリッド。

［検出状況］北側の大部分は調査区外となり全体を精査できなかったが、東側及び北側はさらに深くなるものと考えられる。70Mと重複する。

［構　　造］**平面形**：円形か。**規模**：長軸 不明／短軸 不明／深さ不明。**長軸方位**：不明。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

［所　　見］全体を把握できなかったが、地下式坑ないし地下室の可能性がある。

Ｆ群　Ｔ字形の土坑

今回の調査では、該当するものはなかった。

Ｇ群　その他

今回の調査では、該当するものはなかった。

（３）溝　跡

70号溝跡

遺　　構（第28図）

［位　　置］（Ａ～Ｄ－２～６）グリッド。

［検出状況］北西側、南東側は調査区外に延びる。基本的に西側は台地斜面と思われたが、今回の調査により、人工的に掘削されている状況が確認できた。1132・1133Ｄに切られ、1136Ｄを切る。1134・1135Ｄ、71・72Ｍ、１～４Ｐとの新旧関係は不明である。

［構　　造］**規模**：検出長24.5ｍ／検出最大幅3.10ｍ／下端不明／遺構確認面からの深さ45～75㎝と表記した深さは傾斜途中のテラス状の平場であり、下端ではないと考えられる。本遺構の下端は、さらに西側の斜面下と推測される。**断面形**：西側が斜面状であり、調査区外に延びていると思われるため、不明である。**壁**：東壁上端近くは約10°の傾斜角度をもち、西側に緩やかに下がっているが、前述したように遺構確認面からの深さ45～75㎝と表記した深さで一度テラス状に平場を形成しているようである。**走向方位**：おおよそ北西－南東方向に走向しており、（Ｂ～Ｄ－３～６）グリッドではＮ－38°－Ｗ、北西端の（Ａ・Ｂ－１）グリッドではＮ－18°－Ｗとやや方位が北向きに若干屈曲している。

［覆　　土］ローム粒子を含む暗褐色土を基調とする。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から中世以降と思われる。

［所　　見］「柏の城跡」関連遺構の「三ノ大堀跡」に相当するものと考えられる。

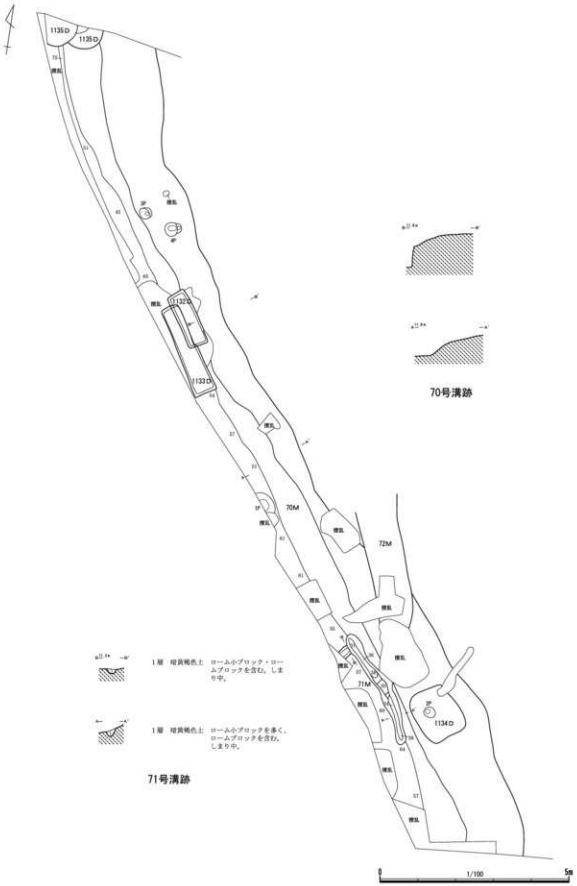
71号溝跡

遺　　構（第28図）

［位　　置］（Ｃ・Ｄ－５）グリッド。

［検出状況］70Ｍの北端斜面部から検出されているが、70Ｍとの新旧関係は不明である。

［構　　造］**規模**：検出長3.20ｍ／検出最大幅0.41ｍ／下端0.10～0.21ｍ／遺構確認面（東側上端）からの深さ31～39㎝。**断面形**：「Ｕ」字状を呈する。**壁**：65～70°で立ち上がる。**走向方位**：北西－南東方向に走向し、中央付近で「く」の字に屈曲する。北側では北西－南東方向に対し北東－南西方向に直行気味に屈曲し走向する。北西－南東方向では、北半がＮ－42°－Ｗ、南半がＮ－22°－Ｗ。北東



第28図　70・71号溝跡（1／100）

ー南西方向ではＮ－35°－Ｅ。

［覆　　土］単層。

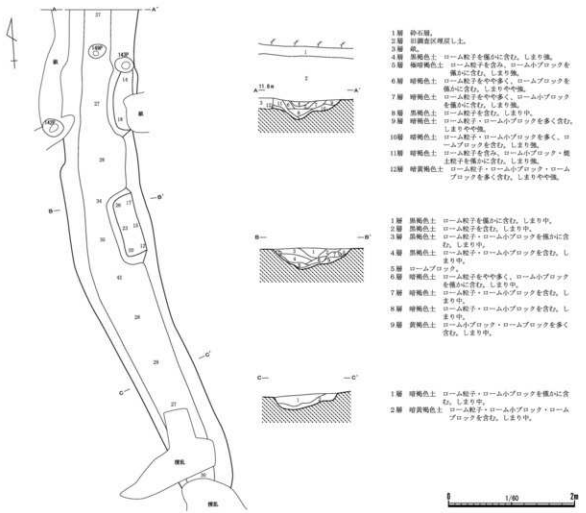
［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から中世以降と思われる。

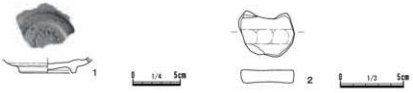
［所　　見］「柏の城跡」関連の大堀と考えられる70Ｍの斜面部に位置し、走行方位もほぼ一致することから、付随施設の一部と考えられる。

72号溝跡

遺　　構（第29図）



第29図　72号溝跡（１／60）



第30図　72号溝跡出土遺物（1／4・1／3）

［位　　置］（C・D－３～５）グリッド。

［検出状況］北側は調査区外に延び、南側は（C・D－５）グリッド付近で70Mと交差し、さらに南側はプランが消失している状況である。70Mと73Mの間に走向し、73Mを切り、70Mとは新旧関係が不明である。143・149Pと重複。

［構　　造］**規模**：検出長7.96m／検出最大幅1.30m／下端0.42～0.86m／遺構確認面からの深さ27～42cmで、南北での高低差は認められない。**断面形**：溝底面は平坦ではなく、基本は浅い皿状を呈する。**壁**：セクションB・Cでは、東西壁とも30～40°の角度で緩やかに立ち上がっているが、セクションAでは約70°と急斜である。**走向方位**：全体には直線的ではなく、緩やかにカーブしている。おおよそ南北方向に走向しているが、（C・D－５・６）グリッドの南半部ではN－21°－W、北端の（C・D－３・４）グリッドでは真北方向を向いている。

［覆　　土］セクションA－A'～C－C'の堆積状況から、自然堆積土と考えられる。北側のセクションA－A'では、他の土層よりも比較的しまりが強い。

［遺　　物］陶器１点、土製品１点（砥具）、板碑１点が出土した。

［時　　期］近世（17世紀前半）。

遺　　物（第30図１・２、図版15－２、第14・15表）

［陶　　器］（第30図１、図版15－２－１、第14表）

１は瀬戸・美濃系の陶器皿で、時期は17世紀前半である。

［土 製 品］（第30図２、図版15－２－２、第15表）

２は焙烙転用の砥具である。

［板　　碑］（図版15－２－３、第15表）

３は板碑の小破片である。

73号溝跡

遺　　構（第31図）

［位　　置］（C～E－３～６）グリッド。

［検出状況］北側、南側は調査区外に延びる。72Mに切られ、1141・1146・1147・1152D、70M、60・64・135・137・143～145・160・161Pと重複する。

［構　　造］**規模**：検出長14.25m／検出最大幅3.20m／下端0.90～1.70m／遺構確認面からの深さ21～25cm。南半部では平坦であるが、北半部では土坑状の窪みをもち、最深で28cm。**断面形**：皿状を基本とする。**壁**：緩やかに立ち上がる。**走向方位**：N－20°－W。**その他**：北端部には長さ約４mの範囲で硬化面を確認できた。

［覆　　土］ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックが目立つ暗褐色土が主体的である。

［遺　　物］陶器１点（常滑甕）、板碑１点が出土した。

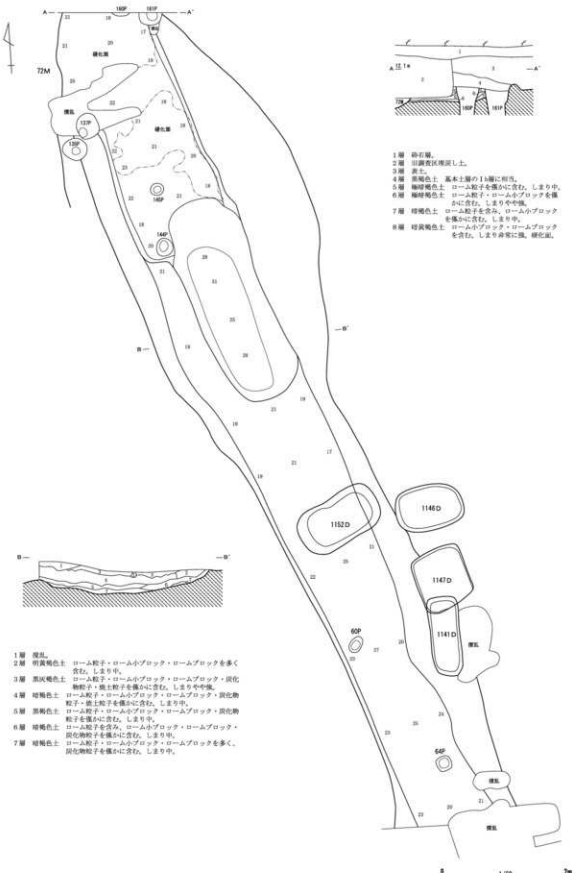
［時　　期］中世（15世紀代か）。

遺　　物（図版15－３、第14・15表）

［陶　　器］（図版15－３－１、第14表）

１は陶器で常滑甕である。時期は15世紀代である。

［板　　碑］（図版15－３－２、第15表）



第31図　73号溝跡（1／60）

２は板碑の小破片である。

74号溝跡

遺　構（第32図）

［位　置］（Ｃ～２）グリッド。

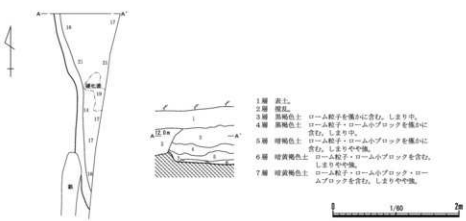
［検出状況］北側、南側は調査区外に延び、不明な点が多いが、遺構としては、（Ｃ・Ｄ－３）グリッドで検出されている72・73Ｍのどちらかと考えられる。可能性としては、溝底面がやや平坦で硬化面をもつことで共通する点で73Ｍと同一遺構と考えられるが、ここでは別遺構として扱った。138・153Ｐを切る。

［構　造］**規模**：検出長3.15ｍ／検出最大幅1.00ｍ／下端0.90ｍ／遺構確認面からの深さ16～21㎝。**断面形**：セクションＡ－Ａ`の立ち上がりがしっかりしている箇所では浅い台形を基本とする。**壁**：約70°の角度で立ち上がる。**走向方位**：Ｎ－５°－Ｗ。**その他**：部分的に硬化面を確認できた。

［覆　土］上層ではローム粒子・ローム小ブロックが少ない黒褐色土を基本とし、中層～下層ではローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックが目立つ暗褐色～黄褐色土が主体的である。

［遺　物］出土しなかった。

［時　期］覆土の観察から中世以降と思われる。



第32図　74号溝跡（１／60）

（４）ピット（第33～37図、図版15－４、第13～15表）

調査区域内から検出されたピットは、全部で225本（１～225Ｐ）、そのうち中世以降のピットは223本（１～121・123～171・173～225Ｐ）である。

ここでは、10・33・68・78・80・100・103・110・124・143・166・169・221Ｐの13本から出土した遺物の記述に留めた。ピット基本内容は第13表に示した。

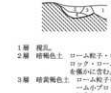
10Ｐからは、板碑の破片が１点出土した（図版15－４－１、第15表）。

33Ｐからは、石製品１点（砥石）が出土した（第37図１、図版15－４－１、第15表）。

68Ｐからは、陶器１点（碗）が出土した（図版15－４－１、第14表）。

78Ｐからは、鉄製品１点（釘）が出土した（第37図１、図版15－４－１、第15表）。

80Ｐからは、土器１点（皿）が出土した（図版15－４－１、第14表）。



1層　攪乱。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを微かに含む。しまりや。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微かに含む。しまりや。
4層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを微かに含む。しまりや。

1号ピット

1層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりなし。

2号ピット

1層　攪乱。
2層　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり弱。
3層　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、ロームブロックを微かに含む。しまり弱。

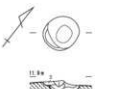
3号ピット

1層　茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを微かに含む。しまり弱。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり弱。
3層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを微かに含む。しまり弱。

4号ピット

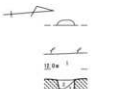
1層　表土。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを微かに含む。しまり弱。
3層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを微かに含む。しまりやや強。
4層　暗褐色土　ローム小ブロックを微かに含む。しまりや。
5層　暗褐色土　ローム粒子を微かに含む。しまり非常に強。柱痕。

5号ピット



1層　攪乱。
2層　暗褐色土　ローム粒子を含み、焼土粒子を多く含む。しまりや。
3層　暗褐色土　炭化物粒子・焼土小ブロックを含み、焼土粒子を多く含む。しまりや。
4層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子を微かに含む。しまりや。

6号ピット

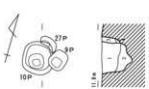


1層　表土。
2層　暗褐色土　ローム粒子を微かに含む。しまりや。
3層　暗褐色土　ローム粒子をやや多く、ローム小ブロックを微かに含む。しまりや。
4層　暗褐色土　ローム粒子を微かに含む。しまりやや強。
5層　暗褐色土　ローム粒子を微かに、ローム小ブロックを含む。しまりやや強。

7号ピット

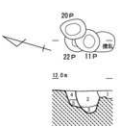
1層　暗褐色土　ローム粒子を微かに含む。しまり弱。
2層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微かに含む。しまり弱。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり弱。
4層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを微かに含む。しまりや。
5層　茶褐色土　ローム粒子を微かに含む。しまりやや強。
6層　暗黄褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりやや強。

8号ピット



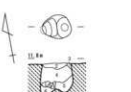
10P
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを微かに含む。しまりや。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。
27P
3層　茶褐色土　ローム粒子を微かに含む。しまりや。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。

10・27号ピット



1層　攪乱。
11P
2層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックをやや多く含む。しまり強。
3層　柱痕。
22P
4層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微かに含む。しまりや。
5層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまりやや強。

11・22号ピット



1層　攪乱。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。
3層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微かに含む。しまりやや強。
4層　暗褐色土　ローム粒子を微かに、ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
5層　黄褐色土　ローム小ブロックを多く含む。しまりやや強。
6層　黄褐色土　ローム小ブロックを含む。しまり強。

18号ピット

1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子を微かに含む。しまり非常に強。
2層　茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを微かに含む。しまり弱。
3層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ローム小ブロックをやや多く含む。しまり強。
4層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり強。
5層　暗褐色土　ローム粒子を微かに、ローム小ブロックを含む。しまり強。

19号ピット

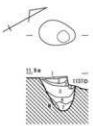
20P
1層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微かに含む。しまり弱。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを微かに含む。しまり弱。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり弱。
21P
4層　暗褐色土　ローム粒子を微かに含む。しまり弱。
5層　茶褐色土　ローム粒子を微かに含む。しまりやや強。
6層　暗褐色土　ローム小ブロックを多く含む。しまり非常に強。

20・21号ピット

1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。

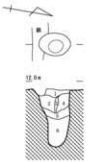
34号ピット

第33図　ピット１（１／60）



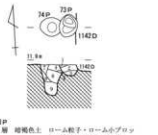
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり非常に強。
2層　暗黄褐色土　ロームブロックをやや多く含む。しまり強。
3層　暗褐色土　ローム粒子を微小に含む。しまり弱。
4層　黄褐色土　ロームブロックを含む。しまり弱。
5層　暗褐色土　ローム粒子を微小に、ロームブロックを含む。しまり弱。
6層　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロックを微小に含む。しまり弱。
7層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを微小に含む。しまり非常に強。
8層　黄褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含む。しまり弱。

63号ピット



1層　暗褐色土　ローム粒子をやや多く、ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり弱。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり弱。
4層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを微小に含む。しまり弱。
5層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微小に含む。しまり弱。
6層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微小に含む。しまり弱。

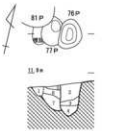
68号ピット



73P
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
2層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微小に含む。しまりや。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまりや。

74P
4層　暗褐色土　ローム粒子をやや多く、ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
5層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを微小に含む。しまり弱。
6層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微小に含む。しまりや。
7層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまりや。
8層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまりや。
9層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微小に含む。しまりや。

73・74号ピット

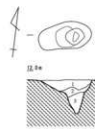


1層　撹乱。

76P
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。ロームブロックを微小に含む。しまりやや強。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを微小に含む。しまりや。

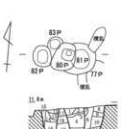
77P
5層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
6層　明黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまりやや強。
7層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを微小に含む。しまりやや強。

76・77号ピット



1層　撹乱。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。
3層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを微小に含む。しまりや。

78号ピット



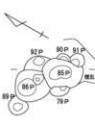
80P
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを微小に含む。しまりや。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまりや。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。
4層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。
5層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微小に含む。しまりや。

82P
12層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまりや。
13層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微小に含む。しまりや。
14層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微小に含む。しまりや。
15層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまりやや強。
16層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微小に含む。しまりや。

81P
6層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。
7層　明黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを微小に含む。しまりや。
8層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
9層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを微小に含む。しまりやや強。
10層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
11層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを微小に含む。しまりや。

83P
17層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまりやや強。
18層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微小に含む。しまりや。
19層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを微小に含む。しまりや。

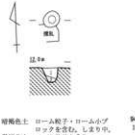
80～83号ピット



85P
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。
2層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微小に含む。しまりや。
3層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを微小に含む。しまりや。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。
5層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。
6層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微小に含む。しまりや。
7層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを微小に含む。しまりや。
8層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。
9層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。ロームブロックを微小に含む。しまりや。
10層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりや。
11層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを微小に含む。しまり弱。
12層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり弱。

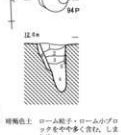
92P
13層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを微小に含む。しまり強。
14層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを微小に含む。しまり強。
15層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりや。

85・92号ピット



1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。
2層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微小に含む。しまり強。

93号ピット

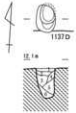


94P
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまりや。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまりや。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。
4層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。
5層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり強。

96P
6層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまりや。

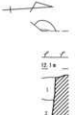
94・96号ピット

第34図　ピット2（1／60）



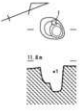
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを微かに含む。しまり強。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまりやや。
3層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや。
4層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや。
5層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや。
6層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまりやや。

98号ピット



1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを微かに含む。しまりやや。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子を微かに含む。しまりやや弱。

99号ピット



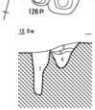
100号ピット

1層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微かに含む。しまり弱。
2層　暗褐色土　ローム粒子をやや多く含む。しまりやや弱。
3層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまり弱。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり弱。
5層　にぶい黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり弱。

124号ピット

1層　暗褐色土　ローム粒子・粘土粒子を微かに、微土粒子を含む。しまりやや強。
2層　暗褐色土　ローム粒子を含み、微土粒子を微かに含む。しまりやや強。
3層　暗褐色土　微土粒子・粘土粒子を含む。しまり強。
4層　暗褐色土　ローム粒子を含む。しまりやや強。
5層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまり強。
6層　暗褐色土　ローム粒子をやや多く、ローム小ブロックを含む。しまり強。
7層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックをやや多く含む。しまりやや強。

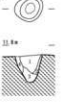
125号ピット



126P
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや。

127P
2層　黒褐色土　ローム粒子を含む。しまりやや。
3層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりやや。
4層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックをやや多く含む。しまりやや。

126・127号ピット

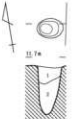


1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを微かに含む。しまりやや。
2層　黒褐色土　ローム粒子を微かに、ローム小ブロックを含む。しまりやや。
3層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックをやや多く含む。しまりやや。
4層　暗褐色土　ローム粒子をやや多く、ローム小ブロックを含む。しまりやや。

130号ピット

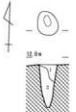
1層　暗褐色土　ローム粒子を含む。しまりやや。
2層　黒褐色土　ローム粒子を含む。しまりやや。
3層　黄褐色土　ローム小ブロックを微かに含む。しまりやや。
4層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや。
5層　黄褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりやや。

134号ピット



1層　黄褐色土　ローム粒子をやや多く、ローム小ブロックを含む。しまりやや。
2層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり弱。

138号ピット

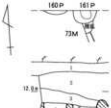


1層　黄褐色土　ローム粒子をやや多く、ローム小ブロックを含む。しまりやや。
2層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり弱。

150号ピット

1層　砂石。
2層　炭土及び焼礫。
3層　黄褐色土　ローム小ブロックを含み、ロームブロックを多く含む。しまりやや。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまりやや。
5層　暗褐色土　ローム粒子をやや多く含む。しまりやや。
6層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまりやや。
7層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまりやや。

157号ピット



1層　砂石。
2層　炭土。
3層　黒褐色土　ローム粒子、ローム小ブロックを含み、ロームブロックを微かに含む。しまりやや。基本土層の1に相当。

160P
4層　黒褐色土　ローム粒子を微かに含む。しまりやや。
5層　暗褐色土　ローム粒子を含む。しまりやや。

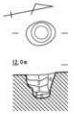
161P
6層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや。
7層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを微かに含む。しまりやや。
8層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや。
9層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを微かに含む。しまりやや。
10層　黄褐色土　ローム粒子をやや多く、ローム小ブロックを含む。しまりやや。

160・161号ピット

1層　暗褐色土　ローム粒子をやや多く、ローム小ブロックを含む。しまりやや。
2層　黄褐色土　ロームブロックを多く含む。しまり強。

154号ピット

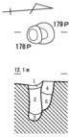
第35図　ピット3（1／60）



1 層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微かに含む。しまり中。
2 層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを微かに含む。しまり弱。
3 層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり弱。
4 層　黒褐色土　ローム粒子を微かに含む。しまり弱。
5 層　黄褐色土　ローム小ブロックを多く含む。しまり非常に弱。
6 層　黄褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり非常に弱。

165号ピット

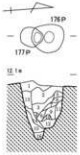
173号ピット



178P
1 層　黒褐色土　ローム粒子を含む。しまり中。
2 層　暗褐色土　ローム粒子を微かに、ローム小ブロックを含む。しまり中。
3 層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを微かに含む。しまり強。

179P
4 層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまり強。
5 層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまりやや強。

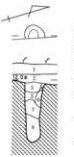
178・179号ピット



1 層　砂。
176P
2 層　黄褐色土　ローム小ブロックを多く含む。しまりやや強。
3 層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり強。
4 層　黒褐色土　ローム粒子を微かに含む。しまり強。
5 層　黒褐色土　ローム粒子をやや多く含む。しまりやや強。
6 層　黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
7 層　黒褐色土　ローム粒子を含む。しまり強。
8 層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微かに含む。しまりやや強。
9 層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
10 層　黒褐色土　ローム粒子を微かに含む。しまりやや強。
11 層　暗黄褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりやや強。
12 層　暗黄褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりやや強。

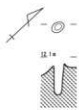
177P
13 層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
14 層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
15 層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微かに含む。しまりやや強。
16 層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。

176・177号ピット

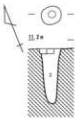


1 層　砂礫。
2 層　表土。
3 層　暗褐色土　ローム粒子、ローム小ブロックを多く含む。しまり強。
4 層　に赤・黄褐色土　ローム粒子を微かに含む。しまり強。
5 層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
6 層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックをやや多く含む。しまり強。
7 層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微かに含む。しまり強。
8 層　黄褐色土　ローム小ブロックを多く含む。しまりやや。

190号ピット

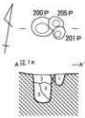


195号ピット



1 層　撹乱。
2 層　黒褐色土　ローム粒子を微かに、ローム小ブロックを含む。しまり強。

199号ピット

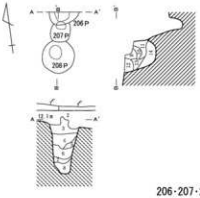


201P
1 層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微かに含む。しまり強。

205P
2 層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を微かに含む。しまりやや強。

200P
3 層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックをやや多く含む。しまりやや。
4 層　黒褐色土　ローム粒子を微かに含む。しまり強。
5 層　暗褐色土　ローム粒子を微かに含む。しまりやや。

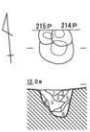
200・201・205号ピット



1 層　砂利敷。
2 層　表土。
206P
3 層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり強。
4 層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。
5 層　黄褐色土　ローム粒子を多く、ロームブロックを含む。しまり強。
6 層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまりやや。
7 層　黒褐色土　ローム粒子・ロームブロックを微かに含む。しまり弱。
8 層　黄褐色土　ロームブロックを多く含む。しまりやや。

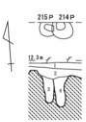
208P
9 層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微かに含む。しまり弱。
10 層　黒褐色土　ローム粒子を微かに含む。しまりあまりに強。
11 層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを多く、ロームブロックをやや多く含む。しまり強。
12 層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。
13 層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを微かに含む。しまり強。
14 層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを微かに含む。しまりやや強。

206・207・208号ピット



1 層　砂。
2 層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。
3 層　暗黄褐色土　ローム小ブロックを含み、ロームブロックを多く含む。しまり非常に強。
4 層　暗褐色土　ロームブロックを多く含む。しまり強。
5 層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりや。
6 層　黄褐色土　ロームブロックを含む。しまり強。
7 層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。
8 層　に赤・黄褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりやや強。

209号ピット



1 層　砂利敷。
2 層　表土。
214P
3 層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや。

215P
4 層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを含む。しまりや。

214・215号ピット

0　1/60　2m

第36図　ピット４（１／60）

遺構名	位置	平面形	規模（cm）			種土及び特徴等	主な遺物	時　期
			長軸	短軸	深さ			
1 P	(C-4)G	隅丸長方形か	不明	不明	24	3 層／南西側は調査区外／70M と重複	遺物なし	中世以降
2 P	(D-5)G	隅丸方形	30	28	37	単層／1134D をけり、70M と重複	遺物なし	中世以降
3 P	(B-3)G	隅丸方形	30	24	64	2 層／322H をけり、70M と重複	遺物なし	中世以降
4 P	(B-3)G	隅丸長方形	45	36	48/48	3 層／322H をけり、70M と重複／2 本の重複形	遺物なし	中世以降
5 P	(F-6)G	隅丸長方形か	不明	20	21	4 層（2 ～ 5 層）／東側は調査区外／164H・369D をけり	遺物なし	中世以降
6 P	(F-6)G	隅丸方形	58	52	20	3 層（2 ～ 4 層）／164H・1138・1139・1143D をけり	遺物なし	中世以降
7 P	(F-6)G	隅丸方形	24	不明	25	4 層（2 ～ 5 層）／東側は調査区外／369D をけり	遺物なし	中世以降
8 P	(F-5)G	隅丸方形	28	27	41	6 層／164H・55・72P をけり	遺物なし	中世以降
9 P	(F-6)G	隅丸長方形	32	25	36	上層：ローム粒子を僅かに含む黒褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗黄褐色土／164H・10・27・59P をけり	遺物なし	中世以降
10 P	(F-6)G	隅丸方形	53	46	54	2 層／9P にけられ、164H・27P をけり	板碑 1 点（破片）	中世以降
11 P	(F-5・6)G	隅丸方形	36	34	25	2 層／20P にけられ、164H・22P をけり	板碑 2 点：小破片のため図示なし	中世以降
12 P	(F-6)G	隅丸方形	32	28	31	単層：ローム小ブロック・ロームブロックを多く、ローム粒子を含む暗黄褐色土／1138D と重複	遺物なし	中世以降
13 P	(F-6)G	隅丸長方形	34	28	59	上層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土、下層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む黒褐色土／164H をけり、1138・1139D にけられる	遺物なし	中世以降
14 P	(F-6)G	隅丸方形	28	24	51	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土／1138D と重複	遺物なし	中世以降
15 P	(F-6)G	隅丸長方形	26	23	19	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土／23P・1138D をける	遺物なし	中世以降
16 P	(F-6)G	隅丸方形	24	22	28	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む黒褐色土／164H・1138D をける	遺物なし	中世以降
17 P	(F-6)G	隅丸方形	27	26	17	上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色、下層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む暗黄褐色／164H・1138・1139D をける	遺物なし	中世以降
18 P	(F-5)G	隅丸長方形	50	40	58/48	5 層（2 ～ 6 層）／164H をける／2 本の重複形	遺物なし	中世以降
19 P	(E-5)G	隅丸方形	34	30	60	5 層／1137D・19P にけられる	遺物なし	中世以降
20 P	(F-5)G	隅丸長方形	40	30	35	3 層／164H・11・21・22P をける	遺物なし	中世以降
21 P	(F-5)G	隅丸方形か	33	不明	23	3 層（4 ～ 6 層）／20P にけられ、164H をける	遺物なし	中世以降
22 P	(F-5)G	不明	不明	不明	15	2 層（3・4 層）／11・20P にけられ、164H をける	遺物なし	中世以降
23 P	(F-6)G	隅丸長方形か	不明	16	8	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む暗褐色土／15P にけられ、1138D をける	遺物なし	中世以降
24 P	(F-6)G	隅丸方形	18	18	10	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土／ 164H・25P をける	遺物なし	中世以降
25 P	(F-6)G	隅丸長方形	28	21	25	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む暗褐色土／24P にけられ、164H・26P をける	遺物なし	中世以降
26 P	(F-6)G	隅丸長方形	28	25	41	単層：ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む黒褐色土／25P にけられ、164H をける	遺物なし	中世以降
27 P	(F-6)G	隅丸長方形か	28	不明	25	2 層（3・4 層）／9・10P にけられ、164H・59P をける	遺物なし	中世以降
28 P	(F-5)G	隅丸長方形か	36	不明	19	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土／1137D にけられ、164H・29P をける	遺物なし	中世以降
29 P	(F-5)G	隅丸長方形	36	29	18	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土／ 137D・28P にけられ、164H をける	遺物なし	中世以降
30 P	(F-5)G	隅丸方形	31	31	26	単層：ローム粒子を僅かにロームブロックを含む暗褐色土／1137D にけられ、164H をける	遺物なし	中世以降
31 P	(F-5)G	隅丸方形	32	28	34	1 層：ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む黒褐色土、2 層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗黄褐色土／1137D と重複	遺物なし	中世以降
32 P	(F-5)G	隅丸方形	44	41	19	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土／33 P にけられ、164H をける	遺物なし	中世以降
33 P	(F-5)G	隅丸長方形か	不明	22	30	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックをやや多く含む暗褐色土／35P にけられ、164H・32・35P をける	石製品 1 点（砥石）	中世以降
34 P	(F-6)G	隅丸方形	26	22	18	単層／164H・1139D をける	遺物なし	中世以降
35 P	(F-5)G	隅丸方形	20	20	17	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土／164H・33P をける	遺物なし	中世以降
36 P	(F-5・6)G	隅丸長方形	71	64	55	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む黒褐色土／上層は撹乱／37P にけられ、164H をける	遺物なし	中世以降
37 P	(F-5)G	隅丸長方形	24	21	37	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む黒褐色土／上層は撹乱／164H・36P をける	遺物なし	中世以降
38 P	(F-5)G	隅丸長方形か	不明	33	20	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む暗褐色土／164H・39・40P をける	遺物なし	中世以降
39 P	(F-5)G	隅丸長方形	42	33	31/30	単層：ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む暗褐色土／38P にけられ、164H・40P をける／2 本の重複形	遺物なし	中世以降
40 P	(F-5)G	隅丸方形	20	18	20	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む黒褐色土／38・39P にけられ、164H をける	遺物なし	中世以降

第13表　中世以降のピット一覧（1）

遺構名	位置	平面形	規模（cm）			覆土及び特徴等	主な遺物	時　期
			長軸	短軸	深さ			
41 P	(F-5・6)G	隅丸方形	42	38	41/38	1 層：ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土、2 層：ローム粒子・ロームブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含む黒褐色土／164H を切る／2 本の重複形	遺物なし	中世以降
42 P	(F-6)G	隅丸方形	30	25	53	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む黒褐色土／東側の一部は調査区外／164H を切る	遺物なし	中世以降
43 P	(F-6)G	隅丸方形	36	33	46	1 層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土、2 層：ローム粒子・ロームブロック・ローム小ブロックを僅かに含む黒褐色土／164H を切る	遺物なし	中世以降
44 P	(F-6)G	隅丸方形	42	40	45	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを含む黒褐色土／164H を切り、1139D と重複	遺物なし	中世以降
45 P	(F-6)G	隅丸長方形	20	17	16	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む黒褐色土／164H を切り、1139D と重複	遺物なし	中世以降
46 P	(F-6)G	隅丸方形	46	44	36	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土 164H を切る	遺物なし	中世以降
47 P	(F-5)G	隅丸長方形	57	46	18	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む黒褐色土／164H を切る	遺物なし	中世以降
48 P	(F-5)G	隅丸方形	27	26	36	1 層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土、2 層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを多く含む暗黄褐色土／164H を切る	遺物なし	中世以降
49 P	(F-5)G	隅丸長方形	18	16	13	単層：ローム粒子を僅かにロームブロックを含む暗褐色土／上層は撹乱／164H を切り、50P と重複	遺物なし	中世以降
50 P	(F-5)G	隅丸長方形	25	19	27	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む暗黄褐色土／上層は撹乱／164H を切り、49P と重複	遺物なし	中世以降
51 P	(F-5)G	隅丸長方形	23	16	23	単層：ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む暗褐色土／上層は撹乱／164H を切る	遺物なし	中世以降
52 P	(F-5)G	隅丸方形か	20	不明	15	1 層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土／2 層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土、3 層：ローム粒子を僅かに含む黒褐色土、4 層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む暗黄褐色土／東側は調査区外／164H を切る	遺物なし	中世以降
53 P	(F-6)G	隅丸長方形	26	18	35	上層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む暗黄褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
54 P	(F-6)G	隅丸方形	28	24	65	単層：ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
55 P	(F-5)G	隅丸方形か	55	不明	28	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土／8P に切られ、164H を切り、72P と重複	遺物なし	中世以降
56 P	(F-6)G	隅丸長方形	21	17	30	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土／164H を切る	遺物なし	中世以降
57 P	(E-5)G	隅丸方形	32	29	46	上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土、下層：ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む黄褐色土／1137D・19P に切られ、1140D と重複	土器 1 点（皿）：小破片のため図示なし	中世以降
58 P	(F-5)G	隅丸長方形	35	21	23	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土／164H を切る	遺物なし	中世以降
59 P	(F-6)G	隅丸方形	27	23	49	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土／9・27P に切られ、164H を切る	遺物なし	中世以降
60 P	(D-5)G	隅丸長方形	28	18	12	上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む黒褐色土／70M と重複	遺物なし	中世以降
61 P	(E-6)G	隅丸方形	28	26	28/22	上層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む暗褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く黄褐色土	遺物なし	中世以降
62 P	(E-5)G	隅丸方形	31	28	44	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗黄褐色土	遺物なし	中世以降
63 P	(E-5)G	隅丸長方形	56	40	59	8 層／1137D に切られ、1144D と重複	遺物なし	中世以降
64 P	(E-6)G	隅丸方形	24	22	24	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土／73M と重複	遺物なし	中世以降
65 P	(F-5)G	隅丸長方形	24	16	20	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む暗黄褐色土／上層は撹乱／164H を切る	遺物なし	中世以降
66 P	(F-5)G	隅丸長方形	20	10	10	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土／164H を切る	遺物なし	中世以降
67 P	(F-6)G	隅丸長方形	33	28	38/31	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む黒褐色土／164H を切る／2 本の重複形	遺物なし	中世以降
68 P	(E・F-5)G	隅丸長方形	50	39	99	6 層／84P を切る	陶器 1 点（碗）	中　世（16C 後半）
69 P	(E-6)G	隅丸方形	20	16	20	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む黒褐色土／70P を切る	遺物なし	中世以降
70 P	(E-6)G	隅丸方形	26	28	29	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む黒褐色土／69P に切られる	遺物なし	中世以降
71 P	(E・F-6)G	隅丸方形か	35	不明	30	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土／1143D と重複	遺物なし	中世以降
72 P	(F-5)G	隅丸長方形	28	20	43	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む黒褐色土／8 P に切られ、164H を切り、55P と重複	遺物なし	中世以降
73 P	(E-6)G	隅丸長方形	38	28	23/16	3 層／1142D に切られ、74P を切る／2 本の重複形	遺物なし	中世以降
74 P	(E-6)G	隅丸方形	32	32	54	6 層（4～9 層）／73P に切られる	遺物なし	中世以降

第13表　中世以降のピット一覧（２）

遺構名	位置	平面形	規模（m）			覆土及び特徴等	主な遺物	時　期
			長軸	短軸	深さ			
75 P	(E-6)G	隅丸長方形	30	24	44	上層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土、中層：ローム粒子を含む黒褐色土、下層：ローム小ブロック・ロームブロックを含む黄褐色土	遺物なし	中世以降
76 P	(E-6)G	隅丸長方形	46	37	54	3層／77Pを切る	土器２点（焙焼）：小破片のため図示なし	中世以降
77 P	(E-6)G	隅丸長方形か	44	不明	46	3層（4～6層）／76・81Pに切られる	遺物なし	中世以降
78 P	(E･F-6)G	隅丸長方形	85	42	54/17	2層（2・3層）／2本の重複形	鉄製品１点（釘）	中世以降
79 P	(E-6)G	不明	不明	不明	23	単層：ローム粒子を含む暗褐色土／85・86Pを切る	遺物なし	中世以降
80 P	(E-6)G	隅丸長方形	45	35	59	5層／81・83Pを切る	土器１点（皿）	近　世（17c後半）
81 P	(E-6)G	隅丸方形か	50	不明	41	6層（6～11層）／80Pに切られ、77Pを切る	遺物なし	中世以降
82 P	(E-6)G	隅丸方形	32	28	39	5層（12～16層）／83Pを切る	遺物なし	中世以降
83 P	(E-6)G	不明	不明	不明	52	3層（17～19層）／80・82Pに切られる	遺物なし	中世以降
84 P	(E-5)G	隅丸長方形か	27	不明	35	68Pに切られる	遺物なし	中世以降
85 P	(E-5・6)G	隅丸方形か	60	不明	70	12層／79Pに切られ、86・90～92Pを切る	土器3点（皿2点・焙焼1点）：小破片のため図示なし	中世以降
86 P	(E-5・6)G	隅丸長方形か	不明	50	52/44	上層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む黒褐色土、中層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む黒褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む黄褐色土／85Pに切られ、1144D・89・92Pを切る／２本の重複形	遺物なし	中世以降
87 P	(E-5)G	隅丸方形か	85	75	54/44/43/39	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土／４本の重複形	板碑１点：小破片のため図示なし	中世以降
88 P	(E-5)G	隅丸長方形	38	26	27	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
89 P	(E-5)G	隅丸方形	28	28	35	単層：ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む暗褐色土／86Pに切られる	遺物なし	中世以降
90 P	(E-5・6)G	不明	不明	不明	27	単層：ローム粒子をやや多く、ローム小ブロックを含む暗褐色土／85Pに切られ、91Pを切る	遺物なし	中世以降
91 P	(E-6)G	隅丸方形か	不明	22	27	上層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む明茶褐色土、中層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土、下層：ローム小ブロックを含む黄褐色土／85・90Pに切られる	遺物なし	中世以降
92 P	(E-5)G	不明	不明	不明	53	3層（13～15層）／85・86Pに切られ、1144Dを切る	遺物なし	中世以降
93 P	(E-5)G	隅丸方形	25	22	24	2層／1145Dを切る	遺物なし	中世以降
94 P	(E-5)G	隅丸方形	38	30	62	5層／1145D・96Pを切る	遺物なし	中世以降
95 P	(E-5)G	隅丸方形	30	24	25	単層：ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む暗黄褐色土／1145Dを切る	遺物なし	中世以降
96 P	(E-5)G	隅丸方形	47	45	49	単層（6層）／93Pに切られ、1145Dを切る	遺物なし	中世以降
97 P	(E-5)G	隅丸長方形	41	34	44	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土／1140Dと重複	遺物なし	中世以降
98 P	(E-5)G	隅丸長方形	40	30	48/36	6層／1137Dと重複／２本の重複形	遺物なし	中世以降
99 P	(F-5)G	不明	不明	不明	31	2層／南側が大部分調査区外／164Hを切る	遺物なし	中世以降
100 P	(E-6)G	隅丸方形	36	34	41/28	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土／２本の重複形	土器１点（皿）	中世（15c末～16c初頭）
101 P	(E-6)G	隅丸方形	26	24	31	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
102 P	(E-6)G	隅丸方形	30	28	58	上層：ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む暗茶褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗茶褐色土	遺物なし	中世以降
103 P	(F-5)G	隅丸長方形か	不明	28	44	単層：ローム粒子を僅かに含む黒褐色土／104Pに切られ、323H・113Pを切る	炭化木製品1点（椀）／自然科学分析139 資参照	中世以降
104 P	(F-4・5)G	隅丸長方形	42	31	47	上層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土、下層：ローム粒子を僅かに含む黒褐色土／323H・103・105Pを切る	遺物なし	中世以降
105 P	(F-5)G	隅丸長方形か	不明	23	19	上層：ローム粒子を僅かに含む暗褐色土、下層：ローム粒子を僅かに含む暗褐色土／104Pに切られ、164・323Hを切る	遺物なし	中世以降
106 P	(F-4)G	隅丸方形	31	30	33	上層：ローム粒子を含む暗褐色土、下層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土／323Hを切る	遺物なし	中世以降
107 P	(E-5)G	隅丸長方形	24	18	22	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土／323Hを切り、1149Dと重複	遺物なし	中世以降
108 P	(F-4)G	隅丸長方形	30	25	40	上層：ローム粒子を多く、ローム融資を含む暗褐色土、下層：ローム粒子を含む暗黄褐色土／323Hを切る	遺物なし	中世以降
109 P	(F-4)G	隅丸長方形	37	18	19	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む黒色土／323Hを切り、1149Dと重複	遺物なし	中世以降
110 P	(E-5)G	隅丸長方形	37	32	32	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む黒褐色土／323Hを切る	土器１点（皿）	近　世（17c代）
111 P	(F-4)G	隅丸方形	25	23	13	単層：ローム小ブロック・焼土粒子を含む暗茶褐色土／323Hを切る	遺物なし	中世以降
112 P	(F-4・5)G	隅丸長方形	24	18	14	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む黒褐色土／164・323Hを切る	遺物なし	中世以降

第13表　中世以降のピット一覧（３）

遺構名	位置	平面形	規模（cm）			覆土及び特徴等	主な遺物	時　期
			長軸	短軸	深さ			
113 P	(F-5)G	隅丸長方形	31	22	30	上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土、中層：ローム粒子をやや多く、ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土、下層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを含みやや多く含む黒褐色土／103Pに切られ、323Hを切る	遺物なし	中世以降
114 P	(F-4)G	隅丸方形	21	20	15	ローム粒子・焼土粒子を含む黒褐色土／323H・115Dを切る	遺物なし	中世以降
115 P	(F-4)G	隅丸長方形	30	24	35	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐褐色土／323Hを切る	遺物なし	中世以降
116 P	(E-4)G	隅丸方形	22	21	13	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化材・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む黒褐色土／323Hを切る	遺物なし	中世以降
117 P	(E-4)G	隅丸長方形	37	32	30	単層：ローム粒子・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土／重複なし	遺物なし	中世以降
118 P	(E-5)G	隅丸方形	20	18	53	上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土／1150Dを切る	遺物なし	中世以降
119 P	(E-5)G	隅丸方形	35	34	47	上層：ローム粒子を含む黒褐色土、中層：ローム粒子・ロームブロックを多く含む暗褐色土、下層：ローム粒子・ロームブロックを含む暗黄褐色土	遺物なし	中世以降
120 P	(D-4・5)G	隅丸長方形	46	27	37	上層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む黒褐色土を基調、下層：ローム粒子を含み、ロームブロックをやや多く含む暗褐褐色土を基調	遺物なし	中世以降
121 P	(E-5)G	隅丸長方形	42	26	41	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
123 P	(E-4)G	隅丸長方形	30	26	16	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
124 P	(D-4)G	隅丸長方形	54	44	101	5層	土器1点（Ⅲ）	近　世（17c代）
125 P	(F-4)G	隅丸方形	29	29	31	7層／323Hを切る	遺物なし	中世以降
126 P	(C-2)G	隅丸方形	32	28	70	単層／127Pを切る	遺物なし	中世以降
127 P	(C-2)G	隅丸方形	48	46	45	3層（2～4層）／126Pに切られる	遺物なし	中世以降
128 P	(C-2・3)G	隅丸方形	28	26	68	上層：ローム粒子をやや多く、ロームブロックを含む黒褐色土、下層：ローム粒子を僅かに含む黒褐色土	遺物なし	中世以降
129 P	(C-3)G	隅丸長方形	36	32	45	単層：ローム粒子を含み、ロームブロックを僅かに含む黒褐色土	遺物なし	中世以降
130 P	(B-2)G	隅丸方形	43	40	42	4層／115Dを切る	遺物なし	中世以降
131 P	(C-2)G	隅丸長方形	24	18	35	上層：ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土、下層：ローム粒子を僅かにローム小ブロック含む黒褐色土	遺物なし	中世以降
132 P	(C-3)G	隅丸長方形	28	18	58	単層：ローム粒子・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土を基調	遺物なし	中世以降
133 P	(B-2)G	隅丸方形	26	24	32	1層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土／2層：ローム粒子を多く含む暗黄褐色土、3層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土、4層：ローム粒子を含む暗黄褐色土	遺物なし	中世以降
134 P	(B・C-2)G	隅丸方形	34	32	74	5層／重複なし	遺物なし	中世以降
135 P	(D-4)G	隅丸方形	34	32	80	上層：ローム粒子を僅かに、ローム小ブロック含む暗褐色土、中層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土、下層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗黄褐色土／73Mと重複	遺物なし	中世以降
136 P	(C-2)G	隅丸長方形か	不明	30	51	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
137 P	(D-4)G	隅丸方形	32	27	75	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む暗褐色土／73Mと重複	遺物なし	中世以降
138 P	(C-2)G	隅丸長方形	40	30	78	2層／74Mに切られる	遺物なし	中世以降
139 P	(C-3)G	隅丸方形	26	23	18	単層：ローム粒子を含み、・ローム小ブロックを僅かに含む暗黄褐色土	遺物なし	中世以降
140 P	(C-3)G	隅丸方形	23	23	19	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土	遺物なし	中世以降
141 P	(C-4)G	隅丸方形	30	28	38	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
142 P	(C-4)G	隅丸長方形	33	26	34	単層：ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む黄褐色土	遺物なし	中世以降
143 P	(C・D-3)G	隅丸長方形	30	24	61	上層：ローム粒子をやや多く、ローム小ブロックを僅かに含む黒褐色土、下層：ローム小ブロック・ローム小ブロック含む黄褐色土／72Mと重複	土器1点（Ⅲ）	中世以降
144 P	(D-4)G	隅丸方形	28	25	19	単層：ローム粒子を僅かに、ローム小ブロックを含む黒褐色土／73Mと重複	遺物なし	中世以降
145 P	(D-4)G	隅丸方形	24	20	13	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土／73Mと重複	遺物なし	中世以降
146 P	(D-4)G	隅丸方形	30	24	22	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む黒褐色土	遺物なし	中世以降
147 P	(D-4)G	隅丸方形	28	24	16	単層：ローム粒子を僅かに、ローム小ブロックを含む暗褐色土／148Pを切る	遺物なし	中世以降
148 P	(D-4)G	隅丸方形	31	27	33	単層：ローム粒子・ロームブロックを僅かに含む黒褐色土／147Pに切られる	遺物なし	中世以降
149 P	(C-3)G	隅丸方形	23	22	83	単層：ローム粒子をやや多く、ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む暗褐色土／72Mと重複	遺物なし	中世以降
150 P	(E-3)G	隅丸長方形	38	32	59	2層／1155Dを切る	遺物なし	中世以降
151 P	(E-3)G	隅丸長方形	24	20	28	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降

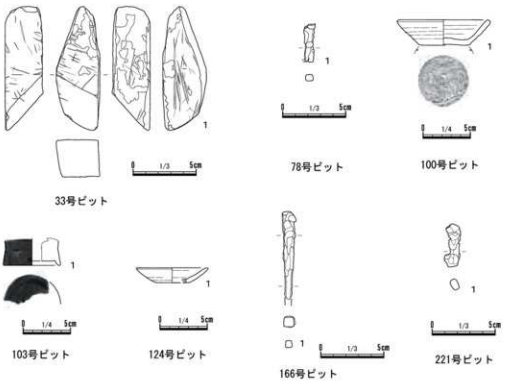
第13表　中世以降のピット一覧（4）

遺構名	位置	平面形	規模（cm）			層土及び特徴等	主な遺物	時　期
			長軸	短軸	深さ			
152 P	(D-4)G	隅丸方形	31	29	30	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックをやや多く含む黄褐色土	遺物なし	中世以降
153 P	(C-2)G	隅丸長方形	29	23	19	ローム粒子・ロームブロックを僅かに含む黒褐色土を基調／74Mに切られる	遺物なし	中世以降
154 P	(C-3)G	隅丸方形	22	20	41	2層／1156Dを切る	遺物なし	中世以降
155 P	(C-3)G	隅丸方形	23	23	29	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む黒褐色土	遺物なし	中世以降
156 P	(D-3)G	隅丸長方形	24	20	12	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
157 P	(D-3)G	隅丸方形	44	37	51	5層（3～7層）／1157Dを切る	遺物なし	中世以降
158 P	(E-4)G	隅丸長方形	38	25	37	上層：ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む暗褐色土、中層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土、下層：ローム粒子をやや多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土	土器1点（皿）：小破片のため図示なし	中世以降
159 P	(D-4)G	隅丸方形	36	34	30	上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土、下層：ローム小ブロックを多く、ローム粒子・ロームブロックを含む暗黄褐色土	土器1点（皿）：小破片のため図示なし	中世以降
160 P	(D-3)G	不明	不明	不明	78	2層（4・5層）／北側の大部分は調査区外／73Mを切る	遺物なし	中世以降
161 P	(D-3)G	隅丸方形か	38	不明	73	5層（6～10層）／北側は調査区外／73Mを切る	遺物なし	中世以降
162 P	(D-3)G	隅丸長方形	26	21	63	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む暗黄褐色土	遺物なし	中世以降
163 P	(E-4)G	隅丸長方形か	不明	26	35	単層：ローム粒子をやや多く、ローム小ブロックを含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
164 P	(F-3・4)G	隅丸方形か	38	不明	12	単層：ローム粒子を僅かに黒褐色土／1160Dを切る	遺物なし	中世以降
165 P	(E-4)G	隅丸方形	42	34	43	6層／1161Dを切る	遺物なし	中世以降
166 P	(E-4)G	隅丸方形	49	46	30	ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色を基調／1162Dを切る	鉄製品1点（釘）	中世以降
167 P	(E・F-4)G	隅丸方形	38	34	28	単層：ローム粒子を僅かに、ローム小ブロックを含む黒褐色土	遺物なし	中世以降
168 P	(E-4)G	隅丸長方形	38	30	36	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックをやや多く含む黒褐色土／1161Dを切る	遺物なし	中世以降
169 P	(E-4)G	隅丸方形	42	36	42	ローム粒子を含む黒褐色土を基調／1162Dを切る	陶器1点（擂鉢）	中世以降
170 P	(F-4)G	隅丸方形	30	29	53	上層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む暗褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む黒褐色土／12Y・171Pを切る	遺物なし	中世以降
171 P	(F-4)G	隅丸方形	29	27	49	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む黒褐色土／170Pに切られ、12Yを切る	遺物なし	中世以降
173 P	(F-4)G	隅丸方形	34	33	57	上層：ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む黒褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
174 P	(E-3)G	隅丸方形	20	16	13	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
175 P	(E-3)G	隅丸長方形か	不明	21	42	上層：ローム粒子を僅かに含む黒褐色土、中層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗黄褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む黒褐色土／北側は調査区外	遺物なし	中世以降
176 P	(F-4)G	隅丸長方形	51	45	66	11層（2～12層）／12Y・177・180Pを切る	遺物なし	中世以降
177 P	(F-4)G	隅丸長方形	36	31	91	4層（13～16層）／176Pに切られ、12Yを切る	遺物なし	中世以降
178 P	(F-4)G	隅丸方形	28	23	58	3層／179Pを切る	遺物なし	中世以降
179 P	(F・G-4)G	隅丸方形か	33	不明	44	2層（4・5層）／178Pに切られる	遺物なし	中世以降
180 P	(F-4)G	隅丸方形	34	33	34	上層：ローム粒子を僅かに含む暗褐色土、中層：ローム粒子を僅かに含む黒褐色土、下層：ローム小ブロックを含む暗黄褐色土／176Pに切られ、12Yを切り、189Pと重複	遺物なし	中世以降
181 P	(F-4)G	隅丸方形	44	42	40	上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土を基調、中層：ローム小ブロック・ロームブロックを含む黒褐色土を基調、下層：ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む暗黄褐色土を基調／12Yを切る	遺物なし	中世以降
182 P	(F・G-4)G	隅丸長方形	40	33	35	上層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土、中層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む黒褐色土、下層：ロームブロックを含む黄褐色土／12Yを切る	遺物なし	中世以降
183 P	(F-4)G	隅丸長方形か	不明	33	24	1層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土／2層：ローム粒子を含み、ロームブロックを僅かに含む黒褐色土、3層：ロームブロックを僅かに含む黄褐色土、4層：ローム粒子を含む黒褐色土／東側は調査区外／12Yを切り、184Pと重複	遺物なし	中世以降
184 P	(F-4)G	隅丸方形	30	26	46	単層：ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む暗褐色土／12Yを切り、183・195Pと重複	遺物なし	中世以降
185 P	(H-4)G	隅丸方形	20	17	41	単層：ローム小ブロック・ロームブロックを含む黒褐色土	遺物なし	中世以降
186 P	(H-4)G	隅丸方形	27	27	30	単層：ローム粒子を僅かに、ローム小ブロック・ロームブロックを含む灰褐色土	遺物なし	中世以降
187 P	(H-4)G	隅丸方形	28	28	記入もれ	上層：ローム小ブロックを含む灰褐色土、下層：ロームブロックを含む黄褐色土	遺物なし	中世以降
188 P	(H-4)G	隅丸方形	36	34	27	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む灰褐色土	遺物なし	中世以降
189 P	(F-4)G	隅丸長方形	25	20	22	上層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む黒褐色土、下層：ローム小ブロックを含む暗黄褐色土／180Pと重複	遺物なし	中世以降
190 P	(H-3・4)G	隅丸方形か	不明	32	90	6層（3～8層）／東側は調査区外／198Pを切る	土器1点(皿):小破片のため図示なし	中世以降

第13表　中世以降のピット一覧（５）

遺構名	位置	平面形	規模（cm）			覆土及び特徴等	主な遺物	時　期
			長軸	短軸	深さ			
191 P	(H-4)G	隅丸方形	19	18	12	上層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
192 P	(G-4)G	隅丸方形	16	18	12	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む黒褐色土	遺物なし	中世以降
193 P	(H-3)G	隅丸方形	30	30	40	上層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土、下層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む黒褐色土／198P を切る	遺物なし	中世以降
194 P	(F-3)G	隅丸長方形	40	32	29	上層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む黒褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗黄褐色土／12Y を切り、1163・1164D と重複	遺物なし	中世以降
195 P	(F-4)G	隅丸長方形	21	14	48	上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土、中層：ローム小ブロック・ローム ブロックを含む黄褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロック・ローム ブロックを含む暗黄褐色土／12Y を切り、184P と重複	遺物なし	中世以降
196 P	(F-3)G	隅丸方形	28	26	17	単層：ローム粒子を僅かに、ローム ブロックを含む黒褐色土／12Y を切る	遺物なし	中世以降
197 P	(F-3)G	隅丸長方形	23	18	36	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土／12Y を切る	遺物なし	中世以降
198 P	(H-3・4)G	隅丸長方形か	不明	30	33	上層：ローム粒子を含む暗褐色土、中層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ローム ブロックを僅かに含む暗黄褐色土、下層：ローム ブロックを含む黄褐色土／190・193P に切られる	遺物なし	中世以降
199 P	(F-3・4)G	隅丸方形	30	26	80	単層（2 層）／12Y を切る	遺物なし	中世以降
200 P	(G・H-4)G	隅丸方形か	31	不明	45	3 層（3～5 層）／205P に切られる	遺物なし	中世以降
201 P	(H-4)G	隅丸方形	18	18	27	単層／203P を切る	遺物なし	中世以降
202 P	(H-4)G	隅丸方形	24	22	10	上層：ローム粒子を僅かに含む黒褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土	遺物なし	中世以降
203 P	(G-4)G	隅丸方形	16	16	27	単層：ローム粒子を僅かに、ローム ブロックを含む黒褐色土	遺物なし	中世以降
204 P	(F-4)G	隅丸方形	33	32	30	単層：ローム粒子を含む暗褐色土／12Y を切る	遺物なし	中世以降
205 P	(H-4)G	隅丸方形か	不明	23	26	単層（2 層）／201P に切られ、200P を切る	遺物なし	中世以降
206 P	(G-3)G	隅丸長方形か	不明	40	76	6 層（3～8 層）／北側は調査区外／1166D・207P を切る	遺物なし	中世以降
207 P	(G-3・4)G	隅丸長方形か	不明	32	94	単層：ローム ブロックを多く含む暗褐色土／206P に切られ、1166D・208P を切る	遺物なし	中世以降
208 P	(G-4)G	隅丸方形	52	52	52	6 層（9～14 層）／207P に切られ、1166D を切る	遺物なし	中世以降
209 P	(H-3・4)G	隅丸方形か	60	不明	46	7 層（2～8 層）／214・215P に切られる	土器 2 点(Ⅲ)：小破片のため図示なし	中世以降
210 P	(F・G-3)G	隅丸長方形	41	30	68	単層：ローム粒子を僅かに、ローム ブロックを含む黒褐色土／12Y・212P を切る	遺物なし	中世以降
211 P	(G-3)G	隅丸長方形	43	35	112	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ローム ブロックを含む暗褐色土／212P を切る	遺物なし	中世以降
212 P	(G-3)G	隅丸方形か	32	不明	77	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ローム ブロックを多く含む暗黄褐色土／210・211P に切られ、12Y を切る	遺物なし	中世以降
213 P	(G-4)G	隅丸方形	27	22	58	上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土、下層：ローム粒子・ローム ブロックを含む黒褐色土／222P に切られる	遺物なし	中世以降
214 P	(H-3)G	隅丸長方形か	32	不明	49	単層（3 層）／北側は調査区外／209P・215P を切る	遺物なし	中世以降
215 P	(H-3)G	隅丸方形か	不明	不明	43	単層（4 層）／北側は調査区外／214P に切られ、209P を切る	遺物なし	中世以降
216 P	(H-4)G	隅丸方形	32	32	52	上層：ローム粒子を含む黒褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む黒褐色土	遺物なし	中世以降
217 P	(G-4)G	隅丸方形	28	25	36	単層：ローム粒子・ローム ブロックを含む黒褐色土／218P を切り、1168・1169D に切られ、219P と重複	遺物なし	中世以降
218 P	(G-4)G	隅丸方形か	34	不明	37	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ローム ブロックを僅かに含む黒褐色土／217P・1168・1169D に切られ、219P と重複	遺物なし	中世以降
219 P	(G-4)G	隅丸長方形	40	30	65	上層：ローム粒子・ローム ブロックを含む黒褐色土、中層：ローム ブロックを多く含む黄褐色土、下層：ローム粒子・ローム ブロックを僅かに含む黒褐色土／1168・1169D に切られ、217・218P と重複	遺物なし	中世以降
220 P	(G-4)G	隅丸長方形か	25	不明	21	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土／1169D と重複	遺物なし	中世以降
221 P	(G-4)G	隅丸方形	34	40	83	上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土、下層：ローム粒子を僅かに、ローム ブロックを含む黒褐色土	鉄製品 1 点（釘）	中世以降
222 P	(G-4)G	隅丸長方形	22	18	59	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土／213P を切る	遺物なし	中世以降
223 P	(H-3・4)G	隅丸長方形	44	30	63	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックをやや多く含む暗褐色土／224・225P を切る	遺物なし	中世以降
224 P	(H-3・4)G	隅丸方形か	不明	29	30	単層：ローム粒子・ローム ブロックを僅かに含む黒褐色土／223P に切られ、225P を切る	遺物なし	中世以降
225 P	(H-4)G	隅丸長方形か	不明	26	35	上層：ローム粒子を含み、ローム ブロックを僅かに含む暗褐色土、中層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む黒褐色土、下層：ローム粒子・ローム ブロックを含む黒褐色土／223・224P に切られる	土器 1 点（Ⅲ）：小破片のため図示なし	中世以降

第13表　中世以降のピット一覧（6）



第37図　ピット出土遺物（1／4・1／3）

挿図番号 図版番号	遺構名	種別	器種	法量 (cm)	製作の特徴等	推定産地	時期
図版15-1-1	1137D	陶器	徳利	厚 0.5	ロクロ成形／内外面に鉄釉／胎土：色調は灰白色、精錬されている／体部小破片	瀬戸・美濃系	近世 (18c後半)
第27図1 図版15-1-1	1139D	陶器	天目茶碗	高 6.4 口 (11.2) 底 (5.0)	内面及び外面口縁部～体部下半に鉄釉／高台／胎土：色調は白色、砂粒を含む／遺存度：30％	瀬戸・美濃系	近世 (17c前半)
図版15-1-1	1140D	土器	皿	厚 0.7	ロクロ成形／胎土：色調は暗橙色、精錬されている／体部～底部小破片	在地系	中世 (16c代)
第27図1 図版15-1-1	1143D	土器	皿	高 [1.5] 底 (6.0)	ロクロ成形／底部に回転糸切り痕あり／平底／胎土：色調は淡茶色を基調、砂粒をやや多く含む／体部下半～底部破片	在地系	中世 (16c代)
第30図1 図版15-2-1	72M	陶器	皿	高 [1.7] 底 (6.0)	見込みにスタンプ（菊花文）／蛇の目釉ぎ／高台／内面に灰釉／胎土：色調は黄白色を基調、砂粒を僅かに含む／体部下半～底部40％	瀬戸・美濃系	近世 (17c前半)
図版15-3-1	73M	陶器	甕	厚 1.2	外面に鉄釉／内面に輪積み痕あり／胎土：色調は黒褐色、白色砂粒を含む／胴部小破片	常滑	中世 (15c)
図版15-4-1	68P	陶器	碗	厚 0.5	内外面に志野釉／胎土：白色、砂粒を僅かに含む／口縁部～体部小破片	瀬戸・美濃系	中世 (16c後半)
図版15-4-1	80 P	土器	皿	厚 0.5	ロクロ成形／平底／胎土：暗橙色、茶褐色粒子・砂粒を含む／口縁部～底部小破片	在地系	近世 (17c後半)
第37図1 図版15-4-1	100P	土器	皿	高 2.7 口 9.9 底 5.3	ロクロ成形／ロクロ回転は右回転／底部に回転糸切り痕あり／平底／胎土：色調は淡橙色、砂粒をやや多く、石英・角閃石を僅かに含む／遺存度：90％	在地系	中世 (15c末～ 16c初頭)
第37図1 図版15-4-1	103P	木器	椀	高 [2.9] 底 (6.1)	炭化状態／ロクロ成形／高台／高台部破片／材質は自然科学分析の結果、ケヤキと判明（135ページ参照）	不明	中世以降 (詳細不明)
図版15-4-1	110P	土器	皿	厚 0.6	ロクロ成形／胎土：暗橙色、精錬されている／口縁部～体部小破片	在地系	近世 (17c代)
第37図1 図版15-4-1	124P	土器	皿	高 1.6 口 (7.6) 底 (3.4)	ロクロ成形／底部に回転糸切り痕あり／平底／胎土：色調は暗黄褐色、精錬されている／内外面がぼんやりと煤けているため、灯明皿として使用された可能性あり／20％以下破片	在地系	近世 (17c代)
図版15-4-1	143P	土器	皿	厚 0.8	ロクロ成形／胎土：暗橙色、茶褐色粒子・砂粒を僅かに含む／体部小破片	在地系	中世以降 (詳細不明)
図版15-4-1	169P	陶器	擂鉢	高 [2.7]	ロクロ成形／底部立ち上がり部に櫛目あり／外面の底部立ち上がりに櫛目痕か／平底／胎土：黄白色、砂粒を僅かに含む／底部小破片	瀬戸・美濃系	近世 (18c代)

第14表　中世以降の遺構出土陶器・土器・木器一覧

挿図番号 図版番号	出土遺構	種　別	種　類	長さ	幅	厚さ	重さ	特　徴
第27図2 図版15-1-2	1137 D	鉄製品	釘	3.8	0.6	0.6	3.0	頭部上端は平坦／断面は方形／先端部は欠損
第27図3 図版15-1-3	1137 D	銅製品	煙　管	8.4	－	0.05	7.7	雁首／火皿口径1.7㎝／折れ曲がっている／先端部を欠損
第27図1 図版15-1-1	1147 D	銅製品	不明品	5.0	1.3	0.1	3.3	スプーン状（平ら）／杓子か／「く」字状に曲がっている／先端部角を一部欠損
第27図1 図版15-1-1	1164 D	鉄製品	釘	2.6	0.4	0.4	0.6	断面は方形／頭部を欠損
第27図1 図版15-1-1	1168 D	鉄製品	鋤か	5.7	0.8	0.7	8.1	頭部先端は三角形状に尖り、下部は平坦／基部断面は長方形／茎部先端を欠損
第27図1 図版15-1-1	1169 D	鉄製品	釘	6.5	0.7	0.7	11.2	頭部上端は平坦／断面は方形／完形品
第27図2 図版15-2-2	72M	土製品	砥　具	4.3	3.6	1.0	16.5	焙烙を転用し砥具としたもの／使用面は側面で角がれく擦れ平滑／焙烙としては、外面に成形・調整痕が観察できる
図版15-2-3	72M	板　碑	板　碑	4.0	3.6	0.8	20.0	緑泥片岩／縁取りの成形痕あり／表面には工具痕が僅かに残る／小破片
図版15-3-2	73M	板碑か	板碑か	3.6	3.3	0.5	11.0	緑泥片岩／小破片
図版15-4-1	10P	板　碑	板　碑	6.5	4.4	0.8	25.0	緑泥片岩／縁取りの成形痕あり／表面には工具痕が僅かに残る／表面に煤付着／小破片
第37図1 図版15-4-1	33P	石製品	砥　石	9.8	3.4	3.0	127.0	完形／使用面は表裏面、両側面、下面の５面／裏面に幅１㎜程度の擦痕が複数あり／凝灰岩製
第37図1 図版15-4-1	78P	鉄製品	釘	3.0	0.6	0.5	2.4	頭部は屈曲／断面は方形／先端部を欠損
第37図1 図版15-4-1	166P	鉄製品	釘	7.0	0.9	0.9	9.6	断面は方形／頭部を欠損
第37図1 図版15-4-1	221P	鉄製品	釘	3.4	1.3	1.1	6.0	頭部上端は平坦／断面は長方形／先端部の途中で折れ曲がっている

（単位：cm、g）

第15表　中世以降の遺構出土土製品・石製品・金属製品・板碑一覧

100 Pからは、土器１点（皿）が出土した（第37図１、図版15－４－１、第14表）。

103 Pからは、炭化した木器１点（椀）が出土した。自然科学分析の結果（139ページ参照）、材質はケヤキであることが判明した（第37図１、図版15－４－１、第14表）。

110 Pからは、土器１点（皿）が出土した（図版15－４－１、第14表）。

124 Pからは、土器１点（皿）が出土した（第37図１、図版15－４－１、第14表）。

143 Pからは、土器１点（皿）が出土した（図版15－４－１、第14表）。

166 Pからは、鉄製品１点（釘）が出土した（第37図１、図版15－４－１、第15表）。

169 Pからは、陶器１点（擂鉢）が出土した（図版15－４－１、第14表）。

221 Pからは、鉄製品１点（釘）が出土した（第37図１、図版15－４－１、第15表）。

第７節　遺構外出土遺物

ここでは、表土や攪乱から出土した遺物、そして遺構内であるが、明らかに他時期の混入品である遺物を前節までの各時代の出土遺物と区別し、遺構外出土遺物として扱う。

今回、遺構外出土遺物としては、縄文時代の遺物、弥生時代後期～古墳時代前期の土器、平安時代の土器、中世以降の遺物に分類する。

（１）縄文時代の遺物（第38・39図１～39、図版16、第16・17表）

［石　　器］（第38図１・２、図版16－１・２、第16表）

１は黒曜石製の削器である。２はチャート製の二次加工のある剥片である。

［土　　器］（第38・39図３～39、図版16－３～39、第17表）

３～９は早期の土器で、３・４は早期前葉の撚糸文系土器、５～９は早期後葉の条痕文系土器である。

10～21は前期の土器で、10は前期前葉の関山式土器、11～14は前期中葉の黒浜式土器、15～19は前期後葉の諸磯式土器、20は前期後葉の興津式土器である。21は前期末葉の十三菩提式土器と思われる。

22～37は中期の土器で、22～28は中期初頭の五領ヶ台式土器、29～31は中期中葉の阿玉台式土器、32～36は中期後葉の加曽利Ｅ式土器、37は中期後葉の連弧文系土器である。

38・39は後期前葉の堀之内式土器である。

（２）弥生時代後期～古墳時代前期の土器（第39図40～45、図版16－40～45、第17表）

40は高坏形土器、41は鉢形土器、42～45は甕形土器である。

（３）平安時代の土器（図版16－46～48、第17表）

46～48は須恵器で、46・47は坏形土器、48は蓋形土器ある。

（４）中世以降の遺物（第39図49・52・53・57・60・61、図版16－49～61、第18・19表）

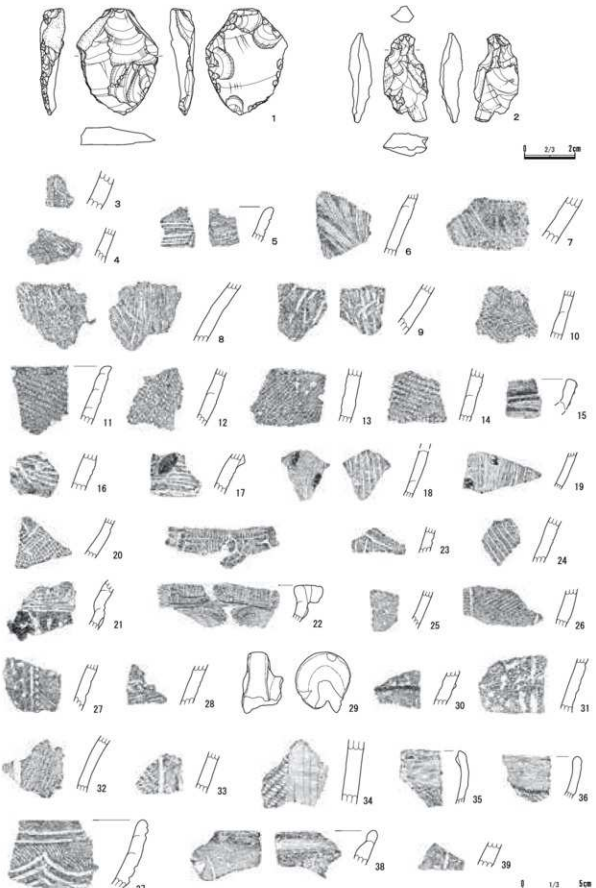
［陶磁器・土器］（第39図49・52・53・57・60、図版16－49～60、第１８表）

49は磁器、50～56は陶器である。

57～60は土器で、57～59は皿形土器、60は手焙りであろうか。

［石製品］（第39図61、図版16－61、第19表）

61は砥石である。石材は凝灰岩である。



第38図　遺構外出土遺物１（2／3・1／3）

挿図番号 図版番号	器　種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特　徴	出土位置
第38図1 図版16-1	削　器	黒曜石	42.3	32.9	9.3	10.0	完形／正面左側縁に連続する急角度の二次加工／裏面両縁に二次加工および微細剥離／正面の一部に原礫面	125P
第38図2 図版16-2	二次加工のある剥片	チャート	17.9	35.6	8.6	4.5	完形／上部は両面に二次加工が施され、抉り形状／正面左右両側縁に二次加工／石鏃の未製品か	322H

（単位：mm，g）

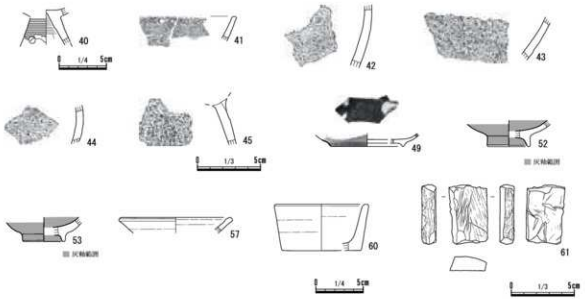
第16表　遺構外出土石器一覧

挿図番号 図版番号	器種 種別	部　位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎　土	時　期 型　式	出土遺構 出土位置
第38図3 図版16-3	深鉢	胴	厚 1.2	外傾	地文はＲ撚糸文を縦位施文	橙／砂粒・礫少量	縄文早期前葉 （撚糸文系）	3 P
第38図4 図版16-4	深鉢	胴	厚 0.8	外傾	地文はＬｒ無節縄文を縦位施文	にぶい褐／砂粒中量、礫少量	縄文早期前葉 （撚糸文系）	164H
第38図5 図版16-5	深鉢	口縁	厚 0.9	平縁／外傾	内外面に横位の条痕文／外面に縦位沈線文	橙／砂粒やや多量、礫極少量	縄文早期末葉 （条痕文系）	322H
第38図6 図版16-6	深鉢	胴	厚 0.9	外傾	外面に縦位・斜位の条痕文	橙／砂粒中量	縄文早期末葉 （条痕文系）	1168D
第38図7 図版16-7	深鉢	胴	厚 1.1	外傾	外面に斜位の条痕文	橙／砂粒多量、繊維少量	縄文早期末葉 （条痕文系）	遺構外
第38図8 図版16-8	深鉢	胴	厚 0.9	外傾	内外面に斜位・縦位の条痕文	にぶい褐／砂粒中量、礫少量、繊維中量	縄文早期末葉 （条痕文系）	1167D
第38図9 図版16-9	深鉢	胴	厚 1.0	外傾	外面に縦位、内面に縦位・斜位の条痕文	にぶい橙／砂粒中量、礫極少量、繊維中量	縄文早期末葉 （条痕文系）	遺構外 (C-3G)
第38図10 図版16-10	深鉢	胴	厚 0.8	外傾	コンパス文／ＬＲ・ＲＬ単節縄文を横位施文した羽状縄文	縄文前期前葉 （関山式）	縄文前期前葉 （関山式）	129P
第38図11 図版16-11	深鉢	口縁	厚 0.9	平縁／外傾	地文はＲＬ単節縄文を横位施文／口唇部は平滑に面取りされる	にぶい黄褐／砂粒少量、繊維多量	縄文前期中葉 （黒浜式か）	1149D
第38図12 図版16-12	深鉢	胴	厚 0.9	僅かに外傾	地文はＬＲ単節縄文を横位施文	にぶい黄橙／砂粒中量、繊維多量	縄文前期中葉 （黒浜式か）	遺構外 (G-4G)
第38図13 図版16-13	深鉢	胴	厚 1.0	ほぼ垂直に立ち上がる	地文はＬＲ単節縄文を横位施文	橙／砂粒やや多量、繊維少量	縄文前期中葉 （黒浜式か）	323H
第38図14 図版16-14	深鉢	胴	厚 0.9	僅かに外傾	地文はＲＬ単節縄文を横位施文	橙／砂粒少量、繊維多量	縄文前期中葉 （黒浜式か）	323H
第38図15 図版16-15	深鉢	口縁	厚 0.9	僅かに内屈し、僅かに外傾	横位の浮線文	浅黄橙／砂粒中量、礫極少量	縄文前期後葉 （諸磯ｂ式）	323H
第38図16 図版16-16	深鉢	胴	厚 1.1	外傾	地文は半截竹管状工具による横位の平行沈線文	にぶい赤褐／砂粒中量、礫極少量	縄文前期後葉 （諸磯ｂ式）	確認調査 1Tr
第38図17 図版16-17	深鉢	胴	厚 1.1	外傾	地文は半截竹管状工具による横位の平行沈線文／ボタン状の貼付文	明赤褐／砂粒少量	縄文前期後葉 （諸磯ｃ式）	12Y 撹乱
第38図18 図版16-18	深鉢	胴	厚 0.7	外傾	地文は半截竹管状工具による縦位の集合沈線文／半截竹管状工具による結節浮線文／内面に縦位の条線状の調整痕	橙／砂粒少量	縄文前期後葉 （諸磯ｃ式）	164H
第38図19 図版16-19	深鉢	胴	厚 0.6	外傾	地文は半截竹管状工具による縦位の集合沈線文／半截竹管状工具による結節浮線文	明赤褐／砂粒少量	縄文前期後葉 （諸磯ｃ式）	1149D
第38図20 図版16-20	深鉢	胴	厚 0.8	外傾し、僅かに内湾する	貝殻腹縁文と並行沈線文による山形文	にぶい褐／砂粒やや多量	縄文前期後葉 （興津Ⅱ式）	164H
第38図21 図版16-21	深鉢	胴	厚 0.9	屈曲し、僅かに外傾	半截竹管状工具による横位平行沈線文／貼付文／印刻文	にぶい褐／砂粒少量、礫少量、片岩少量、白色針状物質多量	縄文前期末葉か （十三菩提式か）	12Y
第38図22 図版16-22	深鉢	口縁	厚 0.8	平縁／やや内湾／口縁部外面が肥厚	口縁部外面に突起／口唇部と口縁部外面に半截竹管状工具による沈線文、結節沈線文	明赤褐／砂粒多量、角閃石やや多量	縄文中期初頭 （五領ヶ台式）	322H
第38図23 図版16-23	深鉢	胴	厚 0.9	僅かに外傾	半截竹管状工具による沈線文	明赤褐／砂粒少量	縄文中期初頭 （五領ヶ台式）	181P
第38図24 図版16-24	深鉢	胴	厚 0.9	外傾	半截竹管状工具による沈線文を矢羽状に施す	にぶい赤褐／砂粒中量、雲母片多量	縄文中期初頭 （五領ヶ台式）	173P

第17表　遺構外出土土器一覧（１）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部　位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎　土	時　期 型　式	出土遺構 出土位置
第38図25 図版16-25	深鉢	胴	厚 0.7	外傾	半截竹管状工具による細線文	褐／砂粒少量	縄文中期初頭 (五領ヶ台式)	164H
第38図26 図版16-26	深鉢	胴	厚 0. 8	僅かに外傾	地文は ＬＲ単節縄文を横位施文／沈線文、結節沈線文を縦位施文	黒褐／砂粒多量、角閃石多量	縄文中期初頭 (五領ヶ台式)	164H
第38図27 図版16-27	深鉢	胴	厚 0.9	外傾	縦位沈線区画内に交互刺突文／沈線脇に刺突列が沿う	橙／砂粒多量	縄文中期初頭 (五領ヶ台式)	119P
第38図28 図版16-28	深鉢	胴	厚 0.9	外傾	地文は結節文を横位施文	灰黄褐／砂粒中量、礫やや多量、雲母片多量	縄文中期初頭 (五領ヶ台式)	1167D
第39図29 図版16-29	深鉢	口縁 把手	厚 1.7	円形の突起／口縁部は僅かに内傾	突起は口縁部に直行して貼り付けられる	橙／砂粒少量、礫極少量	縄文中期中葉 (阿玉台式)	1167D
第39図30 図版16-30	深鉢	胴	厚 0.9	外傾	横位の細い隆帯脇に押引文が沿う	にぶい黄橙／砂粒多量、雲母片多量	縄文中期中葉 (阿玉台式)	322H
第39図31 図版16-31	深鉢	胴	厚 0.8	僅かに外傾	ヒダ状圧痕	にぶい赤褐／砂粒少量、角閃石極少量	縄文中期中葉 (阿玉台式)	193P
第39図32 図版16-32	深鉢	胴	厚 0.8	外反し、外傾	地文は ＲＬ単節縄文を斜位施文／２本一対の沈線による懸垂文／懸垂文間は磨り消される	淺黄橙／砂粒中量、礫極少量	縄文中期後葉 (加曽利E3式)	遺構外 (G-4G)
第39図33 図版16-33	深鉢	胴	厚 0.9	僅かに外傾	地文は ＬＲ単節縄文を縦位施文／２本一対の沈線による懸垂文／懸垂文間は磨り消される	明赤褐／砂粒少量	縄文中期後葉 (加曽利E3式)	164H
第39図34 図版16-34	深鉢	胴	厚 1.2	ほぼ垂直に立ち上がる	地文は ＬＲ単節縄文を縦位施文／磨消文	にぶい黄橙／砂粒少量、雲母片極少量	縄文中期後葉 (加曽利E3式)	323H
第39図35 図版16-35	深鉢	口縁	厚 0.6	僅かに内湾し、直立／口唇部内面が肥厚	ＲＬ単節縄文を横位施文後、口縁部を磨消	橙／砂粒極少量	縄文中期後葉 (加曽利E4式)	323H
第39図36 図版16-36	深鉢	口縁	厚 0.6	僅かに内湾し、直立	ＲＬ単節縄文を横位施文後、口縁部を磨消	にぶい橙／砂粒極少量	縄文中期後葉 (加曽利E4式)	164H
第39図37 図版16-37	深鉢	口縁	厚 1.0	外傾し、僅かに内湾する	地文は条縄文／口縁部上端に２本の横位沈線／３本一対の連弧文	黒褐／砂粒多量、角閃石少量	縄文中期後葉 (連弧文系)	遺構外
第39図38 図版16-38	深鉢	口縁	厚 1.0	外傾	沈線による懸垂文	橙／砂粒中量	縄文後期前葉 (堀之内1式)	遺構外
第39図39 図版16-39	深鉢	胴	厚 1.0	外傾	沈線による懸垂文	にぶい黄橙／砂粒中量、礫少量	縄文後期前葉 (堀之内1式)	322H
第39図40 図版16-40	高坏	脚台	高 [3.7]	脚台部「ハ」の字状	横線文／円形透かし孔／坏部内面及び脚台部外面に赤彩／内面：坏部底部はヘラ磨き調整、脚台部はハケ目調整後縦部はヘラナデ	暗赤褐色／砂粒をやや多く、茶褐色粒子を含む	弥生後期～古墳前期（廻間Ⅰ～Ⅱ式期）	189P
第39図41 図版16-41	鉢	口縁	厚 0.4	口縁部は内湾	外面口縁部に ＬＲ単節縄縄文、下端に端末結節状文／内外面の無文部は赤彩／内外面：無文部ヘラ磨き調整	暗黄褐色を基調／黄褐色粒子・橙色粒子を含む	弥生後期～古墳前期	73M
第39図42 図版16-42	甕	胴	厚 0.6	胴部は膨らみをもつ	内面：ハケナデ／外面：ハケ目調整	暗茶褐色／黄褐色粒子・橙色粒子をやや多く含む	弥生後期～古墳前期	遺構外 (F-4G)
第39図43 図版16-43	胴	胴	厚 0.5	丸味をもつ	内面：ヘラナデ／外面：ハケ目調整	暗茶褐色／黄褐色粒子・橙色粒子を含む	弥生後期～古墳前期	遺構外 (F-4G)
第39図44 図版16-44	甕	胴	厚 0.4	丸味をもつ	内面：ヘラナデ／外面：ハケ目調整	赤茶褐色／黄褐色粒子・橙色粒子・砂粒を含む	弥生後期～古墳前期	1164D
第39図45 図版16-45	甕	脚台	厚 0.7	台付甕／脚台部「ハ」の字状	内面：ハケナデ／外面：ハケ目調整後粗いヘラ磨き調整	暗茶褐色／黄褐色粒子・砂粒を含む	弥生後期～古墳前期	1164D
図版16-46	須恵器 坏	口縁～体部破片	厚 0.4	口唇部は僅かに外反	ロクロ成形／ロクロは右回転／内面口縁部に一部平滑面あり／東金子製品	灰色／砂粒を僅かに含む粒度で精選されている	平安時代 (9c後葉か)	200P
図版16-47	須恵器 坏	底部破片	高 [5.0]	平底	ロクロ成形／ロクロは右回転／内面口縁部に一部平滑面あり／底部に回転糸切り痕あり／酸化焼成か／鳴山製品	淡茶褐色／茶褐色粒子・白色針状物質を僅かに砂粒を含む	平安時代 (9c後葉か)	72M
図版16-48	須恵器蓋	天井～口縁破片	厚 0.5	口縁部にかえりあり	ロクロ成形／東金子製品	灰白色／黒色粒子・白色砂粒を含む	平安時代 (9c後葉か)	1137D

第17表　遺構外出土土器一覧（２）



第39図　遺構外出土遺物２（1／4・1／3）

図版番号	種別	器種	法量 (cm)	製作の特徴等	推定産地	出土位置	時期
第39図49 図版16-49	磁器	皿	高 [1.4] 底 (7.8)	染付／内面：牡丹、外面：高台に二重圏線／体部下半～底部20％以下	肥前系	164H	近　世 (17c中)
図版16-50	陶器	皿	高 [2.3]	志野釉／口縁部は内湾／胎土：黄白色、精錬されている／底部～体部小破片	瀬戸・美濃系	確認調査 1Tr	近　世 (17c前半)
図版16-51	陶器	皿	厚 0.7	菊皿／外面底部を除き灰釉／胎土：黄白色を基調、精錬されている／体部小破片	瀬戸・美濃系	確認調査 1Tr	近　世 (17c前半)
第39図52 図版16-52	陶器	碗	高 [2.8] 底 (4.6)	内外面灰釉／高台／胎土：灰白色、胎土は精錬されている／底部下半～底部破片	唐　津	遺構外	近　世 (17c前半)
第39図53 図版16-53	陶器	碗	高 [2.6] 底 (4.6)	内外面灰釉／高台／高台潤に砂目付着／胎土：淡黄褐色、胎土は精錬されている／体部下半～底部破片	唐　津	164H	近　世 (17c前半)
図版16-54	陶器	鉢	厚 0.7	内外面に自然釉／胎土：灰色、白色砂粒を含む／口縁部小破片	常　滑	164H	中　世 (15c代)
図版16-55	陶器	擂鉢	高 [3.8]	複合口縁部／内外面に鉄釉／／胎土：黄白色、砂粒を僅かに／口縁部～体部小破片	瀬戸・美濃系	確認調査 2Tr	中　世 (15c代)
図版16-56	陶器	甕	厚 0.7	外面に自然釉／胎土：茶褐色、白色砂粒を含む／内面に指頭による成形痕が残る／胴部破片	常　滑	確認調査 4Tr	中　世 (詳細不明)
第39図57 図版16-57	土器	皿	高 [1.7] 口 (12.0)	ロクロ成形／口唇部は沈線状／胎土：暗黄褐色、砂粒・茶褐色粒子・金雲母を含む／口縁部～体部破片	在地系	遺構外 (E-6) G	中　世 (15c中)
図版16-58	土器	皿	厚 0.7	ロクロ成形／口縁部はやや内湾／胎土：暗橙色、精錬されている／口縁部～体部小破片	在地系	遺構外 (D-5) G	中　世 (15c中)
図版16-59	土器	皿	厚 0.8	内外面黒く煤けている／胎土：淡茶褐色、精錬されている／ロクロ成形／体部破片	在地系	遺構外 (D-5) G	中　世 (15c中)
第39図60 図版16-60	土器	手焙りか	高 4.9 口 (10.0) 底 (8.4)	半筒形／平底／底部に回転糸切り痕あり／内外面黒く煤けている／胎土：淡茶褐色、砂粒を含み、雲母・角閃石を僅かに含む／徐による成形後に横ナデ／外面：磨き調整／遺存度：20％以下	在地系	遺構外	中　世 (15c中)

第18表　遺構外出土陶磁器・土器一覧

掲図番号 図版番号	種　別	種　類	長さ	幅	厚さ	重さ	特　徴	出土位置	時　期
第39図61 図版16-61	石製品	砥　石	4.7	3.0	1.1	25.8	上下両端を欠損／使用面は表裏面の２面／凝灰岩製	確認調査 1Tr	中世以降

（単位：cm、g）

第19表　遺構外出土石製品一覧

第３章　中野遺跡第114地点の調査

第１節　遺跡の概要

中野遺跡は、志木市柏町１丁目を中心に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の北方約1.2㎞に位置している。本遺跡は、北側に柳瀬川を臨む台地上に位置し、標高は北端で約９ｍ、南端で約11ｍを測り、台地縁辺は緩やかに北側の低地に移行している。遺跡の西側には南北方向に谷が入り込んでおり、その谷の西側には城山遺跡が広がっている。遺跡の現況は、宅地化が急激に進んでおり、現在では畑地はほとんど見られなくなっている。

本遺跡の最初の発掘調査は、昭和59（1984）年に実施された第２地点で、これまでに120地点の調査（令和3年12月28日現在）が実施され、旧石器時代、縄文時代早～晩期、弥生時代後期、古墳時代後期、奈良・平安時代、中・近世、近代に至る複合遺跡であることが判明している。

第２節　調査の経緯

（1）調査に至る経過

令和２年２月、仲介業者であるＪＡあさか野から志木市教育員会（以下、教育委員会）へ開発計画地内における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて照会があった。計画は志木市柏町１丁目1486番８・９・21（面積618.00㎡）地内に分譲住宅建設（予定）を行うというものである。

これに対し、教育委員会は、当該開発予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である中野遺跡（コード11228－09－002）に該当するため、大旨下記のとおり回答した。

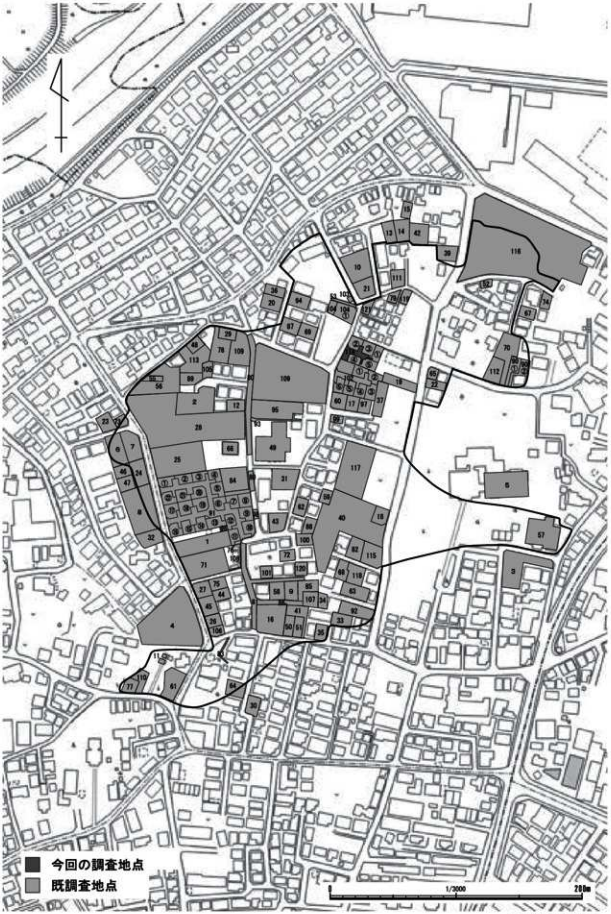
1．埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施して、その結果に基づき、当該開発予定地の埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて回答する。

2．上記１の調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合、埋蔵文化財の保存措置を講ずること。また、やむを得ず埋蔵文化財に影響を与える工事を実施する場合は、記録保存のための発掘調査を実施する必要があること。

令和２年３月５日、教育委員会は、土地所有者である個人より確認調査依頼書を受理し、中野遺跡第114地点として、３月23～25日の３日間で確認調査を実施した（第41図）。教育委員会は、この結果をただちに確認調査依頼者に報告し、保存措置について検討を依頼した。

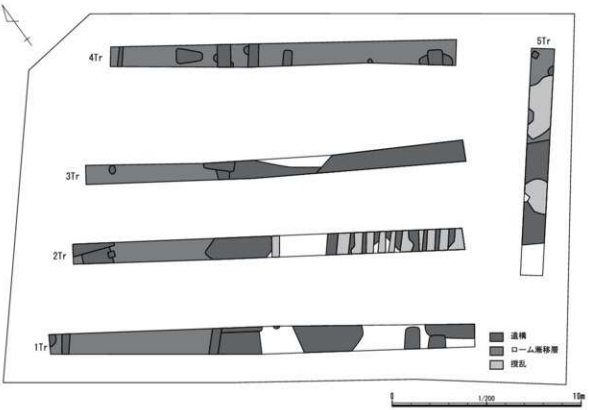
７月30日に株式会社ライフコート（代表取締役　岩崎大介）と埋蔵文化財の保存措置について協議を行った。その結果、工事内容は宅地造成および道路新設工事であり、宅地造成部分については盛土保存とし、道路部分については発掘調査を実施することに決定した。また、同日に株式会社ライフコートより志木市埋蔵文化財保存事業委託申請書が提出されたため、志木市埋蔵文化財保存事業受託要綱第２条第２項に基づき、９月10日に発掘調査実施に向けた事前協議を実施した。

教育委員会は、９月11日付けで埋蔵文化財発掘の届出及び発掘調査通知を埼玉県教育委員会に提出



令和3年12月28日現在

第40図　中野遺跡の調査地点　（1／3,000）



第41図　確認調査時の遺構分布（１／200）

した。

９月28日には、志木市と株式会社ライフコートは、志木市埋蔵文化財保存事業に係る協議書を取り交わし、委託契約を締結した。また、同日に教育委員会は発掘調査を実施した。

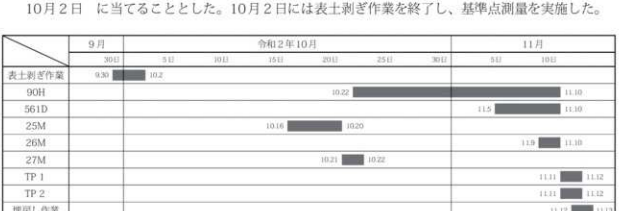
（２）発掘調査の経過

ここでは、発掘調査の大まかな経過を説明することにし、各遺構の精査経過については、第20表の発掘調査工程表に示した。

９月28日　発掘調査を開始する。現地にプレハブ・仮設トイレを設置する。

９月30日～　重機（バックホー）による表土剥ぎ作業を開始する。残土置場は敷地内の未調査部分

10月２日　に当てることとした。10月２日には表土剥ぎ作業を終了し、基準点測量を実施した。



第20表　中野遺跡第114地点の発掘調査工程表

15日　人員を導入し、調査器材搬入、調査区整備、遺構確認作業を行う。本日中に調査区西側の遺構検出状況の写真撮影を完了した。

16日　遺構検出作業の続きを行う。調査区中央から東側の遺構検出状況の写真撮影を完了した。中世以降の溝跡（25M）の精査を開始する。

19～28日　古墳時代後期の住居跡（90H）、平安時代の溝跡（27M）の精査を開始する。27Mは当初、段切状遺構と想定していたが、溝状に立ち上がりを有し、方形のプランが確認できたことから、溝跡とした。25Mの精査を終了する。

11月２～10日　平安時代の溝跡（26Ｍ）、中世以降の土坑（561Ｄ）の精査を開始する。90Ｈ、26Ｍ、561Ｄの精査を終了する。

11日　基本土層を確認するため、トレンチ２か所（ＴＰ１・２）を設定し、掘削を開始する。ＴＰ１の基本土層の写真撮影を行う。

12日　ＴＰ２の基本土層の写真撮影を行う。ＴＰ１・２の基本土層断面図を作成する。埋め戻し作業を開始する。

13日　埋め戻しを完了する。

（３）基本層序

本地点の基本層序の確認および旧地形を考察するため、テストピット（以下ＴＰ）を２箇所に設定し、土層の記録を行った（第43図）。確認した層位は立川ローム第Ⅹ層である。なお、立川ローム第Ⅷ層は確認されなかった。Ⅰａ層は現代の表土および攪乱である。Ⅰｂ層は旧表土で、ＴＰ１で一部確認されている。Ⅱ層は黒ボク土からローム層への漸移層であり、上下でⅡａ層、Ⅱｂ層に分けた。Ⅲ層からⅩ層はローム層であり、層の色調や内容物の観察、層順から立川ローム第Ⅲ層から第Ⅹ層に相当する。本地点の基本層序は、武蔵野台地で確認される立川ロームの標準的な層序と言える。

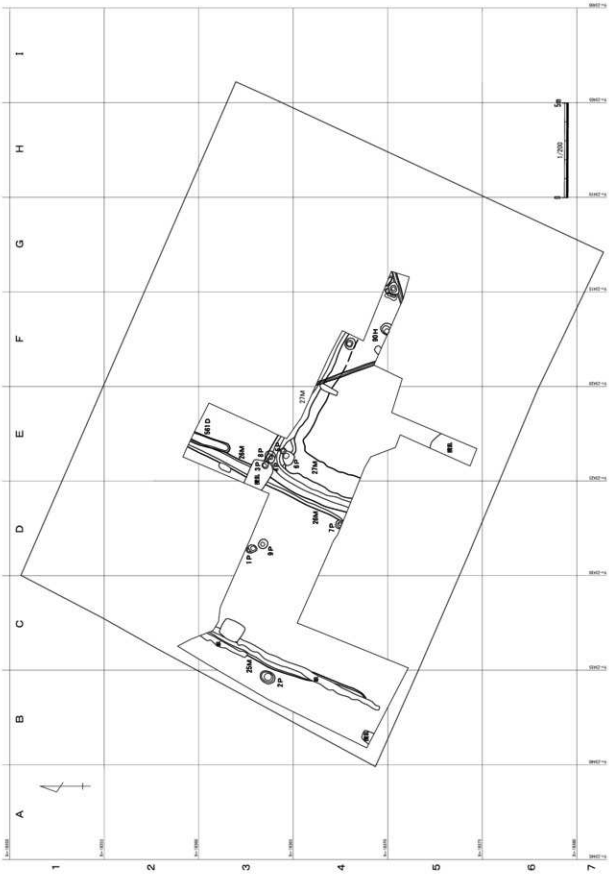
本地点の地形面については、ＴＰ１・Ａ－Ａ′、ＴＰ２・Ａ－Ａ′を比較すると、現地形面は南東から南西方向に傾斜が認められる。ＴＰ１－２の間では約14ｍの距離があり、現地形面の標高差は約44㎝である。Ⅴ層－Ⅵ層の境でみると、ＴＰ１－２の間で標高差が約54㎝、Ⅸ層－Ⅹ層の境でみると、ＴＰ１－２の間で標高差が約57㎝である。これらのことから、旧地形は、概ね現地形と変わりないことが分かる。漸移層であるⅡ層が残存していることからも、本地点では大きな地形改変はなかったと言える。

第３節　検出された遺構・遺物

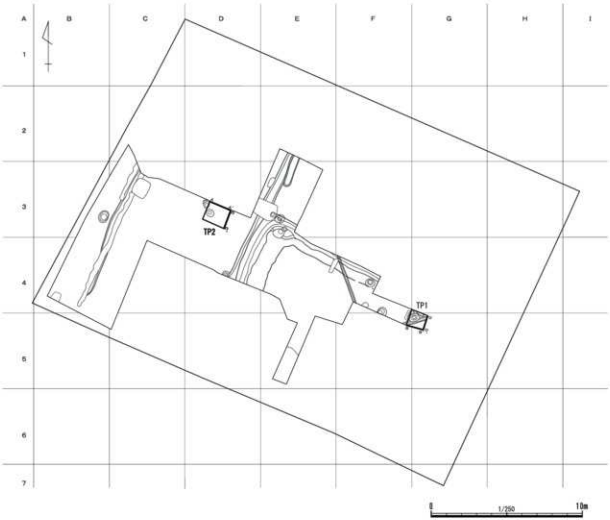
（１）概　要

本地点からは、縄文時代のピット３本（２・８・９Ｐ）、古墳時代後期の住居跡１軒（90Ｈ）、平安時代～中世以降の土坑１基（561Ｄ）・溝跡３本（25～27M）・ピット６本（１・３～７Ｐ）が検出された。また、遺構外からは、縄文時代の遺物、平安時代の土器、中世以降の陶器が出土している。

各遺構の時期については、まず、縄文時代のピットの時期は、２Ｐは早期後葉（条痕文系）、９Ｐは前期前葉の花積下層式と比定できたが、８Ｐについては、遺物が出土しなかったため、覆土の観察から



第42図　遺構分布図（1／200）



Ⅰa層　表土及び撹乱。
Ⅰb層　黒色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含み、ロームブロック・焼土粒子をごく僅かに含む。しまり強、柔たい
Ⅱa層　暗褐色土　白色粒子(φ0.5mm)をごく僅かに、黒色スコリア(φ1mm)・橙色スコリア(φ1mm)を僅かに含む。しまり強、層厚薄上地。
Ⅱb層　暗褐色土　白色粒子(φ0.5mm)をごく僅かに、黒色スコリア(φ1mm)・橙色スコリア(φ1mm)を僅か　に含む。しまり強、層厚薄下層、Ⅱa上り明るい。
Ⅲ層　明黄褐色土　白色粒子(φ0.5mm)・黒色スコリア(φ1mm)・橙色スコリア(φ1.2mm)をごく僅かに含む。粘性あり、しまり強、軟質ローム。
Ⅳ層　明黄褐色土　白色粒子(φ0.5mm)を僅かに、黒色スコリア(φ2～4mm)・橙色スコリア(φ1～4mm)を含む。粘性あり、しまり強、硬質。
Ⅴ層　黄褐色土　白色粒子(φ0.5mm)を僅かに、黒色スコリア(φ1～3mm)・橙色スコリア(φ1～5mm)を含む。粘性あり、しまり強、第1黒色帯、黒色が薄い。
Ⅵ層　明黄褐色土　白色粒子(φ0.5mm)・黒色スコリア(φ1～3mm)を含み、橙色スコリア(φ1～3mm)を僅かに含む。粘性ややあり、しまり強、ATを含含層。
Ⅶ層　暗黄褐色土　白色粒子(φ0.5mm)・橙色スコリア(φ1～3mm)を僅かに、黒色スコリア(φ1～5mm)を含む。粘性あり、しまり強、軟質ローム。
Ⅸ層　暗黄褐色土　白色粒子(φ0.5mm)を僅かに、黒色スコリア(φ1～5mm)・橙色スコリア(φ1～5mm)を含む。粘性強、しまり強、第2黒色帯下層。
Ⅹ層　明黄褐色土　白色粒子(φ0.5mm)をごく僅かに、黒色スコリア(φ1～2mm)・橙色スコリア(φ1～2mm)を僅かに含む。粘性強、しまり強。

第43図　基本土層（１／250・１／60）

縄文時代の所産のものと判断した。

古墳時代後期の90Hについては、出土遺物から古墳時代後期（６世紀中葉）と考えられる。

平安時代～中世以降の遺構として、特に27Mについては、北西端において「く」字状に屈曲することが確認できたため、方形区画をもつ溝跡であると考えられる。時期については、１点であるが青磁碗（図版22－２－１）が出土していることから、平安時代（12世紀代）に比定される可能性がある。

なお、中世以降の時代設定は、遺物が出土した場合、陶磁器・土器などの年代を中心に詳細年代を明示したが、それ以外は中世以降と表記した。

（２）住居跡

90号住居跡

遺　構（第44図）

［位　置］（Ｆ・Ｇ－４・５）グリッド。

［検出状況］大部分が調査区外にあり、検出された範囲では、南西隅の西壁・南壁周辺である。27Mに北西側は切られる。

［構　造］**平面形**：方形と思われる。**規模**：現存で南北軸約5.9ｍ／東西軸約4.5ｍ／遺構確認面からの深さ20㎝前後。**壁**：約70°程度の角度で立ち上がる。**主軸方位**：Ｎ－12°－Ｗ。壁溝：上幅15～28㎝／下幅５～10㎝／床面からの深さ５～17㎝。**床面**：硬化面は壁際を除く住居中央部で確認できた。貼床は西壁に接する幅25～80㎝でやや蛇行する溝状に窪む掘り方が確認できたことから、西壁付近を除く住居中央近くはほぼ直床で貼床は施されなかったと考えられる。貼床の厚さは20㎝前後である。**カマド**：検出されなかった。**貯蔵穴**：検出されなかった。**柱穴**：２本（Ｐ１・Ｐ２）が検出された。２本のピットの配置から、Ｐ１は主柱穴４本のうちの南西ピット、Ｐ２は主柱穴４本の間に設けられた補助柱と考えられる。本住居跡は８本柱で構成されるものと推測される。**入口施設**：住居南壁に接し検出されたＰ３付近が入口施設に関係する付随施設と考えられる。深さ67㎝のＰ３とその北側の深さ25㎝の小ピット、さらにその周りに廻らされた高さ２～４㎝の微隆起帯が入口施設と想定した。**その他**：入口施設のすぐ西側と住居北西近くで粘土範囲２か所が検出された。

［覆　土］セクションＡ－Ａ′で11層（3～13層）に分層できた。特に南壁近くにはローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む暗黄褐色土の４～６層が上層～中層に堆積していることが確認できた。南壁の入口付近は、埋没工程の後半以降に人為的な埋戻しが行われた可能性がある。

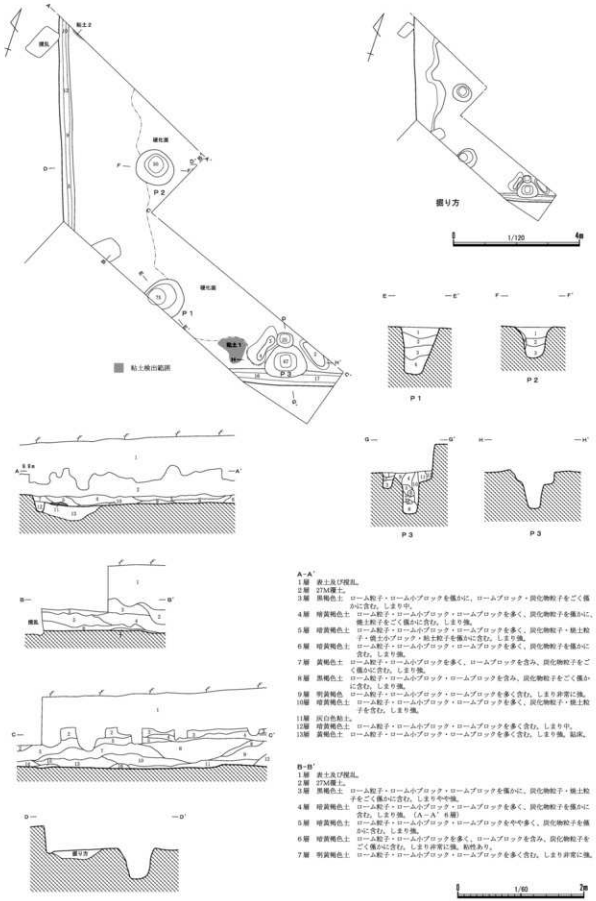
［遺　物］土師器坏・高坏・甑・甕形土器が出土した。その他として、炭化種実１点（モモ）が出土している。

［時　期］古墳時代後期（６世紀中葉）。

遺　物（第45図、図版22－１、第21表）

［土　器］（第45図８～12、図版22－１－１～12、第21表）

６～11は土師器坏形土器、１・２・12は土師器高坏形土器、３は土師器甑形土器、４・５は土師器甕形土器である。



C–C'

1層　表土及び撹乱。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに、炭化物粒子・焼土粒子をごく僅かに含む。しまりやや強。（B－B' 3層）
3層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック含み、炭化物粒子・焼土小ブロックを僅かに含む。しまり強。
4層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。
5層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。（B－B' 5層）
6層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く、炭化物粒子を僅かに、炭化材・焼土粒子をごく僅かに含む。しまり強。
7層　黒色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含み、炭化物粒子をごく僅かに含む。しまり強。
8層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。
9層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
10層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。
11層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含み、炭化物粒子をごく僅かに含む。しまり強。
12層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり強。
13層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含み、炭化物粒子をごく僅かに含む。しまり強。
14層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含み、炭化物粒子をごく僅かに含む。しまり非常に強。粘性あり。（B－B' 8層）
15層　明黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり非常に強。
16層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり非常に強。

P1

1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり弱。
4層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。

P2

1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く、炭化物粒子をごく僅かに含む。しまりやや強
3層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり強。
4層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。

P3

1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
4層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりや。
5層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
6層　ロームブロック。
7層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり非常に強。
8層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり非常に強。
9層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く、炭化物粒子をごく僅かに含む。しまり中。
10層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く、炭化物粒子をごく僅かに含む。しまり強。
11層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く、炭化物粒子をごく僅かに含む。しまり中。
12層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに、炭化物粒子・焼土粒子をごく僅かに含む。しまり強。

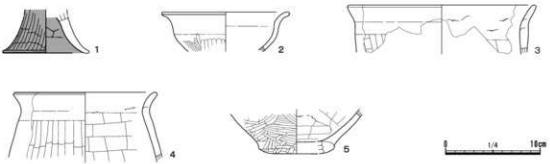
A–A'

1層　表土及び撹乱。
2層　27Hz層土。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに、ロームブロック・炭化物粒子をごく僅かに含む。しまりや。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く、炭化物粒子を僅かに、焼土粒子をごく僅かに含む。しまり強。
5層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く、炭化物粒子・焼土粒子・焼土小ブロック・粘土粒子を僅かに含む。しまり強。
6層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
7層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含み、炭化物粒子をごく僅かに含む。しまり強。
8層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子をごく僅かに含む。しまり強。
9層　明黄褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり非常に強。
10層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く、炭化物粒子・焼土粒子を含む。しまり強。
11層　灰白色粘土。
12層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。
13層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。結果。

B–B'

1層　表土及び撹乱。
2層　27Hz層土。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに、炭化物粒子・焼土粒子をごく僅かに含む。しまりやや強。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。（A－A' 6層）
5層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
6層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含み、炭化物粒子をごく僅かに含む。しまり非常に強。粘性あり。
7層　明黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり非常に強。

第44図　90号住居跡・遺物出土状態（1／60・1／120）



第45図　90号住居跡出土遺物(1／4)

挿図番号 図版番号	種別 器種	部　位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎　土	出土位置
第45図1 図版22-1-1	土師器 高坏	脚部 20％	高 [4.6] 底 (8.6)	短脚タイプ／裾部に向かって全体に外反する／内外面赤彩／入間系土師器	内面：ハケ目調整後ヘラナデ／外面：裾部は横ナデ、脚柱部はハケ目調整後ヘラ磨き調整	暗赤褐色を基調／砂粒を含む	P1すぐ東側の覆土中（床上31㎝）
第45図2 図版22-1-2	土師器 高坏	口縁部～体部 20％	高 [4.2] 口 (13.5)	脚台部がないが高坏の可能性あり／口縁部は外反する／口縁部と体部との境に弱い稜をもつ	内面：横ナデ／外面：口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り	暗黄褐色を基調／砂粒をやや多く、黄褐色粒子・金雲母を僅かに含む	入口梯子穴(P3)すぐ北側の覆土中（床上26㎝程）
第45図3 図版22-1-3	土師器 甕	口縁部～胴部畳半 20％以下	高 [5.2] 口 (20.0)	口縁部は外反する	内面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り	暗黄褐色を基調／砂粒をやや多く、金雲母・小石を僅かに含む	P2西側の覆土中（床上32・35㎝）
第45図4 図版22-1-4	土師器 甕	口縁部～ 胴部上半 20％	高 [7.4] 口 (15.2)	口縁部は外反する／口縁部と胴部との境はスムーズ	内面：口縁部は横ナデ、以下は横方向のハケナデ／外面：口縁部は横ナデ、以下は縦方向のハケナデ	暗黄褐色を基調／砂粒をやや多く、茶褐色粒子を含む	入口梯子穴(P3)付近の覆土中（床上8㎝程）とP3上層
第45図5 図版22-1-5	土師器 甕	胴部下半 ～底部 30％	高 [4.7] 底 (8.0)	底部は丸底気味／胴部は膨らむタイプと思われる／底部に縦坑の圧痕あり／内外面が黒色であるため、黒色土器の可能性あり	内面：ヘラナデ／外面：ヘラ削り後粗いヘラ磨き調整	黒茶褐色を基調／砂粒をやや多く、角閃石を僅かに含む	覆土中
図版22-1-6	土師器 坏	口縁部～ 体部小破 片	厚 [0.5]	いわゆる比企型坏／口縁部は短く外反する／口唇部内面に沈線がまわる／内面及び外面口頸部は赤彩／入間系土師器	内面：横ナデ／外面：口縁部は横ナデ、体部は粗いヘラ磨き調整	暗赤褐色／茶褐色粒子・砂粒を含む	西壁近くの覆土中（床上24㎝程）
図版22-1-7	土師器 坏	口縁部～ 体部小破 片	高 [2.5]	いわゆる比企型坏／口縁部は短く外反する／口唇部内面に沈線なし／内面及び外面口頸部は赤彩／入間系土師器	内面：横ナデ／外面：口縁部は横ナデ、体部は粗いヘラ磨き調整	暗赤褐色／茶褐色粒子・砂粒を含む	P2上部の覆土中（床上24㎝）
図版22-1-8	土師器 坏	口縁部～ 底部小破 片	厚 [0.5]	有段坏／口縁部は外傾する／口縁部と底部との境に段をもつ／内面及び外面口縁部は赤彩／入間系土師器	内面：横ナデ／外面：口縁部は横ナデ、底部はヘラ磨き調整	暗赤褐色／茶褐色粒子・砂粒を含む	西壁近くの覆土中（床上15㎝）
図版22-1-9	土師器 坏	口縁部～ 底部小破 片	高 [2.3]	有段坏／口縁部は途中膨らみをもち僅かに外傾する／口縁部と底部との境に段をもつ	内面：横ナデ／外面：口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り	暗黄褐色を基調／茶褐色粒子・砂粒を含む	西壁すぐ近くの覆土中（床上27㎝）
図版22-1-10	土師器 坏	口縁部～ 底部小破 片	高 [4.0]	小針型坏か／器形は扁平で口縁部は大きく外傾する／口縁部は外傾する／口縁部と底部との境に段をもつ	内面：横ナデ／外面：口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り	淡黄褐色を基調／砂粒を僅かに含む	覆土中
図版22-1-11	土師器 坏	口縁部～ 底部小破 片	高 [2.5]	黒色有段坏／坏身模倣タイプ／口縁部は僅かに内傾する／口縁部と底部との境に段をもつ／内外面黒彩	内面：横ナデ／外面：口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り	淡茶褐色／砂粒を含む	西壁近くの覆土中（床上22㎝）
図版22-1-12	土師器 高坏	坏部小破 片	高 [4.5]	口縁部～体部／口縁部は内湾する／／内外面赤彩／入間系土師器	内外面：ていねいな横ナデ	暗赤褐色／茶褐色粒子・砂粒・小石を含む	P1すぐ東側の覆土中（床上35㎝）

第21表　90号住居跡出土土器一覧

（３）土　坑

561号土坑

遺　構（第46図）

［位　　置］（Ｅ－２・３）グリッド。

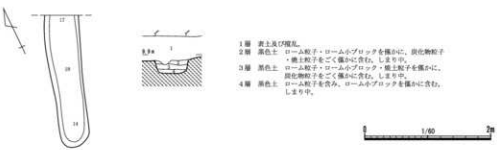
［検出状況］北西側は調査区外に延び、26Ｍを切る。

［構　　造］**平面形**：溝状の長方形。**規模**：検出長2.08ｍ／検出最大幅0.56ｍ／深さ14～19㎝。**壁**：80°の角度で立ち上がる。**長軸方位**：Ｎ－25°－Ｅ。

［覆　　土］３層（２～４層）に分層された。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。



第46図　561号土坑（１／60）

（４）溝　跡

25号溝跡

遺　構（第47図）

［位　　置］（Ｂ・Ｃ－３・４）グリッド。

［検出状況］北東側は調査区外に延び、南西端は調査区内で途切れるものと思われる。後世の畝が平行しており、部分的に攪乱を受ける。

［構　　造］**規模**：検出長10.20ｍ／検出最大幅0.7ｍ／下端0.20ｍ前後／遺構確認面からの深さ４～14㎝と浅い。**断面形**：皿状を基本とする。壁：緩やかに立ち上がる。**走行方位**：Ｎ－28°－Ｅ。

［覆　　土］ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調とする。

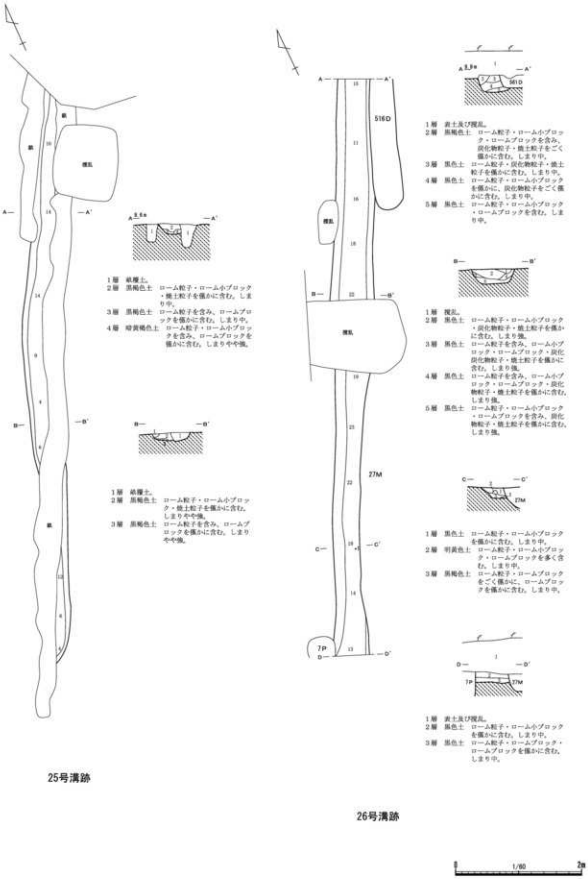
［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から中世以降と考えられる。

［所　　見］南西端で途切れているが、さらに南側は掘り込みが浅く、遺構自体が上がっているが、さらに続いている可能性がある。本遺構に関連する遺構として、南側に隣接する第102地点（尾形・大久保・深井・青木　2019）において、最西端で17Ｍが検出されている。17Ｍは、一旦は西側調査区外に延びている状況であるが、本地点で本遺構につながる可能性が考えられる。

26号溝跡

遺　構（第47図）



第47図　25・26号溝跡（1／60）

［位　　置］（Ｄ・Ｅ－２～４）グリッド。

［検出状況］北東側、南西側は調査区外に延びる。561Ｄ・27Ｍ・７Ｐに切られる。

［構　　造］**規模**：検出長9.10ｍ／検出最大幅0.7ｍ／下端0.40ｍ前後／遺構確認面からの深さ13～22㎝。**断面形**：逆台形を基本とする。**壁**：70°の角度で立ち上がる。**走行方位**：Ｎ－31°－Ｅ。

［覆　　土］ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒色土を基調とする。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］27Ｍに切られ、さらに覆土の観察から平安時代と考えられる。

27号溝跡

遺　　構（第48図）

［位　　置］（Ｄ～Ｆ－３・４）グリッド。

［検出状況］南東側、北東側は調査区外に延びる。北西端では、「く」字状に屈曲することが確認できた。４～６Ｐに切られ、26Ｍ・90Ｈを切る。

［構　　造］（南北方向）**規模**：検出長5.00ｍ／検出最大幅2.20ｍ／下端0.20～0.40ｍ／遺構確認面からの深さ33～42㎝。**断面**：西側が70°～80°の角度で急斜面、東側がダラダラと緩やかに立ち上がる。溝底面は凸凹がある。**走行方位**：Ｎ－30°－Ｅ。（東西方向）**規模**：検出長8.66ｍ／検出最大幅1.00ｍ／下端0.20～0.30ｍ／遺構確認面からの深さ26～42㎝。**断面**：北側が70°の角度で急斜面、南側がダラダラと緩やかに立ち上がる。溝底面は凸凹がある。**走行方位**：Ｓ－58°－Ｅ。**その他**：区画内の状況はセクションＢ－Ｂ'及びＣ－Ｃ'の断面図を見ると緩やかに区画内側→外側に標高が下がっていることが確認できる。確認面の状況としては、当初、段切状遺構として捉えて調査を開始したようにローム上層は削平されている状況である。

［覆　　土］ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む黒褐色～黒色土を基調とする。

［遺　　物］磁器１点（青磁碗）・石製品１点（砥石）が出土した。

［時　　期］平安時代（12世紀代）。

［所　　見］調査当初は、本遺構の東側エリアについて、本遺構を含め段切状遺構と認識し精査を進めたが、遺構確認面における平場造成の痕跡を確認することができなかったことから、溝跡（27Ｍ）とした。しかし、本遺構が「く」字状の区画を有する遺構と捉えるのであれば、内部構造を有するものとして、区画内は本遺構に関連するエリアであり、溝跡では捉えるべきではない遺構の可能性がある。

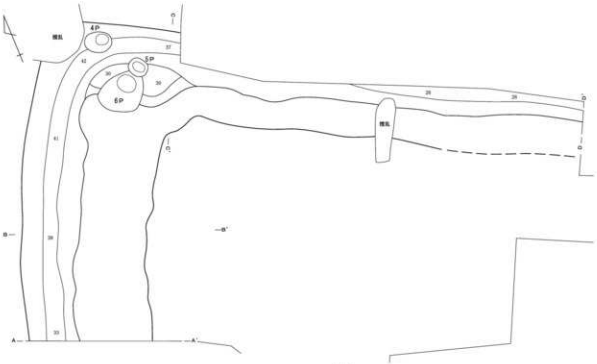
遺　　物（第48図２、図版22－２－１・２）

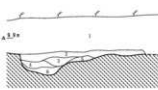
［磁　　器］（図版22－２－１）

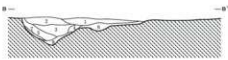
１は青磁碗の口縁部小破片である。口唇部内面直下に２本の沈線がまわる。胎土は灰白色を呈し、精錬されている。中国製で時期は12世紀代に比定できる。

［石 製 品］（第48図２、図版22－２－２）

２は凝灰岩製の砥石である。長さ6.2㎝・幅3.0㎝・厚さ2.2㎝・重さ65.8ｇ。使用面は表裏面と両側面の４面である。表面には擦痕が顕著で、裏面に幅2.5㎜程度の擦痕が４条認められる。上下端部を欠損する。







A-A'

1層　表土及び撹乱。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまりやや強。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子をごく僅かに含む。しまりや。
4層　黒色土　ローム粒子・ローム小ブロックをごく僅かに含む。しまりや。
5層　黒褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりや。
6層　黒褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロック。炭化物粒子を僅かに含む。しまりや。

B-B'

1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子をごく僅かに含む。しまりやや強。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまりや。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに、炭化物粒子をごく僅かに含む。しまりや。
4層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに、炭化物粒子をごく僅かに含む。しまりや。
5層　黒色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに、炭化物粒子・焼土粒子をごく僅かに含む。しまりや。
6層　黒褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまりや。
7層　黒褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりや。
8層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりや。

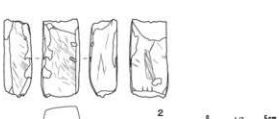
C-C'

1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまりや。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまりや。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまりや。
4層　黒色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまりや。
5層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりや。
6層　ロームブロック。
7層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりや。

0　1/60　2m

D-D'

1層　表土及び撹乱。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに、炭化物粒子・焼土粒子をごく僅かに含む。しまりや。
3層　黒色土　ローム粒子を僅かに、ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子をごく僅かに含む。しまりや。



第48図　27号溝跡・出土遺物（1／60・1／3）

（５）ピット（第49・50図、図版22―３、第22表）

本地点で検出されたピットは計９本（１～９Ｐ）である。そのうち、縄文時代のピットは３本（２・８・９Ｐ）、中世以降のピットは６本（１・３～７Ｐ）である。

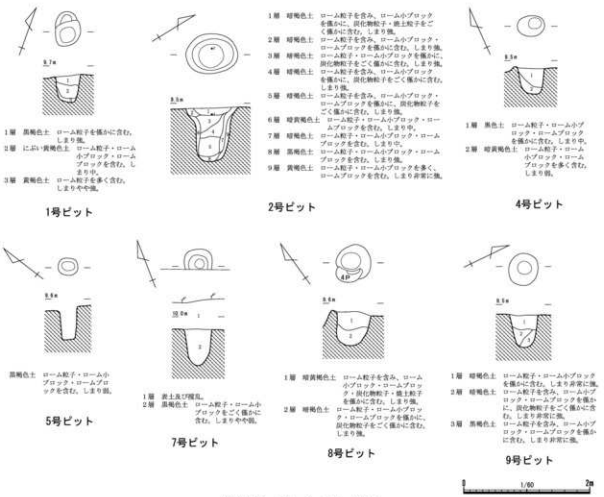
中世以降のピットからは、出土遺物がなかったため、各ピットの内容については第22表に示すこととし、ここでは縄文時代のピットについて記述することとし。

２号ピット

遺　構（第49図）

［位　置］（Ｂ－３）グリッド。

［構　造］平面形：楕円形。規模：長軸82㎝／短軸63㎝／深さ86㎝。



第49図　ピット（１／60）

第50図　２号ピット出土遺物（１／3）

遺構名	位置	平面形	規模（cm）			覆土及び特徴等	主な遺物	時　期
			長軸	短軸	深さ			
１Ｐ	(D-3)G	隅丸長方形	40	37	2	３層／２本重複形	遺物なし	中世以降
２Ｐ	(B-3)G	楕円形	82	63	86	９層	土器２点（縄文時代早期後葉条痕文系）	縄文時代早期後葉（条痕文系）
３Ｐ	(E-3)G	隅丸方形	35	32	22	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む暗黄褐色土を基調／攪乱内からの検出	遺物なし	中世以降
４Ｐ	(E-3)G	隅丸方形	43	32	43	２層／27Mを切る	遺物なし	中世以降
５Ｐ	(E-3)G	隅丸方形	31	26	50	単層／27M・6Pを切る	遺物なし	中世以降
６Ｐ	(E-3)G	隅丸長方形	74	60	35	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土を基調／5Pに切られ、27Mを切る	遺物なし	中世以降
７Ｐ	(D-4)G	隅丸方形か	44	不明	59	単層／26Mを切る	遺物なし	中世以降
８Ｐ	(E-3)G	楕円形	56	不明	55	２層／27M・4Pに切られる	遺物なし	縄文時代
９Ｐ	(D-3)G	円　形	50	46	52	３層	土器１点（縄文時代前期前葉花積下層式か）；小破片のため図示できなかった	縄文時代前期前葉（花積下層式期か）

第22表　ピット一覧

［覆　　土］９層に分層された。

［遺　　物］土器２点（縄文時代早期後葉条痕文系土器）が出土した。

［時　　期］縄文時代早期後葉（条痕文系）。

遺　　物（第50図１・２、図版22－３－１・２）

１・２は縄文時代早期後葉の条痕文系土器である。１は色調が暗茶褐色を基調とし、胎土には繊維・角閃石・砂粒を含む。２の条痕文は不明瞭で、内面は黒く煤けている。色調は暗橙色を基調とし、胎土には繊維・白色針状物質・砂粒を含む。

８号ピット

遺　　構（第49図）

［位　　置］（Ｅ－３）グリッド。

［構　　造］**平面形**：楕円形。**規模**：長軸 56㎝／短軸 不明／深さ 55㎝。

［覆　　土］２層に分層された。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から縄文時代と思われる。

９号ピット

遺　　構（第49図）

［位　　置］（Ｄ－３）グリッド。

［構　　造］**平面形**：円形。**規模**：長軸 50㎝／短軸 46㎝／深さ 52㎝。

［覆　　土］３層に分層された。

［遺　　物］土器１点（花積下層式土器か）が出土したが、小破片のため図示できなかった。

［時　　期］縄文時代前期前葉（花積下層式期）か。

（６）遺構外出土遺物（第51図、図版25－４、第23～25表）

ここでは、表土や攪乱から出土した遺物、そして遺構内であるが、明らかに他時期の混入品である遺物を前節までの各時代の出土遺物と区別し、遺構外出土遺物として扱った。なお、縄文時代の土器・石器については、第43図で示した基本土層のⅡ層として漸移層が上下でⅡａ層・Ⅱｂ層に確認されているため、本来は遺物包含層に含まれる可能性がある。

今回、遺構外出土遺物としては、縄文時代の遺物、平安時代の土器、中世以降の陶器に分類する。

①縄文時代の遺物（第51図、図版22－４－１～25、第23・24表）

［石　　器］（第51図１～３、図版22－４－１～３、第23表）

１は、上下両端から縦方向の剥離が連続し対向剥離となり、上下両端の縁辺が潰れ状になっていることから、楔形石器とした。正面に原礫面を有する剥片を素材とする。石材は黒曜石である。

２は石核で、全面に剥離が施される。最終の剥離面としては、上面を打面として不定形剥片を剥離している。石材は黒曜石である。

３は敲石と思われる。下半部を欠損する。上端、右側縁、裏面中央部に敲打痕が残る。右側縁には敲打時についたと思われる剥離面も観察される。石材は砂岩である。

［土　　器］（第51図４～25、図版22－４－４～25、第24表）

早期・前期・中期・後期の土器が出土している。各時代の点数は、早期３点、前期８点、中期７点、後期４点の合計22点で、比較的に出土量は少なかった。

４～６は早期後葉の条痕文系土器である。

７～14は前期の土器で、７～12は前期前葉の花積下層式土器、13・14は前期後葉の諸磯式土器である。

15～21は中期の土器で、15は中期初頭の五領ヶ台式土器、16は中期中葉の阿玉台式土器、17～21は中期後葉の加曽利Ｅ式土器である。

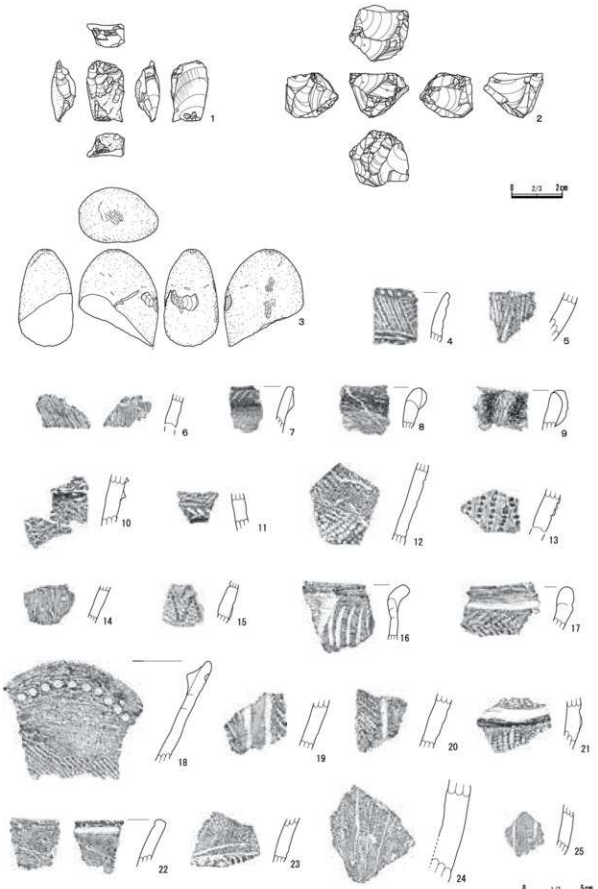
22～25は後期前葉の堀之内式土器である。

②平安時代の土器（図版22－４－26、第25表）

26は須恵器坏の底部のみの破片である。胎土に白色針状物質を含むことから、鳩山製品と考えられる。時期は底部破片のみのため詳細設定は難しいが、底径5.3㎝で底部に回転糸切り痕が残ることから、９世紀後半と思われる。

③中世以降の陶器（図版22－４－27、第25表）

27は陶器皿の底部小破片で、瀬戸・美濃系の灰釉皿である。ロクロ成形され、底部には回転糸切り痕が残る。時期は小破片のため詳細設定は難しいが、15世紀代と思われる。



第51図　遺構外出土遺物(2／3･1／3)

挿図番号 図版番号	器　種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特　徴	出土位置
第51図1 図版22-4-1	楔形石器	黒曜石	24.4	15.3	9.5	3.4	完形／上下端に潰れ状の微細剥離と縦長の剥離面	確認調査 (2Tr)
第51図2 図版22-4-2	石　核	黒曜石	20.3	24.5	22.8	8.8	完形／正面側では上面を打面として不定形剥片を剥離	90H
第51図3 図版22-4-3	敲　石	砂岩	78.6	63.2	43.0	226.1	下半を欠損／上端・右側縁・裏面中央部に敲打痕	確認調査 (2Tr)

（単位：mm，g）

第23表　遺構外出土石器一覧

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎　土	時期 型式	出土遺構 出土位置
第51図4 図版22-4-4	深鉢	口縁	厚0.9	平縁／僅かに外反し、僅かに外傾	口唇部に刻み目／口縁部外面に鋸歯状の条痕文／２条の横位沈線文で区画	にぶい黄橙／砂粒中量、繊維多量	縄文早期後葉 (打越式か)	遺構外 畝
第51図5 図版22-4-5	深鉢	胴	厚1.2	僅かに内彎し、僅かに外傾	外面に縦位の条痕文	明赤褐／砂粒・繊維中量	縄文早期後葉 (条痕文系)	遺構外 (E-3) G
第51図6 図版22-4-6	深鉢	胴	厚0.9	ほぼ直立する	外面に斜位の条痕文、内面に縦位の条痕文	にぶい赤褐／砂粒中量、片岩・繊維少量	縄文早期後葉 (条痕文系)	90H
第51図7 図版22-4-7	深鉢	口縁	厚0.7	平縁／僅かに外傾	口唇部直下幅広の隆帯貼り付け／ＬＲ単節縄文を横位施文	褐／砂粒中量、礫極少量、繊維多量	縄文前期前葉 (花積下層式)	遺構外 畝
第51図8 図版22-4-8	深鉢	口縁	厚1.0	平縁／直立する／口唇部外側が肥厚	口唇部に貝殻背圧痕文か	黒褐／砂粒中量、繊維多量	縄文前期前葉 (花積下層式)	遺構外 (E-3) G
第51図9 図版22-4-9	深鉢	口縁	厚1.0	平縁／僅かに外傾	口縁部に貼付文	明赤褐／砂粒少量、繊維多量	縄文前期前葉 (花積下層式)	26M
第51図10 図版22-4-10	深鉢	胴	厚1.1	僅かに外傾	不鮮明であるが、無節Ｒ１・Ｌｒの羽状縄文／２本の横位隆帯/隆帯脇に刺突文	にぶい黄橙／砂粒中量、繊維多量	縄文前期前葉 (花積下層式)	27M
第51図11 図版22-4-11	深鉢	胴	厚1.0	僅かに内傾	Ｌｒ撚糸側面圧痕文／斜位沈線文	橙／砂粒・繊維中量、角閃石少量	縄文前期前葉 (花積下層式)	90H
第51図12 図版22-4-12	深鉢	胴	厚0.9	外傾	単節ＲＬ・ＬＲの羽状縄文	にぶい褐／砂粒中量、繊維多量	縄文前期前葉 (花積下層式)	確認調査 3Tr
第51図13 図版22-4-13	深鉢	胴	厚11	外傾	結節浮線文を縦位施文	にぶい赤褐／砂粒中量	縄文前期後葉 (諸磯ｃ式)	遺構外 (C-3) G
第51図14 図版22-4-14	深鉢	胴	厚0.7	外傾	地文は縦位の集合沈線文	にぶい黄橙／砂粒多量、角閃石少量	縄文前期後葉 (諸磯ｃ式)	90H
第51図15 図版22-4-15	深鉢	胴	厚0.9	外傾	地文はＲＬ単節縄文／結節浮線文	明赤褐／砂粒多量、雲母片中量	縄文中期初頭 (五領ヶ台式)	26M
第51図16 図版22-4-16	深鉢	口縁	厚0.7	内彎し、口唇部で外側に屈曲	連続する縦位の沈線文	にぶい赤褐／砂粒・礫中量、雲母片多量	縄文中期中葉 (阿玉台式)	遺構外 (B-5) G
第51図17 図版22-4-17	深鉢	口縁	厚1.0	平縁／ほぼ直立する	ＬＲ・ＲＬ単節縄文を横位施文し、羽状構成／沈線による区画	橙／砂粒少量	縄文中期後葉 (加曽利E3式)	遺構外 (E-3) G
第51図18 図版22-4-18	深鉢	口縁	厚0.9	波状口縁／外傾	地文はＬＲ単節縄文を縦位施文／口縁に沿って円形刺突文／口縁部内側に隆帯	にぶい褐／砂粒中量	縄文中期後葉 (加曽利E3式)	90H

第24表　遺構外出土縄文土器一覧（１）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎　土	時期 型式	出土遺構 出土位置
第51図19 図版22-4-19	深鉢	胴	厚 1.1	外傾	地文はＬＲ単節縄文を縦位施文／２本一対の懸垂文／懸垂文間は磨消	にぶい橙／砂粒・角閃石少量	縄文中期後葉 (加曽利E3式)	90H
第51図20 図版22-4-20	深鉢	胴	厚 1.2	外傾	地文はＬＲ単節縄文を縦位施文／懸垂文／磨消文	橙／砂粒中量、礫少量	縄文中期後葉 (加曽利E3式)	90H
第51図21 図版22-4-21	深鉢	胴	厚 1.0	直立する	地文はＲＬＬ単節縄文を斜位施文／横位沈線文／沈線脇に隆帯	明赤褐／砂粒多量	縄文中期後葉 (加曽利E3式)	遺構外 (F-4) G
第51図22 図版22-4-22	深鉢	口縁	厚 0.9	平縁／外傾	外面に横位沈線文／口縁部内面に沈線文	にぶい橙／砂粒中量	縄文後期前葉 (堀之内１式)	遺構外 (E-4) G
第51図23 図版22-4-23	深鉢	胴	厚 0.9	わずかに外反し、外傾	地文はＬＲ単節縄文／２本の横位沈線文／沈線文脇に刺突列	にぶい黄橙／砂粒多量、角閃石中量	縄文後期前葉 (堀之内１式)	遺構外 (D-3) G
第51図24 図版22-4-24	深鉢	胴	厚 1.9	僅かに外傾	複数の沈線による懸垂文	にぶい黄橙／砂粒多量、礫少量	縄文後期前葉 (堀之内１式)	90H
第51図25 図版22-4-25	深鉢	胴	厚 0.9	ほぼ直立する	２条の懸垂文	にぶい橙／砂粒少量	縄文後期前葉 (堀之内１式)	27M

第24表　遺構外出土縄文土器一覧（２）

図版番号	種別	器種	法量 (cm)	製作の特徴等	推定産地	出土位置	時　期
図版22-4-26	土器	須恵器 坏	高 [0.8] 底 5.3	ロクロ成形／底部に回転糸切り痕あり／胎土：灰色、白色針状物質をやや多く、白色砂粒を含む／底部50％	鳴山製品	(E-3)G	平　安 (9c後半)
図版22-4-27	陶器	皿	高 [0.7]	ロクロ成形／内面に灰釉／底部に回転糸切り痕あり／胎土：黄白色、砂粒を含む／底部小破片	瀬戸・美濃系	(E-4)G	中　世 (15c)

第25表　遺構外出土土器・陶器一覧

第４章　中道遺跡第92地点の調査

第１節　遺跡の概要

中道遺跡は、志木市柏町５丁目を中心に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の１㎞に位置している。本遺跡は、南北方向に約300ｍ、東西方向に約330ｍの広がりをもち、面積54,420㎡を有している。

遺跡を地勢的に見ると、武蔵野台地の北端部にあたり、標高は北端で約13ｍ、南端で約14ｍ、低地との比高差は約７ｍである。遺跡の現況は都市計画道路富士見・大原線（ユリノキ通り）の開通とともに各種開発が盛んに行われ、畑地は急激に減少している。

本遺跡は、これまでに95地点の調査（令和３年12月28日現在）が実施され（第52図）、旧石器時代、縄文時代中期、古墳時代前・中・後期、平安時代、中・近世に至る複合遺跡であることが判明している。

第２節　調査の経緯

（１）調査に至る経過

令和２年２月、土地所有者である個人から志木市教育員会（以下、教育委員会）へ開発計画地内における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについての照会があった。計画は志木市柏町５丁目2977番１の一部（面積433.66㎡）地内に分譲住宅建設を行うというものである。

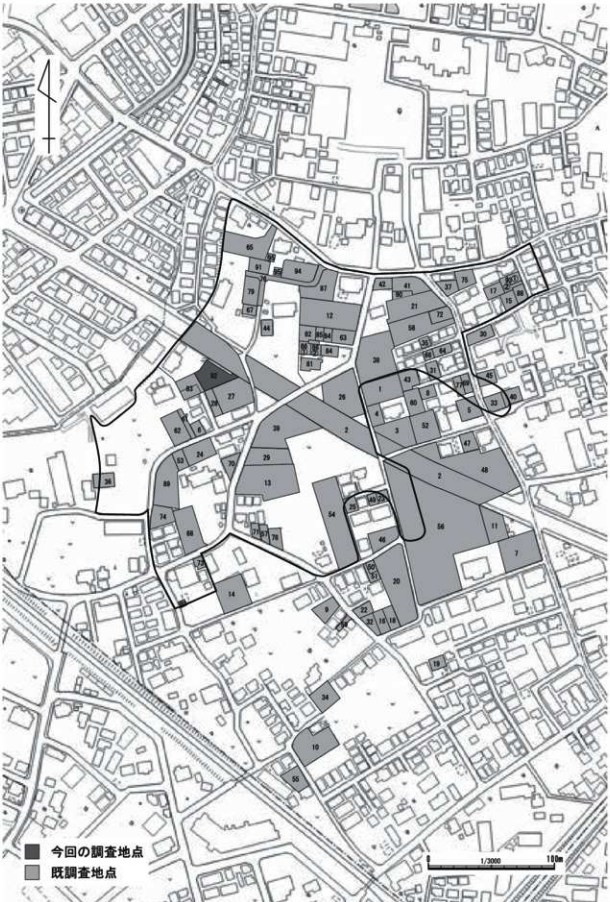
これに対し、教育委員会は、当該開発予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である中道遺跡（コード11228－09－005）に該当するため、大旨下記のとおり回答した。

１．埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施して、その結果に基づき、当該開発予定地の埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて回答する。

２．上記１の調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合、埋蔵文化財の保存措置を講ずること。また、やむを得ず埋蔵文化財に影響を与える工事を実施する場合は、記録保存のための発掘調査を実施する必要があること。

６月29日、教育委員会は、株式会社マイタウンより確認調査依頼書を受理し、中道遺跡第92地点として、７月15・16日の２日間で確認調査を実施した。確認調査は、第53図に示すように調査区内に４本のトレンチ（１～４Ｔｒ）を設定し、バックホーで表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、中世以降の土坑21基・溝跡１本・ピット14本・段切状遺構を確認した。段切状遺構は、各トレンチで確認されたことから、調査区全面に広がっていると考えられる。

教育委員会は、この結果をただちに株式会社マイタウンに報告し、保存措置について検討を依頼した。令和２年８月３日に株式会社マイタウンと土木工事主体者である土地所有者（以下、工事主体者）と埋蔵文化財の保存措置について事前打合せを行った。同日には、志木市埋蔵文化財保存事業受託要綱の規定により、工事主体者から志木市埋蔵文化財保存事業委託申請書が提出された。その後、土木工事計画が確定し、その内容は、宅地造成、道路新設工事および分譲住宅建設を実施するものであった。全



令和3年12月28日現在

第52図　中道遺跡の調査地点(1／3000)

３区画のうち、③区画については、十分な文化財保護層が確保できるため、盛土保存とし、①・②区画については十分な文化財保護層が確保できないことから、道路部分とあわせて発掘調査を実施することに決定した。

10月28日、教育委員会は、志木市埋蔵文化財保存事業受託要綱第２条第２項に基づき、工事主体者と発掘調査実施に向けた事前協議を実施した。11月９日、志木市と工事主体者の間で志木市埋蔵文化財保存事業に係る協議書が取り交わされ、同日に委託契約を締結した。

教育委員会は、11月４日付けで埋蔵文化財発掘の届出及び発掘調査通知を埼玉県教育委員会に提出し、11月10日から発掘調査を実施した。

（２）発掘調査の経過

ここでは、発掘調査の大まかな経過を説明することにし、各遺構の精査経過については、第26表の発掘調査工程表に示した。

11月10日　発掘調査を開始する。調査区の東半を１区、西半を２区とし、１区から重機（バックホー）による表土剥ぎ作業を開始する。残土置場は２区および北側の調査区外とした。

11・12日　表土剥ぎ作業の続きを行う。12日には１区の表土剥ぎ作業を終了する。

13日　人員を導入し、調査器材搬入、調査区整備を行う。確認調査で調査区全体が段切状遺構であることが判明していたため、遺構確認作業と併せて中世以降の段切状遺構の精査を実施した。

16日　遺構検出状況兼段切状遺構全景の写真撮影を行う。その後、遺構の精査に入る。中世以降の溝跡（９Ｍ）の精査を開始する。段切状遺構の精査では、段切面の高低差を把握するため、コンター図を作成した。

17～20日　中世以降の土坑（292～294Ｄ）の精査を開始する。293Ｄは人骨が出土したことから土坑墓と考えられる。段切状遺構のコンター図を追加作成する。294Dの精査を終了する。

24～30日　中世以降の土坑（295～297Ｄ）、中世以降の溝跡（46M）、縄文時代の住居跡（13Ｊ）の精査を開始する。段切状遺構の精査では、調査区壁面のセクション図を作成する。293～297Ｄ、46Mの精査を終了する。

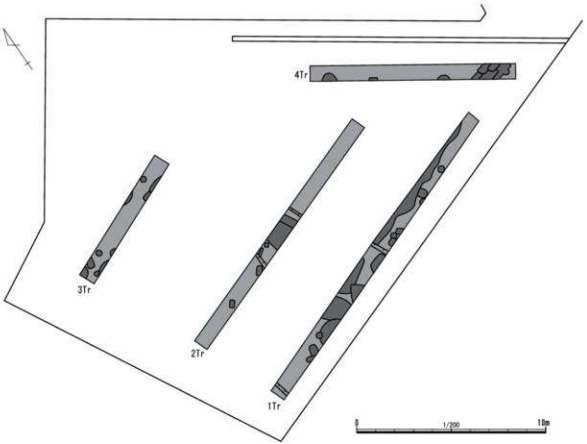
12月１日　13J・292Ｄの精査を終了する。１区全景の写真撮影を行い、本日で１区の精査を終了する。

２日　１区の埋め戻し作業を開始する。本日中に埋め戻し作業を終了し、２区の表土剥ぎ作業を開始する。

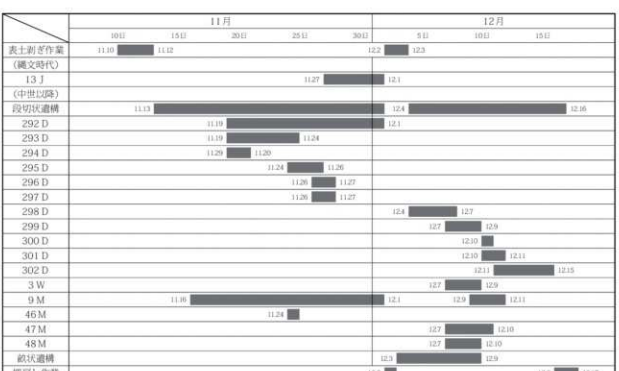
３日　２区の表土剥ぎ作業を終了する。人員を導入し、調査機材搬入、調査区整備を行う。遺構確認作業と併せて中世以降の段切状遺構の精査を実施する。遺構検出状況兼段切状遺構全景の写真撮影を行う。その後、遺構精査に入り、畝の精査を開始する。

４～９日　中世以降の土坑（298・299Ｄ）、中世以降の井戸跡（３Ｗ）、中世以降の溝跡（47・48M）の精査を開始し、２区にかかる９Ｍの精査を開始する。298・299Ｄ、３Ｗ、48W、畝の精査を終了する。

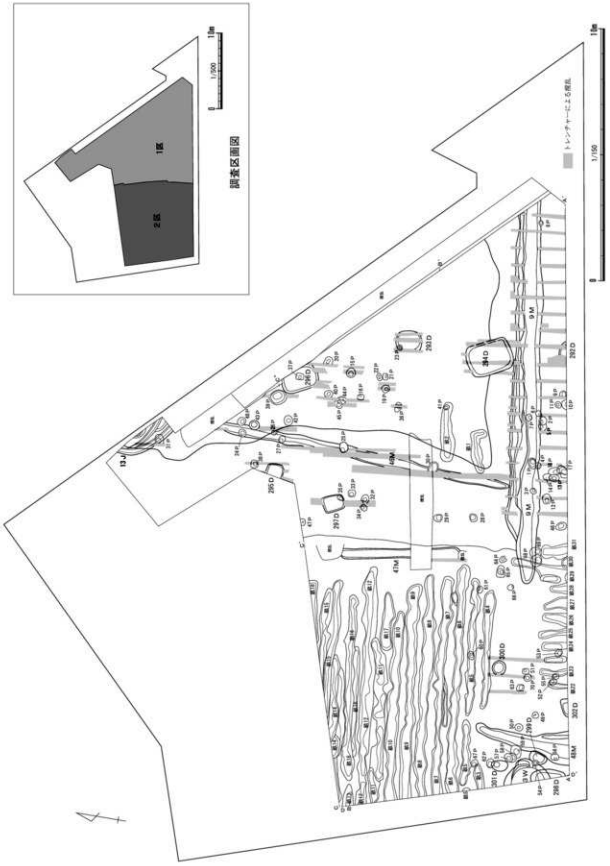
10～15日　中世以降の土坑（300～302Ｄ）の精査を開始する。２区内の段切状遺構の掘り方の



第53図　確認調査時の遺構分布（１／200）



第26表　中道遺跡第92地点の発掘調査工程表



第 54 図　遺構分布図（1／150）

精査を開始する。300～302 D、47W、９Mの精査を終了する。15日には器材を撤収させる。

16日　調査区壁面セクション図を完成させ、段切状遺構の精査を終了する。埋め戻し作業を開始する。17日には埋め戻し作業を終了し、すべての調査を完了する。

第３節　縄文時代の遺構・遺物

（１）概　要

縄文時代の遺構としては、住居跡１軒（13Ｊ）が検出された。13Ｊは北側大部分が調査区外にあると思われ、プラン全体は把握できなかったが、時期は出土土器から、中期中葉（勝坂式期）に比定できる。

（２）住居跡

13号住居跡

遺　　構（第55図）

［位　　置］調査区南西端。

［検出状況］北側の大部分が調査区外であるため、詳細不明である。壁溝が２重に確認できたことから、拡張住居と考えられる。

［構　　造］**平面形**：円形か。**規模**：検出最大長1.06ｍ／遺構確認面からの深さ20㎝（最深）。**壁**：80°の角度で立ち上がる。**主軸方位**：不明。**壁溝**：２重に検出された。（内側）上幅20㎝前後・下幅５～10㎝・深さ21～24㎝。（外側）上幅30㎝前後・下幅10～15㎝・深さ15～16㎝。**床面**：床面を確認できる範囲が少なかったが、僅かに硬化面が認められる程度である。**炉**：検出されなかった。**貯蔵穴**：検出されなかった。**柱穴**：主柱穴はＰ１が該当するものと思われる。深さ80㎝。**入口施設**：検出されなかった。**掘り方**：全体に15～20㎝の掘り込みに貼床（15・16層）が施されている。

［覆　　土］ローム粒子を多く、ローム小ブロックや炭化物粒子を含む黒褐色土を基調とする。

［遺　　物］土器11点・石器３点が出土した。

［時　　期］中期中葉（勝坂式期）。

［所　　見］壁溝が２重に巡ることから、住居の建替えが行われた可能性がある。

遺　　物（第56図、図版28－１、第27・28表）

［土　　器］（第56図１～11、図版28－１－１～11、第27表）

１は前期前葉の関山式土器である。

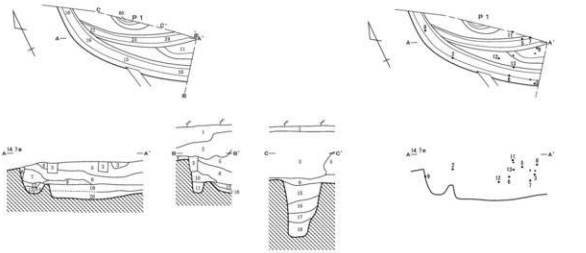
２～６は前期末葉～中期初頭の土器で、３～６は中期初頭の五領ヶ台式土器である。

７～10は中期中葉の勝坂式土器である。

11は中期後葉の連弧文系土器である。

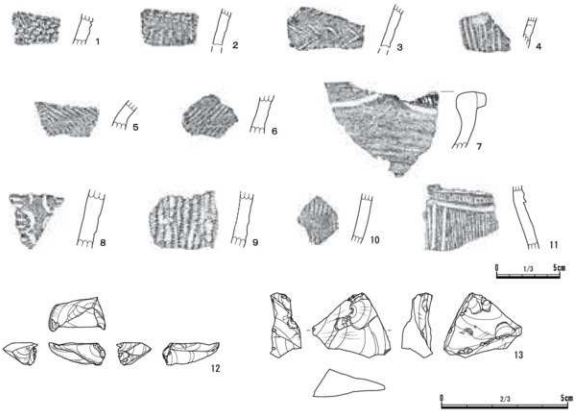
［石　　器］（第56図12・13、図版28－１－12・13、第28表）

12は黒曜石製の石核である。13は黒曜石製の剥片であり、全体に被熱している。



1層　砂石層。
2層　炭土。
3層　褐灰及び緑。
4層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりやや強。
　　炭状状透明層上。
5層　黒褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロック・炭化物粒子を含み、焼土粒子を
　　微かに含む。しまり強。
6層　黒褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く、
　　炭化物粒子を含み、炭化材・焼土粒子を微かに含む。しまり強。
7層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを微かに含む。
　　しまり強。
8層　にぶい黄褐色土　ローム粒子を微かに含む。しまりやや強。
9層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子を微かに
　　含む。しまり非常に強。
10層　暗褐色土　ローム粒子をやや多く、ローム小ブロック・炭化物粒子を含む。しまり
　　強。
11層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。
12層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
13層　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含む。しまり強。
14層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックをやや多く含む。
　　しまり非常に強。
15層　暗褐色土　ローム粒子をやや多く、ローム小ブロック・ロームブロックを微かに含
　　む。しまり強。
16層　暗褐色土　ローム粒子を含む。しまりやや。
17層　にぶい黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを微かに含む。しまりやや。
18層　黄褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微かに含む。しまりやや。
19層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。
20層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ローム小ブロックを多く含む。
　　しまり非常に強。

第55図　13号住居跡・遺物出土状態（1／60）



第56図　13号住居跡出土遺物（1／3・2／3）

挿図番号 図版番号	器種	部位 遺存状態	法量 （cm）	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式	出土位置
第56図1 図版28-1-1	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	僅かに外傾	地文は直前段合撚ＬＲＬか	にぶい黄橙／砂粒・礫微量、繊維中量	前期前葉 （関山式）	覆土中
第56図2 図版28-1-2	深鉢	胴部 破片	厚 0.8	僅かに外傾	半截竹管状工具による押引文を横位施文	にぶい黄橙／砂粒多量、角閃石微量	前期末葉～ 中期初頭	西コーナーの覆土上層
第56図3 図版28-1-3	深鉢	胴部 破片	厚 0.7	僅かに外傾	単節ＬＲ端末結節文を横位施文	明褐／砂粒・角閃石少量、石英中量	中期初頭 （五領ヶ台式）	南西壁際の覆土下層
第56図4 図版28-1-4	深鉢	胴部 破片	厚 0.6	僅かに外傾	半截竹管状工具による沈線を縦位施文	明褐／砂粒・石英中量	中期初頭 （五領ヶ台式）	覆土中
第56図5 図版28-1-5	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	やや外反して僅かに外傾	地文はＲＬ単節縄文を横位施文／屈曲部に横位沈線文	明褐／砂粒・角閃石を少量	中期初頭 （五領ヶ台式）	覆土上層
第56図6 図版28-1-6	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	僅かに外傾	地文はＬｒ無節縄文を横位施文	暗褐／砂粒中量、石英少量、雲母片多量	中期初頭 （五領ヶ台式）	南西壁際の覆土下層
第56図7 図版28-1-7	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	内湾し口唇部は肥大／波状口縁	口縁部に刻みがある隆帯と横位沈線文／浅鉢の可能性	橙／砂粒・礫少量	中期中葉 （勝坂式）	覆土下層
第56図8 図版28-1-8	深鉢	胴部 破片	厚 1.3	僅かに外傾	連続爪形文と半円形刺突文を促位に施文	にぶい黄橙／砂粒・礫微量	中期中葉 （勝坂式）	覆土上層
第56図9 図版28-1-9	深鉢	胴部 破片	厚 [1.0]	僅かに外傾	地文は１段３条のＲＬ単節縄文	にぶい黄褐／砂粒・角閃石微量	中期中葉 （勝坂式）	西コーナーの覆土上層
第56図10 図版28-1-10	深鉢	胴部 破片	厚 0.8	僅かに内傾	地文は１段３条のＲＬ単節縄文	赤褐／砂粒・礫少量	中期中葉 （勝坂式）	Ｐ１覆土
第56図11 図版28-1-11	深鉢	胴部 破片	厚 0.8	僅かに内傾	地文はＲ撚糸文／２本一対の横位沈線文と懸垂文	褐／砂粒中量	中期後葉 （連弧文系）	覆土上層

第27表　13号住居跡出土土器一覧

挿図番号 図版番号	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特　徴	出土位置
第56図12 図版28-1-12	石　核	黒曜石	8.5	22.3	13.2	1.9	完形／右側面を打面として正面側に不定形剥片を剥離	覆土下層
第56図13 図版28-1-13	剥　片	黒曜石	26.7	25.6	11.9	6.0	完形／裏面の末端部に微細剥離面／被熱	覆土上層

（単位：mm、g）

第28表　13号住居跡出土石器一覧

第４節　中世以降の遺構・遺物

（1）概　要

中世以降の遺構については、土坑11基（292～302D）・井戸跡（３W）・溝跡４本（9・46～48M）・ピット70本（１～70Ｐ）が検出された。調査区内全体では、基本的に調査区中央から東半部に上段の平場面、西半部に下段の平場面が形成されているものと考えられることから、今回検出された土坑・溝跡・ピットなどの多くは段切状遺構に関連する遺構と考えられる。293Ｄからは人骨（歯）が出土したことから、土坑墓と考えられる。

また、耕作による畝跡については、通常、攪乱扱いとするが、今回は時代的に近世のものと判断し、攪乱とは一線を画することとし、畝状遺構として取り扱った。

なお、各遺構の時代設定は、遺物が出土した場合は陶磁器・土器などの年代を中心に詳細年代を明示したが、それ以外は中世以降と表記した。

（２）段切状遺構

遺　　構（第57・58図）

［位　　置］１・２区（調査区全域）。

［構　　造］**遺構の広がり**：今回の調査では、東半部で上段の平場面が認められ、調査区中央付近で東から西へ傾斜面が見られ、西半部で下段の平場面が認められた。傾斜の角度は７～９°であり、緩やかな傾斜である。**地形面の標高**：第57図に等高線を示した。段切状遺構の最も高い標高は調査区東端の14.7ｍラインで、最も低い標高は調査区西端部の14.1ｍである。調査区東側中央は、14.7ｍ－14.6ｍの線間が広いことから、概ね平坦地形と言える。調査区南東側では、９Ｍ構築の影響であろうか、14.7ｍ～14.4ｍラインが９Ｍに対して谷状の等高線となっている。調査区中央付近は、14.6～14.2ｍの各等高線の間隔が狭く、東から西へ傾斜していることが分かる。段切状遺構の上端とした線が14.6ｍライン付近で、下端とした線が14.2ｍライン付近であり、等高線と遺構の観察・記録に齟齬はない。西半部では14.3ｍラインが島状になり、14.2ｍラインが入り組んだ線になっている。また、14.2－14.1ｍの線間は広い。よって、西半部は、凹凸はあるが、概ね平坦な面であったと言える。**面の状況**：中央部の傾斜面や、西半部の掘り方面に工具痕が見られた。**掘り方**：西半部で確認された。南北・東西方向に幅広の溝状に掘り窪められている。よって、下段の平場面は、掘り方掘削後、ロームブロックを含む土で埋めて凹凸を均して形成されたと考えられる。

［覆　　土］34層（６～39層）に分層される。覆土の堆積過程としては、①段切状遺構掘削後、黄褐色土を主体とする29～39層が西半部に堆積する。29～39層は、ロームブロックを多く含む層であり、掘り方の範囲内で確認されたことから、段切状遺構の平場面の貼床土と考えられる。②黒褐色土を主体とする16～28層が堆積する。③その後、畝状遺構や292Ｄが構築され、④これらが埋没後、13～15層が堆積する。⑤302Dの構築・埋没を挟み、⑥６～12層が堆積する。

［遺　　物］磁器４点、陶器４点、土器３点、陶器製品１点、鉄製品１点、銭貨２点、その他として鉄滓（スラッグ）１点が出土した。

［時　　期］近世（18世紀前半～後半）。

［所　　見］本遺構は、熙寧元寶・洪武通寶の銭貨が出土したことから、中世の所産のものと認識していたが、陶磁器などの時期からは、図版28－２－１の青磁碗（12世紀）を除き、18世紀前半から後半にかけての資料が安定していると言えるため、時期を近世（18世紀前半～後半）とした。

遺　　物（第59図、図版28－２、第31～33表）

［陶磁器・土器］（図版28－２－１～11、第31表）

１～４は磁器、５～８は陶器、９～11は土器である。

［陶器製品・鉄製品］（第59図12・13、図版28－２－12・13、第32表）

12は砥具である。常滑焼の陶器甕の破片を転用して砥具としたものである。

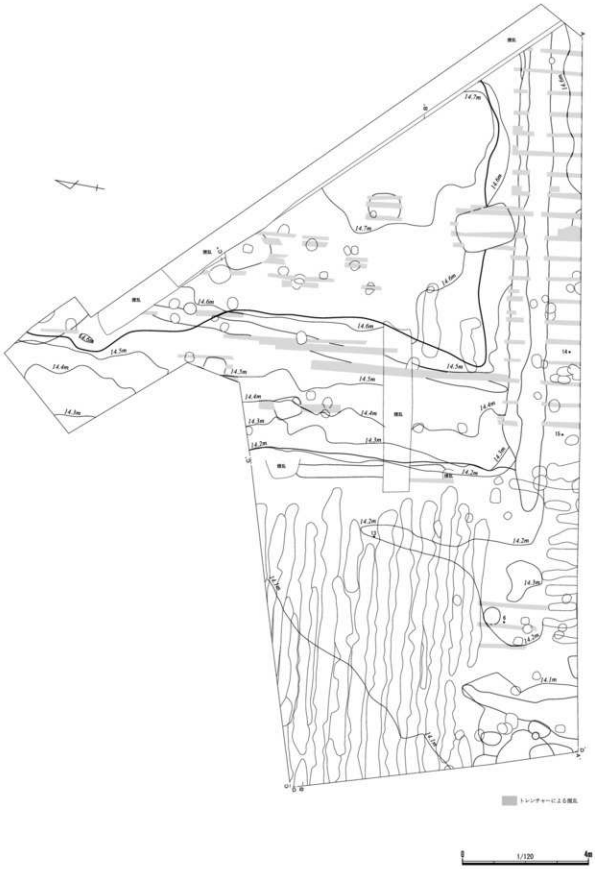
13は鉄製品で不明品である。火打金であろうか。

［銭　　貨］（第59図14・15、図版28－２－14・15、第33表）

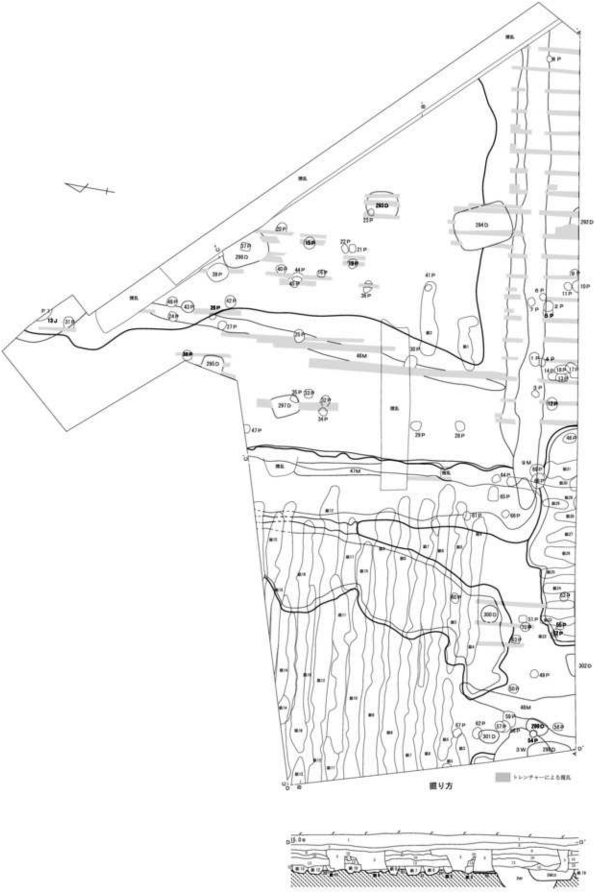
14は熙寧元寶、15は洪武通寶である。

［そ の 他］（図版28－２－16）

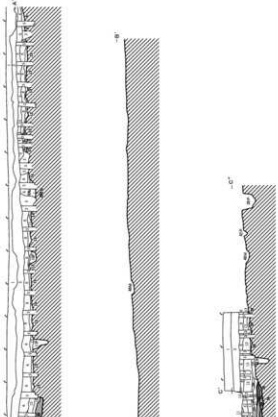
16は鉄滓（スラッグ）である。長さ5.6㎝・幅5.3㎝・厚さ2.5㎝・重さ65.0ｇ。



第57図　段切状遺構 1（1／120）



第 58 図　段切状遺構 ２（１／ 120）



1層　砂石層。
2層　表土層。
3層　トレンチ。
4層　旧耕作土。
5層　手掘り痕。
6層　黒灰褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりや。
7層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり中。
8層　黒褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまり中。
9層　黒褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまりやや強。
10層　極暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
11層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
12層　褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまり強。
13層　黒褐色土　ローム粒子をやや多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりやや強。
14層　黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり中。
15層　黒褐色土　ローム粒子をやや多く、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
16層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
17層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックをやや多く含む。しまり中。
18層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまり弱。
19層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
20層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
21層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
22層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
23層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
24層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ローム小ブロックを多く含む。しまり中。
25層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
26層　褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを多く含む。しまり強。
27層　黄褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。
28層　黒色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。
29層　黄褐色土　ロームブロックを多く含む。しまり強。
30層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
31層　黄褐色土　ロームブロックを多く含む。しまり強。
32層　黄褐色土　ロームブロックを多く含む。しまり強。
33層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ローム小ブロックをやや多く含む。しまりやや強。
34層　暗黄褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。
35層　黄褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
36層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり非常に強。
37層　黄褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり非常に強。
38層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまり非常に強。
39層　暗黄褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを多く、ロームブロックをやや多く含む。しまり強。

第59図　段切状遺構出土遺物（1／3・4／5）

（3）土　坑

292号土坑

遺　　構（第60図、第29表）

［位　　置］１区（調査区南東隅）。

［検出状況］南側の大部分が調査区外であり、さらに耕作により撹乱を受けている。段切状遺構に上層部は切られる。

［構　　造］**平面形**：不明。**規模**：長軸 不明／短軸 不明／遺構確認面からの深さ 13㎝。**壁**：約 40°の角度で緩やかに立ち上がる。**長軸方位**：不明。

［覆　　土］２層（５・６層）に分層される。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

293号土坑

遺　　構（第60図、第29表）

［位　　置］１区（調査区東側）。

［検出状況］耕作により撹乱を受けている。

［構　　造］**平面形**：長方形。**規模**：長軸 1.02m／短軸 不明／遺構確認面からの深さ 18㎝。**壁**：約 70°の角度で立ち上がる。**長軸方位**：Ｎ－７°－Ｗ。

［覆　　土］４層に分層される。

［遺　　物］人骨（７点）が出土した。人骨の同定結果については、140ページを参照。

［時　　期］中世以降。出土した人骨から時期を特定することはできなかった。

294号土坑

遺　　構（第60図、第29表）

［位　　置］１区（調査区南東側）。

［検出状況］耕作により撹乱を受けている。

［構　　造］**平面形**：長方形。**規模**：長軸 1.82 m／短軸 1.28 m／遺構確認面からの深さ 25㎝。**壁**：約 70°の角度で立ち上がる。**長軸方位**：Ｎ－29°－Ｅ。

［覆　　土］９層に分層される。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

295号土坑

遺　　構（第60図、第29表）

［位　　置］１区（調査区北東隅）。

［検出状況］西側は調査区外で、耕作により攪乱を受けている。

［構　　造］**平面形：**長方形。**規模：**長軸 不明／短軸0.80ｍ／遺構確認面からの深さ44㎝。**壁：**ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位：**不明。

［覆　　土］単層。ロームブロックを多く含み、ローム主体の覆土である。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

296号土坑

遺　　構（第60図、第29表）

［位　　置］１区（調査区北東隅）。

［検出状況］北東端は調査区外で、耕作による攪乱を受ける。37・39Ｐを切る。

［構　　造］**平面形：**長方形。**規模：**長軸1.47ｍ／短軸0.88ｍ／遺構確認面からの深さ28㎝。**壁：**約70°の角度で立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－27°－Ｅ。

［覆　　土］２層（２・３層）。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

297号土坑

遺　　構（第60図、第29表）

［位　　置］１区（調査区北側）。

［検出状況］耕作による攪乱を受ける。

［構　　造］**平面形：**長方形。**規模：**長軸0.84ｍ／短軸0.66ｍ／遺構確認面からの深さ38㎝。**壁：**ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－27°－Ｅ。

［覆　　土］４層（２～５層）。ロームブロックを多く含み、ローム主体の覆土である。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

298号土坑

遺　　構（第60図、第29表）

［位　　置］２区（調査区南西隅）。

［検出状況］南西側は調査区外である。段切状遺構の平場面、３Ｗ、畝19を切る。

［構　　造］**平面形：**長方形か。**規模：**長軸1.45ｍ／短軸 不明／遺構確認面からの深さ15㎝。**壁：**60

～70°の角度で立ち上がる。**長軸方位**：不明。

［覆　　土］５層（５～９層）。埋没後、段切状遺構覆土に覆われる。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

299号土坑

遺　　構（第60図、第29表）

［位　　置］２区（調査区南西隅）。

［検出状況］48M・3W・54Pに切られる。

［構　　造］**平面形**：不明。**規模**：長軸0.71 m／短軸0.44 m／遺構確認面からの深さ 11㎝。**壁**：緩やかに立ち上がる。**長軸方位**：N－10°－E。

［覆　　土］単層。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

300号土坑

遺　　構（第60図、第29表）

［位　　置］２区（調査区南西側）。

［検出状況］西端は耕作による攪乱を受ける。

［構　　造］**平面形**：円形。**規模**：長軸0.54 m／短軸0.52 m／遺構確認面からの深さ 18㎝。**壁**：60～70°の角度で立ち上がる。**長軸方位**：N－18°－W。

［覆　　土］３層。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

301号土坑

遺　　構（第61図、第29表）

［位　　置］２区（調査区南西隅）。

［検出状況］62 P を切る。

［構　　造］**平面形**：楕円形。**規模**：長軸0.59 m／短軸0.37 m／遺構確認面からの深さ 20㎝。**壁**：約70°の角度で立ち上がる。**長軸方位**：N－４°－W。

［覆　　土］４層。

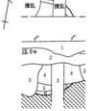
［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

302号土坑

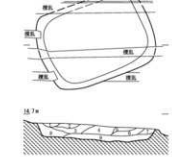
遺　　構（第61図、第29表）

［位　　置］２区（調査区南西隅）。



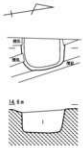
1層　砂石及びローム充填層。
2層　表土。
3層　撹乱。
4層　段状状遺構層土。
5層　黒褐色土　ローム粒子をやや多く、ローム小ブロックを含わ、しまりや。
6層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを微かに含わ、しまりや。

292号土坑



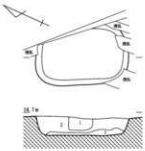
1層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを多く含わ、しまりやや強。
2層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微かに含わ、しまりや。
3層　黒褐色土　ローム粒子をやや多く、ローム小ブロックを含わ、しまりや。
4層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含わ、しまりや。
5層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微かに含わ、しまりや。
6層　にぶい黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含わ、しまりや強。
7層　にぶい黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含わ、しまりや強。
8層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含わ、しまりや。
9層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含わ、しまりやや強。

294号土坑



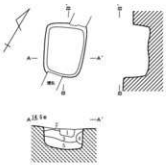
1層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含わ、しまりや。

295号土坑



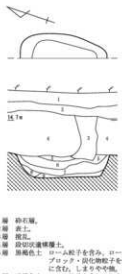
1層　撹乱。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く、焼化物粒子・炭化材を微かに含わ、しまりやや強。
3層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含わ、しまりや。

296号土坑



1層　撹乱。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含わ、しまりや。
3層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含わ、しまりや強。
4層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含わ、しまりや強。
5層　明黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含わ、しまりが非常に強。

297号土坑



1層　砂石層。
2層　表土。
3層　撹乱。
4層　段状状遺構層土。
5層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子を微かに含わ、しまりやや強。
6層　暗褐色土　ローム粒子を含わ、しまりや。
7層　黒褐色土　ローム粒子・ロームブロックを微かに含わ、しまりや。
8層　暗褐色土　ローム粒子を微かに含わ、しまり弱。
9層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを微かに含わ、しまりや。

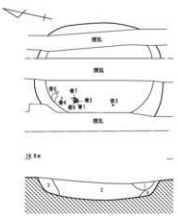
298号土坑

1層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックをやや多く含わ、しまりやや強。

299号土坑

1層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含わ、しまりやや強。
2層　ロームブロック。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含わ、しまりや。

300号土坑

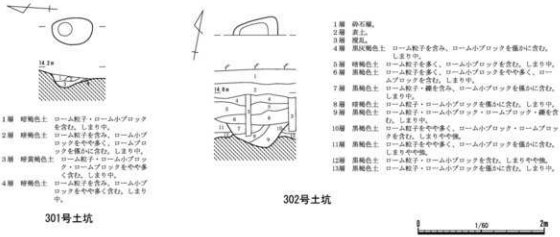


1層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含わ、しまりや。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを微かに含わ、しまりや。
3層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含わ、しまりや。
4層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含わ、しまりや。

293号土坑

0　1/60　2m　　0　1/30　1m

第60図　土坑１（１／60・１／30）



第61図　土坑２（１／60）

遺構名	平面形	規模（m）			長軸方位	覆土及び特徴	主な遺物	時　期
		長軸	短軸	深さ				
292D	不明	不明	不明	0.13	不明	2層(5・6層)／南側は調査区外／耕作による撹乱を受ける／段切状遺構に上層部は切られる	遺物なし	中世以降
293D	長方形	1.92	不明	0.18	N-7°-W	4層／耕作による撹乱を受ける／人骨の遺存状態は悪い	人骨(7点):自然科学分析140ページ参照	中世以降
294D	長方形	1.82	1.28	0.25	N-29°-E	9層／耕作による撹乱を受ける	遺物なし	中世以降
295D	長方形か	不明	0.80	0.44	不明	単層／西側は調査区外／耕作による撹乱を受ける	遺物なし	中世以降
296D	長方形	1.47	0.88	0.28	N-27°-E	2層(2・3層)／北東端は調査区外／耕作による撹乱を受ける／37・39Pを切る	遺物なし	中世以降
297D	長方形	0.84	0.66	0.38	N-27°-E	4層(2～5層)／耕作による撹乱を受ける	遺物なし	中世以降
298D	長方形か	1.45	不明	0.15	不明	5層(5～9層)／埋没後、段切状遺構覆土に覆われる／西側は調査区外／段切状遺構、3W、紋19を切る	遺物なし	中世以降
299D	不明	0.71	0.44	0.11	N-10°-E	単層／48M・3W・54Pに切られる	遺物なし	中世以降
300D	円形	0.54	0.52	0.18	N-18°-W	3層／西端は耕作による撹乱を受ける	遺物なし	中世以降
301D	楕円形	0.59	0.37	0.20	N-4°-W	4層／62Pを切る	遺物なし	中世以降
302D	不明	不明	不明	0.21	不明	3層(7～9層)／埋没後、段切状遺構覆土に覆われる／南側の大部分は調査区外／段切状遺構を切る	遺物なし	中世以降

第29表　中世以降の土坑一覧

［**検出状況**］南側の大部分は調査区外である。段切状遺構の平場面を切る。

［**構　　造**］**平面形**：不明。**規模**：長軸 不明／短軸 不明／遺構確認面からの深さ21㎝。**壁**：約50°の角度で立ち上がる。**長軸方位**：不明。

［**覆　　土**］３層（７～９層）。埋没後、段切状遺構覆土に覆われている。

［**遺　　物**］出土しなかった。

［**時　　期**］覆土の観察から、中世以降と思われる。

（４）井戸跡

３号井戸跡

遺　構（第62図）

［位　　置］２区（調査区南西隅）。

［検出状況］西側は調査区外である。298Ｄに切られる。段切状遺構の平場面を切る。

［構　　造］**平面形**：円形か。**規模**：検出径1.84ｍ。危険を伴うため、確認面から深さ130㎝程で精査を終了した。開口部は漏斗状を呈し、60～65°の角度で立ち上がる。東側の上端には、40×70㎝程で深さ31㎝のピット状の掘り込みが確認できた。

［覆　　土］11層に分層された。埋没後、段切状遺構覆土に覆われている。

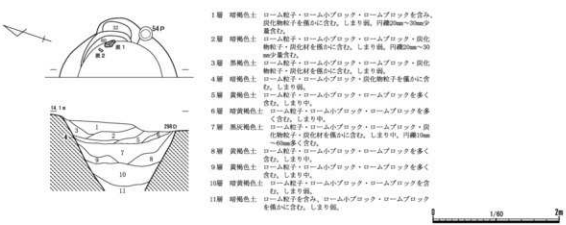
［遺　　物］陶器１点（鉢）が出土した。その他として、炭化材２点が出土した。

［時　　期］近世（18世紀代）。

遺　物（図版29－１、第31表）

［陶　　器］（図版29－１－１、第31表）

１は陶器で、瀬戸・美濃系の徳利である。時期は18世紀代である。



第62図　３号井戸跡（１／60）

（５）溝　跡

９号溝跡

遺　構（第63図）

［位　　置］１・２区（調査区南東端）。

［検出状況］本溝跡は、隣接する中道遺跡第２地点（佐々木・尾形　1988）の調査の際に検出されている９Ｍと同一と考えられるため、同一遺構名を付けることとした。３・６～８Ｐに切られ、１・２・５Ｐを切る。最西端では途切れていることが確認できた。

［構　　造］**規模**：検出長15.22ｍ／検出最大上幅1.30ｍ／下幅26～50㎝／深さ14～34㎝。溝底は凹凸で、平坦ではない。断面形は西側部分が幾分テラス状に段をもっており、中央部から東側部分は基本的には60～70°の角度で立ち上がっている。**走向方位**：Ｎ－82°－Ｅ。

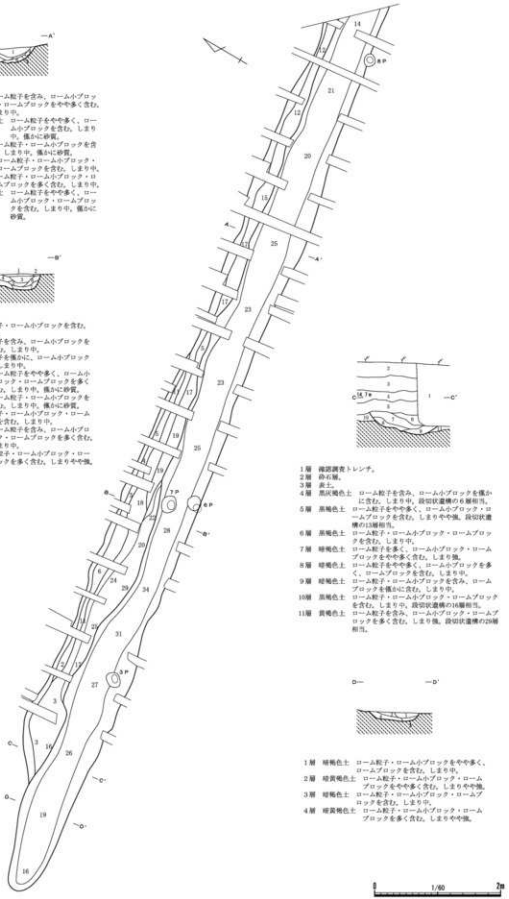
［覆　　土］４層（６～９層）。自然堆積を呈する。段切状遺構の貼床土および覆土下層（10・11層）を切り、本遺構が埋没後、段切状遺構の覆土（４・５層）に覆われている。

1層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまりや。
2層　にぶい黄褐色土　ローム粒子をやや多く、ローム小ブロックを含む。しまりや。僅かに砂質。
3層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。僅かに砂質。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりや。
5層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりや。
6層　にぶい黄褐色土　ローム粒子をやや多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりや。僅かに砂質。

1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。
2層　黄褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりや。
3層　黒褐色土　ローム粒子を僅かに、ローム小ブロックを含む。しまりや。
4層　にぶい黄褐色土　ローム粒子をやや多く、ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりや。僅かに砂質。
5層　にぶい黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。僅かに砂質。
6層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりや。
7層　にぶい黄褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりや。
8層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。

1層　確認調査トレンチ。
2層　砂石層。
3層　表土。
4層　黒灰褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりや。段状状遺構の6層相当。
5層　黒褐色土　ローム粒子をやや多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりやや強。段状状遺構の1層相当。
6層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりや。
7層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまりや強。
8層　暗褐色土　ローム粒子をやや多く、ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまりや。
9層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまりや。
10層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりや。段状状遺構の16層相当。
11層　黄褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりや強。段状状遺構の23層相当。

1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまりや。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまりやや強。
3層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりや。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。



第63図　９号溝跡（1／60）

［遺　　物］土器１点（皿）が出土した。

［時　　期］近世（19世紀前半）。

遺　　物（図版29－２、第31表）

［土　　器］（図版29－２－１、第31表）

１は土器皿で、時期は19世紀前半である。

46号溝跡

遺　　構（第64図）

［位　　置］１区（調査区中央やや東側）。

［検出状況］北側は調査区外である。24～26・30・43・48Ｐに切られる。最南端では途切れていることが確認できた。

［構　　造］**規模**：検出長11.90ｍ／検出最大上幅0.46ｍ／下幅15～30㎝／深さ５～19㎝。溝底は凹凸で平坦ではない。断面形は椀状である。**走向方位**：Ｎ－３°－Ｗ。

［覆　　土］３層に分層された。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

47号溝跡

遺　　構（第64図）

［位　　置］２区（調査区中央）。

［検出状況］段切状遺構の平場面を切る。両端部は途切れている。

［構　　造］**規模**：検出長4.74ｍ／検出最大上幅0.40ｍ／下幅22～30㎝／深さ５～13㎝。溝底はほぼ平坦である。断面形は逆台形で、掘り込みは浅い。**走向方位**：Ｎ－10°－Ｗ。

［覆　　土］単層。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

48号溝跡

遺　　構（第64図）

［位　　置］２区（調査区南西隅）。

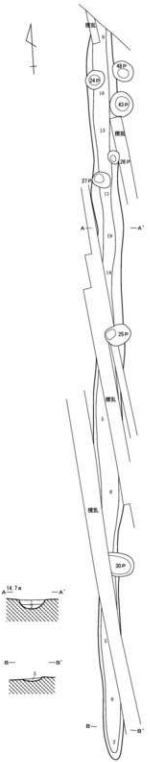
［検出状況］北側は調査区外である。最北端では途切れていることが確認できた。56・59Ｐ、畝19～21に切られ、299Ｄを切る。

［構　　造］**規模**：検出長3.90ｍ／検出最大上幅1.34ｍ／下幅20～42㎝／深さ６～24㎝。溝底は凹凸で、平坦ではない。溝幅は北側に行くにつれて細くなり、最北端で途切れている。溝底面から緩やかに立ち上がっている。**走向方位**：Ｎ－５°－Ｅ。

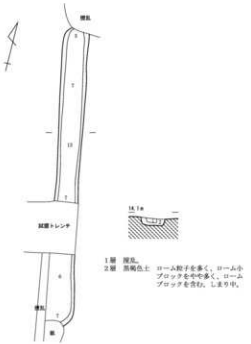
［覆　　土］９層が相当する。埋没後、段切状遺構の覆土に覆われる。

［遺　　物］出土しなかった。

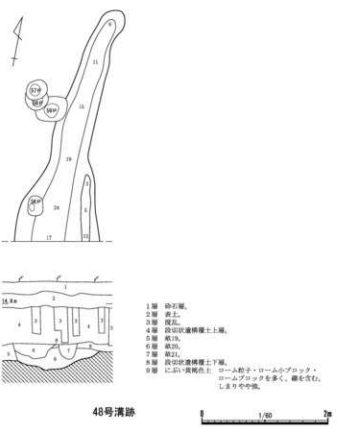
［時　　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。



46号溝跡



47号溝跡



48号溝跡

第64図　46～48号溝跡（１／60）

（6）ピット（第65～67図、図版29－3、第30・31・33表）

調査区域内から検出されたピットは、70本（1～70Ｐ）で、すべて中世以降に該当する。

ここでは、２・18・30・31・36・42・64Ｐの７本から出土した遺物の記述に留めた。ピットの基本内容は第30表に示した。

２Ｐからは、銭貨１点（祥符元寶）が出土した（第67図1、図版29－３－１、第33表）。

18Ｐからは、銭貨１点（聖宋元寶）が出土した（第67図１、図版29－３－１、第33表）。

30Ｐからは、土器１点（皿）が出土した（図版29－３－１、第31表）。

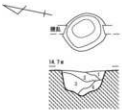
31Ｐからは、磁器１点（碗）が出土した（図版29－３－１、第31表）。

36Ｐからは、陶器１点（碗）が出土した（図版29－３－１、第31表）。

42Ｐからは、土器１点（壷か）が出土した（第67図１、図版29－２－１、第31表）。

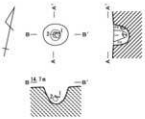
64Ｐからは、土器１点（壷か）が出土した（図版29－３－１、第31表）。

第65図　ピット１（1／60）



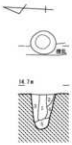
1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりやや強。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまり弱。

39号ピット



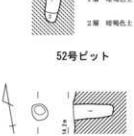
1層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまりやや強。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。
3層　明黄褐色土　ローム小ブロック。

42号ピット



1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子をごく僅かに含む。しまり弱。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含み、炭化物粒子をごく僅かに含む。しまり弱。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックやロームブロックをやや多く含み、炭化物粒子をごく僅かに含む。しまり強。
4層　明黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまり強。
5層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックやロームブロックを多く含む。しまり非常に強。

43号ピット

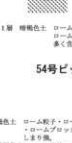


1層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり弱。

52号ピット

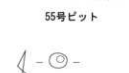
1層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり弱。

53号ピット



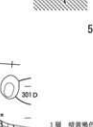
1層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを多く含む。しまり強。

54号ピット



1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり弱。

55号ピット



57P
1層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまりやや強。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックをやや多く含む。しまりやや強。
3層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
4層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。

58P
5層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。
6層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
7層　ロームブロック。
8層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。

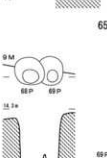
57・58号ピット

1層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまりやや強。

61号ピット

1層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。ロームブロックをややを多く含む。しまりやや強。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや。

62号ピット



1層　段切状遺構層上。
2層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまりやや強。
3層　黄褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりや。
4層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。

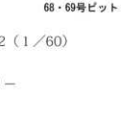
65号ピット

1層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまりやや強。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまりや。

66号ピット

1層　黄褐色土　ローム小ブロックを多く含む。しまり非常に強。

67号ピット



69P
暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまりや。

68・69号ピット

0　1/60　2m

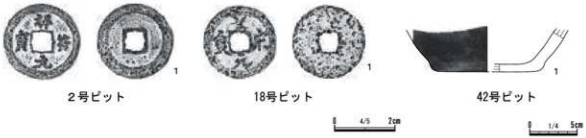
第66図　ピット2（1／60）

遺構名	平面形	規模（cm）			覆土及び特徴	主な遺物及び備考	時期
		長軸	短軸	深さ			
1 P	隅丸長方形	44	32	89	2層／9Mに切られ、4Pを切る	遺物なし	中世以降
2 P	隅丸方形	32	32	60	単層／9Mに切られ、5Pを切る	銭貨1点(祥符元寶)	中世以降
3 P	隅丸方形	26	22	21	単層：ローム粒子をやや多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む黒褐色土／9Mを切る	遺物なし	中世以降
4 P	隅丸方形	26	22	60	上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土，下層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む黄褐色土／1Pに切られる	遺物なし	中世以降
5 P	隅丸方形	34	32	43	単層：ローム粒子をやや多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗黄褐色土／2P・9Mに切られる	遺物なし	中世以降
6 P	隅丸方形	22	20	77	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土／9Mを切る	遺物なし	中世以降
7 P	隅丸方形	24	22	47	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む黒褐色土／9Mを切る	遺物なし	中世以降
8 P	隅丸方形	20	18	16	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む黄褐色土／9Mを切る	遺物なし	中世以降
9 P	隅丸方形	30	26	18	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土	遺物なし	中世以降
10 P	隅丸方形か	－	－	20	3層／南側は調査区外／段切状遺構の覆土（13層）下から検出	遺物なし	中世以降
11 P	隅丸長方形	26	22	18	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土	遺物なし	中世以降
12 P	隅丸長方形	40	34	33	単層：ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む黒褐色土	遺物なし	中世以降
13 P	隅丸長方形	40	24	24	2層／18Pに切られ、14Pを切る	遺物なし	中世以降
14 P	隅丸長方形か	－	26	35	単層／13・18Pに切られる	遺物なし	中世以降
15 P	隅丸方形か	38	－	16	単層：ローム粒子・ロームブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含む黒褐色土	遺物なし	中世以降
16 P	隅丸方形	26	22	67	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを多く含む黒褐色土	遺物なし	中世以降
17 P	隅丸長方形か	48	－	71	2層／18Pを切る／段切状遺構の覆土（13層）下から検出	遺物なし	中世以降
18 P	隅丸長方形か	－	28	53	上層：ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む黄褐色土／17に切られ、13・14Pを切る	銭貨1点(聖宋元寶)	中世以降
19 P	隅丸方形	32	28	46	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗黄褐色土／礫孔が著しい	遺物なし	中世以降
20 P	隅丸長方形か	不明	34	57	1層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土，2層：ローム粒子・ロームブロックを僅かに、ローム小ブロックを含む暗褐色土，3層：ローム小ブロックを多く含む黄褐色土，4層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗黄褐色土	遺物なし	中世以降
21 P	隅丸長方形	26	20	31	単層：ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
22 P	隅丸長方形	26	19	20	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
23 P	隅丸方形	20	20	24	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土／293Dに切られる	遺物なし	中世以降
24 P	隅丸方形	32	26	45	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む暗黄褐色土／46Mを切る	遺物なし	中世以降
25 P	隅丸長方形	40	30	61	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む黒褐色土／46Mを切る	遺物なし	中世以降
26 P	隅丸方形	20	20	16	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗黄褐色土／46Mを切る	遺物なし	中世以降
27 P	隅丸長方形	29	24	58	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む暗黄褐色土／46Mを切る	遺物なし	中世以降
28 P	隅丸方形	30	30	25	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
29 P	隅丸方形	32	32	23	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
30 P	隅丸長方形か	不明	38	14	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックをやや多く含む暗褐色土／46Mを切る	土器1点(皿)	中世以降
31 P	隅丸長方形か	不明	34	21	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む黒褐色土／46Mを切る	磁器1点(碗)	近世(17c後半)
32 P	隅丸長方形か	不明	32	18	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む暗黄褐色土／46Mを切る	遺物なし	中世以降
33 P	隅丸方形	28	28	32	単層：ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む黒褐色土	遺物なし	中世以降
34 P	隅丸方形	24	28	27	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む黒褐色土	遺物なし	中世以降
35 P	隅丸長方形	28	16	25	上層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む黒褐色土，下層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む暗黄褐色土	遺物なし	中世以降
36 P	隅丸長方形	40	36	38	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む暗褐色土	陶器1点(碗)	近世(17c後半)
37 P	隅丸長方形	30	26	51	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む暗黄褐色土／296Dに切られる	遺物なし	中世以降
38 P	隅丸方形	32	30	56	6層	遺物なし	中世以降
39 P	隅丸長方形	66	56	45	4層／296Dに切られる	遺物なし	中世以降
40 P	隅丸方形	30	30	22	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降

第30表　中世以降のピット一覧（1）

遺構名	平面形	規模（cm）			覆土及び特徴	主な遺物及び備考	時期
		長軸	短軸	深さ			
41 P	隅丸長方形	22	18	33	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む黒色土	遺物なし	中世以降
42 P	隅丸長方形	40	34	26	3層／下層から土器1点（上）・礫1点（下）が重なって出土した	土器1点（廃か）	中世（16c代）
43 P	隅丸方形	40	38	60	5層／46Mを切る	遺物なし	中世以降
44 P	隅丸方形か	不明	不明	43	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む黒色土／45Pと重複	遺物なし	中世以降
45 P	隅丸方形か	不明	不明	48	土層注記なし／44Pと重複	遺物なし	中世以降
46 P	隅丸長方形	44	30	56	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む黒褐色土	遺物なし	中世以降
47 P	隅丸方形か	不明	26	59	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む黄褐色土	遺物なし	中世以降
48 P	隅丸長方形	36	30	30	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む黒褐色土／46Mを切る	遺物なし	中世以降
49 P	隅丸方形	26	24	29	上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土、下層：ローム粒子を多く含む黄褐色土	遺物なし	中世以降
50 P	隅丸方形	32	28	50	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む褐色土	遺物なし	中世以降
51 P	隅丸長方形	26	22	36	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む褐色土	遺物なし	中世以降
52 P	隅丸長方形	30	14	53	2層	遺物なし	中世以降
53 P	隅丸長方形	31	25	78	単層	遺物なし	中世以降
54 P	隅丸方形	22	22	13	単層／299Dを切る	遺物なし	中世以降
55 P	隅丸方形	26	24	61	単層	遺物なし	中世以降
56 P	隅丸長方形	30	24	38	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む暗黄褐色土／48Mを切る	遺物なし	中世以降
57 P	隅丸方形	34	30	46	4層／58Pを切る	遺物なし	中世以降
58 P	隅丸方形か	36	不明	40	4層／57Pに切られ、59 Pを切る	遺物なし	中世以降
59 P	隅丸長方形か	不明	40	31	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む暗黄褐色土／58Pに切られ、48Mを切る	遺物なし	中世以降
60 P	隅丸長方形	33	26	31	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
61 P	隅丸方形	22	20	25	単層	遺物なし	中世以降
62 P	隅丸長方形	37	26	60	2層／301Dに切られる	遺物なし	中世以降
63 P	隅丸方形	28	26	30	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む黄褐色土	遺物なし	中世以降
64 P	隅丸方形	26	24	39	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む暗黄褐色土	土器1点（廃か）	中世（16c代）
65 P	隅丸長方形	46	32	61	3層／段切状遺構の平場面貼床土下から検出	遺物なし	中世以降
66 P	隅丸方形	24	21	37	2層	遺物なし	中世以降
67 P	隅丸長方形	30	24	42	単層	遺物なし	中世以降
68 P	隅丸方形	44	44	121	9Mに切られ、69Pを切る	遺物なし	中世以降
69 P	隅丸方形か	46	不明	85	9M・68Pに切られる	遺物なし	中世以降
70 P	隅丸方形	30	30	19	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む黄褐色土	遺物なし	中世以降

第30表　中世以降のピット一覧（２）

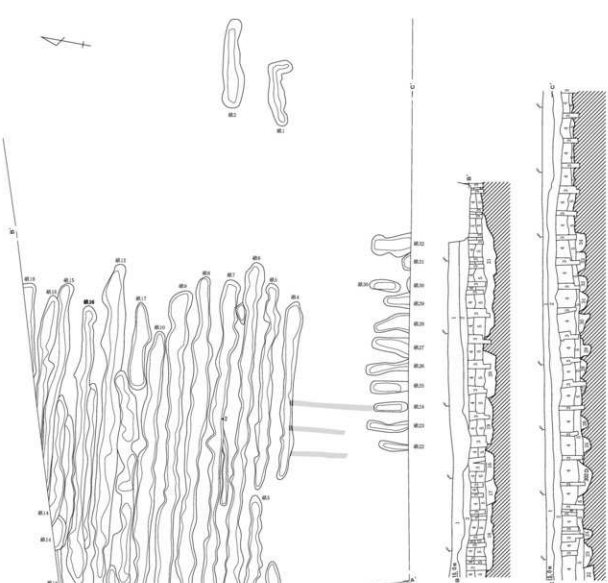


第67図　ピット出土遺物（4／5・１／4）

(7) 畝状遺構

遺　構（第68図）

調査区域内から耕作による畝跡が検出された。通常であれば、畝跡は攪乱として取り扱う掘り込みであるが、今回においては、段切状遺構を切って構築しているものの埋没後、第58図に示すように12～14層が堆積し、302Ｄの構築・埋没、その後、表土下の６～11層が堆積することが判明したことから、畝状遺構として扱った。



1層　砂石層.
2層　表土層.
3層　トレンチ.
4層　段状遺構層上層.
5層　段状遺構層上下層.
6層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む.しまりや、硬.
7層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む.しまりや、硬.
8層　暗褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む.しまりや、硬.
9層　暗褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを含む.しまりや、硬7.
10層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックをやや多く含む.しまりや、硬8.
11層　暗褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを含む.しまりや、硬9.
12層　暗褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを含む.しまりや、硬10.
13層　暗黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む.しまりや、硬11.
14層　暗黒褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む.しまりや、硬12.
15層　暗褐色土　ローム小ブロックを含み、ロームブロックをやや多く含む.しまりや、硬13.
16層　暗褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む.しまりや、硬14.
17層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む.しまりや、硬14.
18層　暗褐色土　ローム小ブロックを僅かに、ロームブロックを含む.しまりや、硬14.
19層　暗褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む.しまりや、硬15.
20層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む.しまりや、硬15.
21層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む.しまりやや強、硬15.
22層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む.しまりや、硬16.　断面のみ確認.
23層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む.しまりや、硬26.　断面のみ確認.
24層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む.しまりぬ、硬21.　断面のみ確認.
25層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む.しまりや、硬22.
26層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む.しまりや、硬23.
27層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む.しまりぬ、硬25.
28層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む.しまりぬ、硬26.
29層　黒褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む.しまりぬ、硬27.
30層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む.しまりぬ、硬28.
31層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ロームブロックを多く含む.しまりぬ、硬29.
32層　黒褐色土　ローム粒子をやや多く、ローム小ブロックを含み、ロームブロックを多く含む.しまりや、硬30.
33層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む.しまりや、硬31.
34層　暗黄褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む.しまりや、硬32.

第68図　畝状遺構（1／100）

今回、畝状遺構として、31本（畝１～畝31）を遺構として扱った。畝状遺構の走向方位は、畝１～畝18がほぼ東西方向、畝19～畝31がほぼ南北方向である。なお、畝19～21は第66図の断面図には示したが、平面図には示すことができなかった。

［遺　　物］畝２から土器１点（皿）、畝７から土器１点（焙烙）、畝12から陶器１点（皿）が出土した。

［時　　期］近世（18世紀代）。

遺　　物（図版29－４－１～３、第31表）

１は土器皿である。畝２からの出土で、時期は18世紀代である。

２は焙烙である。畝７からの出土で、時期は不明である。

３は瀬戸・美濃系の陶器皿が１点出土している。畝12からの出土で、時期は18世紀代である。

挿図番号 図版番号	遺構名	種別	器種	法量 (cm)	製作の特徴等	推定産地	時　期
図版28-2-1	段切状遺構	磁器	碗	厚0.8	青磁／内面：蓮花文／胎土：灰色、精緻されている／体部下半小破片／２区側で出土	中国製	中　世 (12c代)
図版28-2-2	段切状遺構	磁器	猪口	厚0.3	染付／内面：四宝繋文、外面：山水文か／口縁部～体部小破片／１区側で出土	肥前系	近　世 (18c代)
図版28-2-3	段切状遺構	磁器	碗	厚0.3	染付／外面：二重圏線、風景文か／口縁部小破片／２区側で出土	肥前系	近　世 (18c前半)
図版28-2-4	段切状遺構	磁器	碗	厚0.4	染付／口縁部小破片／２区側で出土	瀬戸系	近世以降 (19c代)
図版28-2-5	段切状遺構	陶器	碗	高[1.0]	外面底部付近を除き灰釉／高台あり／胎土：黄白色、精緻されている／体部下半～底部小破片／１区側で出土	瀬戸・美濃系	近　世 (18c後半)
図版28-2-6	段切状遺構	陶器	瓶	高[6.0]	内外面に灰釉／体部上半に上下２本の沈線による有段がまわる／胎土：灰白色、精緻されている／体部上半～下半破片／２区側で出土	瀬戸・美濃系	時期不明
図版28-2-7	段切状遺構	陶器	碗	厚 0.4	内外面に透明釉／胎土：白色、精緻されている／口縁部小破片／１区側で出土	瀬戸・美濃系	近　世 (18c後半)
図版28-2-8	段切状遺構	陶器	徳利	厚 0.4	内外面に鉄釉／体部小破片／１区側で出土	瀬戸・美濃系	近　世 (18c後半)
図版28-2-9	段切状遺構	土器	皿	厚0.7	ロクロ成形／底部に回転糸切り痕あり／胎土：暗黄褐色を基調、砂粒を含む／底部小破片／１区側で出土	在地系	時期不明
図版28-2-10	段切状遺構	土器	壷	高[3.0]	外面は黒く煤けている／胎土：黄白色を基調、砂粒を僅かに含む／内外面：回転ナデ／体部下半～底部小破片／１区側で出土	在地系	時期不明
図版28-2-11	段切状遺構	土器	手焙りか	高[1.3]	角形／平底／胎土：白色、砂粒を僅かに含む／被熱あり／体部下半～底部小破片／１区側で出土	在地系	時期不明
図版29-1-1	3W	陶器	鉢	厚0.5	内外面に灰釉／胎土：黄白色、精緻されている／体部小破片	瀬戸・美濃系	近　世 (18c代)
図版29-2-1	9M	土器	皿	厚0.4	ロクロ成形／胎土：黒褐色を基調、精緻されている／口縁部～体部小破片	在地系	近　世 (19c前半)
図版29-3-1	30P	土器	皿	厚0.7	ロクロ成形／底部に回転糸切り痕あり／胎土：暗黄褐色を基調、石英・砂粒を含む／底部小破片	在地系	時期不明
図版29-3-1	31P	磁器	碗	厚0.8	染付／文様は不明／体部小破片	肥前系	近　世 (17c後半)
図版29-3-1	36P	陶器	碗	厚0.4	外面に緑色釉／胎土：黄白色、砂粒を僅かに含む／体部小破片	唐　津	近　世 (17c後半)
第68図1 図版29-3-1	42P	土器	壷か	高[4.8] 底(11.2)	平底／胎土：色調は黒褐色、白色砂粒を多く含む／内面：ナデ、外面：磨き、外面には指圧による底形痕が残る／胴部下半～底部20％以下／底面から10cm程上の礫の上部から出土／64P出土と同一個体と思われる	在地系	中　世 (16c代)
図版29-3-1	64P	土器	壷か	厚0.9	被熱により遺存状態が不良／胎土：淡茶褐色、砂粒・小石をやややや多く、角閃石を僅かに含む／体部破片／42P出土と同一個体と思われる	在地系	中　世 (16c代)
図版29-4-1	畝２	土器	皿	厚0.6	ロクロ成形／底部に回転糸切り痕あり／胎土：淡橙色を基調、茶褐色粒子・石英・砂粒を含む／底部小破片	在地系	近　世 (18c代)
図版29-4-2	畝７	土器	焙烙	厚0.7	外面は黒く煤けている／胎土：黄白色を基調、精緻されている／内外面：回転ナデ／体部小破片	在地系	時期不明
図版29-4-3	畝12	陶器	皿	厚0.6	内外面に灰釉／胎土：灰色、精緻されている／体部小破片	瀬戸・美濃系	近　世 (18c代)

第31表　中世以降の遺構出土陶磁器・土器一覧

挿図番号 図版番号	種　別	種　類	長さ	幅	厚さ	重さ	特　徴	出土位置
第59図12 図版28-2-12	陶器製品	延具	4.2	4.7	1.2	31.5	常滑焼の陶器甕を転用し延具としたもの／側面１面に擦り痕がある／胎土：暗茶褐色、白色砂粒を多く含む	段切状遺構 （１区）
第59図13 図版28-2-13	鉄製品	火打金か	3.5	2.3	0.2	3.4	曲線的な上端部のみ残存／小破片の詳細不明	段切状遺構 （２区）

（単位：cm、g）

第32表　中世以降の段切状遺構出土陶器製品・鉄製品一覧

挿図番号 図版番号	銭貨名	外径	方孔一辺	厚さ	重量	初鋳年	遺存状態	出土位置	備　考
第59図14 図版28-2-14	熙寧元寶	2.4	0.7	0.2	2.9	北宋（1068）	完形品	段切状遺構 １区側	
第59図15 図版28-2-15	洪武通寶	2.4	0.6	0.2	1.3	明（1367）	50%	段切状遺構 １区側	「武」・「寶」部分は欠損／裏面：治(加治木銭か)
第68図１ 図版29-2-1	祥符元寶	2.5	0.6	0.2	3.6	北宋（1008）	完形品	２P	
第68図１ 図版29-2-1	聖宋元寶	2.4	0.6	0.2	4.1	北宋（1101）	完形品	18P	

（単位：cm、g）

第33表　銭貨一覧

第５節　遺構外出土遺物

ここでは、表土や攪乱から出土した遺物、そして遺構内であるが、明らかに他時期の混入品である遺物を前節までの各時代の出土遺物と区別し、遺構外出土遺物として扱う。

今回、遺構外出土遺物としては、縄文時代の土器、中世以降の鉄製品に分類する。

（１）縄文時代の土器（第69図１～９、図版29－５－１～９、第34表）

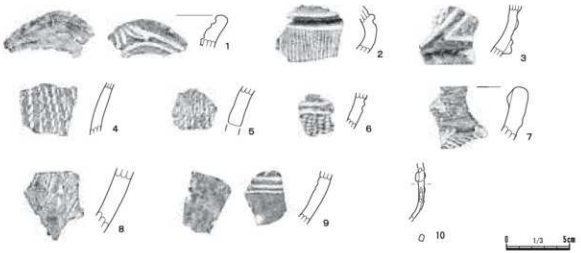
本調査地点からは、中期・後期の土器が出土しているが、そのうち、中期のものが最も多く出土している。

１～８は中期の土器で、１は中期中葉の勝坂式土器、２～８は中期後葉の加曽利Ｅ式土器で、２～５は加曽利Ｅ１式土器である。６は加曽利Ｅ３式土器と思われる。７・８は加曽利Ｅ４式土器である。

９は後期中葉の加曽利Ｂ式土器の浅鉢である。

（２）中世以降の鉄製品（第69図10、図版29－５－10）

10は鉄製品で、釘である。長さ4.0㎝・幅0.8㎝。厚さ0.5㎝・重さ2.1ｇ。断面形は長方形である。両端部を欠損する。９Ｍ内の攪乱からの出土である。



第69図　遺構外出土遺物（1／3）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式	出土遺構 出土位置
第69図1 図版29-3-1	深鉢	口縁	厚 1.0	外傾	内面に沈線文／波状突起	赤褐／砂粒中量、石英・礫少量	縄文時代中期 中葉 (勝坂式)	38P
第69図2 図版29-3-2	深鉢	胴	厚 0.9	内湾／キャリパー形の口縁部付近	地文にＲ撚糸文を従位施文／隆帯による区画文／隆帯脇に沈線	にぶい黄橙／砂粒中量	縄文時代中期 後葉 (加曽利Ｅ１式)	1区 遺構外
第69図3 図版29-3-3	深鉢	胴	厚 0.8	内湾／キャリパー形の口縁部付近	地文はＲ撚糸文を従位施文／隆帯による区画文／横位隆帯は２本一対／隆帯脇に沈線	にぶい黄橙／砂粒中量	縄文時代中期 後葉 (加曽利Ｅ１式)	2区 遺構外
第69図4 図版29-3-4	深鉢	胴	厚 0.7	やや外反	地文はＬ撚糸文を縦位施文	にぶい黄褐／砂粒・角閃石中量、礫少量	縄文時代中期 後葉 (加曽利Ｅ１式)	294D
第69図5 図版29-3-5	深鉢	胴	厚 1.0	僅かに外反	地文はＬ撚糸文を縦位施文	にぶい黄褐／砂粒・礫中量	縄文時代中期 後葉 (加曽利Ｅ１式)	9M
第69図6 図版29-3-6	深鉢	胴	厚 0.8	僅かに外傾	地文はＲＬ単節縄文を斜位施文／３本の並行沈線文	橙／砂粒中量	縄文時代中期 後葉 (加曽利Ｅ3式か)	1区 遺構外
第69図7 図版29-3-7	深鉢	口縁	厚 1.2	僅かに外傾	地文はＬＲ単節斜縄文を従位施文／横位の微隆起線文	橙／砂粒・礫・角閃石少量	縄文時代中期 後葉 (加曽利Ｅ４式)	2区 遺構外
第69図8 図版29-3-8	深鉢	胴	厚 1.3	外傾	地文は集合沈線文を従位施文	にぶい橙／砂粒・礫・角閃石極少量	縄文時代中期 後葉 (加曽利Ｅ４式)	2区 遺構外
第69図9 図版29-3-9	浅鉢	胴	厚 0.9	僅かに内湾して外傾	内面に横位の４本の並行沈線文	褐灰／砂粒少量	縄文時代後期 中葉 (加曽利Ｂ式)	2区 遺構外

第34表　遺構外出土縄文土器一覧

第５章　調査のまとめ

第１節　城山遺跡第99地点の調査成果

本地点からは、縄文時代の土坑４基（1136・1150・1162・1165Ｄ）・ピット（122・172Ｐ）、弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡１軒（12Y）、古墳時代後期の住居跡３軒（164・322・323Ｈ）、平安時代の土坑１基（1159D）、中世以降の土坑37基（369・1132～1135・1137～1149・1151～1161・1163・1164・1166～1171Ｄ）・溝跡５本（70～74M）・ピット223本（１～121・123～171・173～225Ｐ）が検出された。

ここでは、特に古墳時代後期と中世以降について若干のまとめを行うこととする。

（１）古墳時代後期の土器について

164号住居跡出土遺物（第38図、図版21－2）

本住居跡から出土した遺物は、土師器坏・甕・甑形土器、土製品（土玉・支脚）、鉄製品、石器（台石）であり、その他としては、穿孔貝巣穴痕跡軟質泥岩がある。

土師器坏形土器については、１・３・４はいわゆる比企型坏（水口　1989、尾形　1999）で、胎土が赤褐色を呈する入間系土師器（尾形　2008）である。これらは、推定口径で11～12㎝であり定型化している。２・５～10は暗～明黄褐色土を基調とした胎土であり、すべて在地系土師器（尾形　2005・2006）である。特に２・５は有段坏、６は須恵器坏身模倣坏、７有稜坏である。土師器坏形土器については、志木市の土師器編年（尾形　2000）では、これらの定型化された１～７の坏形土器の推定口径が11～12㎝であることから、13期（７世紀中葉）に位置付けすることができる。

土師器甕形土器については、12～16が長甕、17～21が丸甕に区分され、11は甕としたが、鉢の可能性もある。これらはすべて在地系土師器である。志木市の土師器編年（尾形　2001）では、最大径が口縁部と胴部でほぼ同位置のもの（12・13）、最大幅が胴部上半の位置に最大径を持つもの（15・16）が主体であることから、12～13期（７世紀前～中葉）に位置付けすることができる。

土師器甑形土器については、単純口縁を呈し、胴部が直線的で長胴のもの（22）、やや横幅があるもの（23）などが出土している。これらの土器の内面には、ヘラナデ後に縦方向にやや粗めのヘラ磨き調整が施される。ヘラ磨き調整は、志木市の土師器編年の13期を境に調整が粗くなる傾向があると指摘されており（尾形　2001）、調整技法、土器の形態から、志木市の土師器編年13期（７世紀中葉）に位置付けられようか。

以上から、本住居跡出土土器は、７世紀中葉に位置付けるものと考えられる。

322号住居跡出土遺物（第42図、図版22－1）

本住居跡から出土した遺物は、土師器坏・甕・甑形土器、須恵器坏形土器である。

土師器坏形土器については、１はいわゆる比企型坏で、胎土が赤褐色を呈する入間系土師器である。

推定口径で12.4㎝であり定型化している。２は有段坏で、推定口径12.4㎝を測る。３・４は塊状を呈し深身の坏である。３は有稜系、４は有段系で口縁部が内傾する。２～４は土器の胎土から、すべて在地系土師器である。２・４は作りが良く、また、３・４は内面に粗いヘラ磨き調整が施される。１・２の推定口径が12㎝前後、３・４の土器の調整具合から、志木市の土師器編年（尾形　2000）では、13期（７世紀中葉）に位置付けることができる。

土師器甕形土器については、５・６が長甕、７・８が丸甕に区分され、これらはすべて在地系土師器である。長甕は胴部から底部にかけての資料であり、全容はわからないが、５は直線的な胴部、６は胴部で膨らみをもつものと思われる。特に５はスリムな形態である。７は最大幅が中位にあるもの、８は小型の丸甕である。志木市の土師器編年（尾形　2001）では、特に５の直線的な胴部でスリムな長甕、７の最大幅が中位にある丸甕が存在することから、13期（７世紀中葉）に位置付けることができる。

土師器甑形土器については、９は筒抜け式の単純口縁を呈し、やや横幅があるものである。９の内面には、ヘラナデ後に縦方向にやや粗めのヘラ磨き調整が施される。調整技法、土器の形態から志木市の土師器編年13期（７世紀中葉）に位置付けられようか。

須恵器については、10・11は須恵器坏蓋の口縁部小破片で湖西製品である。時期は湖西第Ⅲ期第１小期（後藤他　1989）の中で捉えられるものであろう。

以上から、本住居跡出土土器は、７世紀中葉に位置付けるものと考えられる。

323号住居跡出土遺物（第42図、図版22－1）

本住居跡から出土した遺物は、土師器坏・甕形土器、土製品（支脚）、石器（敲石）である。

まず、土師器坏形土器については、１はいわゆる比企型坏で、胎土が赤褐色を呈する入間系土師器である。器形がやや扁平気味であるが、推定口径11.6㎝で、口唇部内面に沈線は廻らないものである。２は底部から口縁部にかけて内湾し、器高が高いものである。３は塊タイプの在地系土師器で、外面全体にヘラ磨き調整が施される特徴を持つ。以上の特徴から、１・２は、志木市の土師器編年（尾形　2000）の５期（５世紀末葉）、３は７世紀代に位置付けられると考えられる。

土師器甕形土器は、４が長甕、５が丸甕に区分される。これらはすべて在地系土師器である。４は最大幅が口縁部に位置するもので、全体的にスリム化しており、口唇先端が平坦に面取り気味になっている。これらの長甕の特徴と丸甕を有することから、志木市の土師器編年（尾形　2001）では、12期（７世紀前葉）に位置付けられる。

本住居跡出土土器の中で、１・２が５世紀末葉、３～５が７世紀代と、異なる時期に位置付けられた。これらの土器の出土状況を見ると、１がＰ１の覆土上層、２が覆土中、３が貯蔵穴内からの出土である。４がカマド内およびその周辺の床面直上から出土、５もカマドや貯蔵穴付近の床面直上から出土している。３～５の方が安定した出土状況であることから、１・２は埋没時の混入品と考え、本住居跡の時期は７世紀前葉としたい。

（２）穿孔貝巣穴痕跡軟質泥岩について

今回、古墳時代後期（７世紀中葉）の164号住居跡では、穿孔貝巣穴痕跡軟質泥岩が１点出土しており、これは、近年、塩の流通を考察する上で注目されている遺物である（坂本　2015）。坂本氏は、土器を伴わない製塩方法として、磯浜に窪みを作り、その窪みに海水を溜めて海藻を何度も浸しては乾

燥させ、海藻の表面の塩分が濃くなったところで、海藻を薪と一緒に燃やし、薪が灰になる直前に海水をかけて水分を飛ばして塩分を多く含んだ灰を作り、それを三角形のおむすび形に固めて乾燥させた、と考えている。

穿孔貝巣穴痕跡軟質泥岩は、房総半島や三浦半島の海岸の泥岩層から遊離したものと推測され（井上・三辻　1981）、磯浜に由来するものと考えられる。そして、坂本氏が想定した製塩方法に従えば、塩分を多く含んだ灰を掻き集めた際に混入したものと考えられ、穿孔貝巣穴痕跡軟質泥岩が赤色化していることも、製塩過程で被熱したものと考えられる。

このように、穿孔貝巣穴痕跡軟質泥岩は、土器を伴わない製塩方法を想起させる資料であり、さらには「東京湾沿岸地域との交易ルートを考える資料」（山川　1995）として重要である。

市内では、田子山遺跡第160地点で古墳時代後期（７世紀末葉）の86号住居跡で出土した報告がなされている（尾形・大久保ほか　2020）。県内では、深谷市城北遺跡で古墳時代後期（５・６世紀）の住居跡からの出土例がある（山川　1995）。

穿孔貝巣穴痕跡軟質泥岩は、製塩やモノの流通に関連する遺物である。発掘調査では、穿孔貝巣穴痕跡軟質泥岩を自然礫として廃棄せず、遺物として認識し、出土状況等を記録することが必要である。

（３）中世以降の溝跡について

ここでは、中世以降の溝跡５本（70～74号溝跡）について若干の所見を述べることとする。

70号溝跡は調査区西端に位置し、およそ北西から南東に走向している溝跡である。傾斜途中にテラス上の平場を有する。溝跡の底面、西側の立ち上がりは西側調査区外であり、詳細は不明である。遺物は出土しなかった。本溝跡で重要な所見として、古墳時代後期の322号住居跡を破壊していることである。322号住居跡の大きさを推定すると、（Ａ－３）グリッド、敷地境界付近まで広がる。少なくとも、（Ａ－３）グリッド付近までは台地平坦地が続いたと思われる。このことは第２章（３）基本層序での観察所見で、Ａ－Ａ'の分層線が傾斜しておらず、水平であるにことからも言える。

以上、70号溝跡は西側に広がっていたと想定される台地を大きく掘削して構築された大規模な溝跡であり、「柏の城跡」関連の溝跡と考えられる。柏の城は舌状台地の先端に築かれ、西側が柳瀬川低地、東側が自然谷という自然地形を要害とした中世城郭である（志木市教育委員会　1978）。『館村旧記』の「屋敷割の図」によれば、本地点は「三の丸」西端に位置し、そこには「長者ノはけ」という記載がある。「三の丸」西端は堀ではなく、崖面であったことが分かる。70号溝跡は溝跡としたが、柳瀬川低地に続く崖を大規模に掘削し改変した崖状の造成跡と考えられ、底面、西側の立ち上がりを持たず、そのまま柳瀬川低地に移行する可能性が高い。そして、70号溝跡の傾斜途中にあるテラス上の平場や、71号溝跡に関しては、防御のための付帯施設の可能性がある。

73・74号溝跡については、調査区の都合上、つながりは不明であるが、走向方位が北西から南東であり、溝底面がやや平坦で硬化面を有することで、同一遺構の可能性がある。73号溝跡で陶器（常滑甕）１点が出土しており、遺構の時期は15世紀代と思われる。現状の城館跡として認識される「柏の城」はおおむね15～16世紀に形成されたものとされ（野沢　2005）、73・74号溝跡は年代的に「柏の城」に関連する遺構の可能性がある。また、同じく「柏の城」関連と考えられる70号溝跡と隣接しており、走向方位が北西から南東で70号溝跡と同方向ある。「柏の城」関連遺構で溝跡が並走する事例として、第１地点の１号溝跡（三ノ大堀跡）と５号溝跡（佐々木・尾形　1988）、第42地点の１号溝

跡と31・32号溝跡（尾形・深井　2005）が挙げられる。今回の70号溝跡と73・74号溝跡は、これらの事例ほど並走してはいないが、73号溝跡の年代から「柏の城」関連の可能性がある溝跡として注視したい。

72号溝跡は、出土した遺物から、17世紀前半と位置付けられている。第31図セクションＡ－Ａ'では、73号溝跡（15世紀代）を切っていることが判明しており、72号溝跡と73号溝跡の時期的な前後関係に齟齬はない。また、70号溝跡と重複するが、70号溝跡が「柏の城」関連の遺構と考えられるため、70号溝跡より新しい溝跡と位置付けられる。72号溝跡は、その機能・用途は不明であるが、「柏の城」が落城し、屋敷割後の土地利用に関連する遺構であると言えよう。

第２節　中野遺跡第114地点の調査成果

本地点からは、縄文時代のピット３本（2・８・９Ｐ）、古墳時代後期の住居跡１軒（90Ｈ）、平安時代～中世以降の土坑１基（561Ｄ）・溝跡３本（25～27M）・ピット６本（１・３～７Ｐ）が検出された。ここでは、古墳時代後期の遺物、中世以降の遺構について若干のまとめを行うこととする。

（１）古墳時代後期の遺物について

90号住居跡出土遺物（第45図１～５、図版22－１）

本住居跡から出土した遺物は、土師器と炭化種実（モモ）である。土師器の器種構成は坏・高坏・甑・甕形土器である。

坏形土器（６～11）については、６・７がいわゆる比企型坏で、胎土が赤褐色を呈する入間系土師器である。６は口唇部内面に沈線がまわるもの、７は口唇部内面に沈線がまわらないものである。形態的特徴としては、７・８ともに口縁部が短く外反し、体部がやや丸みを帯びる。これは比企型坏の初現タイプ（尾形　1999）と言える。口唇部内面に沈線がまわるものは定型化タイプの特徴で７世紀の特徴とされている（尾形　1999）が、ふじみ野市ハケ遺跡第19地点３号墳出土の入間系土師器（尾形　2008）の比企型坏には、大型タイプ（口径14.2～14.4㎝）で口唇部内面に沈線がまわるもの、まわらないものが伴っており、これらは６世紀後半から６世紀末と位置付けられている（岡崎　2018）。これにより、６に見られる口唇部内面の沈線の出現時期については、６世紀後半以降とされるが、まだ大型化タイプではなく初現タイプという形態的特徴を重視すれば、ハケ遺跡３号墳より古い様相として考えても良いのではないかと考える。類例としては、中野遺跡第12地点４号住居跡（６世紀中葉）からも口唇部内面に弱い沈線がまわる比企型坏が１点出土している（尾形　1992）ことから、定型化タイプの重要な特徴である口唇部内面の沈線については、個体的には形態的な特徴の変化の前に先行して出現する特徴と言えるであろう。

８～11は有段坏である。８は６・７と同様に胎土が赤褐色を呈することから、入間系土師器である。10は、無彩で洗練された胎土、底部のヘラ削りが明瞭であることから、小針型坏（毛持　2000、山田　2021）と考えられる。志木市内で小針型坏が出土している遺構としては、城山遺跡第19地点96・97号住居跡（尾形・深井・青木　2009）、同第35地点129号住居跡（尾形・深井　1999）が挙げら

れ、いずれも６世紀中葉と位置付けられている。11は黒色系の有段坏であり、群馬・栃木県方面からの搬入されたものと思われる（尾形　2006）。９は無彩の有段坏としたが、内外面がやや黒色気味であり、黒色系の可能性もある。

高坏形土器（１・２・12）については、１が短脚タイプ（尾形　2001）に分類される。志木市では、５世紀に主流であった長脚有段タイプが姿を消し、６世紀に入り短脚タイプが主流になることが分かっている（尾形　2014）。１・12は胎土が赤褐色を呈する入間系土師器である。２は口縁部が外反し、体部に弱い稜を持つものである。

甑形土器（３）は単純口縁を示し、胴部から口縁部にかけて外側に屈曲する。器厚は厚手である。

甕形土器（４・５）については、４は器厚が厚く、口縁部の「く」の字が間延びし、口縁部から胴部への移行がスムーズな形態であり、長胴化しているものと考えられる。５は底部片のみであるが、丸底気味で、胴部が膨らむタイプと思われる。調整技法においては粗いヘラ磨き調整が施される。これらの甕形土器の特徴は、６世紀前葉～中葉の所産と考えられる（尾形　2001）。

以上、比企型坏の特徴から、時期の比定に難しい点が見られたが、小針型坏の共伴事例、高坏・甕形土器の特徴から、おおよそ６世紀中葉と判断することとした。本住居跡出土土器は、志木市の土師器編年（尾形　2000・2001）では、８期（６世紀中葉）に位置付けるものと考えられる。

（２）中世以降の遺構について

ここでは、中世以降の遺構のうち、25～27号溝跡について、若干の考察を行うこととする。

まず、25号溝跡については、本文中で南側に隣接する第102地点（尾形・大久保・深井・青木　2019）で検出されている17号溝跡との関連が触れられているが、断面形として、17号溝跡は中央付近が30㎝程の幅で一段深くなる特徴は、25号溝跡とは構造が違うようである。ちなみに17号溝跡の時期は15世紀中に位置付けられている。

26号溝跡と27号溝跡については、新旧関係がはっきりしており、27号溝跡が26号溝跡を切っていることが判明している。時期については、27号溝跡から12世紀代の青磁碗（中国製）が出土しており、平安時代～中世の所産のものと考えられる。そのため、通常であれば、新旧関係により、全く別遺構で別時代のものと認識されるところであるが、27号溝跡の方形区画の遺構が例えば、館跡のようなものであった場合、同一遺構による新旧によることも想定できるため、一概に上記の判断では済まない可能性もある。その場合、25号溝跡なども走行方位として、26・27溝跡とほぼ一致しているため、さらに広い視野による検討が必要になるであろう。

今回検出された遺構については、全体に平安時代～中世として考えることとしたが、結論は今後の調査成果に期待したい。

第３節　中道遺跡第92地点の調査成果

本地点からは、縄文時代の住居跡１軒（13Ｊ）・中世以降の土坑11基（292～302D）・井戸跡１基（３W）・溝跡４本（９・46～48M）・ピット70本（１～70Ｐ）が検出された。ここでは中世以降の遺

構・遺物について若干のまとめを行うこととする。

（１）中世以降の遺構・遺物について

中道遺跡における段切状遺構については、過去に明確な検出例はなかったが、近年、市内では台地縁辺部の斜面地において新邸遺跡や西原大塚遺跡、中野遺跡でも検出例が増加しつつあることから、中世以降、台地斜面地の土地の利用が積極的に行われていたと理解することができる。

①造成工事の時期と遺構との関係について

ここでは、今回検出された中世以降の遺構形成の推移について、遺構の切り合い関係、出土遺物から検討してみたい。

１期：段切状遺構造成前後の時期（中世：12～16世紀）

今回の調査で出土した中世の遺物では、段切状遺構の覆土中から出土した12世紀代の青磁碗（図版28－２－１）１点が一番古い資料となった。ただし、今回、明確に12世紀代と分かる遺構は検出されなかった。中世の遺構として判別できたものは、16世紀代とした42・64号ピットがある。そのほか、宋銭が出土した２・18号ピット、遺構の切り合い関係から１３・１４・１７号ピットが挙げられる。また、本地点周辺では、南側に隣接する第27地点で、中世（14世紀後半～15世紀代）の地下式抗（35・36Ｄ）が（尾形・深井2000）、南西側に位置する第６地点で、中世と思われる土坑（24Ｄ）が検出されている（尾形　1989）。遺構数は少ないが、本地点を含め周辺で、中世期の土地利用があったと指摘できる。

段切状遺構の造成の時期について、出土遺物では、12世紀代の青磁碗の他は18世紀代のものが主体である。これらは覆土中であるため、段切状遺構使用中に埋没したものと思われる。よって、出土遺物からでは判別が難しい。その他の遺構から考えると、造成痕跡が著しい下段面で16世紀代の64号ピットが検出されており、ピット１本のみを根拠にするのは資料として乏しいが、段切状遺構の造成→64号ピット構築の順が考えられる。このように考えると、本地点の段切状遺構の造成は16世紀代もしくはそれ以前と推測できる。

東半部の上段面は、縄文時代の住居跡（13Ｊ）が残っていることから、削平の程度が少なかったものと思われる。なお、段切状遺構の傾斜面で検出された295・297号土坑は、暗褐色土がほとんど入らず、ローム土が充填されたような土坑である。段切状遺構の造成を見ると、掘り方については、ローム土で充填し平坦面を構築しており、295・297号土坑の堆積状況と類似する。よって、295・297号土坑は段切状遺構造成時にローム土で埋め戻された可能性がある。そのように考えると、295・297号土坑は段切状遺構造成以前に構築された遺構と推測できよう。

２期：段切状遺構造成後の時期（近世：17世紀後半～19世紀前半）

段切状遺構造成後の遺構構築についてであるが、段切状遺構の土層断面を観察すると、ローム土を主体とした貼床土（29～39層）の直上に16～28層が堆積し、その後、13～15層が調査区に全体的に堆積する。この床面直上の覆土を切り、13～15層に覆われる遺構として、292・298号土坑、３号井戸跡、９号溝跡、畝状遺構が挙げられる。時期が判別できた遺構としては、３井戸跡・畝状遺構が18世紀代、９号溝跡が19世紀前半である。段切状遺構の覆土中から出土した遺物は18世紀代が主体であることから、３号井戸跡や畝状遺構の利用時期と重なってくる。なお、段切状遺構上段面で17世紀後

半とした31・36号ピットが検出されている。遺構数が少なく、詳細は分からないが、少なからず17世紀代の土地利用があったと考えられる。

これらから、２期での遺構の変遷をたどると、17世紀後半：31・36号ピットの構築→18世紀代：３号井戸跡、畝状遺構の構築→19世紀前半：９号溝跡の構築が考えられる。292号土坑は土層の切り合いからの判断で２期に位置付けられるが、詳細な時期の位置づけは出土遺物がないため、不明である。298号土坑は出土遺物がないが、３号井戸跡・畝状遺構を切るため、18世紀以降の所産と考えられる。

３期：段切状遺構造成後の時期（近世：９号溝跡より新しい段階）

２期では段切状遺構の覆土13～15層に覆われる遺構を対象としたが、ここでは13～15層を切る遺構を対象とする。それは、調査区南西際にある302号土坑である。302号土坑から出土遺物がなく、年代的な位置付けができないが、９溝跡、３井戸跡、畝状遺構が段切状遺構の13～15層で完全に覆われた段階で、302号溝跡が構築されており、２期との時間的な差はあったと考えられる。詳細時期については不明であるが、19世紀後半以降となろうか。

以上、本地点における中世以降の遺構について、段切状遺構の土層断面を基に、大きく３期区分した。すべての遺構を網羅することはできなかったが、中世から近世にかけての土地利用の変遷を少なからず示すことができた。中道遺跡の中世以降の土地利用を考える一助としたい。

②中道遺跡における中世期の墓域について

今回の調査では、段切状遺構上段面（調査区東半部）から中世以降の土坑３基（293・294・296号土坑）がまとまって検出された。周辺地点では、東側に隣接する第２地点でも、中世以降の土坑５基（16～20号土坑）がまとまって確認されている（佐々木・尾形　1988）。これらの土坑は、東西南北約15ｍ以内に納まる範囲に分布している。

これらの土坑の形態的特徴としては、下記の通りである。

・長方形を呈する土坑：18・20・293・294・296号土坑
・楕円形を呈する土坑：17号土坑
・地下式坑タイプの土坑：16・19号土坑

このうち、人骨が出土している土坑は16・18～20・293号土坑の５基であり、土坑墓として考えられる。特に18・20・293号土坑は、長軸１ｍ前後であり、非常に近似した規模である。

また、人骨が出土していない土坑（17・294・296号土坑）についても、17号土坑は20号土坑と、294・296号土坑は293号土坑と主軸方位を同じくする。17・21・294・296号土坑も土坑墓である可能性が考えられる。

時期については、16号土坑は出土した常滑甕の小破片から14世紀代、19号土坑は出土した常滑甕の小破片から14～15世紀中頃にそれぞれ位置付けられている。それ以外の土坑については、時期を比定できる遺物の出土がなく、時期不明であるが、近世墓では円形の土坑に銭貨（六文銭）が伴うことが多いことから、中世期に属するものと推測される。

以上、本地点、第２地点で検出された土坑を、分布、形態的特徴、土坑の性格、帰属時期から検討してきた。その結果、これらの土坑は、墓もしくは墓の可能性のあるものであり、土坑墓群として捉えら

れる。それぞれ中世の所産と考えられ、土坑同士で重複がないことから、複数時期のものではなく、同時期のものの可能性がある。このように考えれば、ここに中世期の墓域が存在したと考えられる。なお、本地点南側に隣接する第27地点で、14世紀後半～15世紀代の地下式抗タイプの土坑（35・36Ｄ）が検出されている（尾形・深井2000）。今後、中世期の墓域がどのように展開していくか、中道遺跡全体の中で位置付けていく必要がある。

[引用・参考文献]

赤熊浩一・田中広明・大谷　徹・上野真由美　2011『反町遺跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第380集　財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

井上光貞・三辻利一　1981「穿孔貝巣穴痕跡軟質泥岩の遺存体」『神谷原Ⅰ』八王子市椚田遺跡調査会

岡崎裕子　2018『市内遺跡群21』ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第22集

尾形則敏　1989『志木市遺跡群Ⅰ』志木市の文化財第13集　埼玉県志木市教育委員会

1999「いわゆる「比企型坏」の編年基準の要点―小地域を対象とした編年の確立に向けて―」『あらかわ』第２号　あらかわ考古談話会

2000「志木市における古墳時代の土師器の編年（１）」『あらかわ』第３号　あらかわ考古談話会

2001「志木市における古墳時代の土師器の編年（２）」『あらかわ』第４号　あらかわ考古談話会

2005「第４章　まとめ」『城山遺跡第42地点　埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第10集

2006「七世紀における「在地系土師器」の出現と歴史的意義―武蔵野台地北西部の無彩系・黒色系土師器の一事例―」『埼玉考古Ⅱ』埼玉考古学会

2008「古墳時代後期の土師器研究の再認識―（仮称）「人間系土師器」の実態と生産地推定を例にして―」『埼玉考古』第43号　埼玉考古学会

2014「第５章　調査のまとめ」『志木市遺跡群21』志木市の文化財第58集　埼玉県志木市教育委員会

尾形則敏・深井恵子　1999『志木市遺跡群９』志木市の文化財第27集　埼玉県志木市教育委員会

2000『埋蔵文化財調査報告書１』志木市の文化財第29集　埼玉県志木市教育委員会

2005『城山遺跡第42地点　埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第10　集埼玉県志木市遺跡調査会

尾形則敏・深井恵子・青木　修　2009『埋蔵文化財調査報告書４』志木市の文化財第40集　埼玉県志木市教育委員会

尾形則敏・大久保聡・石川安司・小林陽子・清水智史　2020『田子山遺跡第160点　埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第77集　埼玉県志木市教育委員会

尾形則敏・大久保聡・深井恵子・青木　修　2019『西原大塚遺跡第213地点　中野遺跡第102点　中野遺跡第104点　埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第72集　埼玉県志木市教育委員会

尾形則敏・佐々木保俊　1992『志木市遺跡群Ⅳ』志木市の文化財第17集　埼玉県志木市教育委員会

剱持和夫　2000『築道下遺跡Ⅲ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第245集　財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

後藤建一他　1989『静岡県の窯業遺跡』静岡県文化財調査報告書第42集　静岡県教育委員会

坂本和俊　2015「古墳時代東国の土器を使わない製塩と塩の流通痕跡」『埼玉考古』第50号　埼玉考古学会

佐々木保俊・尾形則敏　1988『城山遺跡発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第４集　埼玉県志木市遺跡調査会

佐々木保俊・尾形則敏　1988『中道遺跡発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第５集　埼玉県志木市遺跡調査会

志木市教育委員会　1978『志木市郷土誌』志木市

野沢　均　2005「第４章第４節　中・近世における城山遺跡の総括」『城山遺跡第42地点　埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第10集　埼玉県志木市遺跡調査会

水口由紀子　1989「いわゆる"比企型坏"の再検討」『東京考古』第７号

山川守男　1995『城北遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第150集　財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

山田琴子　2021「小針型坏と埼玉古墳群」『埼玉県立史跡の博物館紀要』第14号　埼玉県立史跡の博物館

［付　編］

自 然 科 学 分 析

Ⅰ．城山遺跡第99地点出土炭化材の樹種同定

小林克也（パレオ・ラボ）

1．はじめに

埼玉県志木市の城山遺跡第99地点から出土した炭化材の樹種同定を行った。

2．試料と方法

試料は、103号ピットから出土した炭化材1点（第37図1、図版15－4－1、第14表）である。発掘調査所見によれば、遺構の時期は中世以降の木器（椀）と考えられている。

樹種同定は、まず試料を乾燥させ、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柾目）について、カミソリと手で割断面を作製し、整形して試料台にカーボンテープで固定した。その後イオンスパッタにて金蒸着を施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE社製　VE-9800）にて検鏡および写真撮影を行なった。

3．結果

同定の結果、試料は広葉樹のケヤキであった。同定結果を第35表に示す。

以下に、同定された材の特徴を記載し、図版30－1に走査型電子顕微鏡写真を示す。

（1）ケヤキ　*Zelkova serrata*（Thunb.）Makino　ニレ科　図版30－1　1a-1c（No.1）

年輪のはじめに大型の道管が1～2列並び、晩材部では急に径を減じた道管が多数複合し、接線～斜線方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は単穿孔を有し、小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端1列が方形となる異性で、幅1～5列となる。放射組織の上下端には、結晶が認められる。

ケヤキは温帯から暖帯にかけての肥沃な谷間などに好んで生育する落葉高木の広葉樹である。材はやや重くて硬いが、切削などの加工はそれほど困難ではない。

試料No.	遺構名	遺物No.	試料名	種　類	樹　種	時　期
1	103号ピット	1	炭化木製品	炭化材	ケヤキ	中世以降

第35表　城山遺跡第99地点出土炭化材の樹種同定結果

4．考察

103号ピットの炭化木製品は、ケヤキであった。ケヤキはやや堅硬だが、加工性の良い樹種で（伊東ほか2011）木製品に選択的に利用されていた可能性が考えられる。埼玉県内の中世の遺跡で確認されている木製品では、ケヤキは椀や礎板、加工材などに利用されている（伊東・山田編　2012）。

[引用文献]

伊東隆夫・佐野雄三・安部　久・内海泰弘・山口和穂　2011『日本有用樹木誌』238p　海青社

伊東隆夫・山田昌久編　2012『木の考古学―出土木製品用材データベース―』449p　海青社

Ⅱ．中道遺跡第92地点293号土坑出土の人骨

藤田　尚（パレオ・ラボ）

1．はじめに

埼玉県志木市中道遺跡第92地点293号土坑から、ヒト遺体が発掘によって発見された。以下に人骨の所見を記載する。

2．人骨の所見

人骨は293号土坑から出土し、骨１～７でサンプリングが行われた（第60図）。人骨は全体的に保存状態が悪い。以下では、試料ごとに記載する。

NK92－293D（骨1）

上顎大臼歯１本（歯冠部のみ）、上顎小臼歯２本（歯冠部のみ）、上顎切歯、上顎犬歯（いずれも歯冠部のみ）が残存する。そのうち上顎大臼歯と判断された咬合面は、咬耗がある程度進んでいることから、30歳程度以降の個体と判断された（図版30－２－１）。

NK92－293D（骨2）

下顎大臼歯２本、下顎小臼歯２本、下顎切歯１本が確認された（いずれも歯冠部のみ）。大臼歯２本の咬耗の進み方から、30歳程度以降の個体と判断された。

NK92－293D（骨3）

体幹骨と思われるが、全くの小骨片であり、破損著しく、触ると粉々になってしまう状態である。

NK92－293－D（骨4）

体幹骨と思われるが、小骨片であり、部位は分からない。触れると崩れてしまうと考えられた（図版30－２－２）。

NK92－293D（骨5）

体幹骨と思われるが、全くの小骨片であり、触ると粉々になってしまう状態であることから現状のままとした。

NK92－293D（骨6）

上顎大臼歯１本、上顎小臼歯２本、上顎中切歯１本、上顎側切歯１本（いずれも歯冠部のみ残存）。上顎大臼歯１本が歯冠部のみで残存する。咬耗の進み具合から30歳程度の個体と推定された。四肢骨片と思われる骨片が残存するが、部位は不明である。エナメル質も非常に薄く、歯冠計測を行うと破壊の恐れがあることから、行うことは断念した。

NK92－293D（骨7）

下顎大臼歯２本、下顎小臼歯２本、下顎犬歯１本、上顎中切歯１本（いずれも歯冠部のみ）。残存状態は悪い。下顎大臼歯の咬耗度から、30歳からそれ以降の年齢の個体と判断された。

NK92-293D（ナンバーなし）

上顎大臼歯１本が歯冠部のみで残存する。咬耗の進み具合から30歳程度の個体と推定された。四肢骨片と思われる骨片が残存するが、保存状態不良で部位は不明である。

３．考察とまとめ

志木市中道遺跡第92地点出土の人骨は、保存状態が極めて悪く、人骨から詳細な情報を得ることはできなかった。残存している歯も歯冠部だけが残り、歯根部は土に返っていると考えられた。歯冠部もいわゆるエナメル質が非常にもろい状態となっており、金属製のノギスを歯冠部にあてる歯冠計測は、現時点では行えないと判断した。今後、保存処理を行って強度を確保した場合には、歯冠計測値を計れる歯が数本あると思われる。

歯の咬耗からの所見では、いずれも咬耗がある程度進行しており、30歳からそれ以降の年齢の個体と判断された。また、骨１～７とナンバー無しの全ての歯を数えると、上顎大臼歯が６本、下顎大臼歯が４本であり、歯種別の残存指数を考慮すると、同一個体の可能性もありえる。

中世の人骨は、得てして保存状態が悪く、詳細な鑑定を行うことは難しい。しかし、現時点では多くの情報が得られないとしても、地道な資料と報告書の蓄積が、将来的な中世時代人の特徴や埋葬形態などを解明していくことに資するであろう。

図　　版

1. 調査区近景

2. 表土剥ぎ風景

3. 基本土層A－A'

4. 基本土層B－B'

5. 基本土層C－C'

6. 1136号土坑

7. 1150号土坑

8. 1161号土坑

1. 1162号土坑

2. 1165号土坑

3. 172号ピット

4. 12号住居跡

5. 12号住居跡炉

6. 164号住居跡(第57地点)

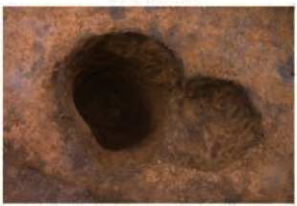
7. 164号住居跡遺物出土状態

8. 164号住居跡遺物出土状態

1. 164号住居跡

2. 164号住居跡P2

3. 164号住居跡P3遺物出土状態



4. 164号住居跡P3

5. 164号住居跡カマド遺物出土状態

6. 164号住居跡カマド

7. 164号住居跡カマド掘り方

1. 164号住居跡貯蔵穴

2. 322号住居跡

3. 322号住居跡貯蔵穴遺物出土状態

4. 322号住居跡貯蔵穴

5. 323号住居跡

6. 323号住居跡貯蔵穴

7. 323号住居跡Ｐ１

8. 323号住居跡Ｐ２

1. 323号住居跡カマド遺物出土状態

2. 323号住居跡カマド

3. 1159号土坑

4. 1134号土坑(A群1類)

5. 1147号土坑(A群2類)

6. 1151号土坑(A群2類)

7. 1155号土坑(A群2類)

8. 1132・1133号土坑(B群1類)

1. 1137号土坑(B群1類)

2. 1140号土坑(B群2類)

3. 1141号土坑(B群2類)

4. 1148号土坑(B群2類)

5. 1149号土坑(B群2類)

6. 1142・1143号土坑(B群3類)

7. 1146号土坑(B群3類)

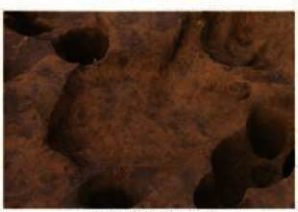
8. 1152号土坑(B群3類)

1. 1153号土坑(B群3類)

2. 1160号土坑(B群3類)

3. 1164号土坑(B群3類)

4. 1167・1169号土坑(B群3類)



5. 1144号土坑(C群)

6. 1145号土坑(C群)

7. 1154号土坑(C群)

8. 1157号土坑(C群)

1. 1158号土坑(C群)

2. 1163号土坑(C群)

3. 1166号土坑(C群)

4. 1168号土坑(C群)

5. 1170・1171号土坑(C群)

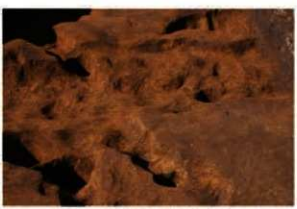
6. 1135号土坑(E群)

7. 70号溝跡(南から)

8. 70号溝跡(北から)

1. 71号溝跡(南から)

2. 72号溝跡南半部(南から)



3. 72号溝跡北半部(東から)

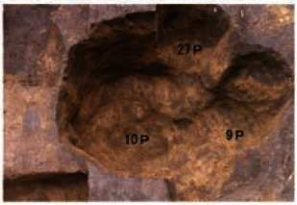
4. 72・73号溝跡北半部(南から)

5. 73号溝跡南半部(北から)

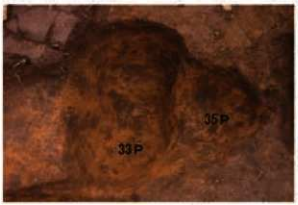
6. 73号溝跡北半部(東から)

7. 73号溝跡北半部硬化面

8. 74号溝跡(南から)



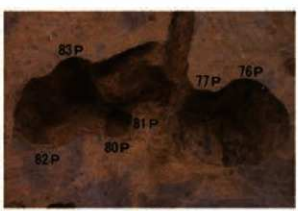
1. 9・10・27号ピット



2. 33・35号ピット

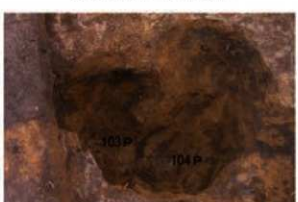
3. 68号ピット

4. 78号ピット



5. 76・77・80～83号ピット

6. 100号ピット



7. 103・104号ピット

8. 110号ピット

1. 124号ピット

2. 143号ピット

3. 166号ピット

4. 169号ピット

5. 221号ピット

6. 調査風景

7. 調査風景

8. 埋戻し風景

1. 土坑出土遺物

2. 172号ピット出土遺物

3. 12号住居跡出土遺物

4. 164号住居跡出土遺物 1

164号住居跡出土遺物 2

1. 322号住居跡出土遺物

2. 323号住居跡出土遺物

1. 土坑出土遺物

2. 72号溝跡出土遺物

3. 73号溝跡出土遺物

4. ピット出土遺物

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
石製品(砥石)

遺構外出土遺物

1. 調査区近景

2. 表土剥ぎ風景

3. 遺構確認状況

4. 遺構確認状況

5. 基本土層A－A'

6. 基本土層B－B'

7. 基本土層C－C'

8. 基本土層D－D'

1. 90号住居跡

2. 90号住居跡

3. 90号住居跡A－A'土層断面

4. 90号住居跡C－C'土層断面

5. 90号住居跡P 1

6. 90号住居跡P 2

7. 90号住居跡P3

8. 90号住居跡掘り方

1. 561号土坑

2. 25号溝跡(北東から)

3. 25号溝跡(南西から)

4. 26号溝跡(南西から)

5. 26号溝跡(南西から)

6. 27号溝跡A－A'土層断面

7. 27号溝跡B－B'土層断面

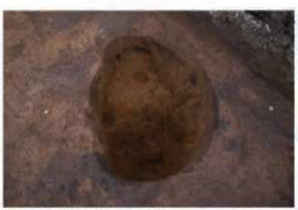
1. 27号溝跡C－C'土層断面

2. 27号溝跡(北西から)

3. 27号溝跡(南西から)

4. 27号溝跡(南西から)

5. 27号溝跡(北から)



6. 1号ピット

7. 2号ピット

8. 4号ピット

1. 5号ピット

2. 6号ピット

3. 7号ピット

4. 8号ピット

5. 9号ピット

6. 調査風景

7. 調査風景

8. 埋め戻し風景

1. 90号住居跡出土遺物

2. 27号溝跡出土遺物

3. 2号ピット出土遺物

4. 遺構外出土遺物

1. 調査区近景

2. 表土剥ぎ風景

3. 1区遺構確認状況

4. 2区遺構確認状況

5. 13号住居跡

6. 13号住居跡

7. 13号住居跡

1. 292号土坑

2. 293号土坑

3. 293号土坑人骨出土状況

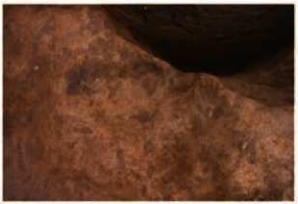
4. 294号土坑

5. 295号土坑

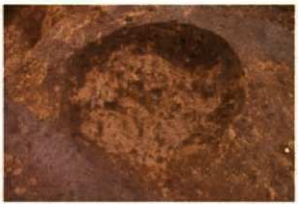
6. 296号土坑

7. 297号土坑

8. 298号土坑



1. 299号土坑



2. 300号土坑

3. 301号土坑

4. 302号土坑

5. 9号溝跡(西から)

6. 9号溝跡(西から)

7. 9号溝跡(東から)

8. 9号溝跡西端

1. 46号溝跡(北から)

2. 46号溝跡(北から)

3. 47号溝跡(南から)

4. 47号溝跡(北から)

5. 48号溝跡(南から)

6. 48号溝跡(西から)

7. 3号井戸跡

8. 2号ピット

1. 18号ピット

2. 30号ピット

3. 36号ピット

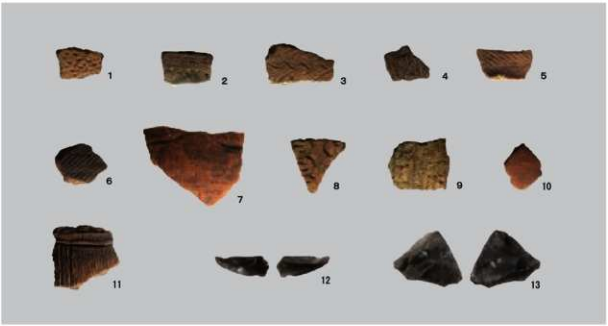
4. 42号ピット

5. 64号ピット

6. 68・69号ピット

7. 畝状遺構(東から)

8. 段切状遺構掘り方(東から)



1. 13号住居跡出土遺物

2. 段切状遺構出土遺物

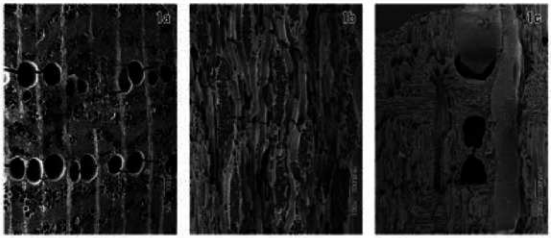
1. 3号井戸跡出土遺物

2. 9号溝跡出土遺物

3. ピット出土遺物

4. 畝状遺構出土遺物

5. 遺構外出土遺物



1a-1c. ケヤキ(No. 1)
a:横断面、b:接線断面、c:放射断面

1. 城山遺跡第99地点　103号ピット出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

1. 一部象牙質が露出する大臼歯の咬耗（骨1）　2. 観察不能な骨4の状況

2. 中道遺跡第92地点　293号土坑出土人骨

報告書抄録

ふりがな	しろやまいせきだい99ちてん　なかのいせきだい114ちてん　なかみちいせきだい92ちてん　まいぞうぶんかざいはっくつちょうさほうこくしょ
書名	城山遺跡第99地点　中野遺跡第114地点　中道遺跡第92地点　埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	志木市の文化財
シリーズ番号	第84集
著者氏名	尾形　則敏　大久保　聡
編集機関	埼玉県志木市教育委員会
所在地	〒353-0002 埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号　TEL 048（473）1111
発行年月日	令和4（2022）年3月29日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 （°′″）	東経 （°′″）	調査期間	調査面積（㎡） （全体面積）	調査原因
しろやまいせき 城山遺跡 （第99地点）	しきししかねだまち 志木市柏町 3丁目1137-1の一部他	11228	09-003	35° 48′ 57″	139° 36′ 7″	20200824 ～ 20201114	416.12	分譲住宅建設 道路新設及び 擁壁設置工事
なかのいせき 中野遺跡 （第114地点）	しきしかねだまち 志木市柏町 1丁目1486-8・9・21	11228	09-002	35° 50′ 3″	139° 34′ 26″	20200930 ～ 20201113	140.48 （618.00）	宅地造成及び 道路新設工事
なかみちいせき 中道遺跡 （第92地点）	しきしかねだまち 志木市柏町 5丁目2977-1の一部	11228	09-005	35° 49′ 46″	139° 34′ 5″	20201110 ～ 20201217	309.41 （433.66）	宅地造成、道路 新設工事及び 分譲住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
城山遺跡 （第99地点）	集落跡	縄文時代 弥生時代後期～ 古墳時代前期 平安時代 中世以降	土坑　5基 ピット　2本 住居跡　1軒 住居跡　3軒 土坑　1基 土坑　35基 溝跡　5本 ピット　223本	土器 土器 土器 土師器・須恵器・土製品・鉄製品・石器・穿孔貝巣穴痕跡軟質泥岩・炭化種実 なし 陶器・土器・鉄製品・銅製品 陶器・土製品・板碑 陶器・土器・石製品・鉄製品・板碑・炭化木製品	西側斜面は、調査の結果、人工的に掘削されていることが判明したことから、70Mとした。「柏の城」関連の大堀跡と考えられる。 古墳時代後期の164号住居跡から穿孔貝巣穴痕跡軟質泥岩1点が出土している。
中野遺跡 （第114地点）	集落跡	縄文時代 古墳時代後期 平安時代～ 中世以降	ピット　3本 住居跡　1軒 溝跡　3本 土坑　1基 ピット　6本	土器 土器 磁器（青磁碗）・石製品 なし なし	溝跡（27M）は、12世紀代の青磁碗1点が出土していることから、平安時代の方形区画をもつ遺構の可能性がある。
中道遺跡 （第92地点）	集落跡	縄文時代 中世以降	住居跡　1軒 土坑　10基 土坑墓　1基 井戸跡　1基 溝跡　4本 段切状遺構　1か所 ピット　70本 畝状遺構　31本	土器・石器 なし 人骨（歯） 陶器 土器 陶磁器・土器・鉄製品・陶器製品（砥具）・銭貨・スラッグ 陶磁器・土器・銭貨 陶器・土器	今回検出された中世以降の遺構は、基本的に段切状遺構に関連する可能性がある。 293Dは人骨（歯）を伴うことから土坑墓と考えられる。

要約

城山遺跡は、旧石器時代～近世にかけての複合遺跡である。今回の第99地点では、縄文時代、弥生時代後期～古墳時代前期、古墳時代後期、平安時代、中世以降の遺構が検出された。中世以降の遺構については、主に「柏の城」関連のものと考えられる。

中野遺跡は、旧石器時代、縄文時代草創～晩期、弥生時代後期、古墳時代後期、奈良・平安時代、中・近世、近代に至る複合遺跡である。今回の第114地点では、縄文時代、古墳時代後期、平安時代、中世以降の遺構が検出された。27号溝跡からは12世紀代の青磁碗1点が出土していることから、全体プランは不明であるが、平安時代の方形区画をもつ遺構である可能性がある。

中道遺跡は、旧石器時代から近代までの複合遺跡である。今回の第92地点の調査では、縄文時代の住居跡、中世以降の遺構が検出された。縄文時代の13Jは中期中葉の勝坂式期の住居跡であった。中世以降の遺構は、基本的に段切状遺構に関連するものと考えられ、293Dは人骨を伴うことから土坑墓と考えられる。

志木市の文化財　第84集

城山遺跡第 99 地点
中野遺跡第114地点
中道遺跡第 92 地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

発　　行　　埼玉県志木市教育委員会
埼玉県志木市中宗岡１丁目１番１号
発 行 日　　令和４（2022）年３月29日
印　　刷　　株式会社 白 峰 社